

人権に関する住民意識調査結果

令和7年12月実施

精華町

目次

I. 調査概要.....	4
II. 調査結果.....	4
(1) 人権に関する考え方や認識について.....	7
1. 人権尊重の感じ方.....	7
2. 人権に関する関心度.....	13
3. 人権に関する法律等について.....	43
(2) それぞれの人権課題について.....	68
4. 障害者差別解消法.....	71
5. ヘイトスピーチ解消法.....	77
6. ヘイトスピーチの存在をどこで知り得たか.....	79
7. ヘイトスピーチの存在を知りどう思ったか.....	81
8. 部落差別をどこで知り得たか.....	85
9. 現在、部落差別があると思うか.....	85
10. LGBT理解増進法.....	100
11. LGBT等の人権について.....	102
(3) 人権侵害について.....	104
12. 人権侵害された経験.....	104
13. 人権侵害の経験の内容.....	106
14. 人権侵害への対応.....	108
15. 人権相談窓口について.....	112
(4) 差別や人権侵害などに関する考え方や認識について.....	122
16. 身近な人権問題に関する考え方.....	122
17. 結婚相手の判断条件.....	152
18. 住宅購入時等の判断条件.....	161
19. インターネットによる人権侵害.....	174
20. 不適切な情報の投稿について.....	182
(5) 人権問題を理解するための取り組みについて.....	184
21. 人権問題に対する学び.....	184
22. 人権研修等への参加状況.....	187
23. 人権研修等の開催内容に対する意見.....	199
24. 人権問題についての学習方法.....	202
(6) 人権が尊重される社会づくりに求められることについて.....	205
25. 人権が尊重される社会づくりに向けた施策.....	205
(7) あなたご自身のことについて.....	208
26. あなたの性別について.....	208
27. あなたの年代について.....	209

28. あなたの職業について.....	209
29. あなたのお住まいの小学校区について.....	211
30. 精華町の人権教育・啓発に対する意見等.....	212

I. 調査概要

【調査目的】

本調査は、平成29年3月に策定した「精華町第2次人権教育・啓発推進計画」の改定にあたり、住民の意識や意向を見極め、今後の教育・啓発の取り組みに向けたより効果的な方策を検討するための基礎資料とするとともに、今後の人権教育・啓発に取り組みに生かすことを目的に実施した。

【調査対象・抽出方法】

- 調査地域 : 精華町全域
- 調査対象者 : 町内在住の18歳以上の男女2,000人
- 抽出方法 : 令和7年8月1日現在の住民基本台帳(外国人含む)より無作為抽出
- 調査期間 : 令和7年12月17日～令和8年1月7日
※令和8年1月15日到着分までを集計対象とする
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収/インターネット回答

【調査票配布数・回収状況】 有効回収数率：38.8%

配布数	回収数	無効票
2,000	775 (808)	0
	郵送：469	
	Web：339	

【報告書の見方】

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものである。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- グラフ中の「0.0%」については、表示上の関係で省略している場合がある。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の半別が困難なものである。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表している。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合がある。
- グラフ中の回答割合について、グラフが見づらくなる場合は省略している。

【標本誤差】

・本調査は抽出調査であるため、母集団（18歳以上の町民）に対して標本誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差率を計算して、母集団の回答を推測する。

■計算式

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N…母集団の大きさ

n…サンプル数

p…回答比率（%）（誤差が最大となる50%と設定）

危険率 5%（信頼度 95%）

信頼度 95%の場合の標準偏差 = 1.96

注) 信頼度 95%：100回同じ調査を実施したときに、概ね95回まではこの精度が得られることを示す。

注) 回答比率 50%：回答比率は、ある質問に対する回答の割合。例えば質問に対して「はい」の回答が「50%」の場合、上記の式の『p(1-p)』が『0.5(1-0.5)=0.25』と最大となるため、回答比率50%が最も高い誤差率となる。

■標本誤差の数値

上記の計算から計算した誤差率は下記の表である。誤差率が最も高い回答比率50%の質問においても、その回答比率の誤差は±3.47であることを示している。

したがって、本報告書で示す調査結果は、誤差の範囲が±2.08～±3.47%であり、町民の傾向を把握するために十分なサンプル数を確保できたと考えられる。

回答比率 (p)		サンプル数 (n)				
		10%または90%	20%または80%	30%または70%	40%または60%	50%
18・19歳	77	6.38	8.51	9.74	10.42	10.63
20歳代	102	5.74	7.65	8.77	9.37	9.56
30歳代	100	5.78	7.71	8.83	9.44	9.64
40歳代	108	5.59	7.45	8.54	9.13	9.32
50歳代	88	6.22	8.30	9.51	10.16	10.37
60歳代	108	5.59	7.46	8.54	9.13	9.32
70歳代	114	5.39	7.18	8.23	8.80	8.98
80歳代	105	5.64	7.52	8.62	9.22	9.41
全体	775	2.08	2.78	3.18	3.40	3.47

Ⅱ. 調査結果

(1) 人権に関する考え方や認識について

1. 人権尊重の感じ方

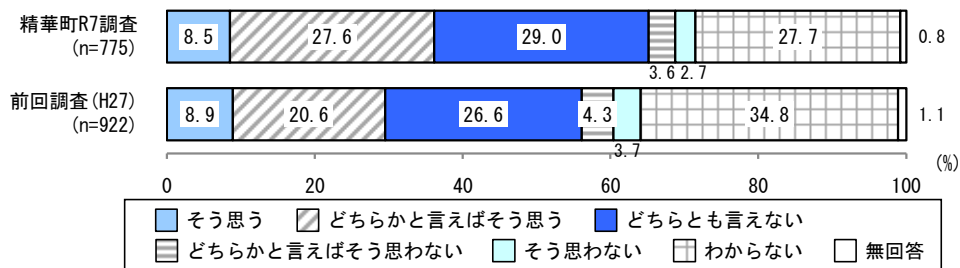
問1	人権を取り巻く社会の状況について、10年前と比べてあなたはどのように思いますか。 (○はそれぞれ1つずつ)
----	--

【①精華町民一人ひとりの人権意識は高くなっている】

■前回調査(H27)との比較

精華町民一人ひとりの人権意識は高くなっているという認識について、「どちらとも言えない」が29.0%と最も多く、『そう思う』（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合算）は36.1%、『そう思わない』（「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」の合算）は6.3%となっている。

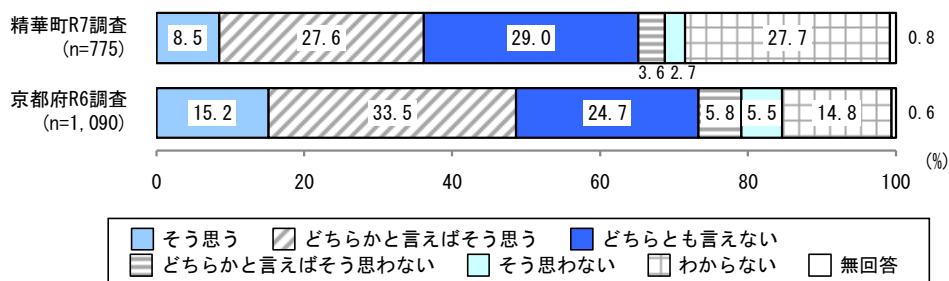
前回調査と比較すると、「どちらかと言えばそう思う」が7.0ポイント多くなっている。



※京都府 R6 調査では「精華町民一人ひとりの人権意識は高くなっている」が「府民一人ひとりの人権意識は、10年前と比べて高くなっている」。

■京都府(全体)との比較

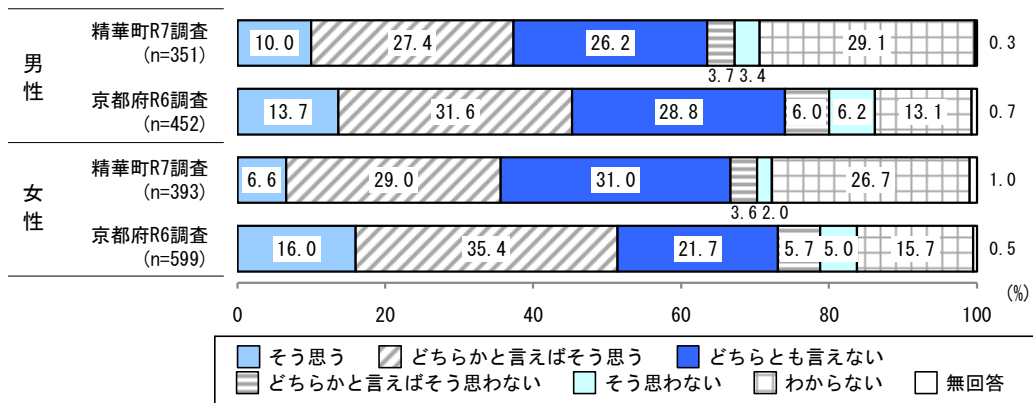
京都府R6調査と比較すると、「そう思う」が6.7ポイント、「どちらかといえはそう思う」が5.9ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「わからない」が29.1%と最も多く、『そう思う』は37.4%、『そう思わない』は7.1%となっている。女性は「どちらとも言えない」が31.0%と最も多く、『そう思う』は35.6%、『そう思わない』は5.6%となっている。

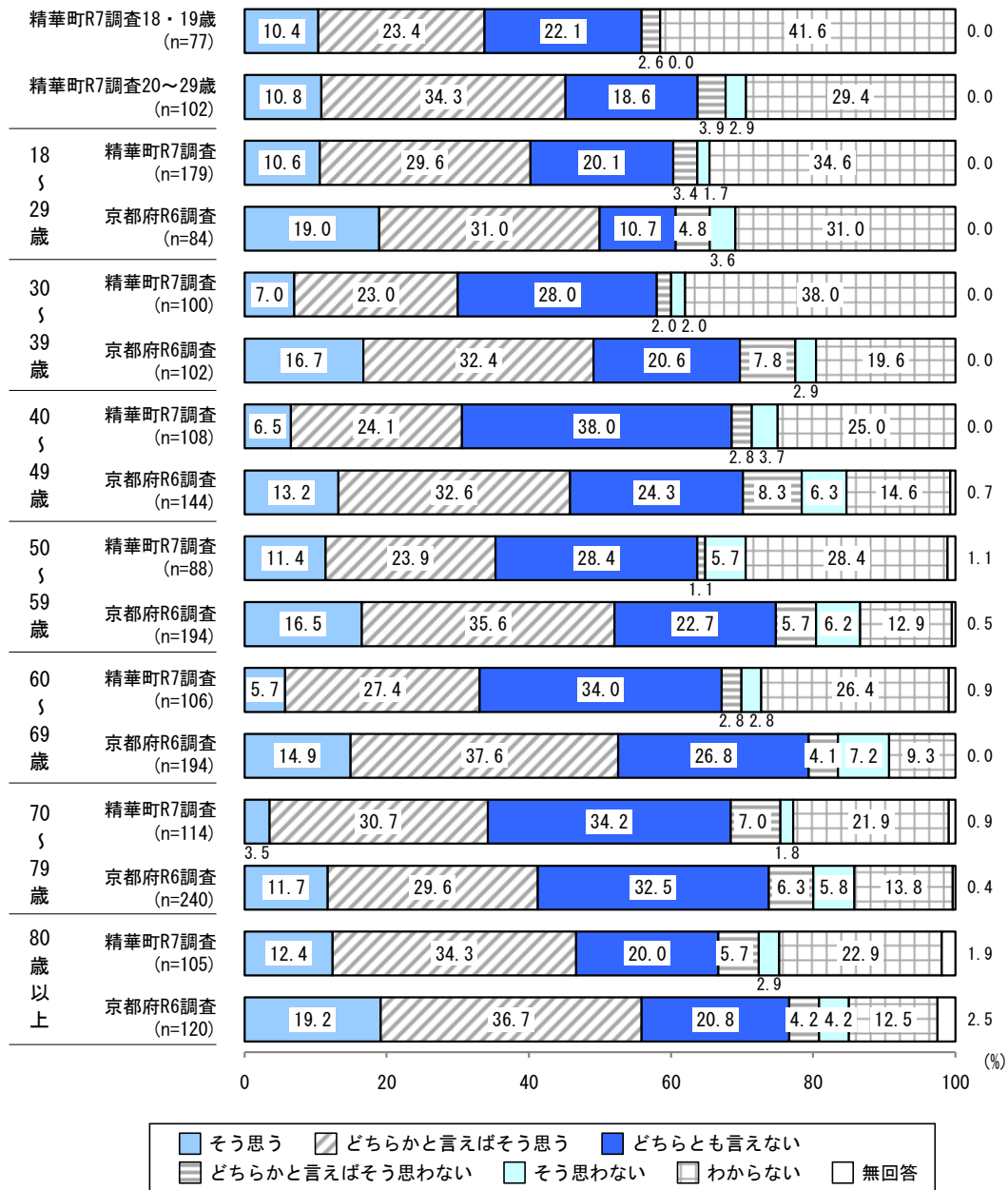
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「そう思う」が9.4ポイント、「どちらかといえばそう思う」が6.4ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、80歳以上が46.7%と最も多く、次いで20~29歳が45.1%、50~59歳が35.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査ではいずれの年代でも『そう思う』が少ない傾向がみられる。

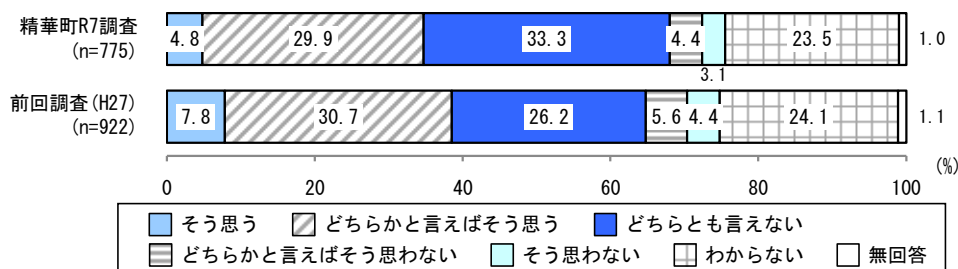


【精華町は、人権が尊重された豊かな社会になっている】

■前回調査(H27)との比較

精華町は、人権が尊重された豊かな社会になっているという認識について、「どちらとも言えない」が33.3%と最も多く、『そう思う』は34.7%、『そう思わない』は7.5%となっている。

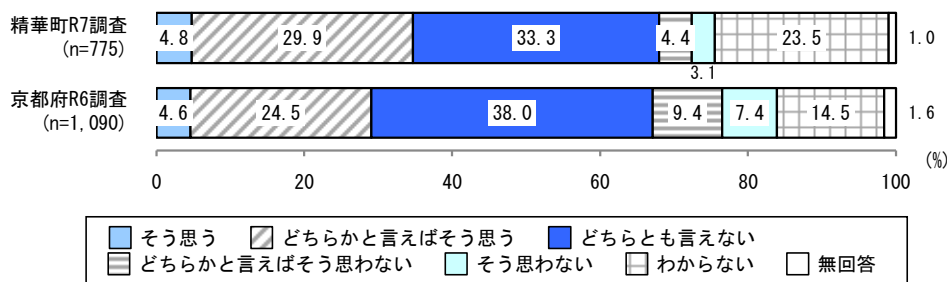
前回調査と比較すると、「どちらとも言えない」が7.1ポイント多くなっている。



※京都府 R6 調査では「精華町は、人権が尊重された豊かな社会になっている」が「京都府は人権が尊重された豊かな社会になっている」

■京都府(全体)との比較

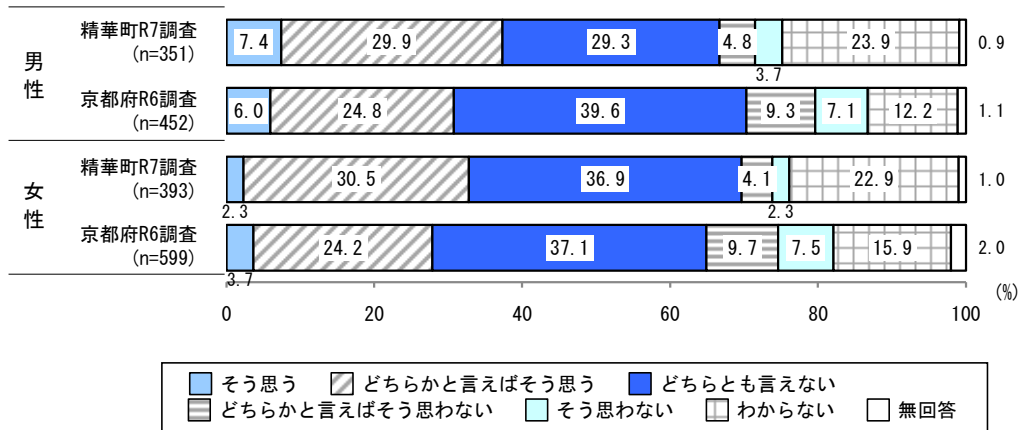
京都府R 6 調査と比較すると、精華町R 7 調査では「どちらかといえばそう思う」が5.4ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」が29.9%と最も多く、『そう思う』は37.3%、『そう思わない』は8.5%となっている。女性は「どちらとも言えない」が36.9%と最も多く、『そう思う』は32.8%、『そう思わない』は6.4%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。

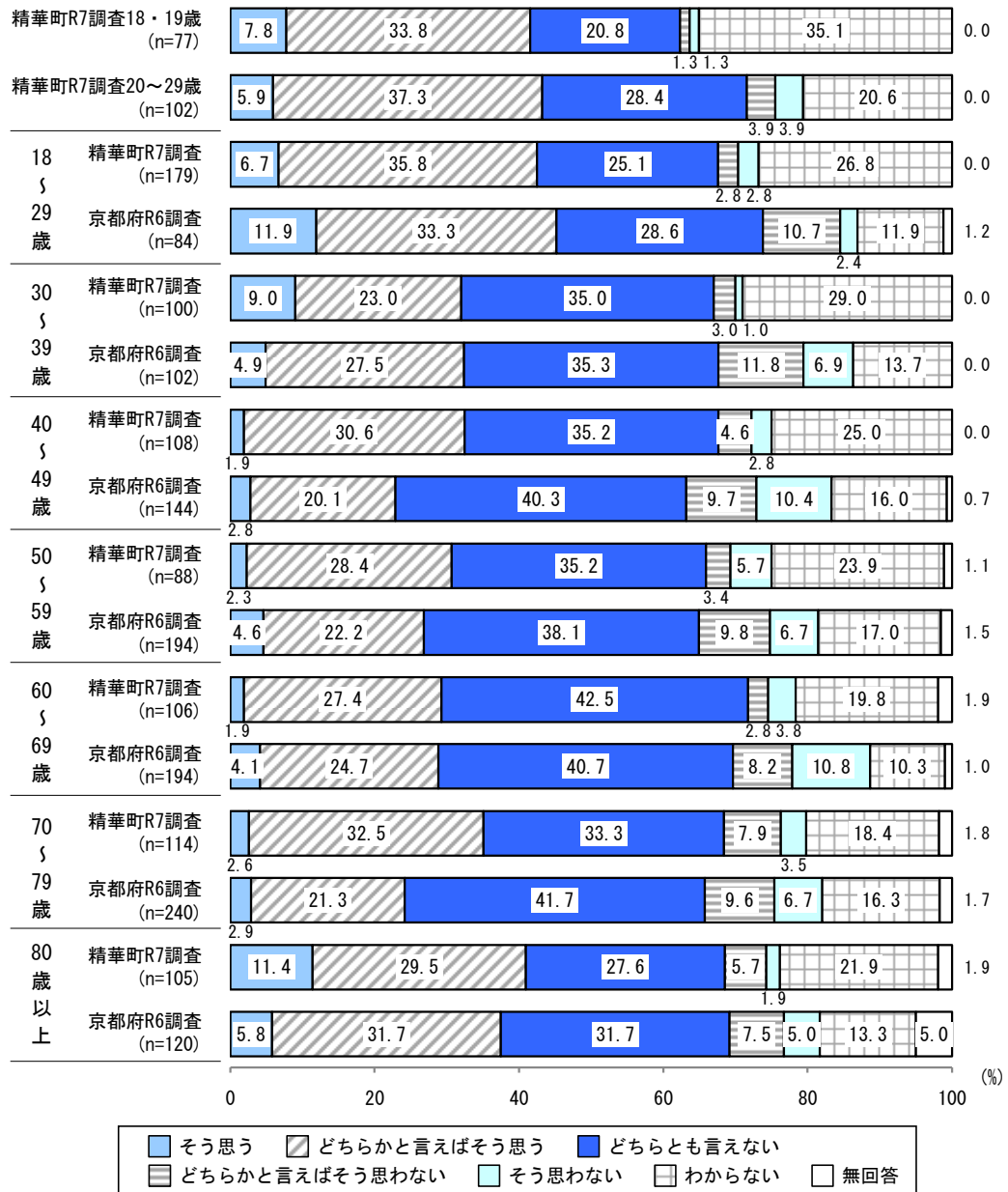
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに『そう思わない』が少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『そう思う』は、20～29歳が43.2%と最も多く、次いで18・19歳が41.6%、80歳以上が40.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では40～49歳と70～79歳の『そう思う』がおよそ10ポイント多くなっている。

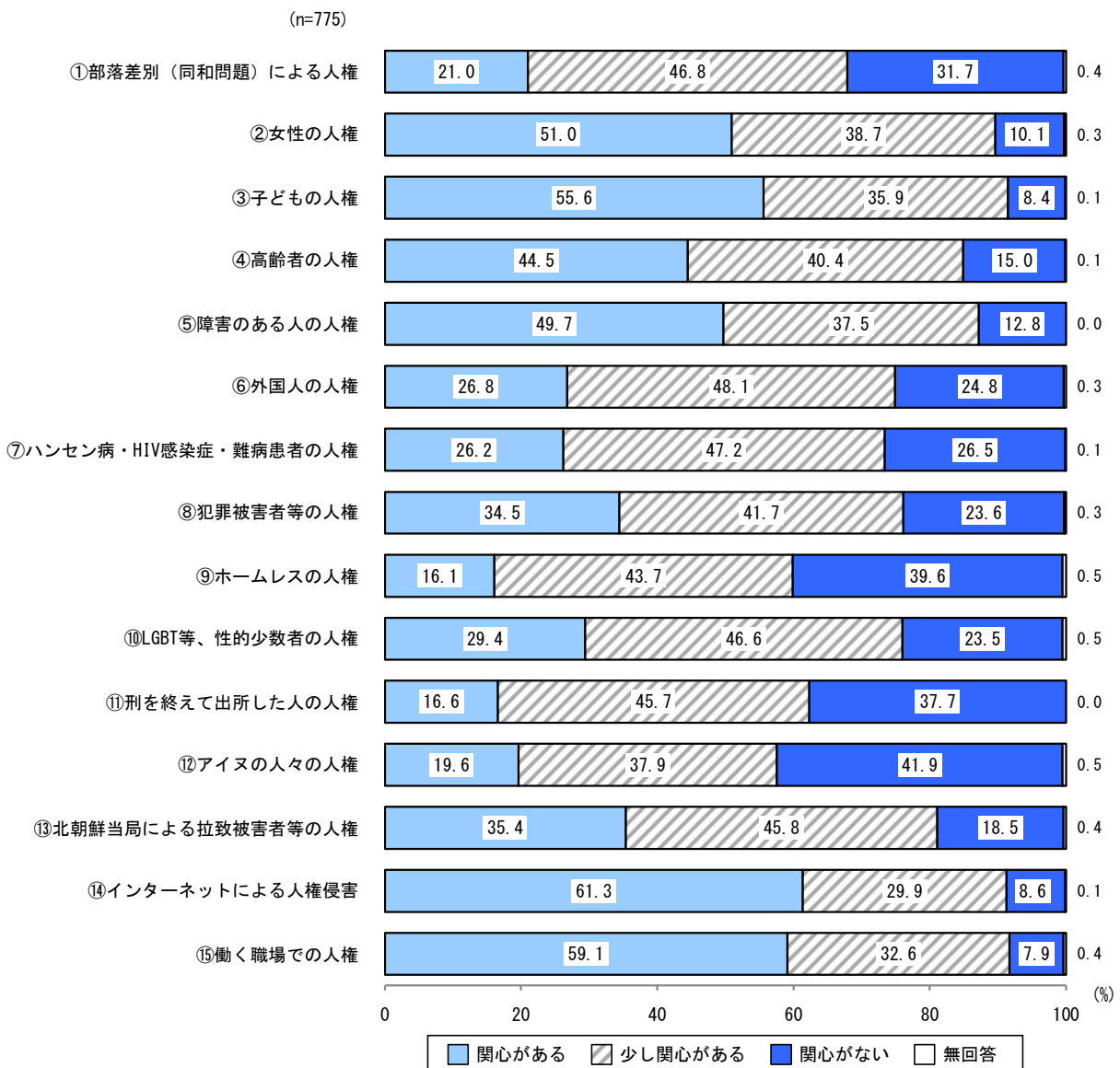


2. 人権に関する関心度

問2	あなたは、次にあげた①～⑮の各事項の人権課題について、どの程度関心がありますか。 (〇はそれぞれ1つずつ)
----	--

■全体傾向

人権課題に関する関心度について、『関心がある』(「関心がある」「少し関心がある」の合算)割合は「⑮働く職場での人権」が最も多く、次いで「③子どもの人権」「⑭インターネットによる人権侵害」となっている。一方、「関心がない」割合は「⑫アイヌの人々の人権」が最も多く、次いで「⑨ホームレスの人権」「⑪刑を終えて出所した人の人権」となっている。

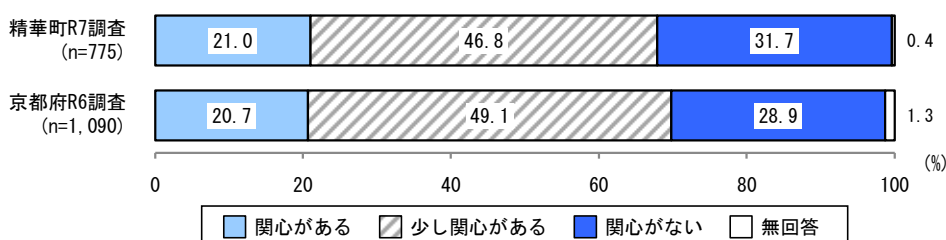


【①部落差別(同和問題)による人権】

■京都府(全体)との比較

部落差別(同和問題)による人権への関心度は、「少し関心がある」が46.8%と最も多く、『関心がある』は67.8%、「関心がない」が31.7%となっている。

京都府R6調査との比較では、大きな差はみられない。

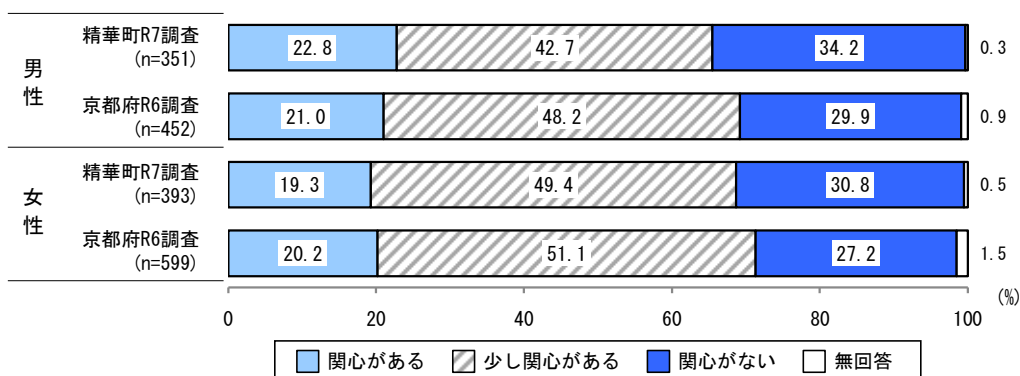


※京都府 R6 調査では「被差別部落(同和地区)出身者の人権」

■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が42.7%と最も多く、『関心がある』は65.5%、「関心がない」が34.2%となっている。女性も「少し関心がある」が49.4%と最も多く、『関心がある』は68.7%、「関心がない」が30.8%となっている。

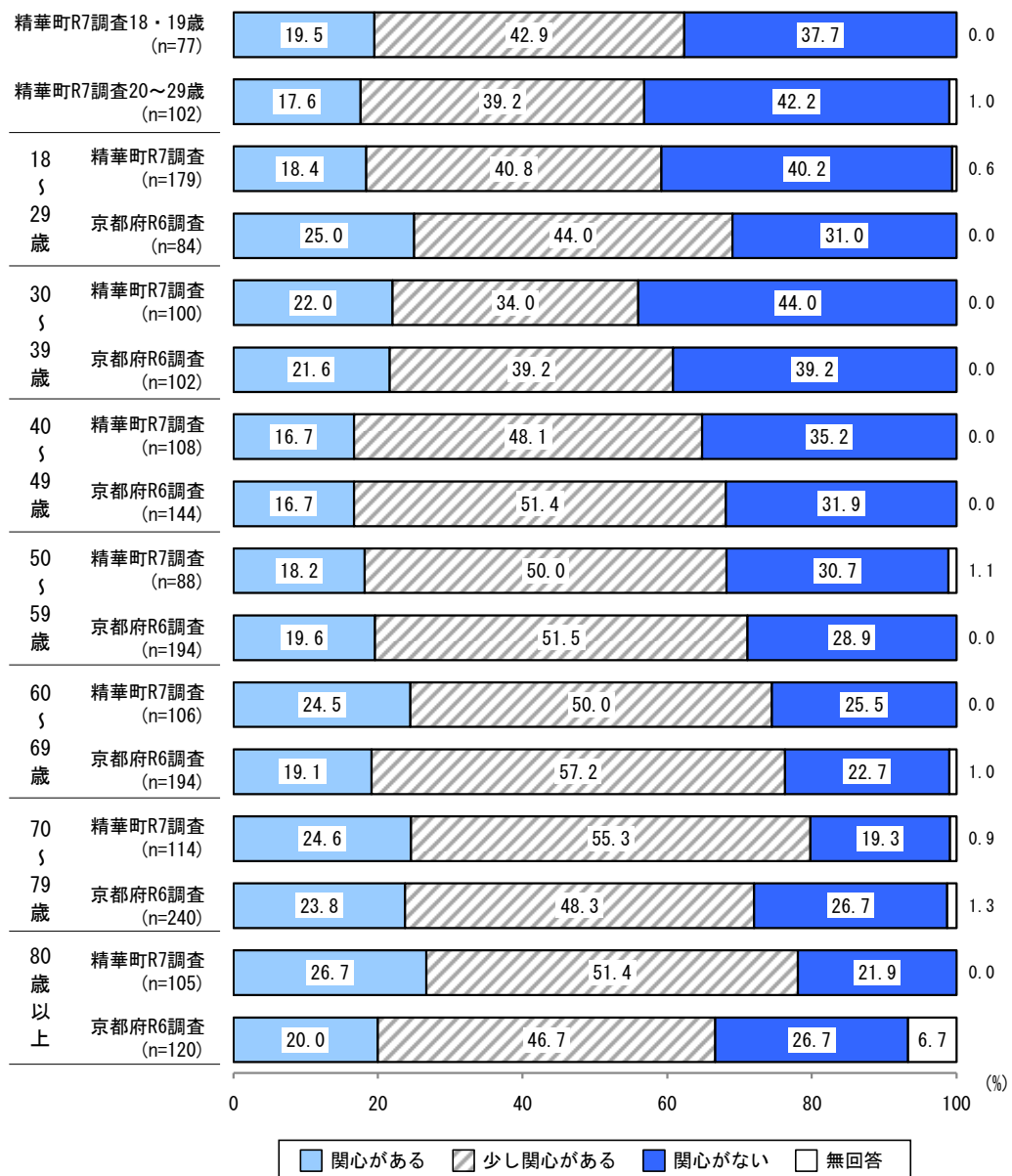
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、70～79歳が79.9%と最も多く、次いで80歳以上が78.1%、60～69歳が74.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳の『関心がある』が9.8ポイント少なく、80歳以上の『関心がある』が11.4ポイント多くなっている。

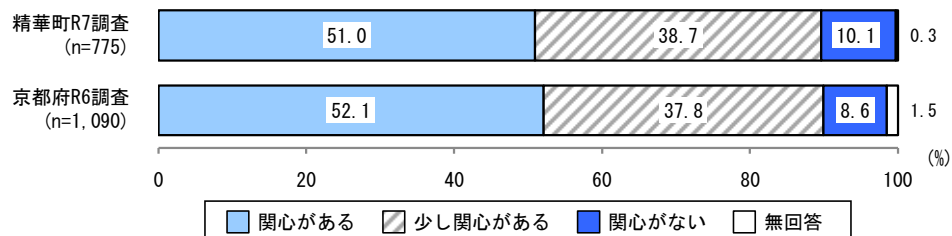


【②女性の人権】

■京都府(全体)との比較

女性の人権への関心度は、「関心がある」が51.0%と最も多く、『関心がある』が89.7%、「関心がない」が10.1%となっている。

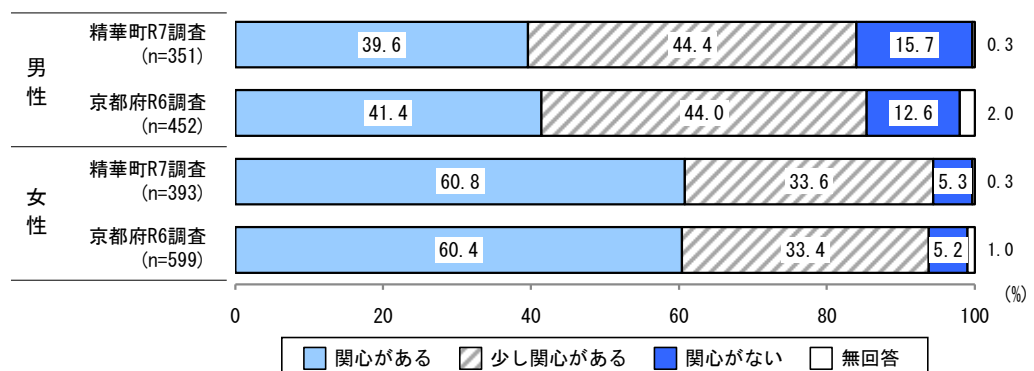
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が44.4%と最も多く、『関心がある』は84.0%、「関心がない」が15.7%となっている。女性は「関心がある」が60.8%と最も多く、『関心がある』は94.4%、「関心がない」が5.3%となっている。男性と比べて女性は「関心がない」が10.4ポイント少なくなっている。

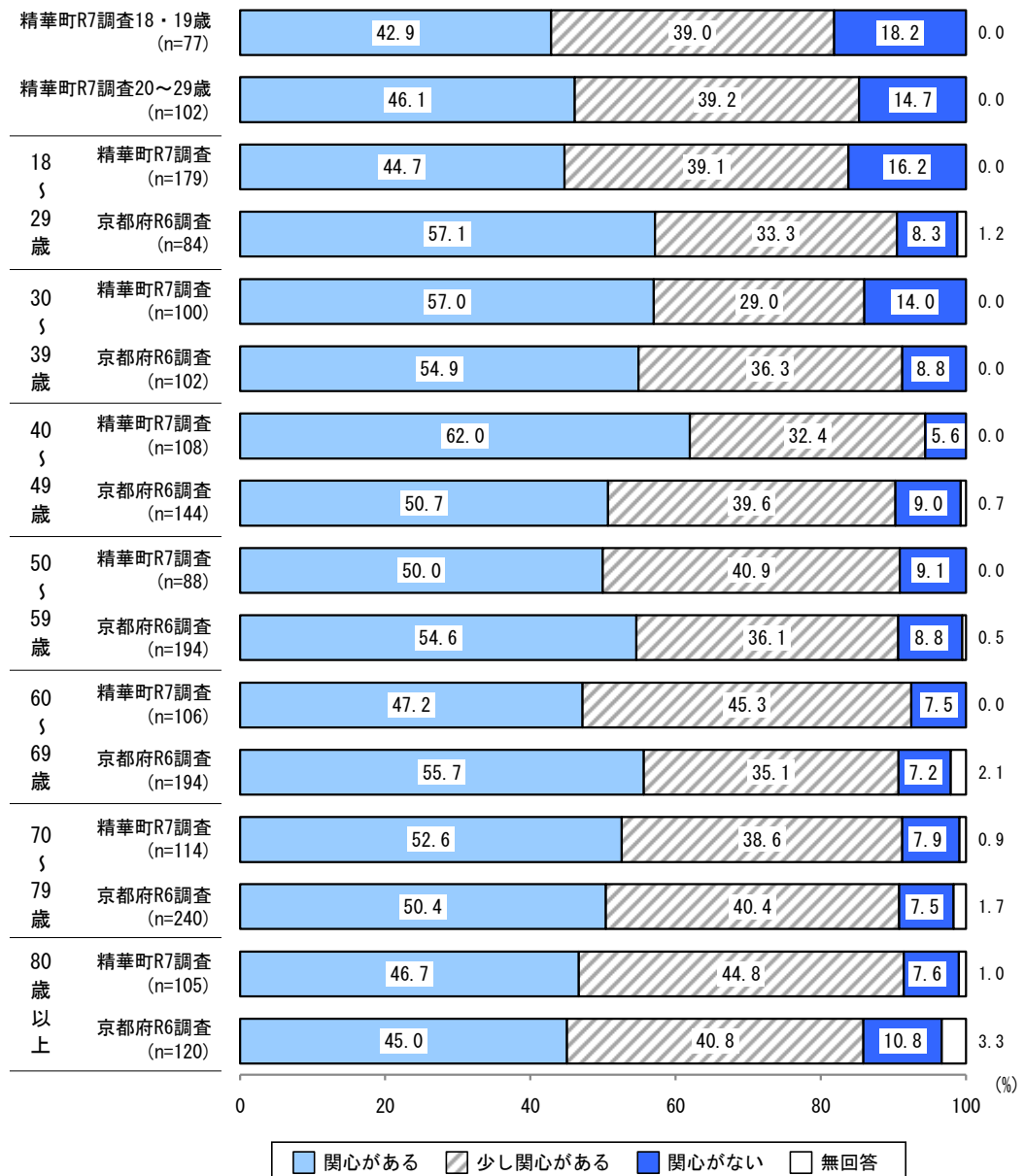
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『関心がある』は、40～49歳が94.4%と最も多く、次いで60～69歳が92.5%、80歳以上が91.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳の「関心がない」が7.9ポイント、30～39歳の「関心がない」が5.2ポイント多くなっている。

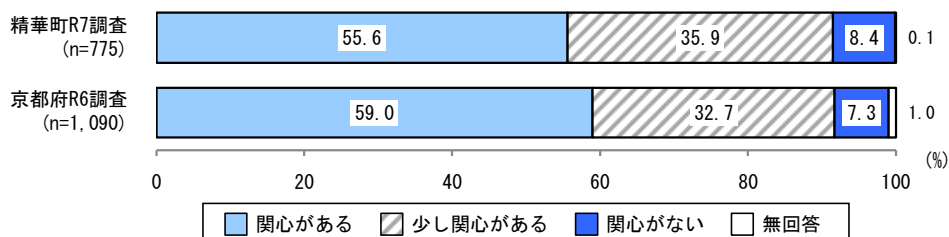


【③子どもの人権】

■京都府(全体)との比較

子どもの人権への関心度は、「関心がある」が55.6%と最も多く、『関心がある』は91.5%、「関心がない」が8.4%となっている。

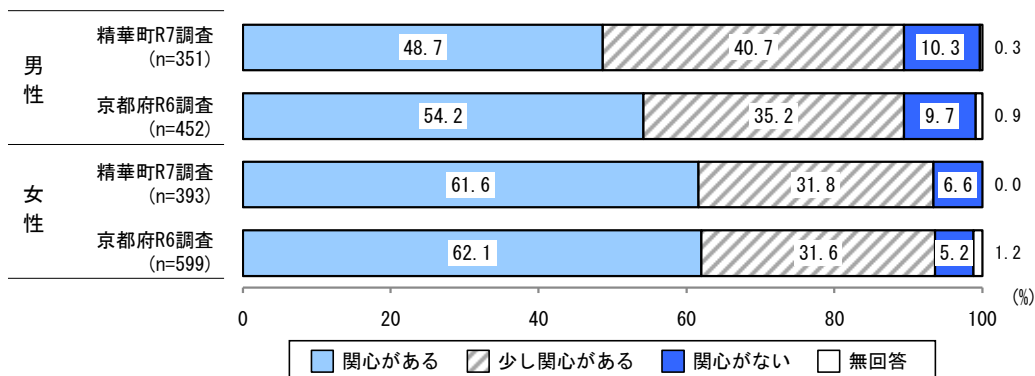
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「関心がある」が48.7%と最も多く、『関心がある』は89.4%、「関心がない」が10.3%となっている。女性は「関心がある」が61.6%と最も多く、『関心がある』は93.4%、「関心がない」が6.6%となっている。

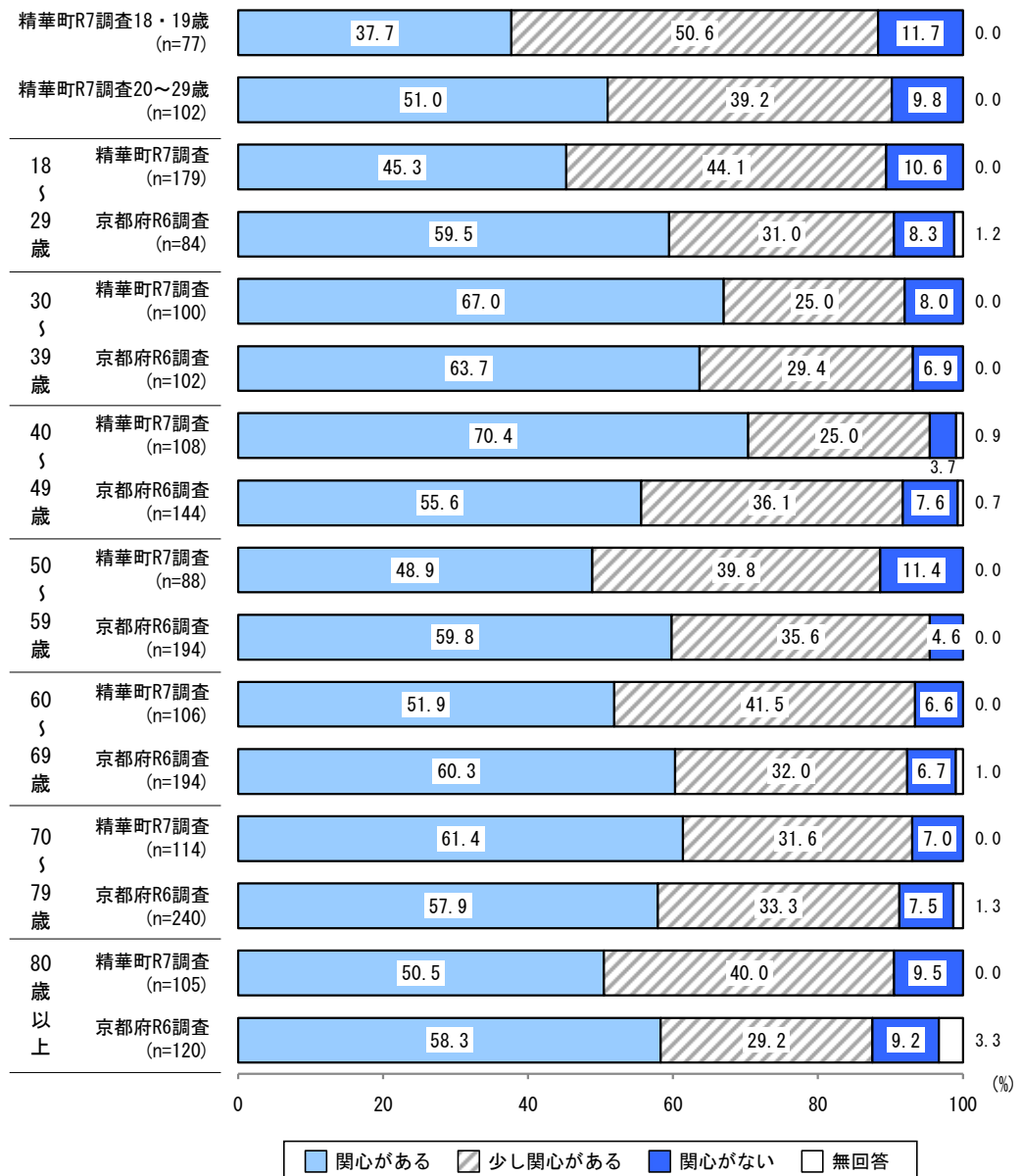
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は「関心がある」が5.5ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、40～49歳が95.4%と最も多く、次いで60～69歳が93.4%、70～79歳が93.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では50～59歳の『関心がない』が6.8ポイント多くなっている。

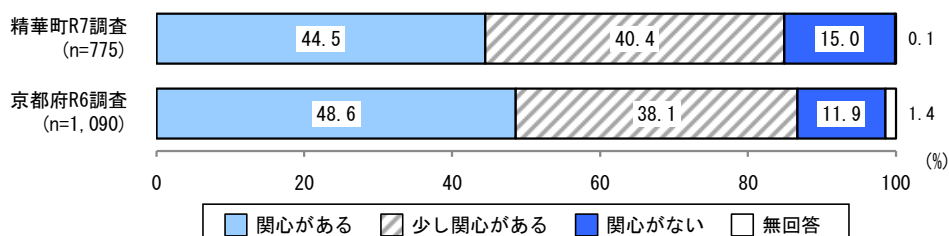


【④高齢者の人権】

■京都府(全体)との比較

高齢者の人権への関心度は、「関心がある」が44.5%と最も多く、『関心がある』は84.9%、「関心がない」が15.0%となっている。

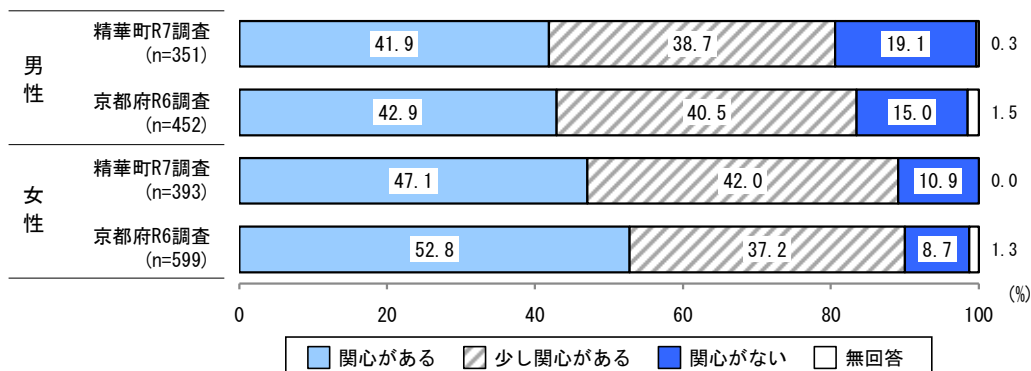
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は、「関心がある」が41.9%と最も多く、『関心がある』は80.6%、「関心がない」が19.1%となっている。女性も「関心がある」が47.1%と最も多く、『関心がある』は89.1%、「関心がない」が10.9%となっている。

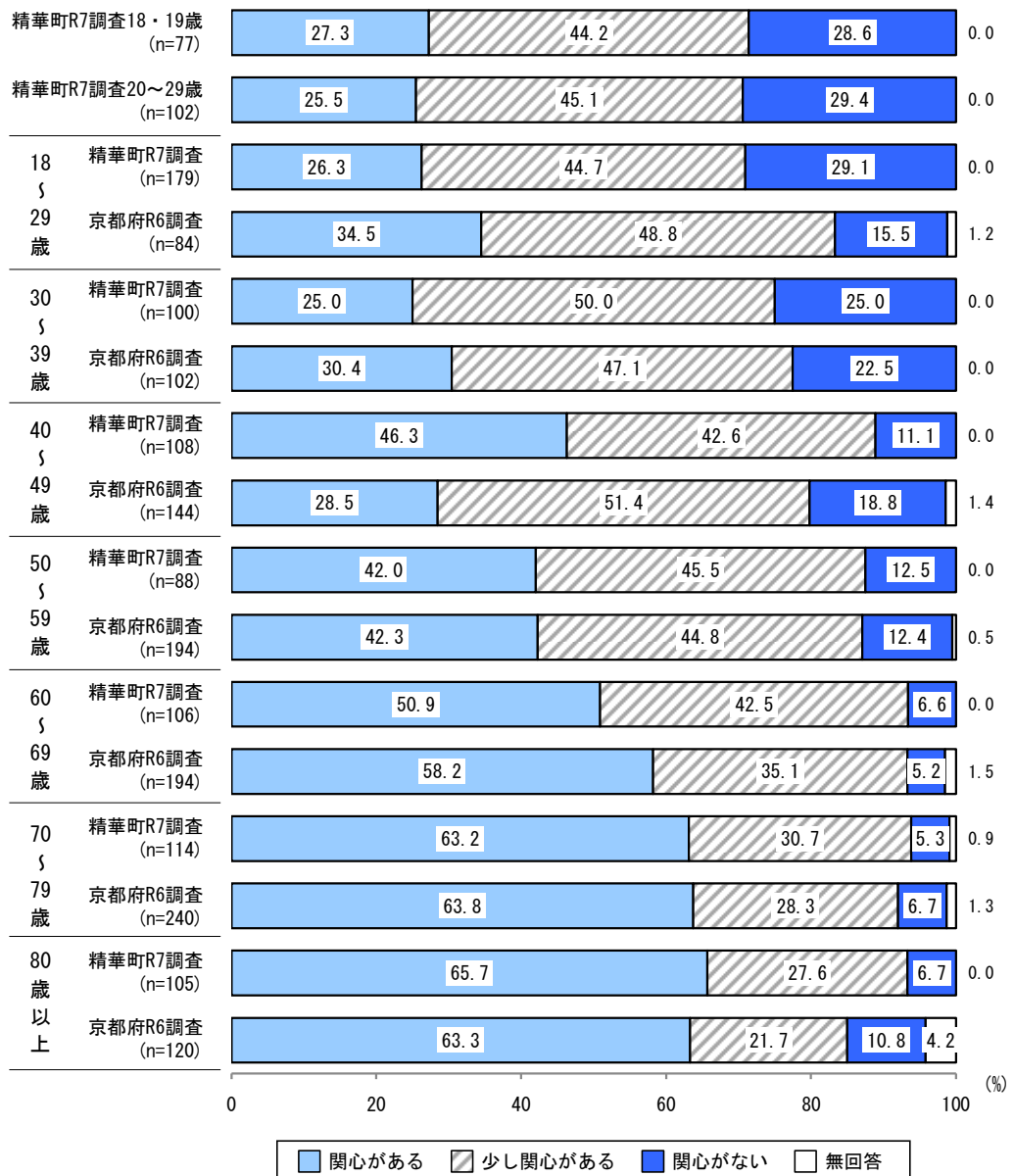
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、70～79歳が93.9%と最も多く、次いで60～69歳が93.4%、80歳以上が93.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳の「関心がない」が13.6ポイント高く、40～49歳の「関心がない」が7.7ポイント低くなっている。

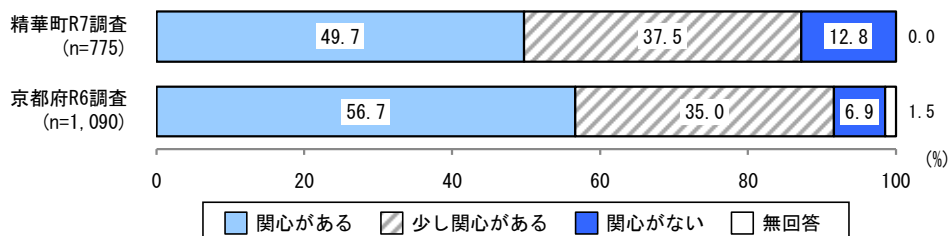


【⑤障害のある人の人権】

■京都府(全体)との比較

障害のある人の人権への関心度は、「関心がある」が49.7%と最も多く、『関心がある』は87.2%、「関心がない」が12.8%となっている。

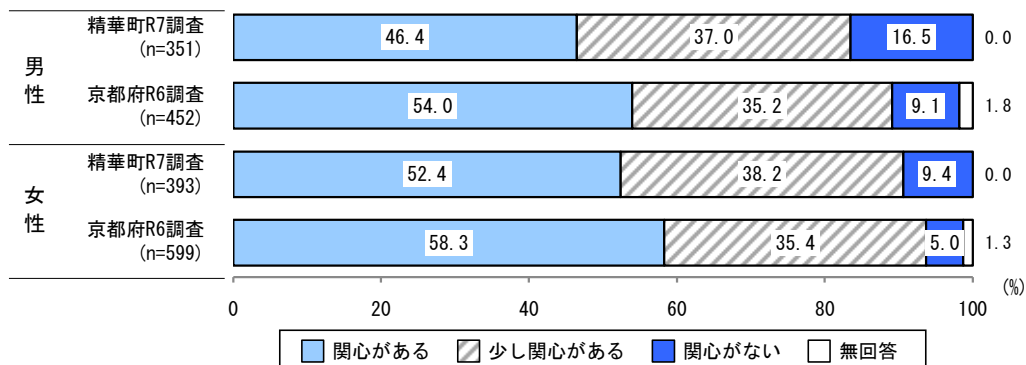
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「関心がない」が5.9ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は、「関心がある」が46.4%と最も多く、『関心がある』は83.4%、「関心がない」が16.5%となっている。女性も「関心がある」が52.4%と最も多く、『関心がある』は90.6%、「関心がない」が9.4%となっている。

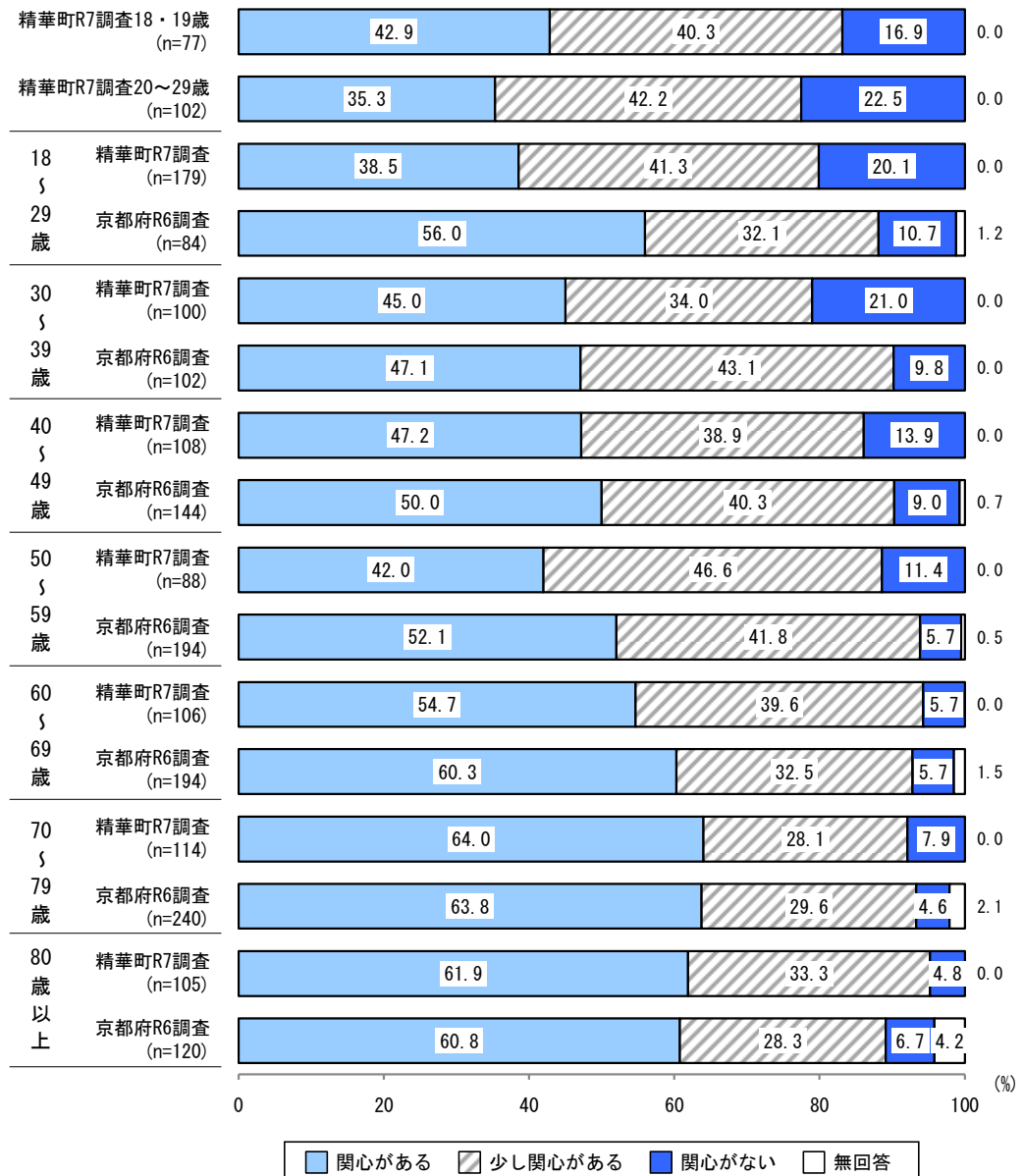
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性の「関心がない」が7.4ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『関心がある』は、80歳以上が95.2%と最も多く、次いで60～69歳が94.4%、70～79歳が92.1%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳と30～39歳の「関心がない」がおおよそ10ポイント多くなっている。

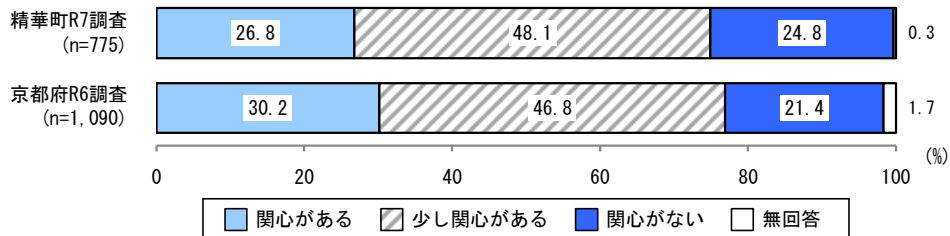


【⑥外国人の人権】

■京都府(全体)との比較

外国人の人権への関心度は、「少し関心がある」が48.1%と最も多く、『関心がある』は74.9%、「関心がない」が24.8%となっている。

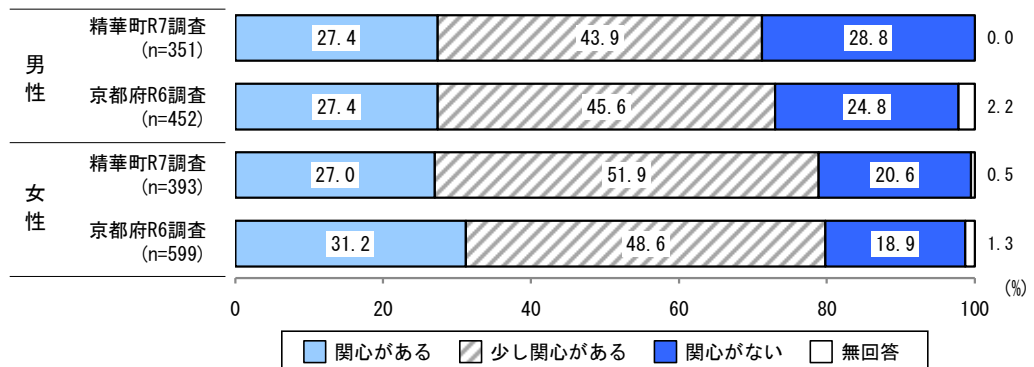
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が43.9%と最も多く、『関心がある』は71.3%、「関心がない」が28.8%となっている。女性も「少し関心がある」が51.9%と最も多く、『関心がある』は78.9%、「関心がない」が20.6%となっている。

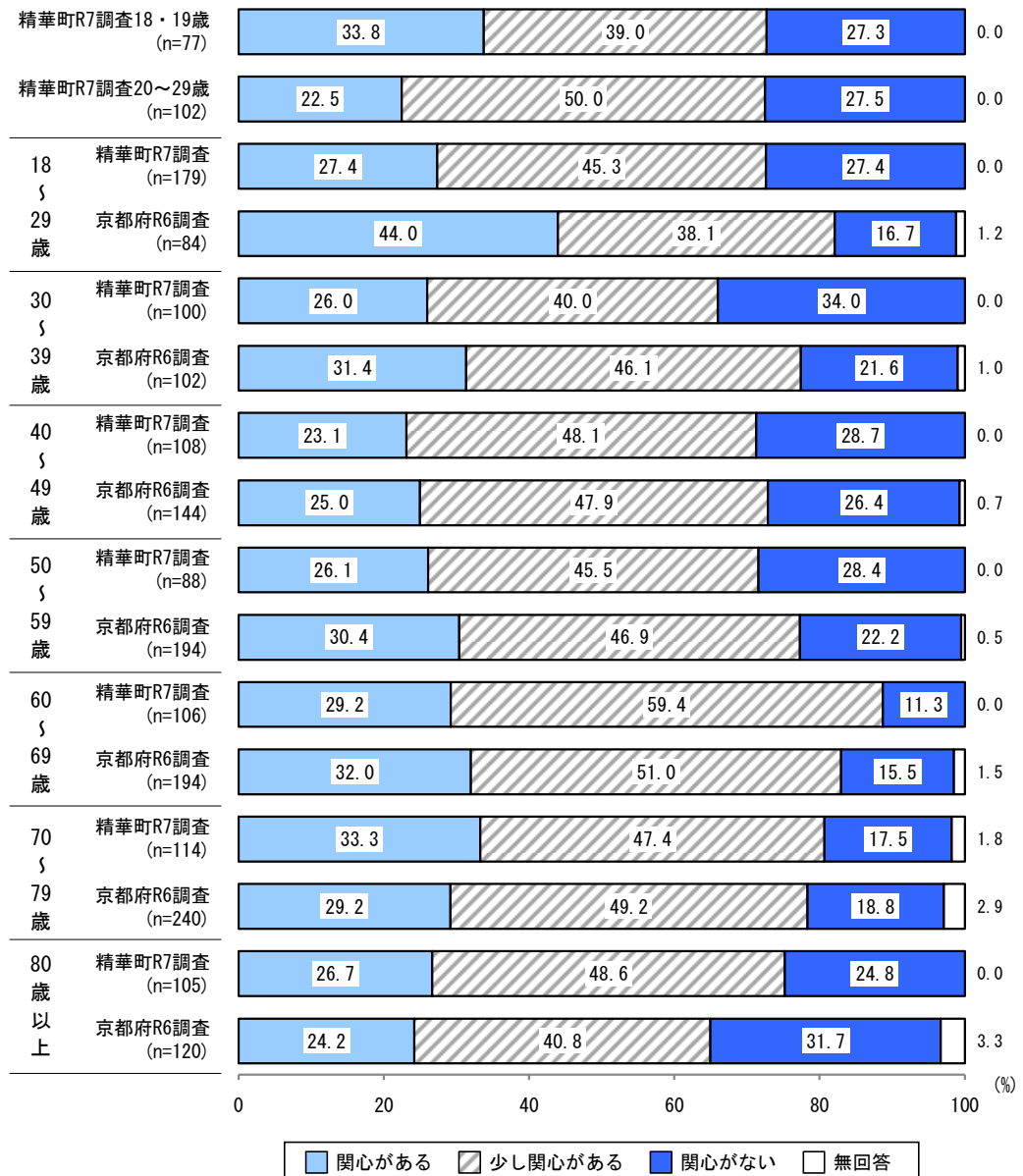
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、60～69歳が88.6%と最も多く、次いで70～79歳が80.7%、80歳以上が75.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳と30～39歳の「関心がない」が10ポイント以上と大幅に多くなっている。一方、80歳以上の「関心がない」が6.9ポイント少なくなっている。

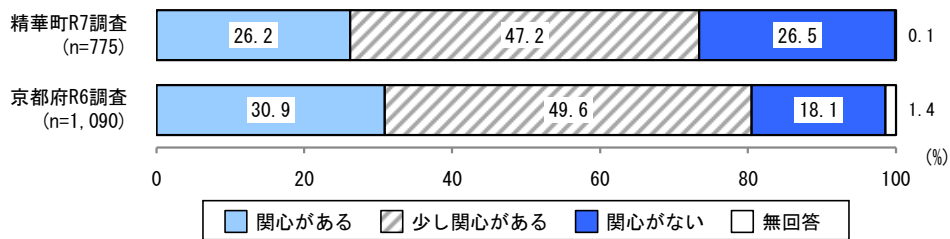


【⑦ハンセン病・HIV 感染症・難病患者の人権】

■京都府(全体)との比較

ハンセン病・HIV 感染症・難病患者の人権への関心度は、「少し関心がある」が 47.2%と最も多く、『関心がある』は 73.4%、「関心がない」が 26.5%となっている。

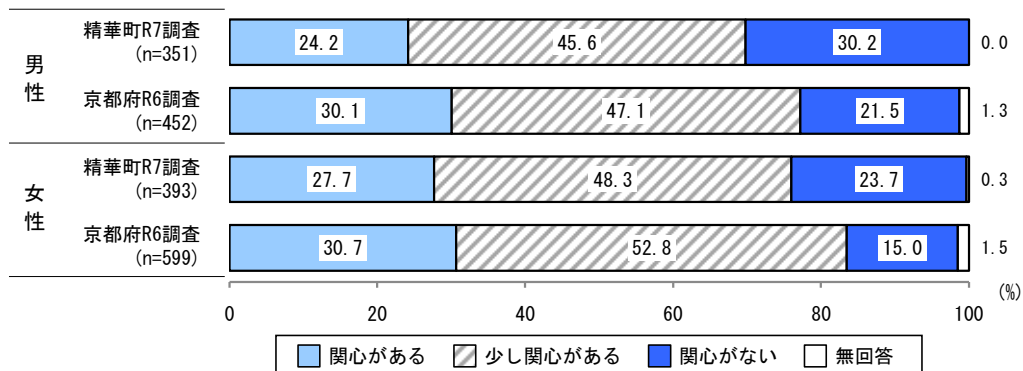
京都府R 6 調査と比較すると、精華町R 7 調査では「関心がない」が 8.4 ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が 45.6%と最も多く、『関心がある』は 69.8%、「関心がない」が 30.2%となっている。女性も「少し関心がある」が 48.3%と最も多く、『関心がある』は 76.0%、「関心がない」が 23.7%となっている。

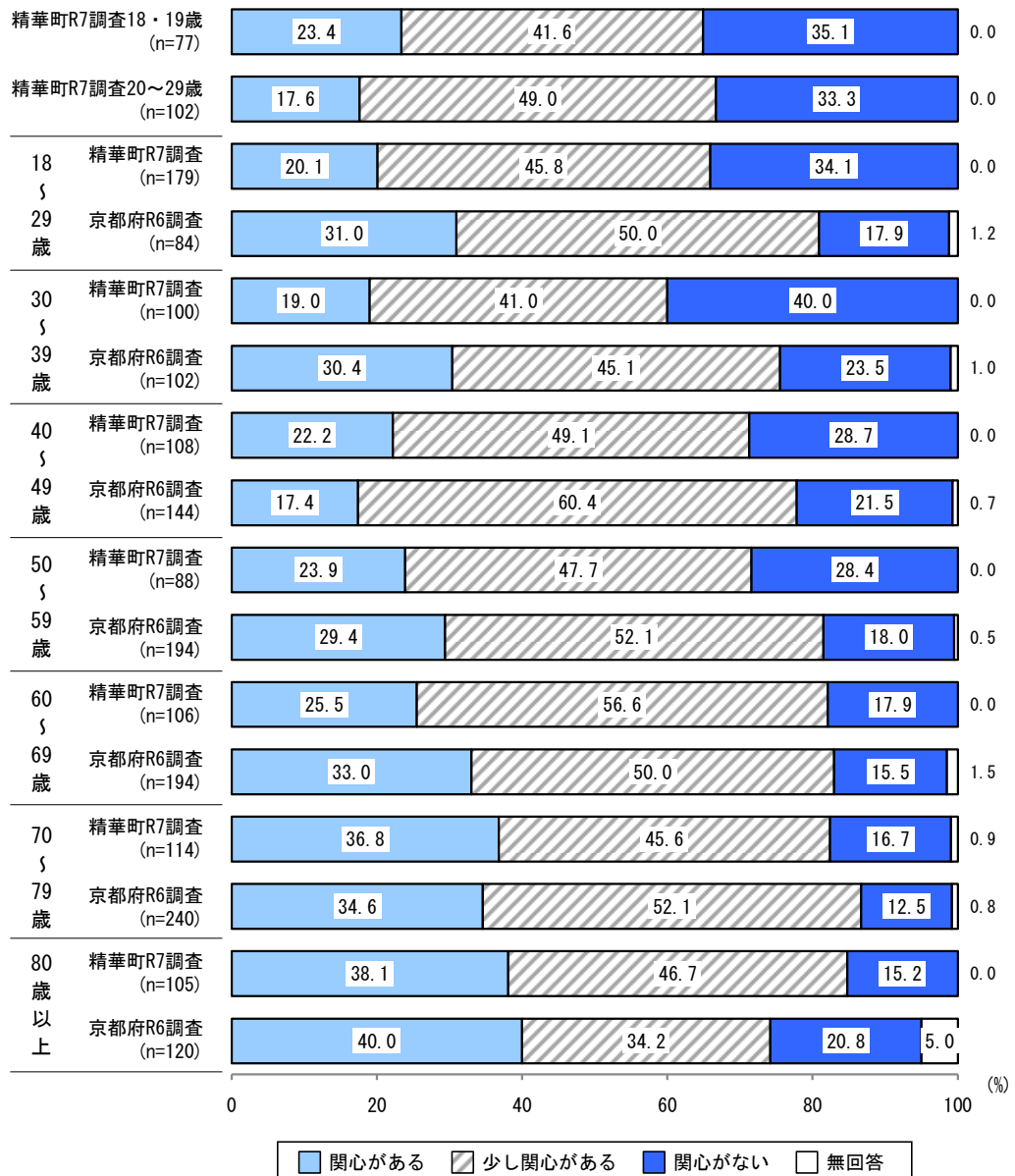
京都府R 6 調査と比較すると、精華町R 7 調査では男性と女性ともに「関心がない」が 8.7 ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、80歳以上が84.8%と最も多く、次いで70～79歳が82.4%、60～69歳が82.1%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳、30～39歳、50～59歳の「関心がない」が10ポイント以上と大幅に多くなっている。一方、80歳以上の「関心がない」が5.6ポイント少なくなっている。

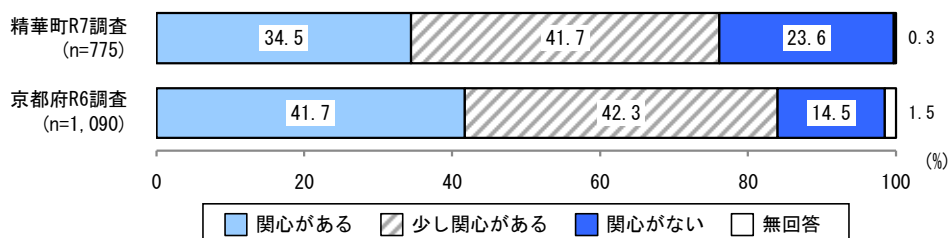


【⑧犯罪被害者等の人権】

■京都府(全体)との比較

犯罪被害者等の人権への関心度は、「少し関心がある」が41.7%と最も多く、『関心がある』が76.2%、「関心がない」が23.6%となっている。

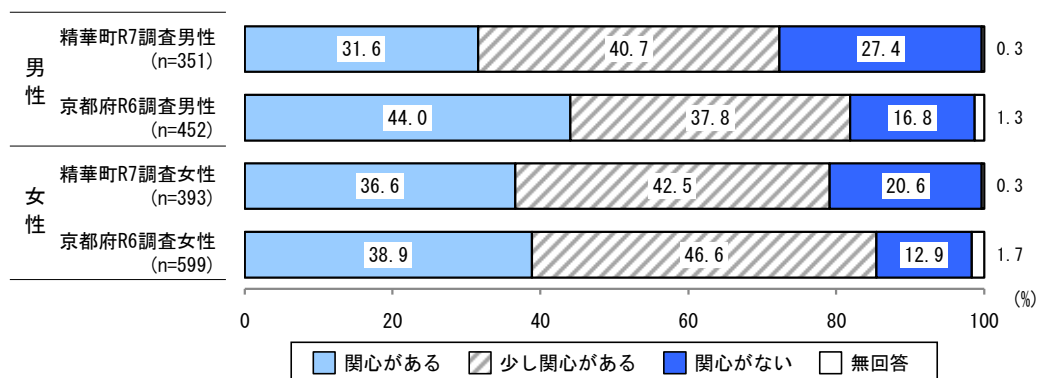
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査は「関心がない」が9.1ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が40.7%と最も多く、『関心がある』が72.3%、「関心がない」が27.4%となっている。女性も「少し関心がある」が42.5%と最も多く、『関心がある』が79.1%、「関心がない」が20.6%となっている。

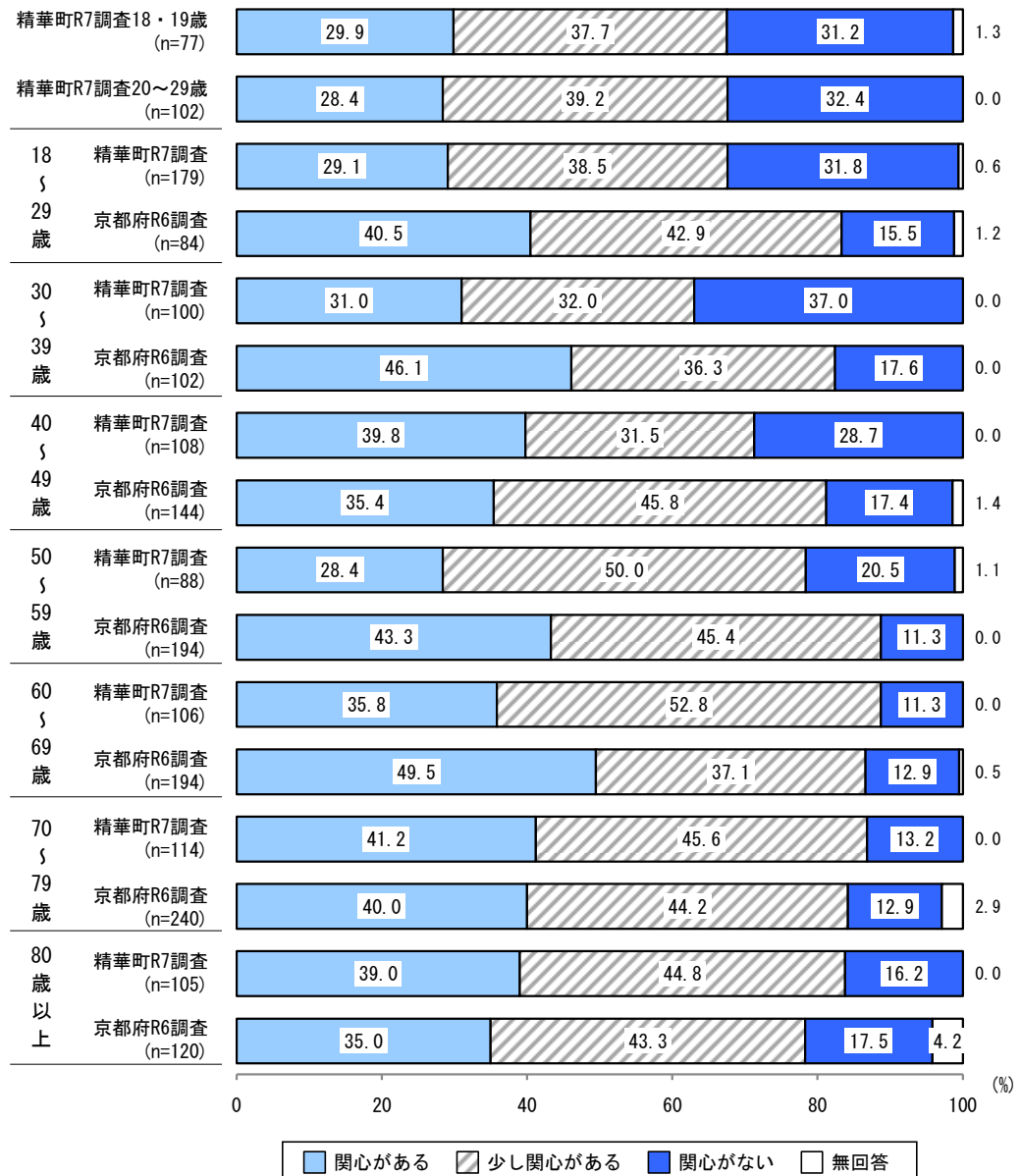
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性と女性ともに「関心がない」が多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『関心がある』は、60～69歳が88.6%と最も多く、次いで70～79歳が86.8%、80歳以上が83.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から50～59歳までは「関心がない」がおよそ10ポイント多くなっている。

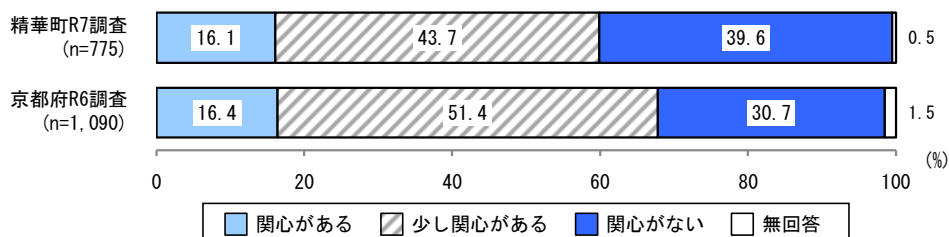


【◎ホームレスの人権】

■京都府(全体)との比較

ホームレスの人権への関心度は、「少し関心がある」が43.8%と最も多く、『関心がある』は59.8%、「関心がない」が39.6%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「関心がない」が8.9ポイント多くなっている。

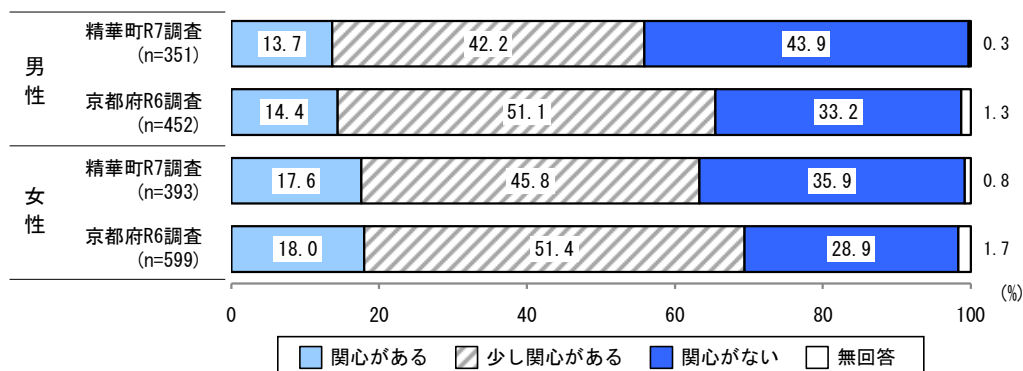


■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が42.2%と最も多く、『関心がある』は55.9%、「関心がない」が43.9%となっている。女性も「少し関心がある」が45.8%と最も多く、『関心がある』は63.4%、「関心がない」が35.9%となっている。

男性と比べて女性は「関心がない」が8.0ポイント少なくなっている。

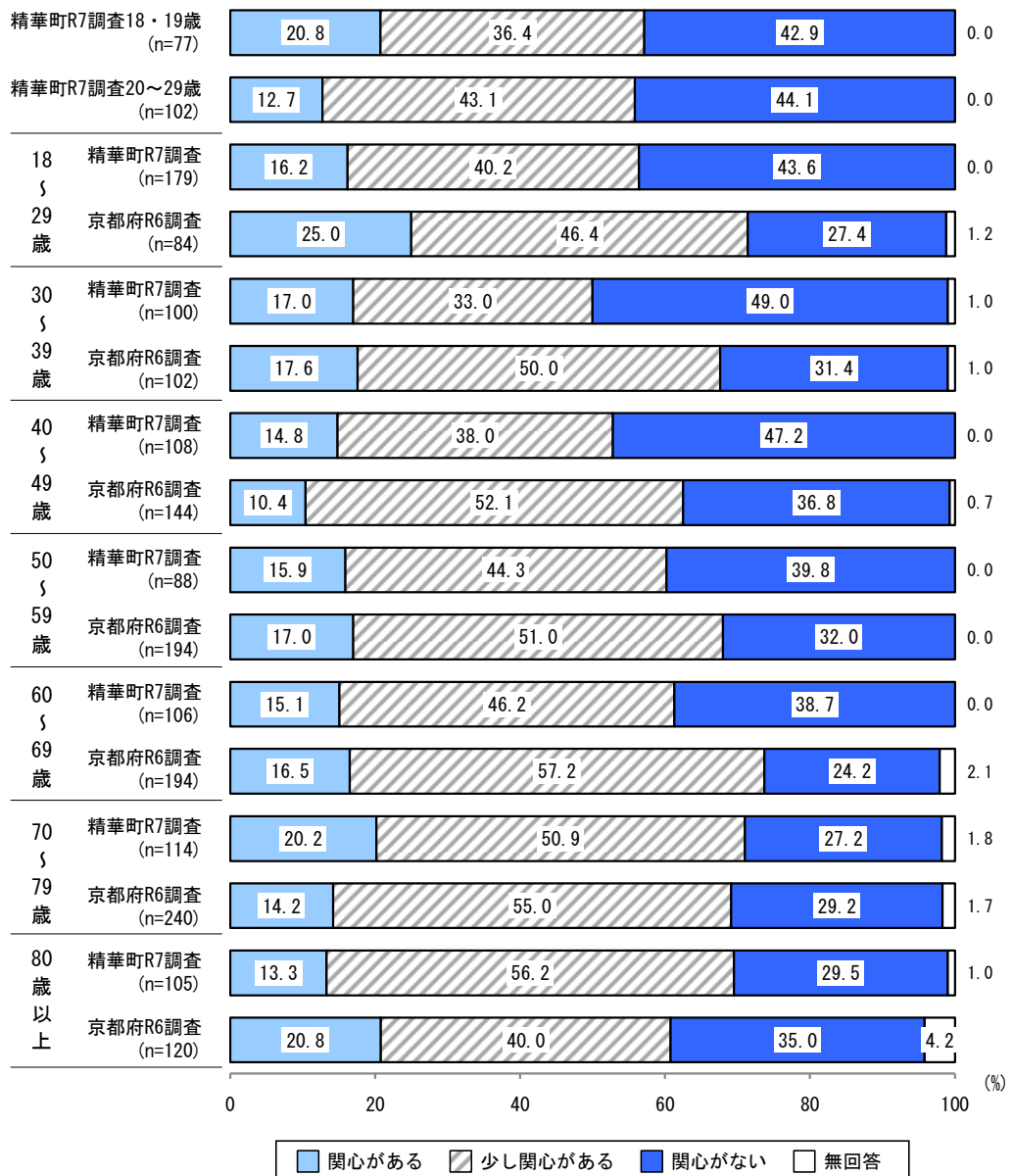
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「関心がない」が男性は10.7ポイント、女性は7.0ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『関心がある』は、70～79歳が71.1%と最も多く、次いで80歳以上が69.5%、60～69歳が61.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から60～69歳まで「関心がない」がおよそ10ポイント多くなっている。一方、80歳以上は「関心がない」が5.5ポイント少なくなっている。

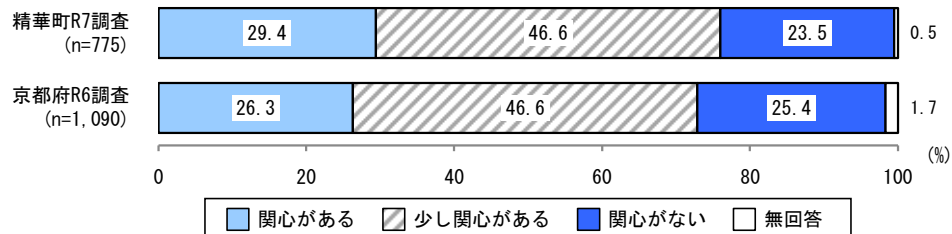


【⑩LGBT等、性的少数者の人権】

■京都府(全体)との比較

LGBT等、性的少数者の人権への関心度は、「少し関心がある」が46.6%と最も多く、『関心がある』が76.0%、「関心がない」が23.5%となっている。

京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。

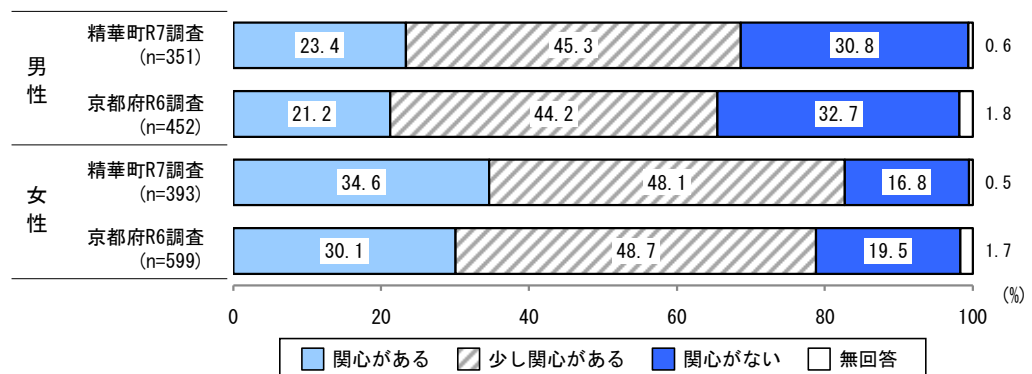


■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は、「少し関心がある」が45.3%と最も多く、『関心がある』は68.7%、「関心がない」が30.8%となっている。女性も「少し関心がある」が48.1%と最も多く、『関心がある』は82.7%、「関心がない」が16.8%となっている。

男性と比べて女性は「関心がある」が11.2ポイント多くなっている。

京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。

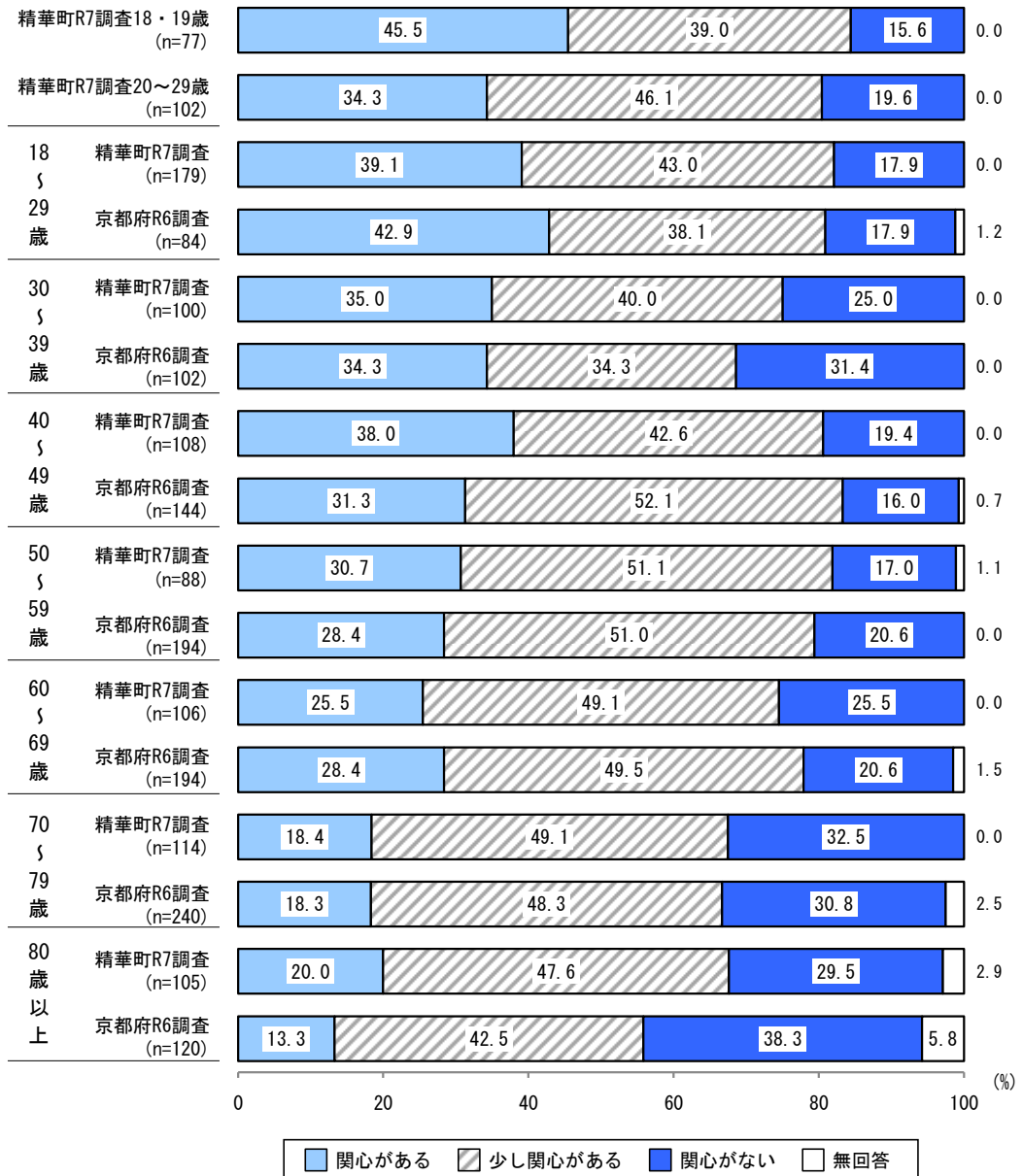


■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、18・19歳の84.5%が最も多く、次いで50～59歳の81.8%、40～49歳の80.6%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳と80歳以上の「関心がない」が5ポイント以上低くなっている。

また、精華町R7調査と京都府R6調査ともに、年代が下がるにつれ「関心がある」が多くなる傾向がみられる。

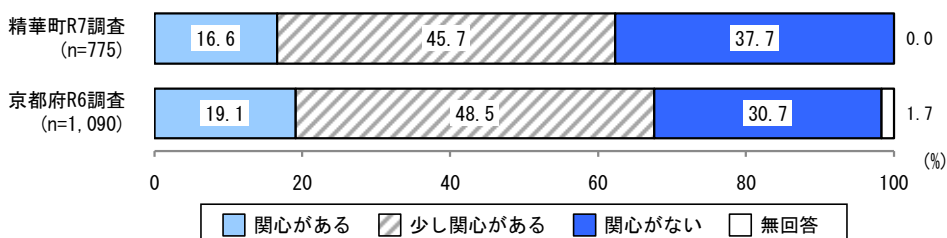


【①刑を終えて出所した人の人権】

■京都府(全体)との比較

刑を終えて出所した人の人権への関心度は、「少し関心がある」が45.7%と最も多く、『関心がある』は62.3%、「関心がない」が37.7%となっている。

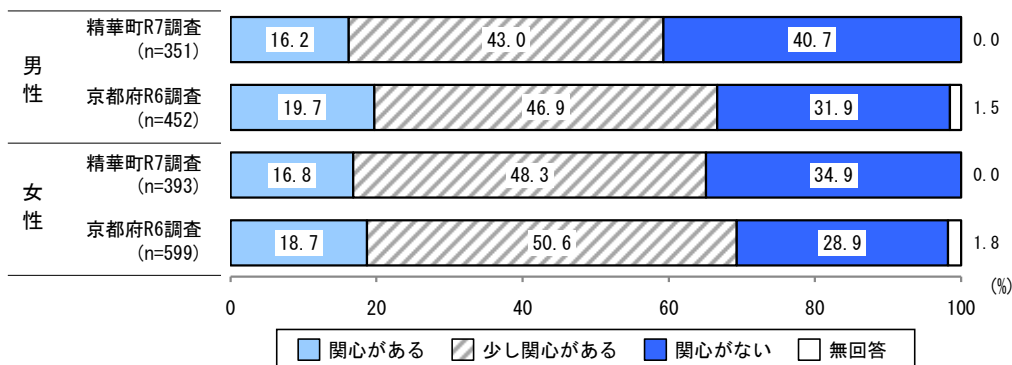
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「関心がない」が7.0ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「少し関心がある」が43.0%と最も多く、『関心がある』は59.2%、「関心がない」が40.7%となっている。女性も「少し関心がある」が48.3%と最も多く、『関心がある』は65.1%、「関心がない」が34.9%となっている。

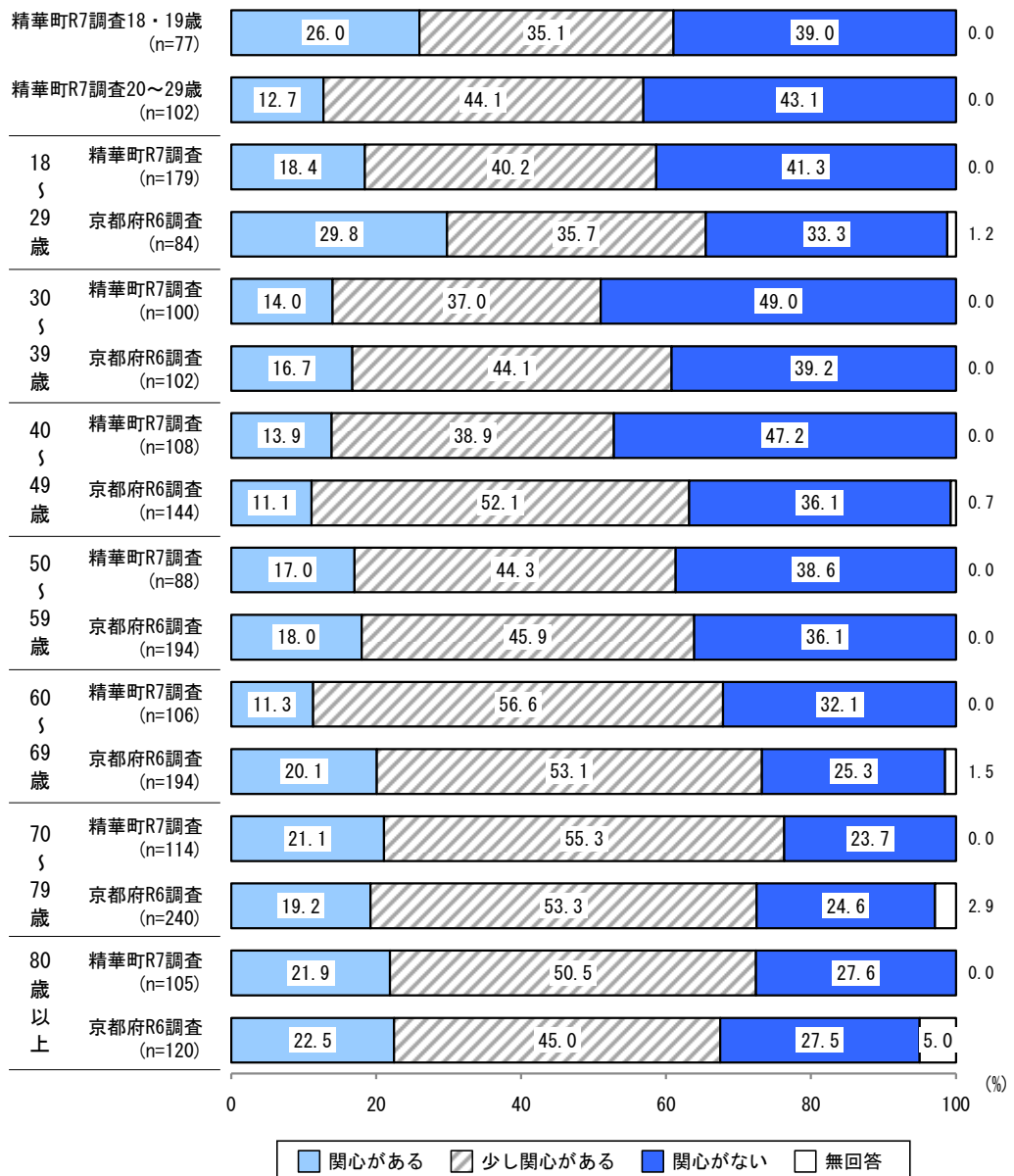
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「関心がない」が男性と女性ともに多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『関心がある』は、70～79歳が76.4%と最も多く、次いで80歳以上が72.4%、60～69歳が67.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳、30～39歳、40～49歳の「関心がない」がおよそ10ポイント多くなっている。

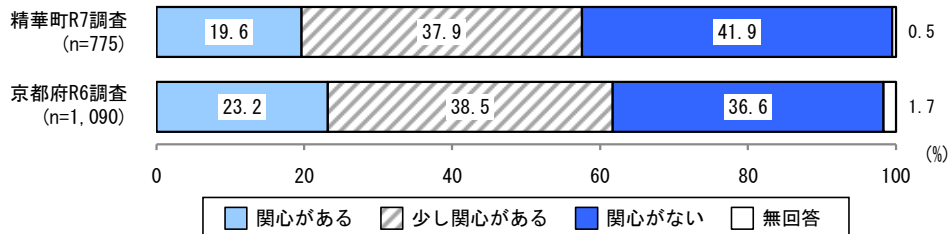


【⑫アイヌの人々の人権】

■京都府(全体)との比較

アイヌの人々の人権への関心度は、「関心がない」が41.9%と最も多く、『関心がある』は37.5%、「関心がない」が41.9%となっている。

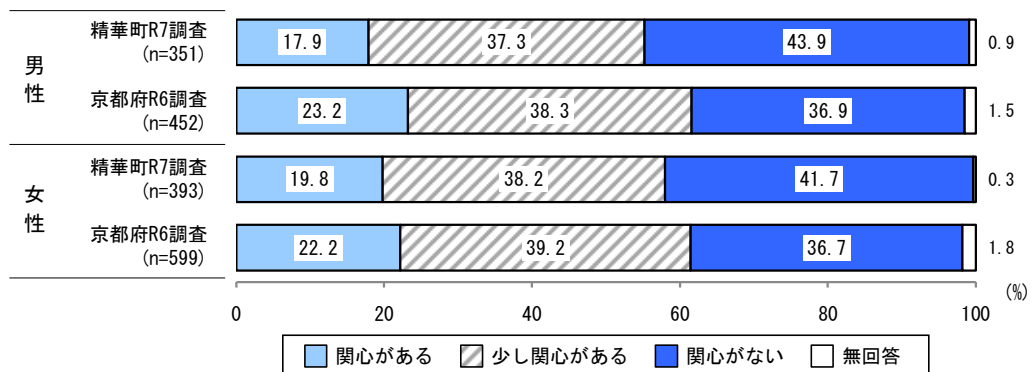
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「関心がない」が5.3ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「関心がない」が43.9%と最も多く、『関心がある』は37.3%、「関心がない」が43.9%となっている。女性も「関心がない」が41.7%と最も多く、『関心がある』が38.2%、「関心がない」が41.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査は男性と女性ともに「関心がない」が5ポイント以上多くなっている。

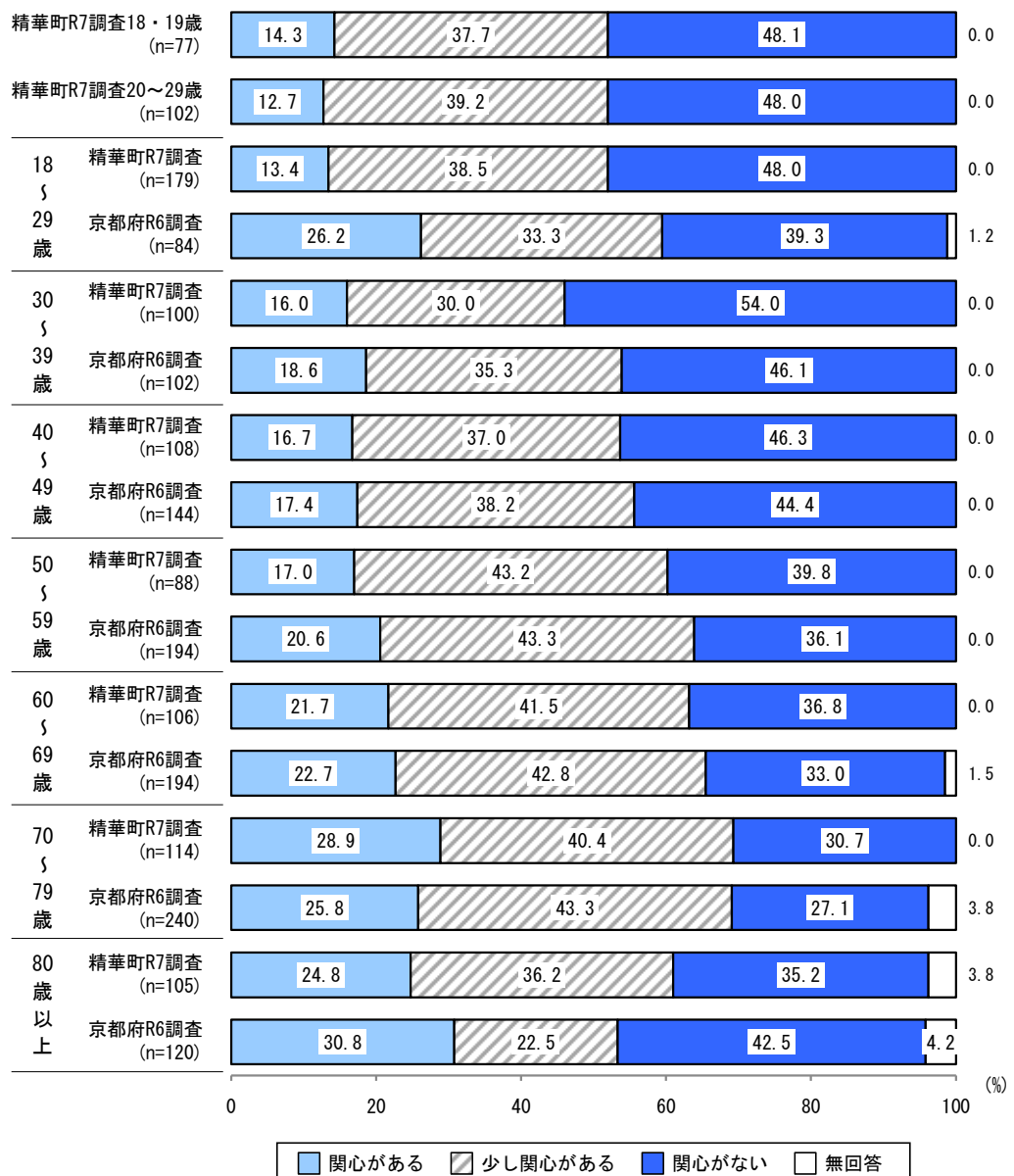


■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、70～79歳が69.3%と最も多く、次いで60～69歳が63.2%、80歳以上が61.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳と30～39歳の「関心がない」がおよそ10ポイント多く、80歳以上は7.3ポイント少なくなっている。

また、精華町R7調査と京都府R6調査ともに、年代が上がるにつれ「関心がある」が多くなる傾向がみられる。

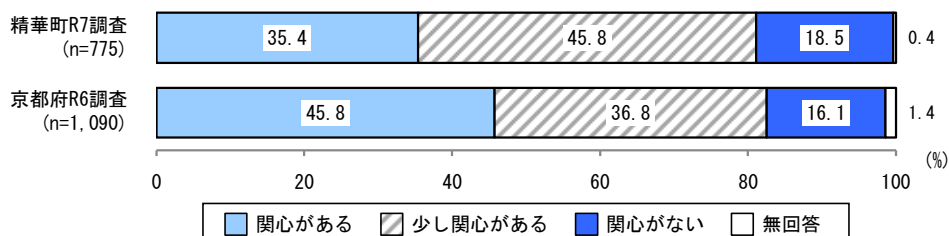


【⑬北朝鮮当局による拉致被害者等の人権】

■京都府(全体)との比較

北朝鮮当局による拉致被害者等の人権への関心度は、「少し関心がある」が45.8%と最も多く、『関心がある』は81.2%、「関心がない」が18.5%となっている。

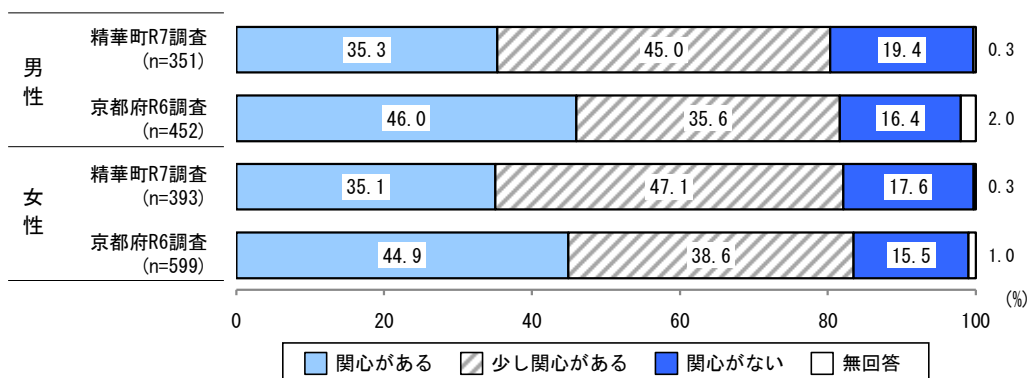
京都府R6調査と比較すると、「関心がある」が10.4ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は、「少し関心がある」が45.0%と最も多く、『関心がある』は80.3%、「関心がない」が19.4%となっている。女性も「少し関心がある」が47.1%と最も多く、『関心がある』が82.2%、「関心がない」が17.6%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「関心がある」がおよそ10ポイント少なくなっている。

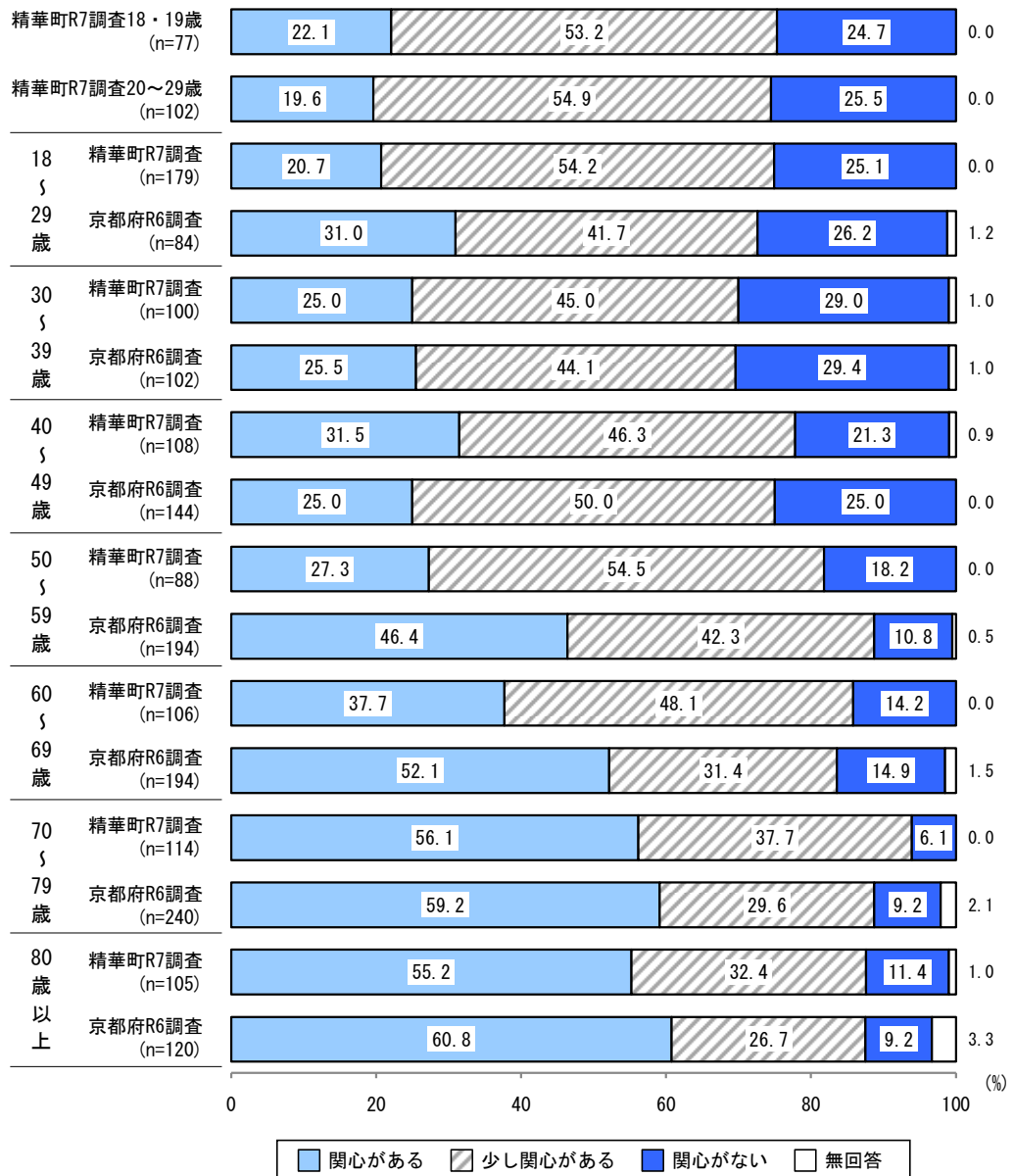


■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『関心がある』は、70～79歳が93.8%と最も多く、80歳以上が87.6%、60～69歳が85.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では50～59歳の「関心がない」が7.4ポイント多くなっている。

また、精華町R7調査と京都府R6調査ともに、年代が上がるにつれ「関心がある」が多くなる傾向がみられる。

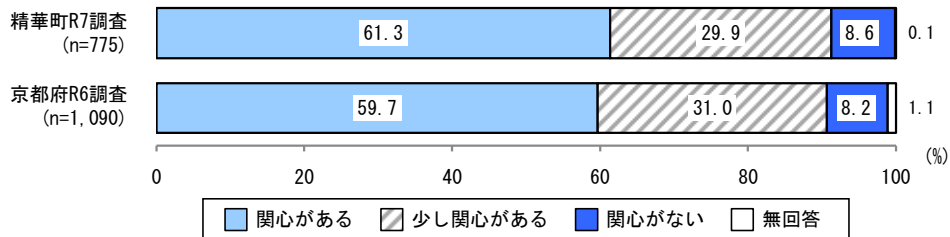


【⑭インターネットによる人権侵害】

■京都府(全体)との比較

インターネットによる人権侵害への関心度は、「関心がある」が61.3%と最も多く、『関心がある』は91.2%、「関心がない」が8.6%となっている。

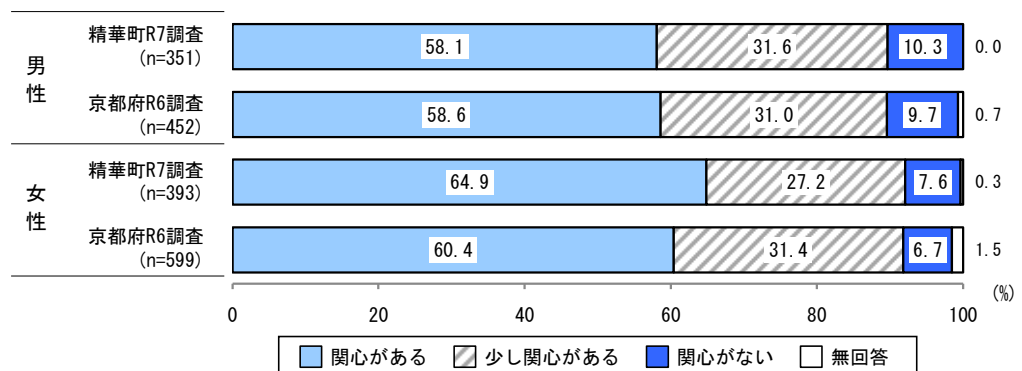
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「関心がある」が58.1%と最も多く、『関心がある』は89.7%、「関心がない」が10.3%となっている。女性も「関心がある」が64.9%と最も多く、『関心がある』が92.1%、「関心がない」が7.6%となっている。

京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。

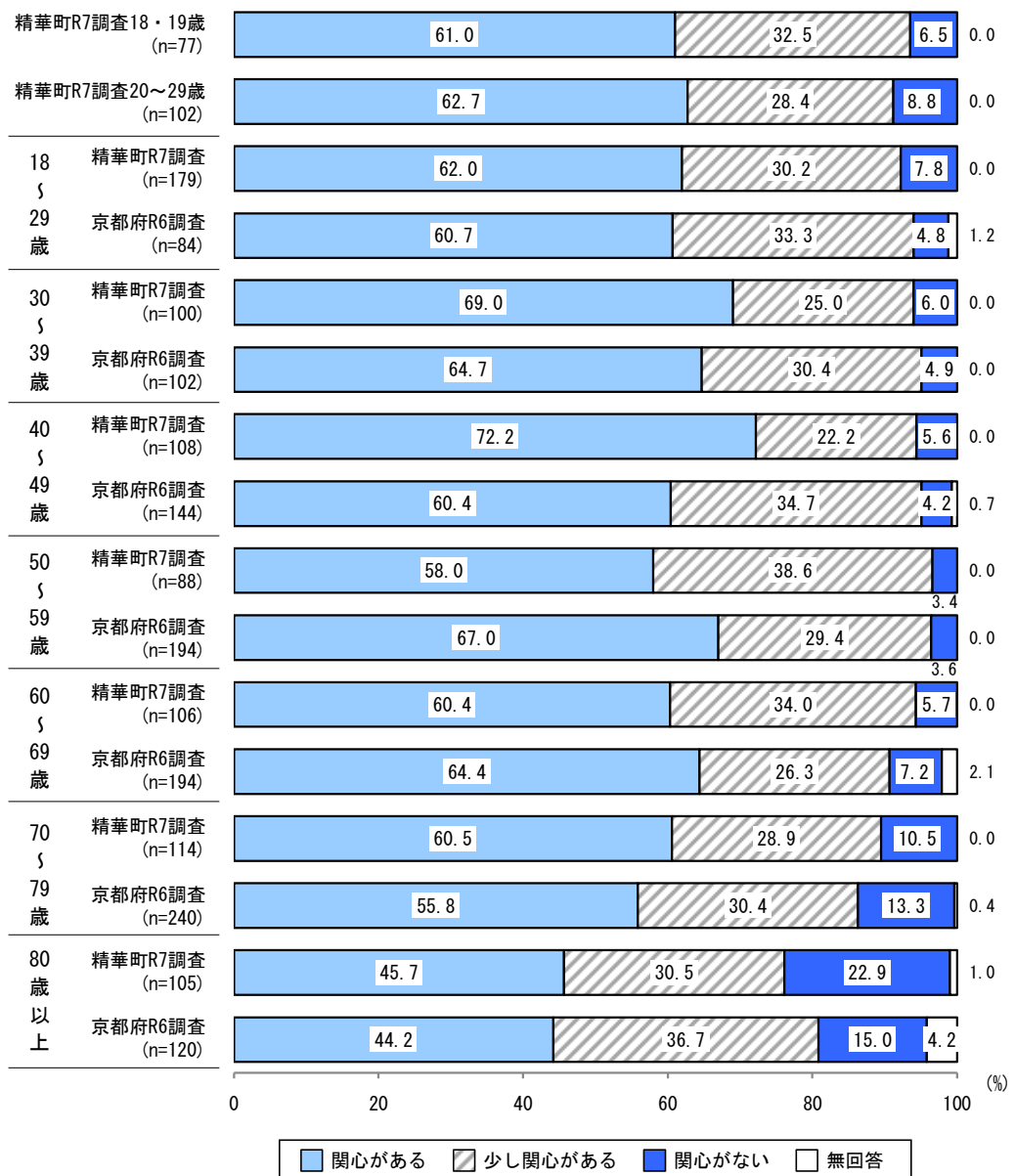


■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『関心がある』は、50～59歳が96.6%と最も多く、次いで40～49歳と60～69歳が同率で94.4%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では80歳以上の「関心がない」が7.9ポイント多くなっている。

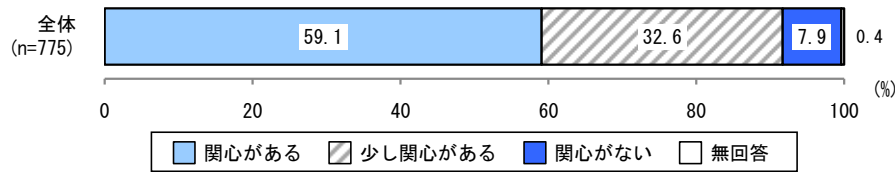
また、精華町R7調査と京都府R6調査ともに、年代が上がるにつれ「関心がある」が少なくなる傾向がみられる。



【⑮働く職場での人権】

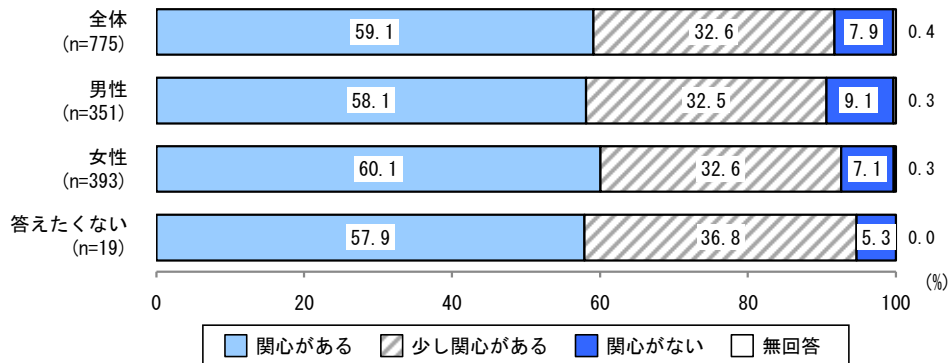
■全体傾向

働く職場での人権への関心度は、「関心がある」が59.1%と最も多く、『関心がある』は91.7%、「関心がない」が7.9%となっている。



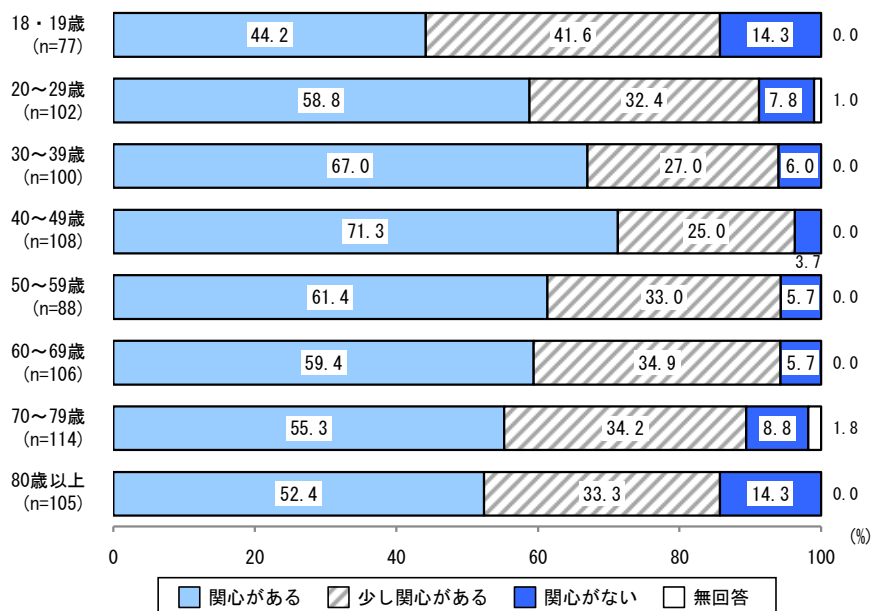
■性別比較

性別で見ると、男性は、「関心がある」が58.1%と最も多く、『関心がある』は90.6%、「関心がない」が9.1%となっている。女性も「関心がある」が60.1%と最も多く、『関心がある』が92.7%、「関心がない」が7.1%となっている。



■年代比較

年代別で見ると、『関心がある』は、40～49歳が96.3%と最も多く、次いで50～59歳が94.4%、60～69歳が94.3%となっている。

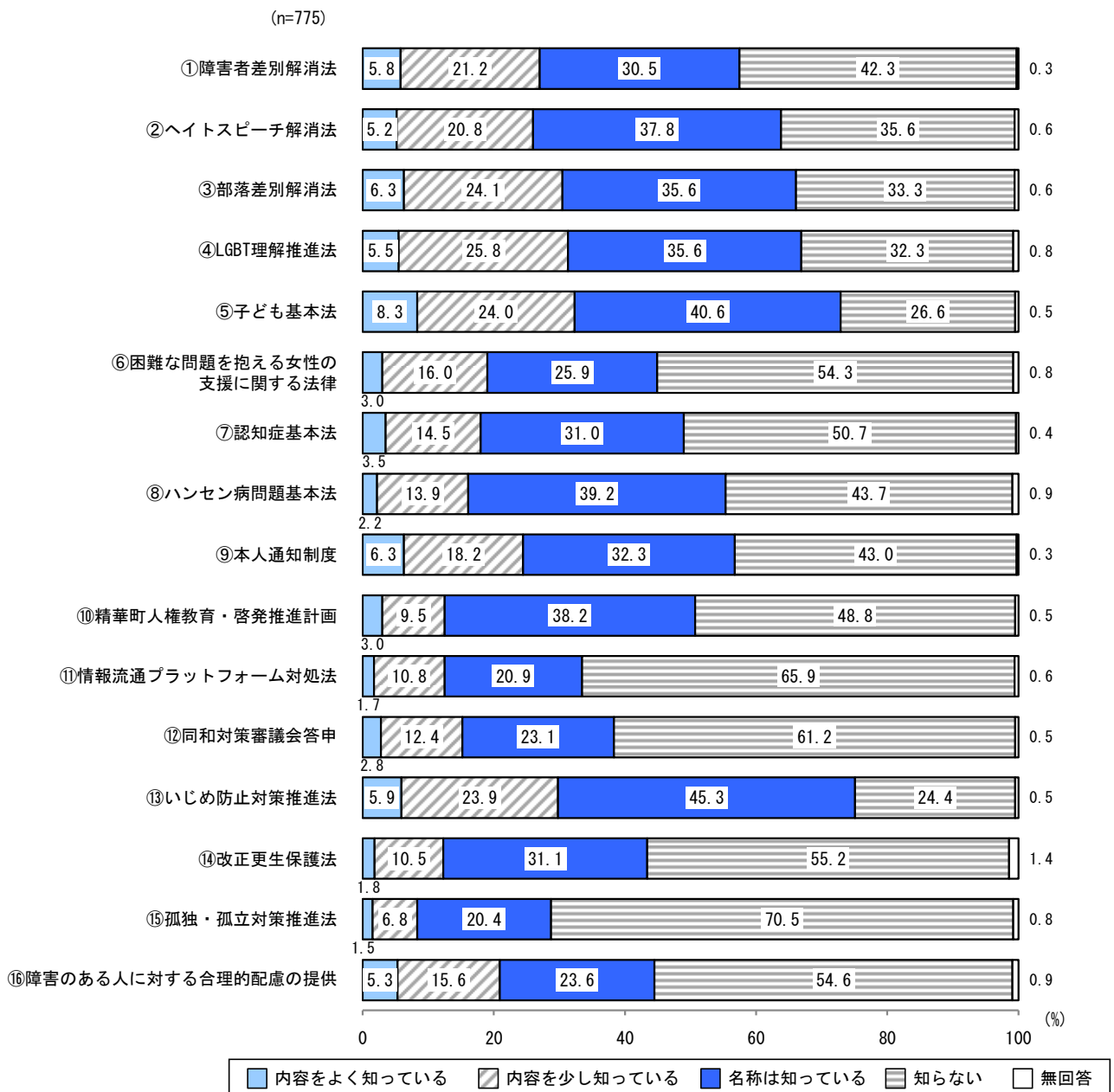


3. 人権に関する法律等について

問3	あなたは、次のような①～⑯の各項目の人権に関する法律等を知っていますか。 (〇はそれぞれ1つずつ)
----	--

■全体傾向

人権に関する法律等の認知度は、『内容を知っている』(「内容をよく知っている」「内容を少し知っている」の合算)割合は「⑤子ども基本法」が最も多く、次いで「④LGBT理解推進法」「③部落差別解消法」となっている。一方、「知らない」割合は「⑮孤独・孤立対策推進法」が最も多く、次いで「⑪情報流通プラットフォーム対処法」「⑫同和対策審議会答申」となっている。

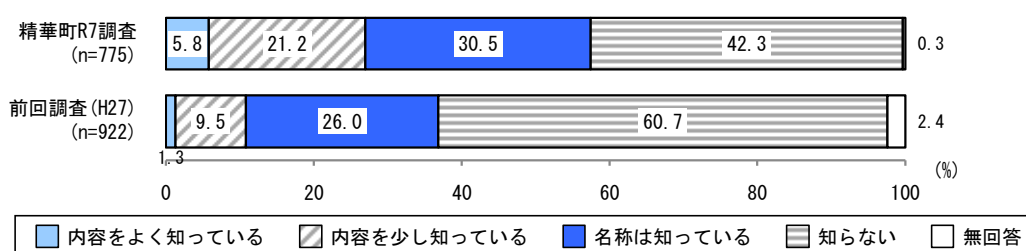


【①障害者差別解消法】

■前回調査(H27)との比較

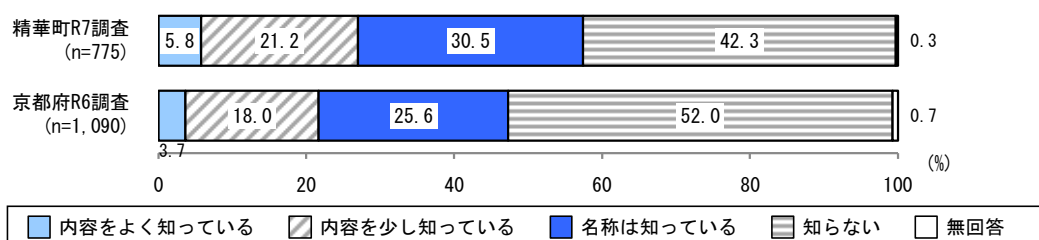
障害者差別解消法の認知度は、精華町R7調査は『内容を知っている』が27.0%、「名称は知っている」が30.5%、「知らない」が42.3%となっている。

前回調査と比較すると、「内容を少し知っている」が11.7ポイント多く、「知らない」が18.4ポイント少なくなっている。



■京都府(全体)との比較

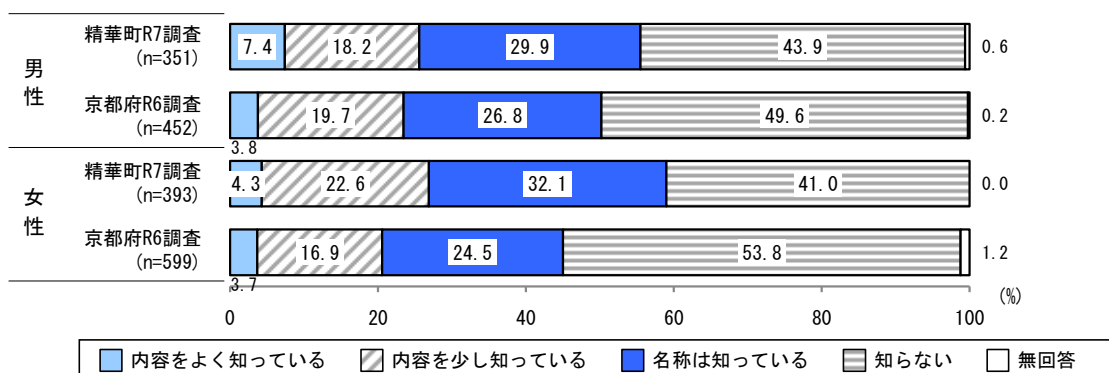
京都府R6調査と比較すると、「知らない」が9.7ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は、「知らない」が43.9%と最も多く、『内容を知っている』が25.6%、「名称は知っている」が29.9%となっている。女性も「知らない」が41.0%と最も多く、『内容を知っている』が26.9%、「名称は知っている」が32.1%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性が5.7ポイント、女性が12.8ポイント「知らない」が少なくなっている。

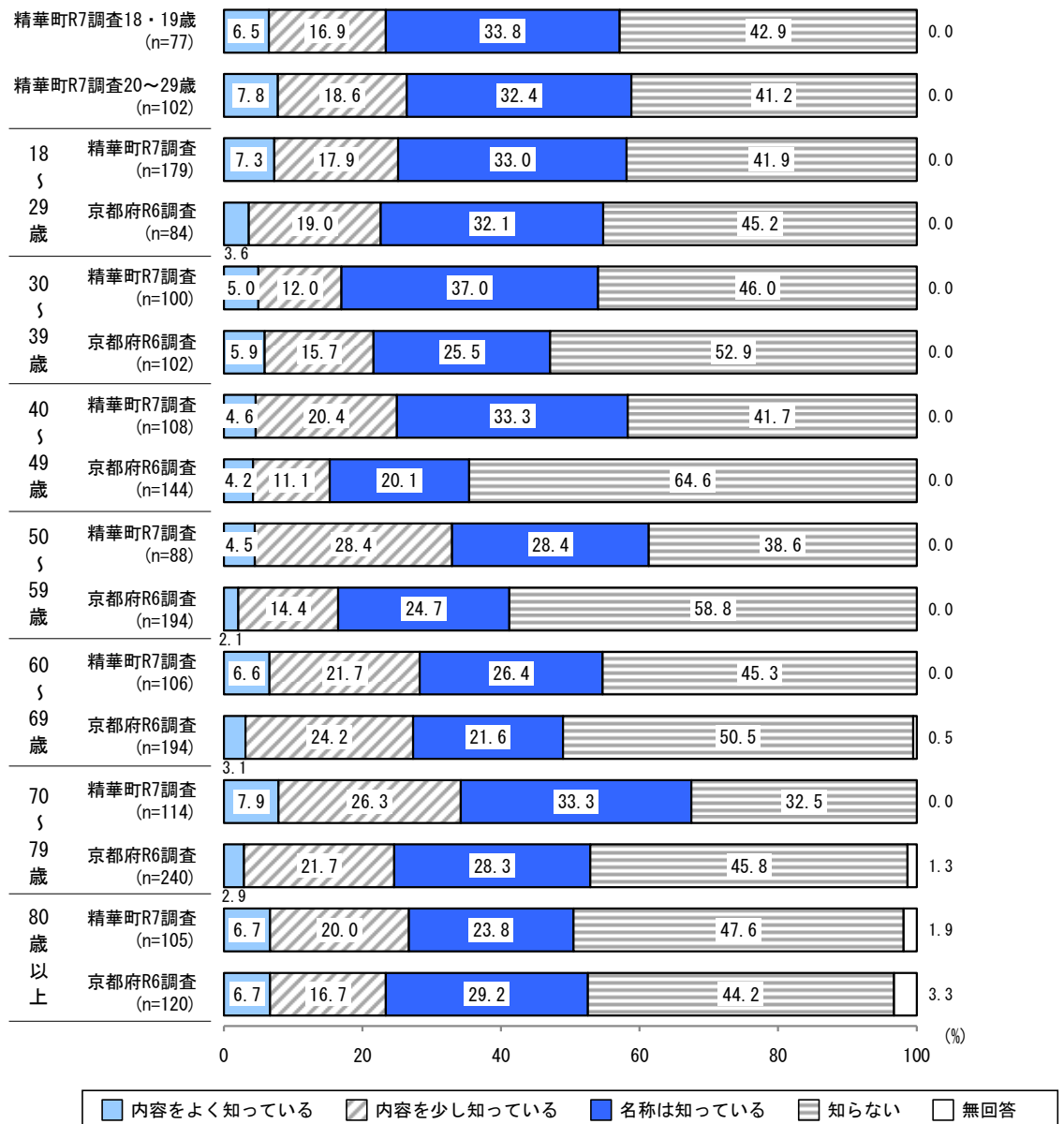


※精華町 R7 調査では「障害者差別解消法(障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)」

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、70～79歳が34.2%と最も多く、次いで50～59歳が32.9%、60～69歳が28.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「知らない」が40～49歳、50～59歳、70～79歳は10ポイント以上、30～39歳は6.9ポイント少なくなっている。

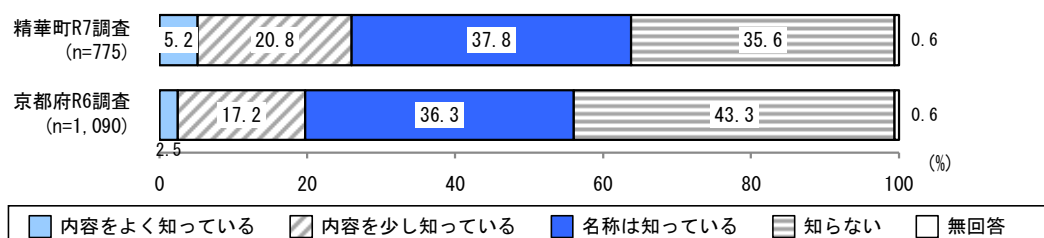


【②ヘイトスピーチ解消法】

■京都府(全体)との比較

ヘイトスピーチ解消法の認知度は、「名称は知っている」が37.8%と最も多く、『内容を知っている』が26.0%、「知らない」が35.6%となっている。

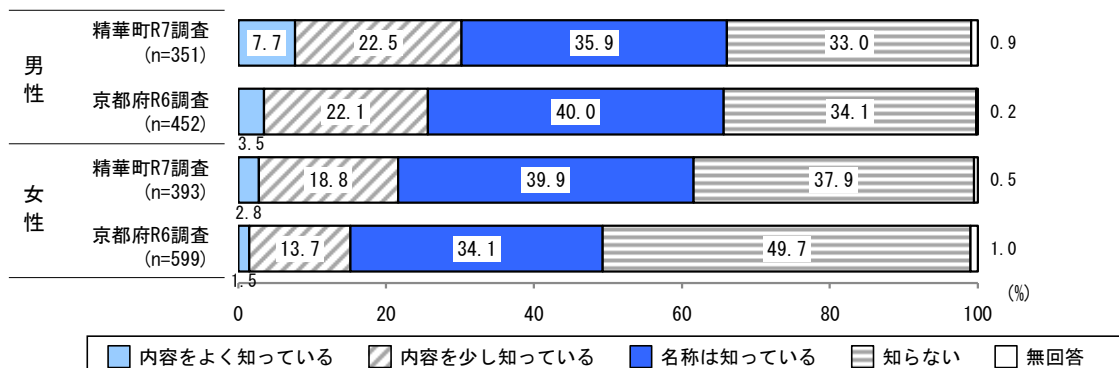
京都府R6調査と比較すると、「知らない」が7.7ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「名称は知っている」が35.9%と最も多く、『内容を知っている』が30.2%、「知らない」が33.0%となっている。女性も「名称は知っている」が39.9%と最も多く、『内容を知っている』が21.6%、「知らない」が37.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「知らない」が11.8ポイント少なくなっている。

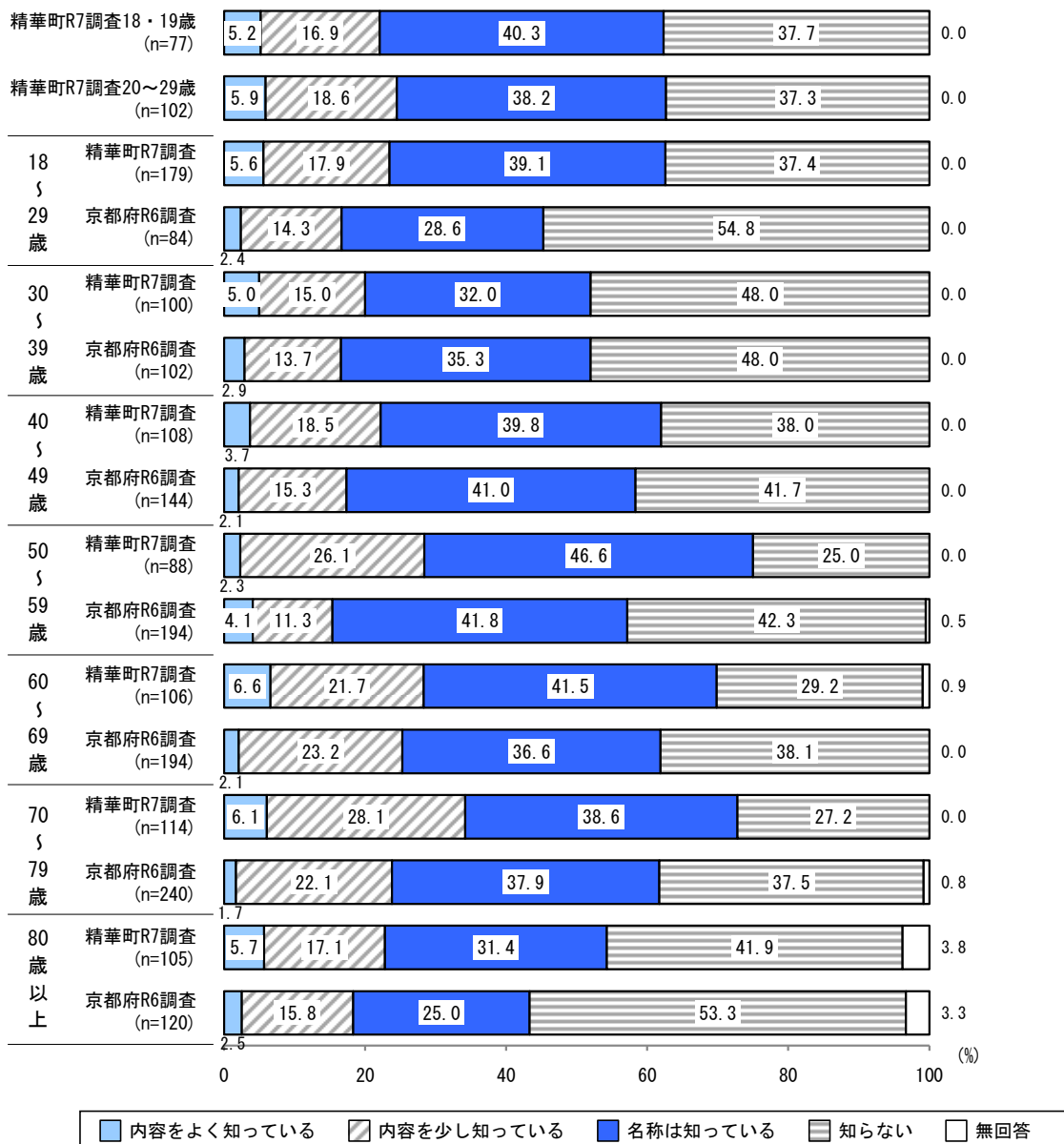


※精華町 R7 調査では「ヘイトスピーチ解消法(本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)」

■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『内容を知っている』は、70～79歳が34.2%と最も多く、次いで50～59歳が28.4%、60～69歳が28.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳を除くいずれの年代でも「知らない」が少なくなっている。

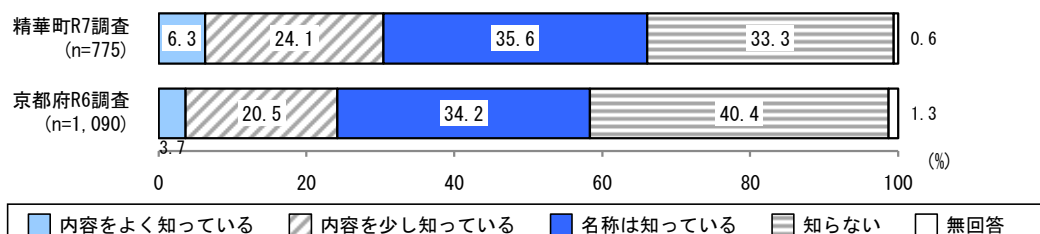


【③部落差別解消法】

■京都府(全体)との比較

部落差別解消法精華町の認知度は、「名称は知っている」が35.6%と最も多く、『内容を知っている』が30.4%、「知らない」が33.3%となっている。

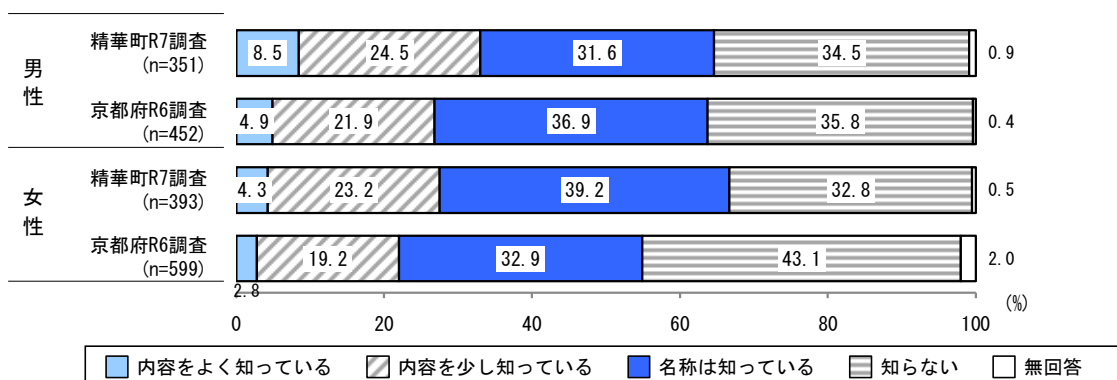
京都府R6調査と比較すると、「知らない」が7.1ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知らない」が34.5%と最も多く、『内容を知っている』は33.0%、「名称は知っている」が31.6%となっている。女性は「名称は知っている」が39.2%と最も多く、『内容を知っている』は27.5%、「知らない」が32.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は「名称は知っている」が5.3ポイント、女性は「知らない」が10.3ポイント少なくなっている。

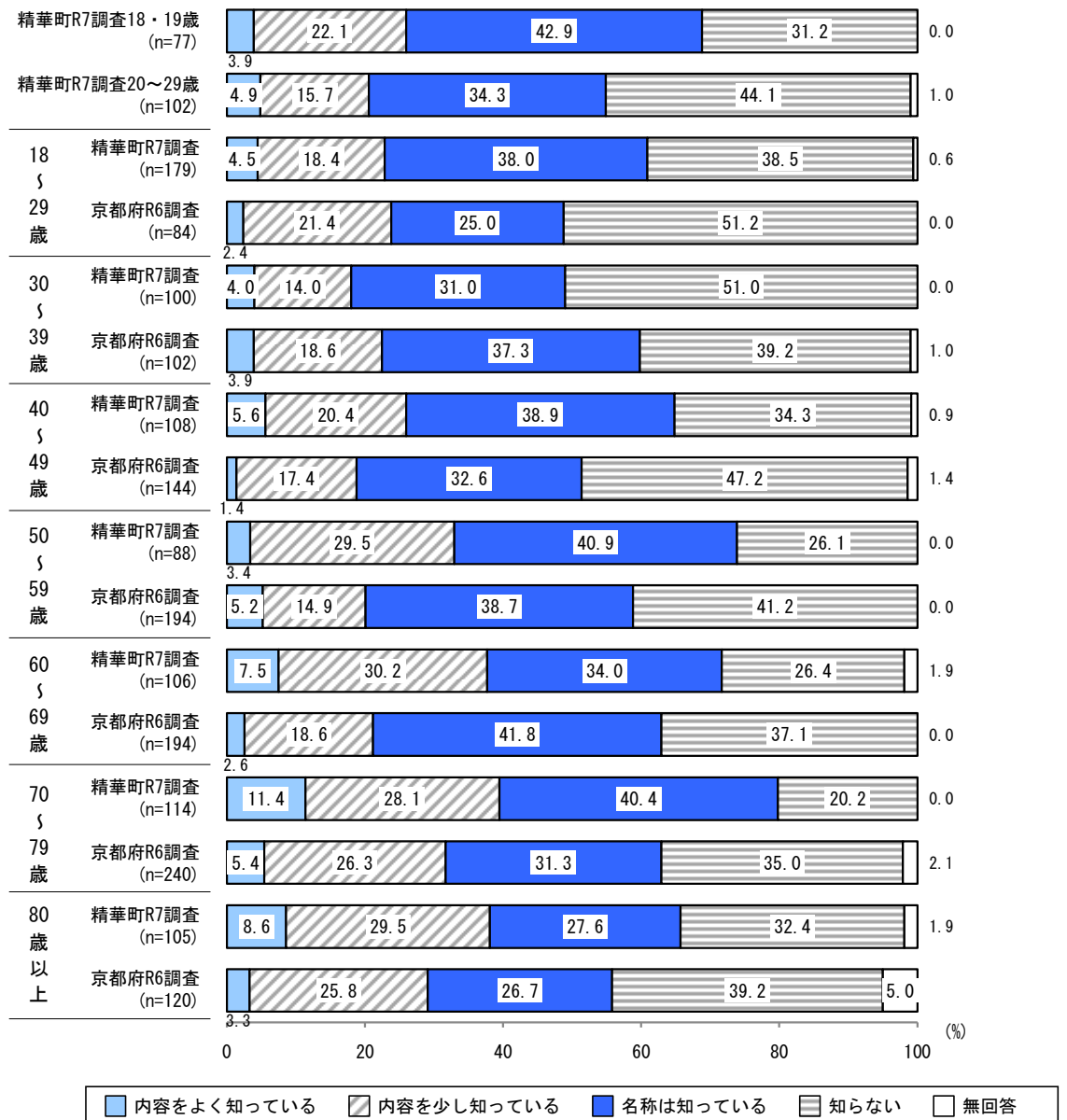


※精華町 R7 調査では「部落差別解消法(部落差別の解消の推進に関する法律)

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、70～79歳が39.5%と最も多く、次いで80歳以上が38.1%、60～69歳が37.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳を除くいずれの年代でも「知らない」が少なくなっている。

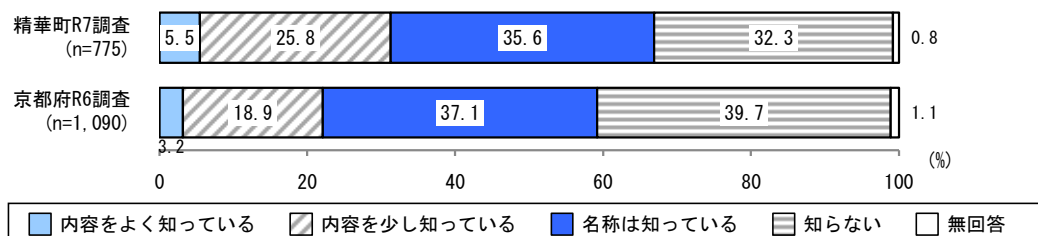


【④LGBT理解増進法】

■京都府(全体)との比較

LGBT理解増進法の認知度は、「名称は知っている」が35.6%と最も多く、『内容を知っている』が31.3%、「知らない」が32.3%となっている。

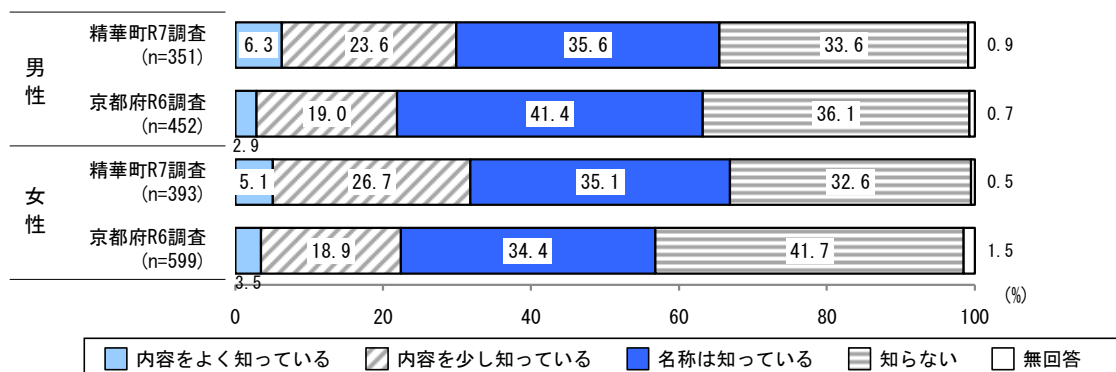
京都府R6調査と比較すると、「知らない」が7.4ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「名称は知っている」が35.6%と最も多く、『内容を知っている』は29.9%、「知らない」が33.6%となっている。女性も「名称は知っている」が35.1%と最も多く、『内容を知っている』は31.8%、「知らない」が32.6%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「知らない」が9.1ポイント少なくなっている。

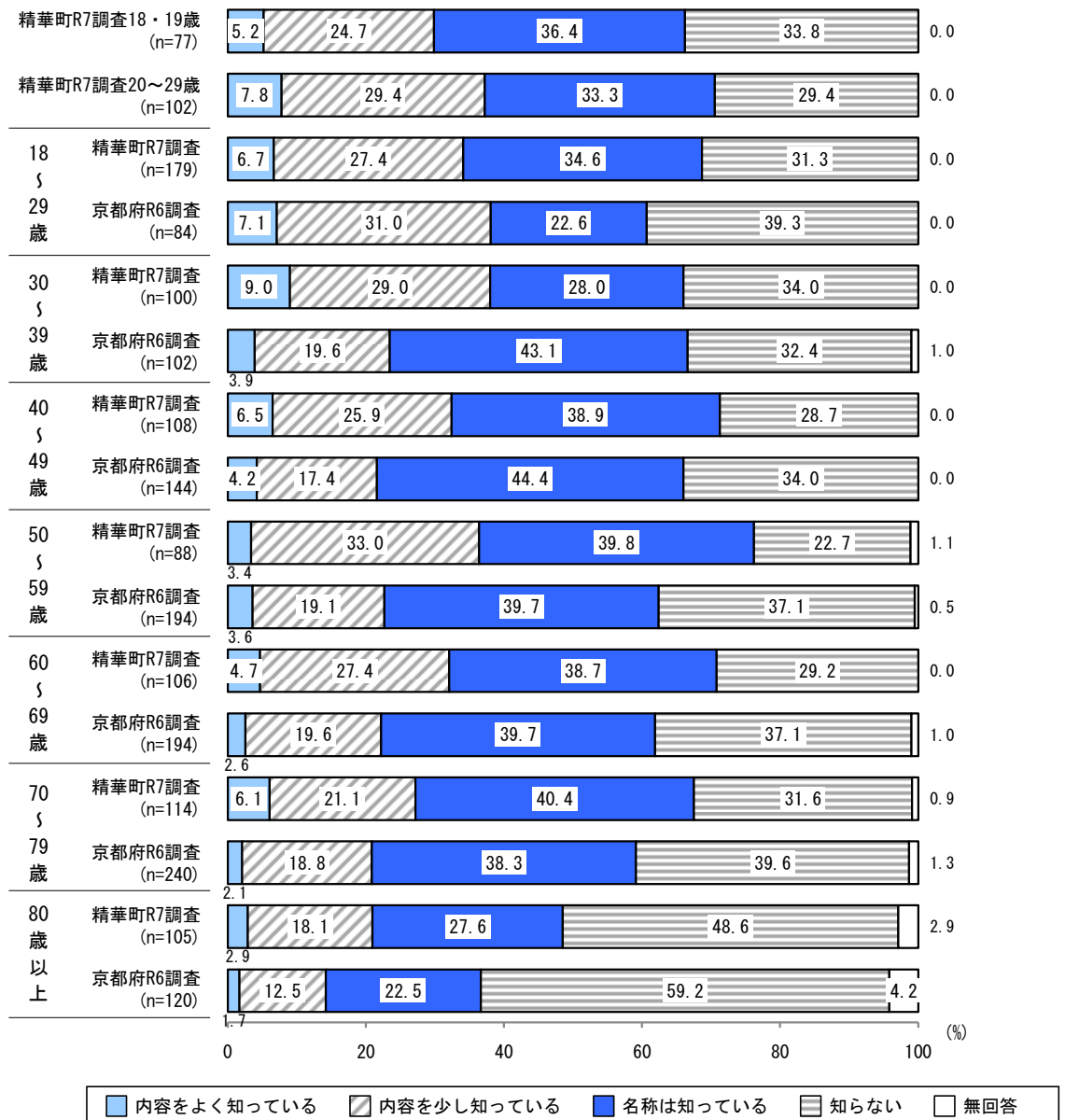


※精華町 R7 調査では「LGBT理解増進法 (性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律)」

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、30～39歳が38.0%と最も多く、次いで20～29歳が37.2%、50～59歳が36.4%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳を除くいずれの年代でも「知らない」が少なくなっている。

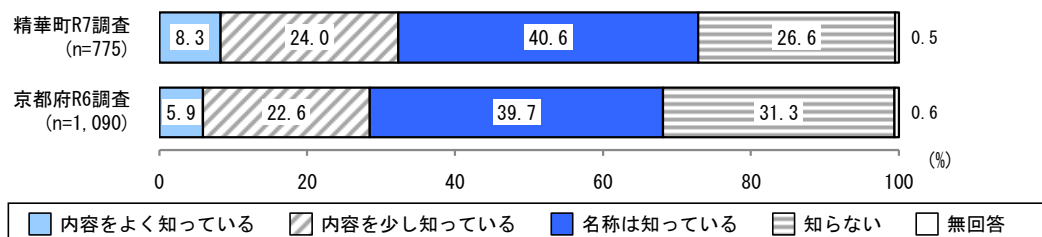


【⑤こども基本法】

■京都府(全体)との比較

こども基本法の認知度は、「名称は知っている」が40.6%と最も多く、『内容を知っている』が32.3%、「知らない」が26.6%となっている。

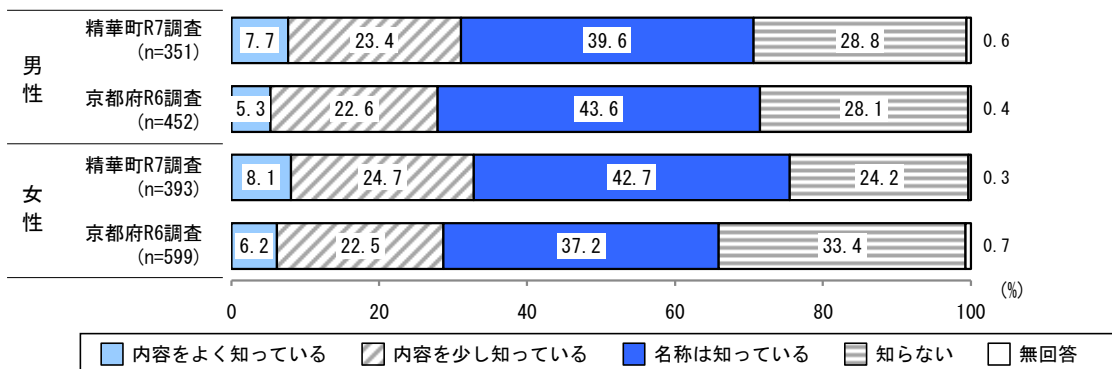
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「名称は知っている」が39.6%と最も多く、『内容を知っている』が31.1%、「知らない」が28.8%となっている。女性も「名称は知っている」が42.7%と最も多く、『知っている』が32.8%、「知らない」が24.2%となっている。

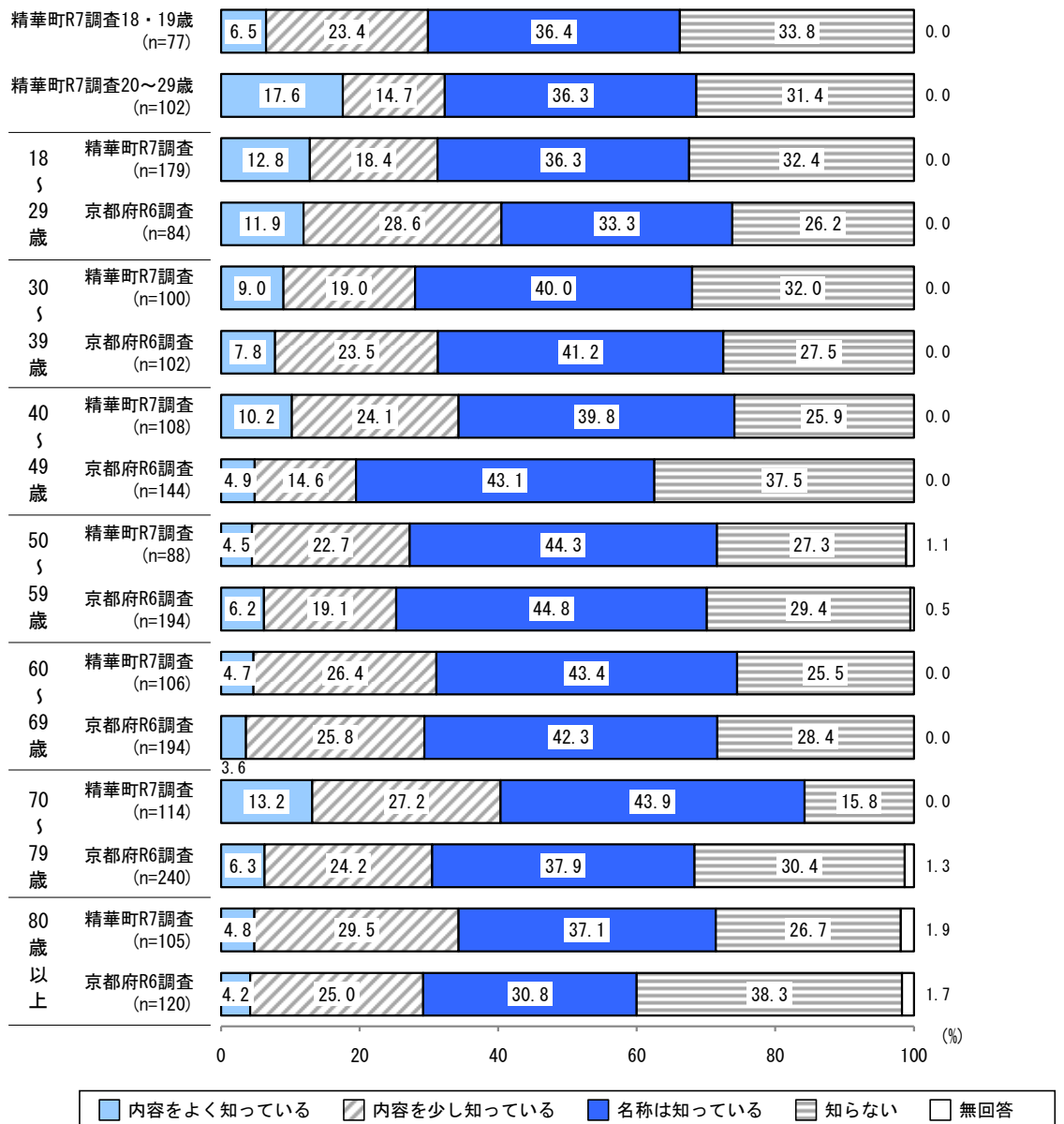
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「名称は知っている」が5.5ポイント多く、「知らない」が9.2ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、70～79歳が40.4%と最も多く、次いで40～49歳と80歳以上が同率で34.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では40～49歳、70～79歳、80歳以上の「知らない」が10ポイント以上少なくなっている。

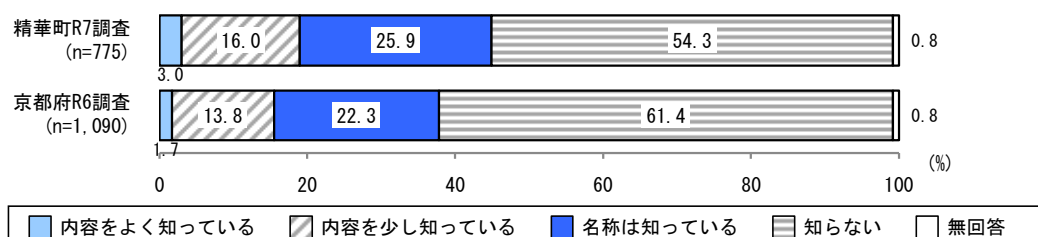


【⑥困難な問題を抱える女性の支援に関する法律】

■京都府(全体)との比較

困難な問題を抱える女性の支援に関する法律の認知度は、「知らない」が54.3%と最も多く、『内容を知っている』が19.0%、「名称は知っている」が25.9%となっている。

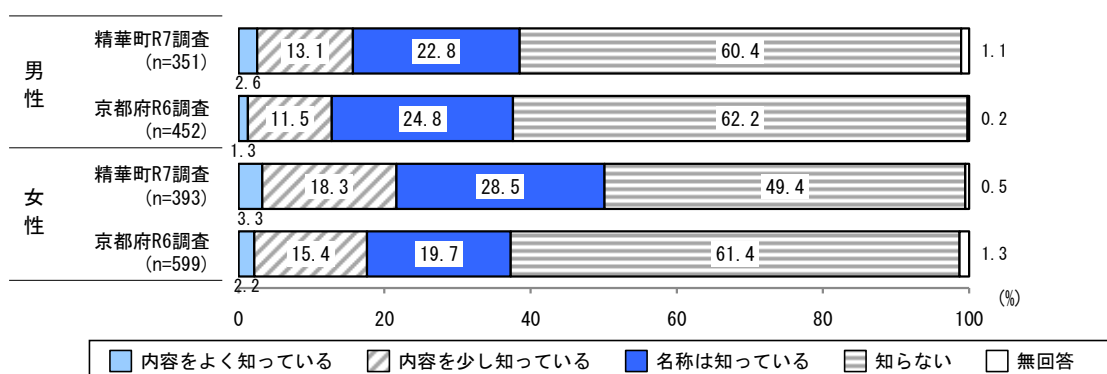
京都府R6調査と比較すると、「知らない」が7.1ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知らない」が60.4%と最も多く、『内容を知っている』が15.7%、「名称は知っている」が22.8%となっている。女性も「知らない」が49.4%と最も多く、『内容を知っている』が21.6%、「名称は知っている」が28.5%となっている。

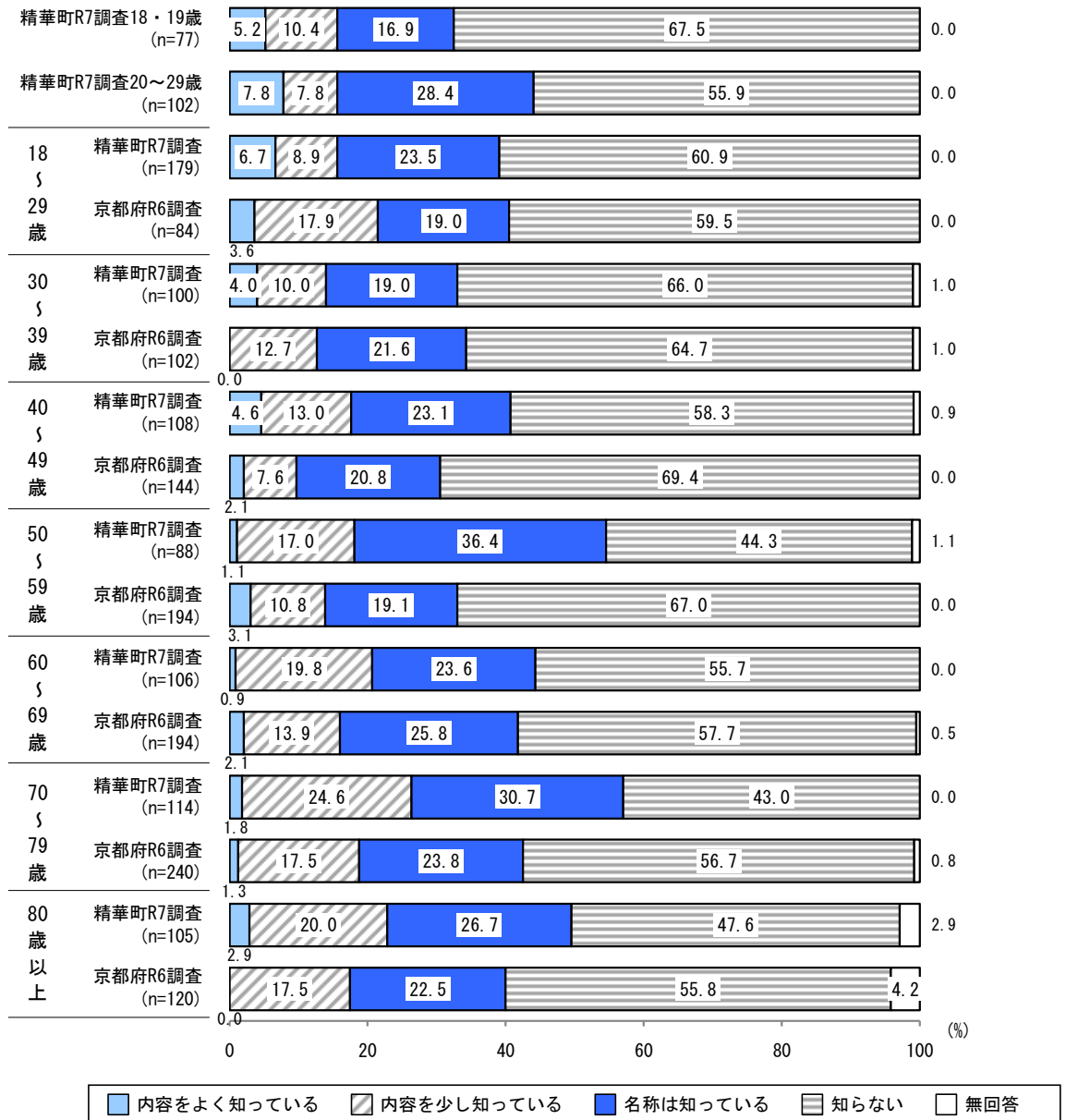
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「知らない」が12.0ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、70～79歳が26.4%と最も多く、次いで80歳以上が22.9%、60～69歳が20.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では40～49歳、50～59歳、70～79歳の「知らない」が10ポイント以上少なくなっている。

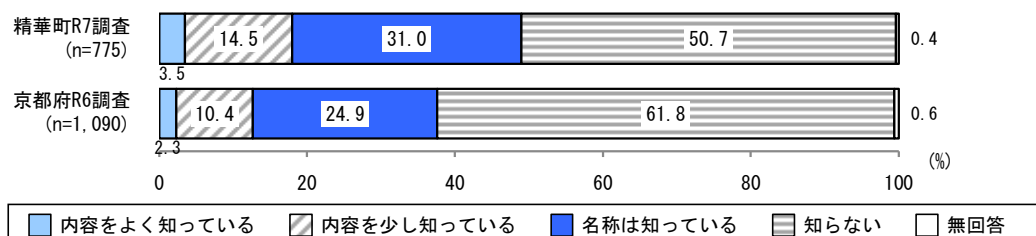


【⑦認知症基本法】

■京都府(全体)との比較

認知症基本法の認知度は、「知らない」が50.7%と最も多く、『内容を知っている』が18.0%、「名称は知っている」が31.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「名称は知っている」が6.1ポイント多く、「知らない」が11.1ポイント少なくなっている。

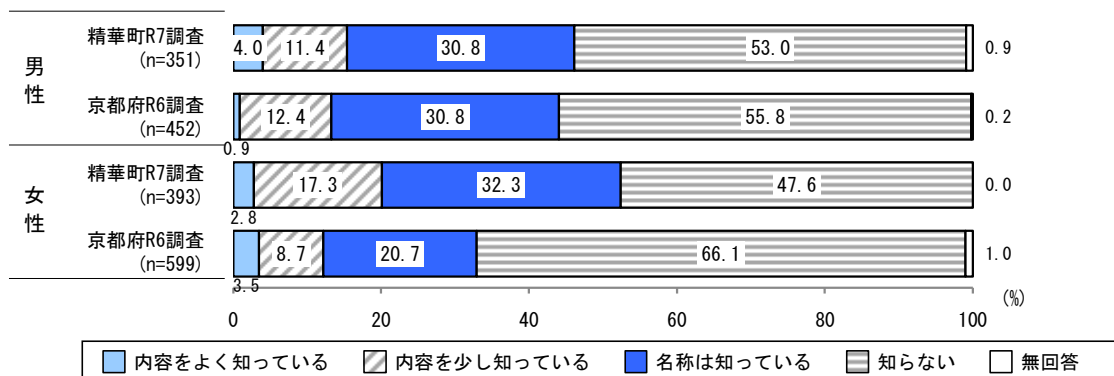


※精華町 R7 調査では「認知症基本法(共生社会の実現を推進するための認知症基本法)」

■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は、「知らない」が53.0%と最も多く、『内容を知っている』が15.4%、「名称は知っている」が30.8%となっている。女性も「知らない」が47.6%と最も多く、『知っている』が20.1%、「名称は知っている」が32.8%となっている。

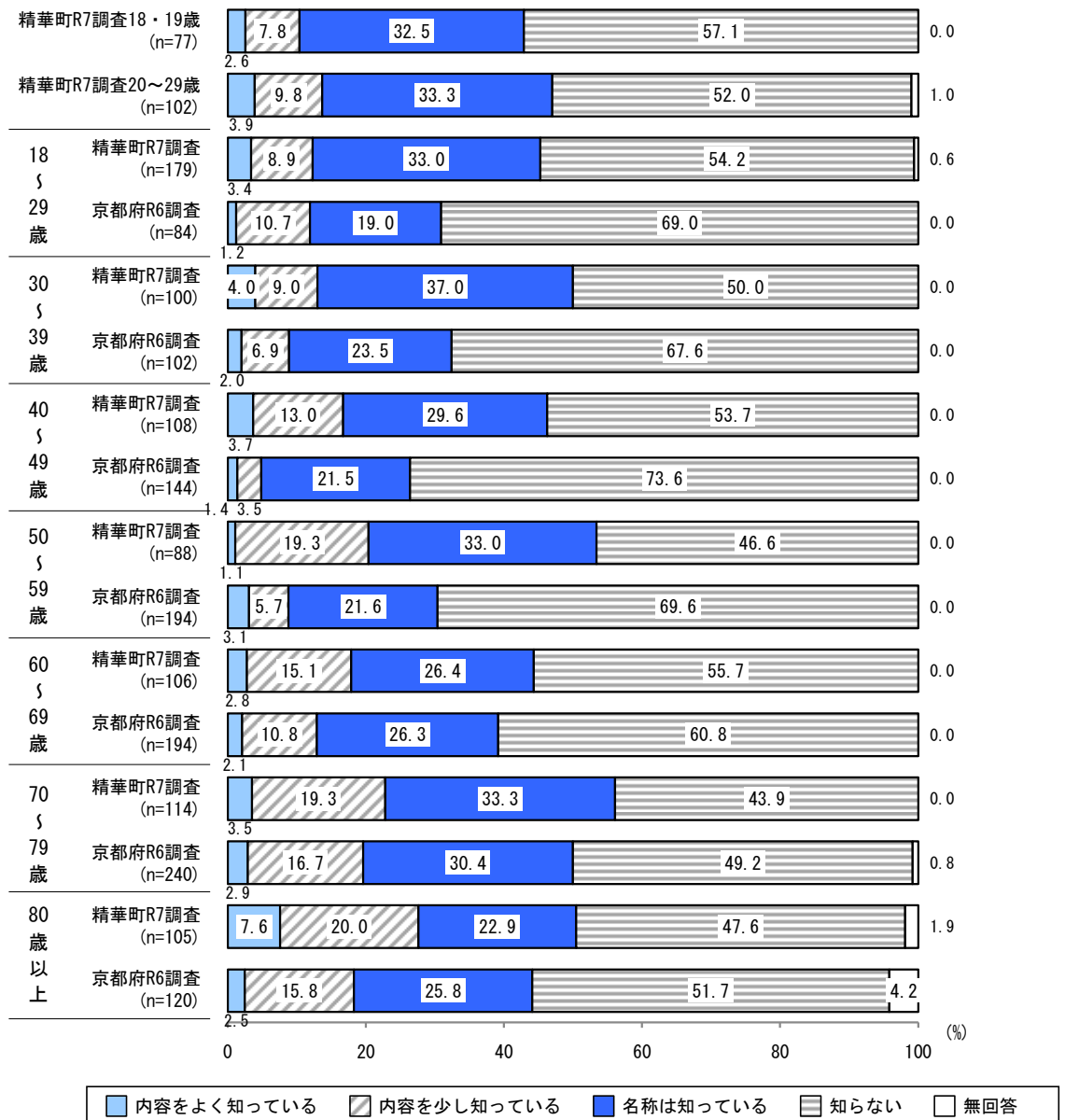
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「内容を少し知っている」「名称は知っている」がおよそ10ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『内容を知っている』は、80歳以上が27.6%と最も多く、次いで70～79歳が22.8%、50～59歳が20.4%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査ではいずれの年代でも「知らない」が京都府R6調査より少なく、特に18～29歳から50～59歳は10ポイント以上少なくなっている。

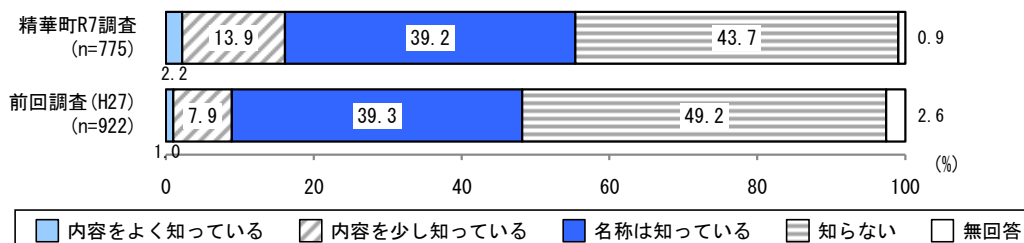


【⑧ハンセン病問題基本法】

■前回調査(H27)との比較

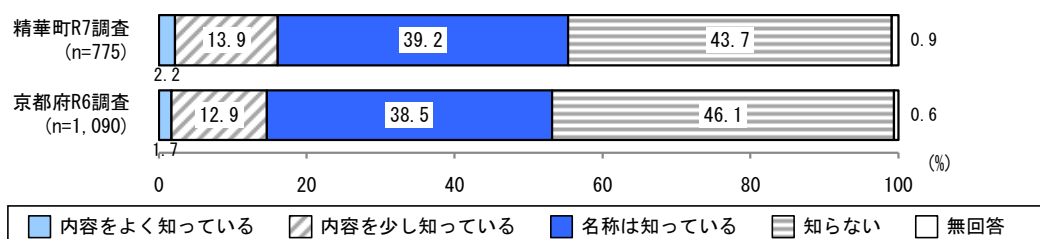
ハンセン病問題基本法の認知度は、「知らない」が43.7%と最も多く、『内容を知っている』が16.1%、「名称は知っている」が39.2%、「知らない」が43.7%となっている。

前回調査と比較すると、「内容を少し知っている」が6.0ポイント多くなっている。



■京都府(全体)との比較

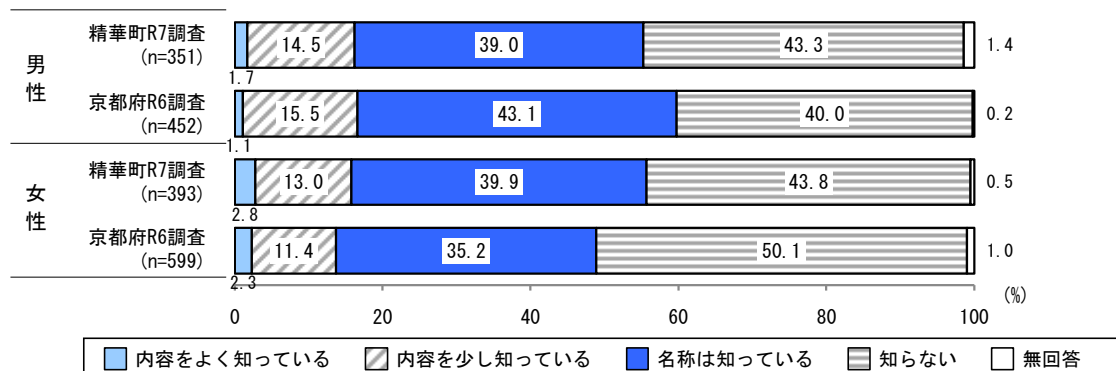
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「知らない」が43.3%と最も多く、『内容を知っている』が16.2%、「名称は知っている」が39.0%となっている。女性も「知らない」が43.8%と最も多く、『内容を知っている』が15.8%、「名称は知っている」が39.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では女性の「知らない」が6.3ポイント少なくなっている。

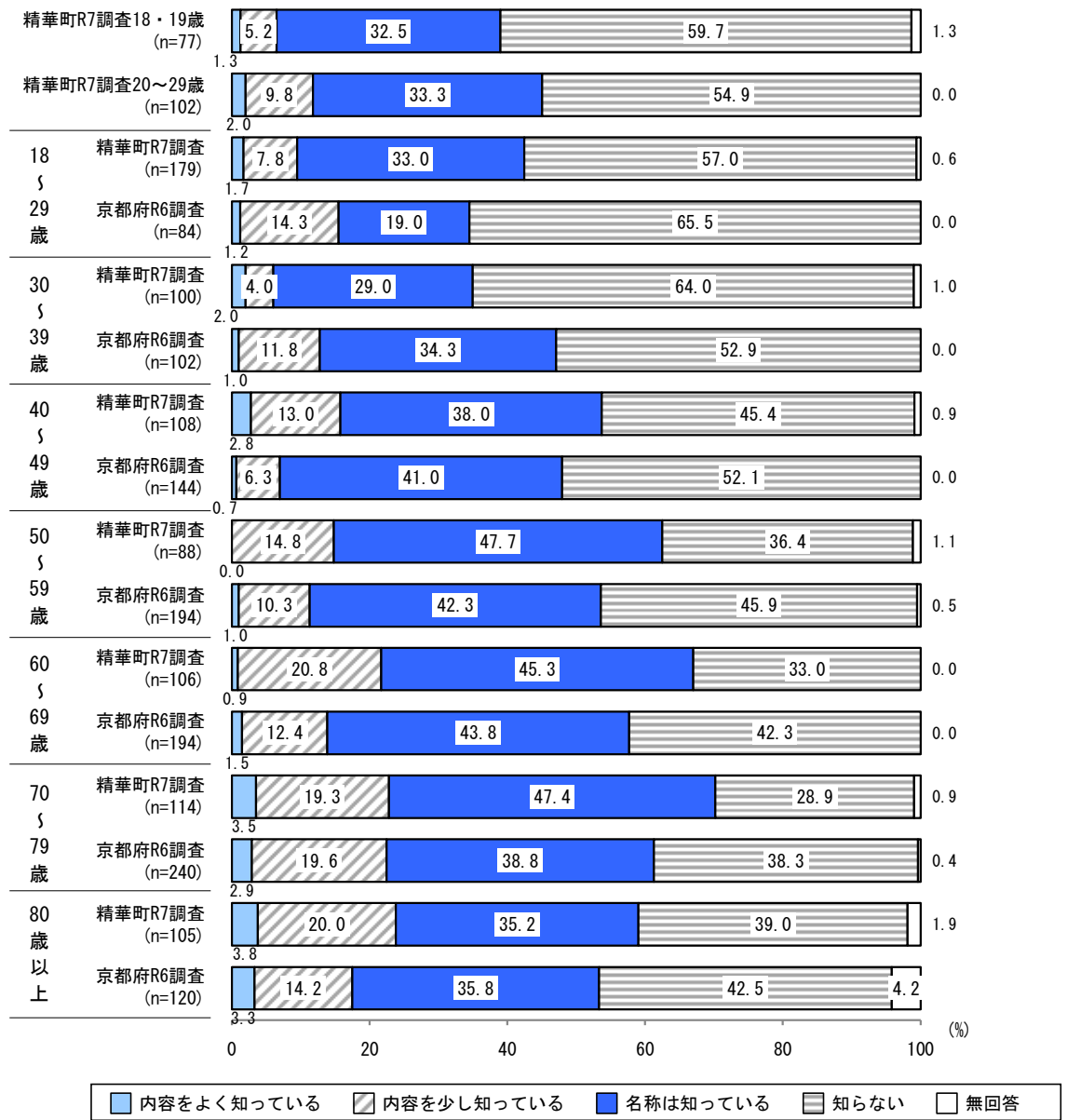


※精華町 R7 調査では「ハンセン病問題基本法(ハンセン病問題の解決の促進に関する法律)

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、80歳以上が23.8%と最も多く、次いで70～79歳が22.8%、60～69歳が21.7%となっている。

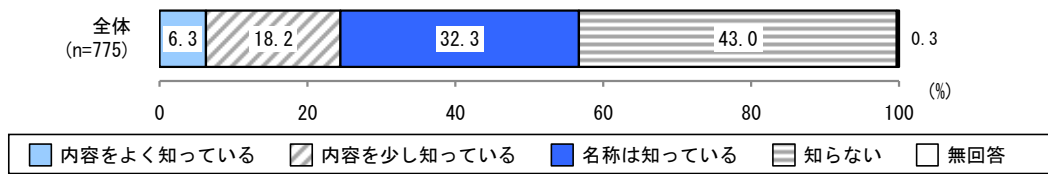
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では40～49歳から70～79歳まで「知らない」が5ポイント以上少なくなっている。



【◎本人通知制度(戸籍・住民票などの)】

■全体傾向

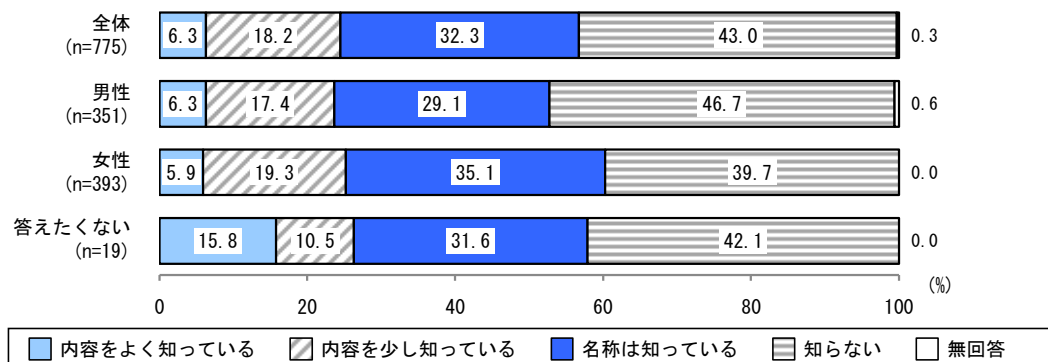
本人通知制度の認知度は、「知らない」が43.0%と最も多く、『内容を知っている』が24.5%、「名称は知っている」が32.3%となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「知らない」が46.7%と最も多く、『知っている』が23.7%、「名称は知っている」が29.1%となっている。女性も「知らない」が39.7%と最も多く、『内容を知っている』が25.2%、「名称は知っている」が35.1%となっている。

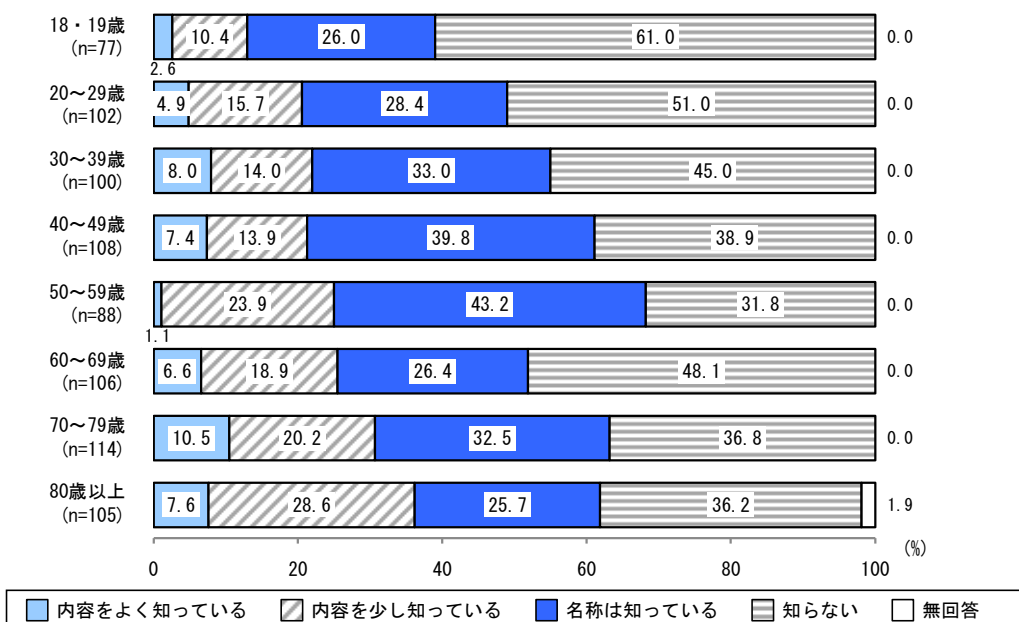
男性と比べて女性は「知らない」が7.0ポイント少なくなっている。



■年代比較

年代別で見ると、『内容を知っている』は、80歳以上が36.2%と最も多く、次いで70~79歳が30.7%、60~69歳が25.5%となっている。

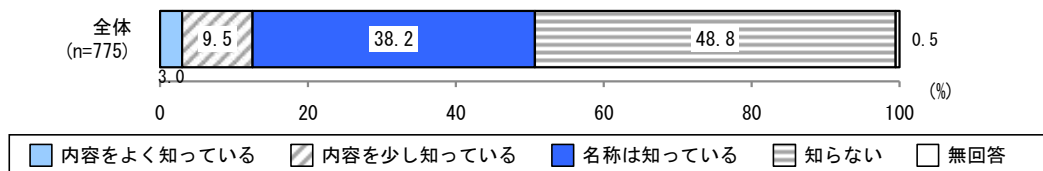
年代が上がるにつれて『内容を知っている』が多くなる傾向がみられる。



【⑩精華町人権教育・啓発推進計画】

■全体傾向

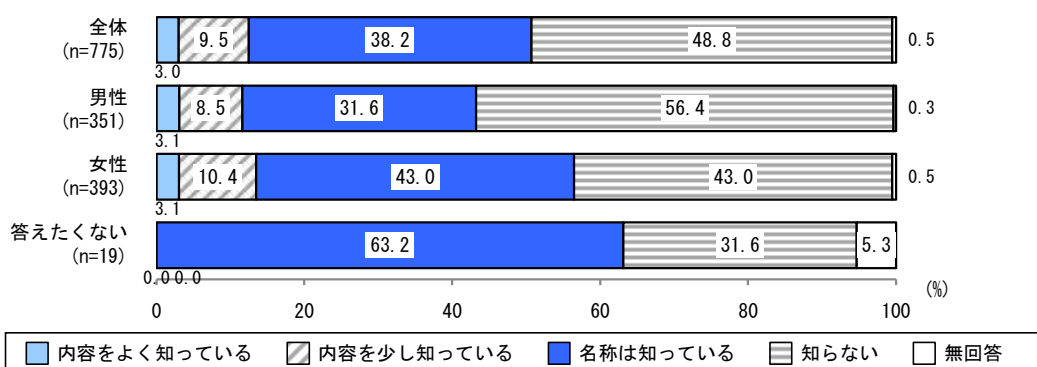
精華町人権教育・啓発推進計画の認知度は「知らない」が48.8%と最も多く、『内容を知っている』が12.5%、「名称は知っている」が38.2%となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「知らない」が56.4%と最も多く、『内容を知っている』が11.6%、「名称は知っている」が31.6%となっている。女性は「知らない」と「名称は知っている」が同値で43.0%となっており、『内容を知っている』が13.5%となっている。

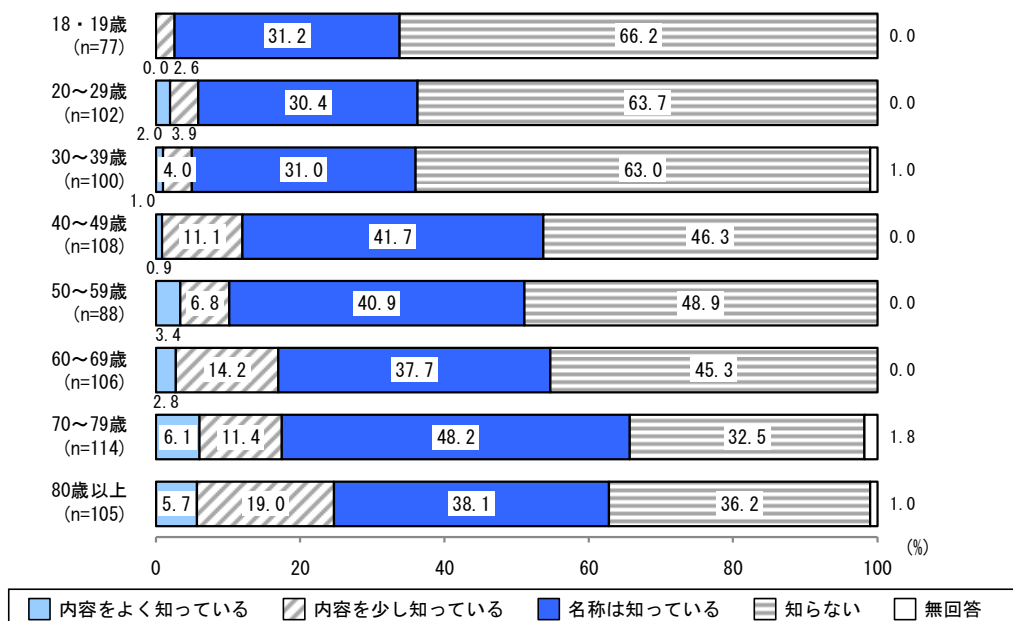
男性と比べて女性は「知らない」が13.4ポイント少なくなっている。



■年代比較

年代別で見ると、『内容を知っている』は、80歳以上が24.7%と最も多く、次いで70~79歳が17.5%、60~69歳が17.0%となっている。

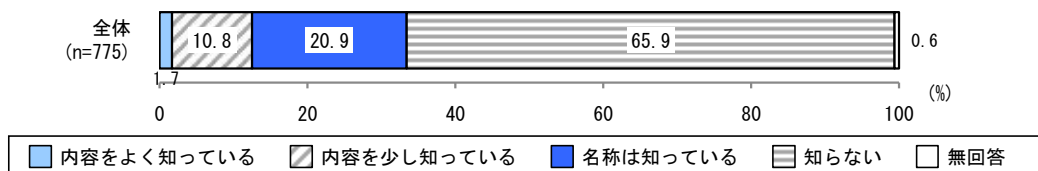
年代が上がるにつれて『内容を知っている』が多くなる傾向がみられる。



【⑩情報流通プラットフォーム対処法】

■全体傾向

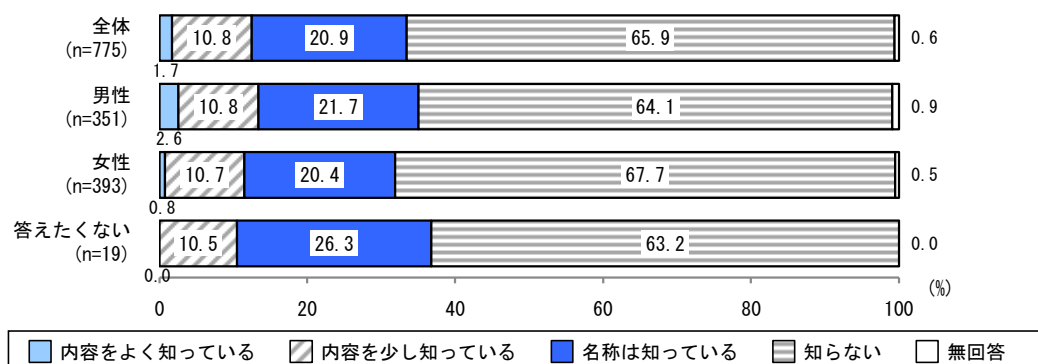
情報流通プラットフォーム対処法の認知度は、「知らない」が65.9%と最も多く、『内容を知っている』が12.5%、「名称は知っている」が20.9%となっている。



■性別比較

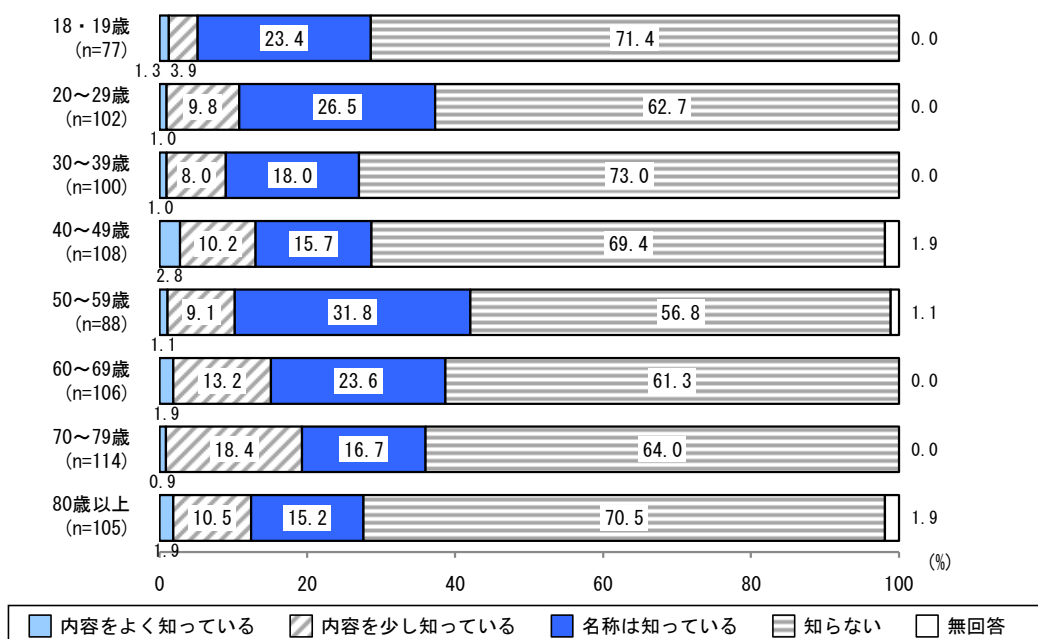
性別で見ると、男性は「知らない」が64.1%と最も多く、『内容を知っている』が13.4%、「名称は知っている」が21.7%となっている。女性も「知らない」が67.7%と最も多く、『内容を知っている』が11.5%、「名称は知っている」が20.4%となっている。

性別の比較では大きな差はみられない。



■年代比較

年代別で見ると、『内容を知っている』は、70～79歳が19.3%と最も多く、次いで60～69歳が15.1%、40～49歳が13.0%となっている。

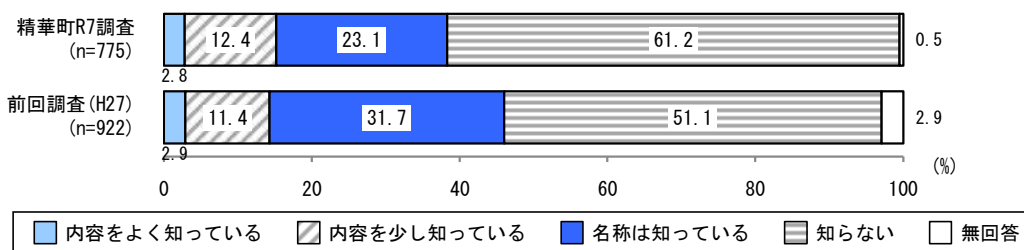


【⑫同和対策審議会答申】

■前回調査(H27)との比較

同和対策審議会答申の認知度は、「知らない」が61.2%と最も多く、『内容を知っている』が15.2%、「名称は知っている」が23.1%となっている。

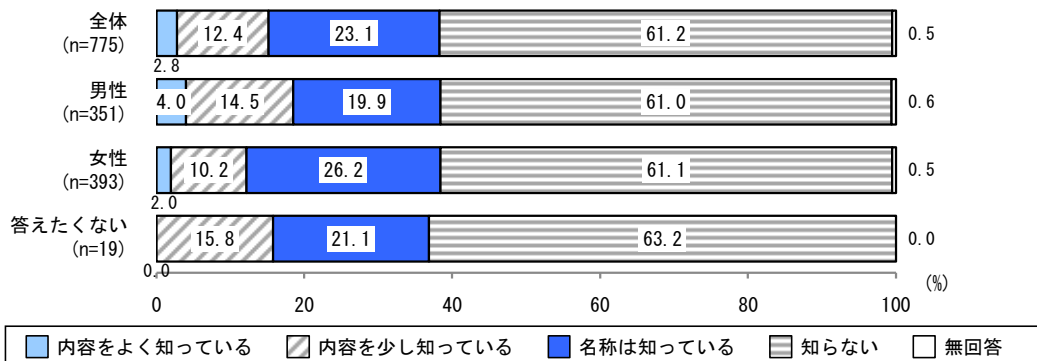
前回調査と比較すると、「名称は知っている」が8.6ポイント少なくなっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「知らない」が61.0%と最も多く、『内容を知っている』が18.5%、「名称は知っている」が19.9%となっている。女性も「知らない」が61.1%と最も多く、『内容を知っている』が12.2%、「名称は知っている」が26.2%となっている。

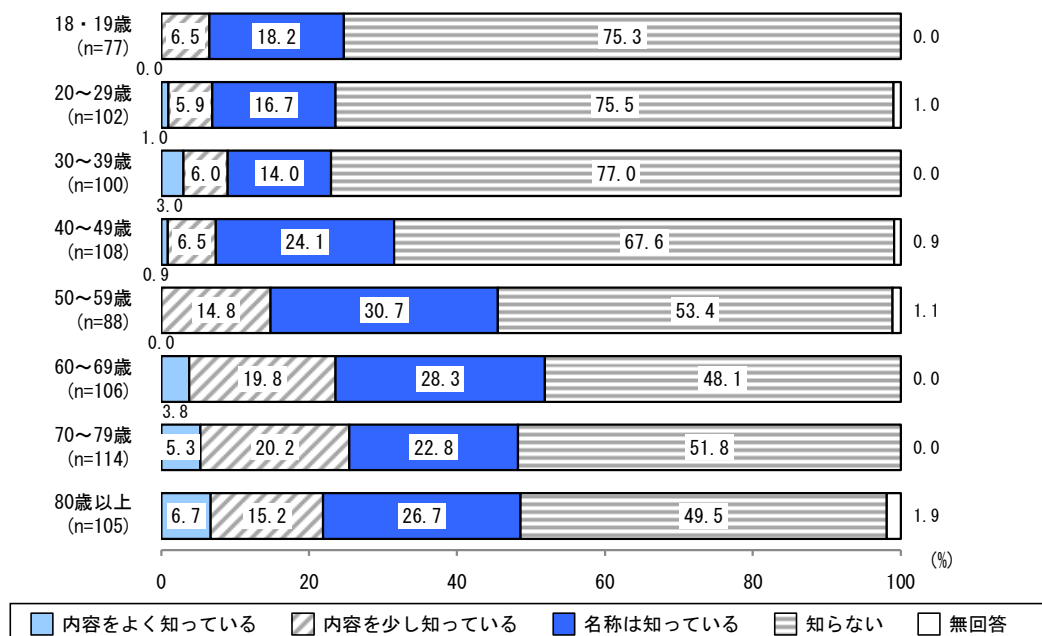
男性と比べて女性は「名称は知っている」が6.3ポイント多くなっている。



■年代比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、70～79歳が25.5%と最も多く、次いで60～69歳が23.6%、80歳以上が21.9%となっている。

年代が上がるにつれて『内容を知っている』が多くなる傾向がみられる。

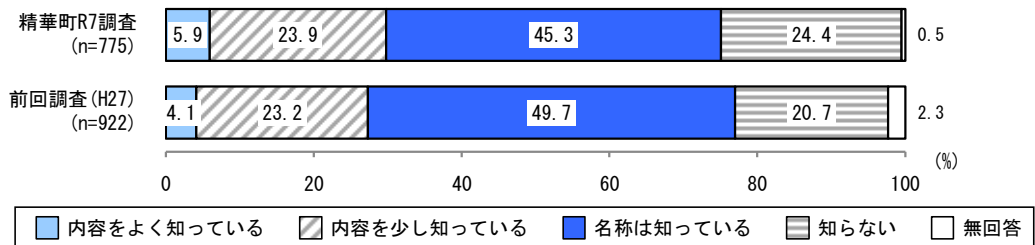


【⑬いじめ防止対策推進法】

■前回調査(H27)との比較

いじめ防止対策推進法の認知度は、「名称は知っている」が45.3%と最も多く、『内容を知っている』が29.8%、「知らない」が24.4%となっている。

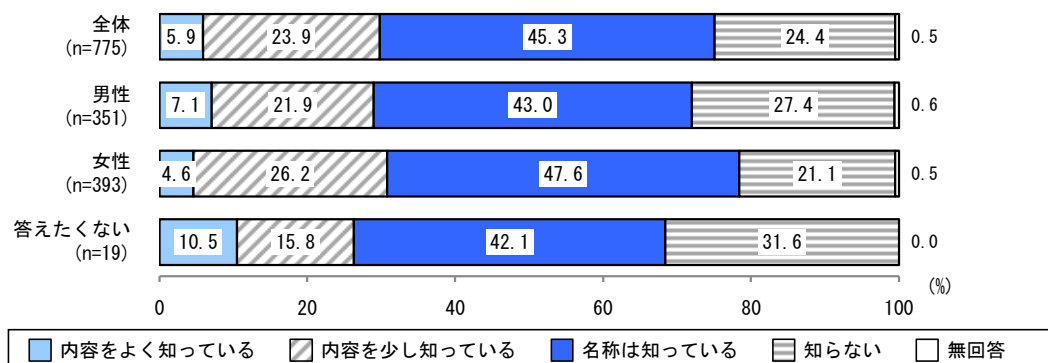
前回調査と比較すると大きな差はみられない。



■性別比較

性別で見ると、男性は『内容を知っている』が29.0%、「名称は知っている」が43.0%、「知らない」が27.4%となっている。女性は『内容を知っている』が30.8%、「名称は知っている」が47.6%、「知らない」が21.1%となっている。

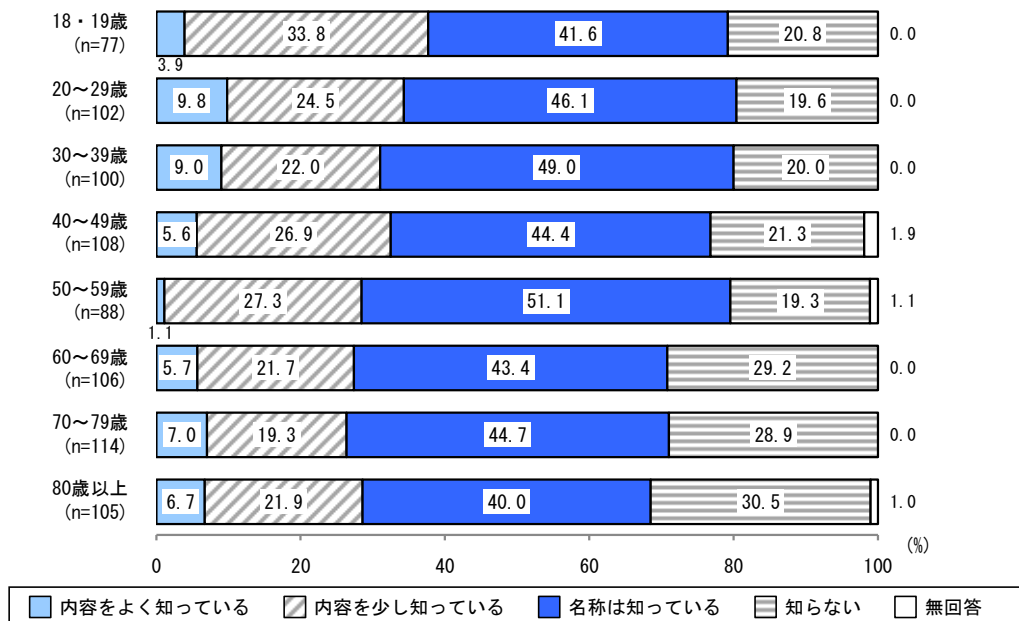
男性と比べて女性は「知らない」が6.3ポイント少なくなっている。



■年代比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、18・19歳が37.7%と最も多く、次いで20～29歳が34.3%、40～49歳が32.5%となっている。

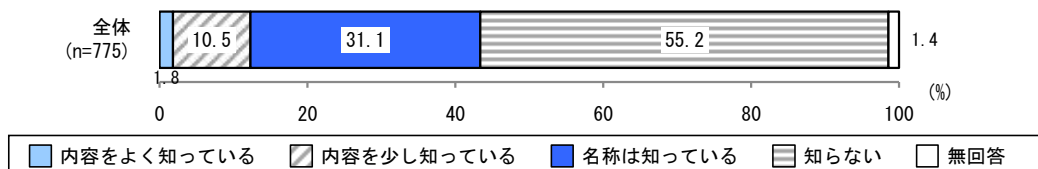
年代が下がるにつれて『内容を知っている』がやや多くなる傾向がみられる。



【⑭改正更生保護法】

■全体傾向

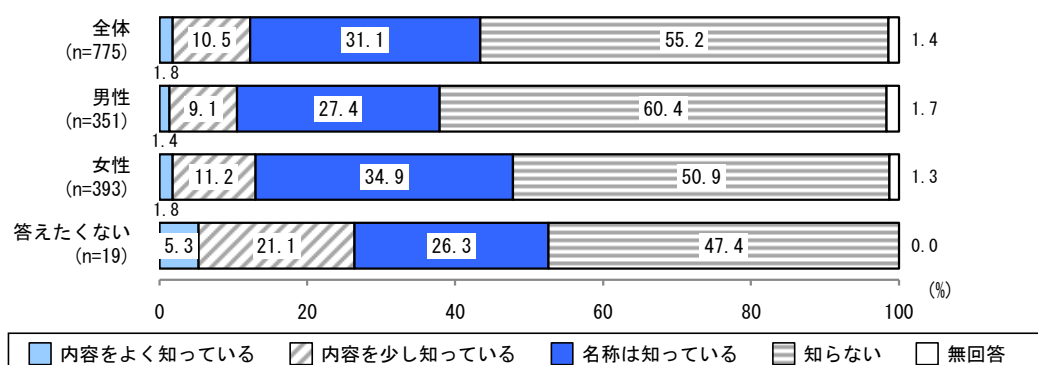
改正更生保護法の認知度は、「知らない」が55.2%と最も多く、『内容を知っている』が12.3%、「名称は知っている」が31.1%、となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「知らない」が60.4%と最も多く、『内容を知っている』が10.5%、「名称は知っている」が27.4%となっている。女性も「知らない」が50.9%と最も多く『内容を知っている』が13.0%、「名称は知っている」が34.9%となっている。

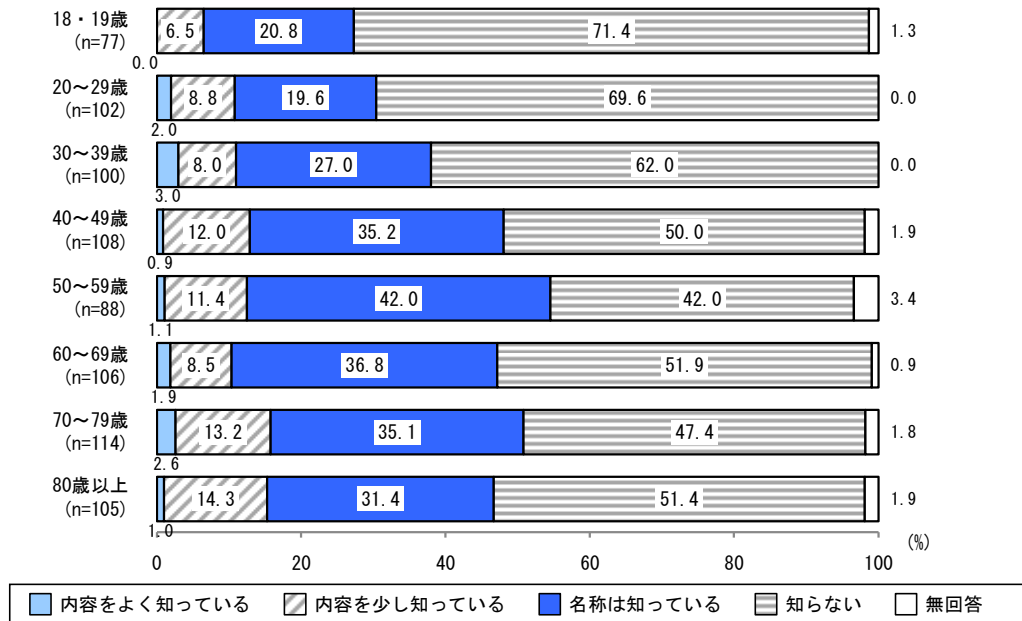
男性と比べて女性は「知らない」が9.6ポイント少なくなっている。



■年代比較

年代別でみると、『内容を知っている』は、70～79歳が15.8%と最も多く、次いで80歳以上が15.3%、40～49歳が12.9%となっている。

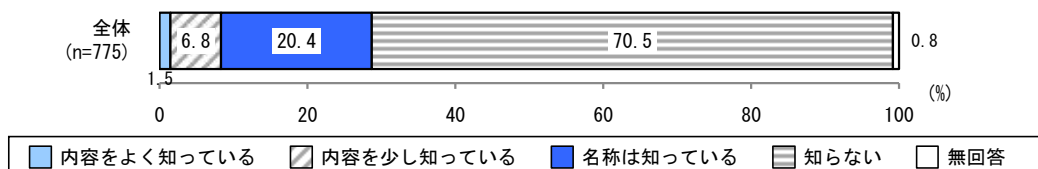
18～29歳から50～59歳までは年代が下がるにつれて「知らない」が多くなる傾向がみられるが、60～69歳以上は横ばいとなっている。



【⑮孤独・孤立対策推進法】

■全体傾向

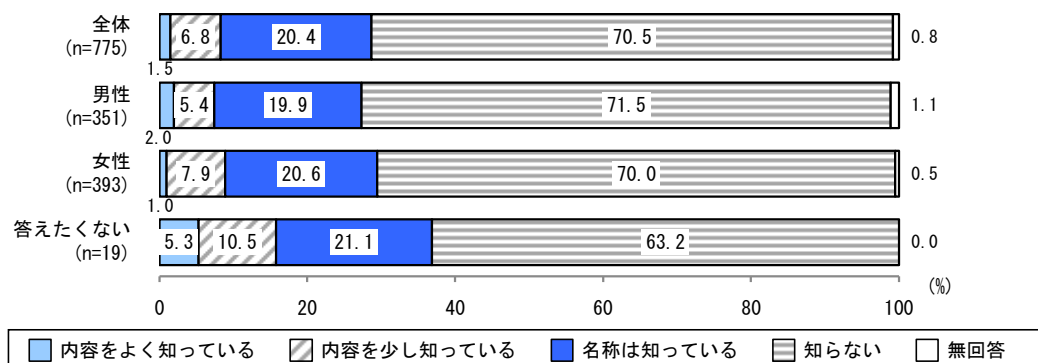
孤独・孤立対策推進法の認知度は、「知らない」が70.5%と最も多く、『内容を知っている』が8.3%、「名称は知っている」が20.4%となっている。



■性別比較

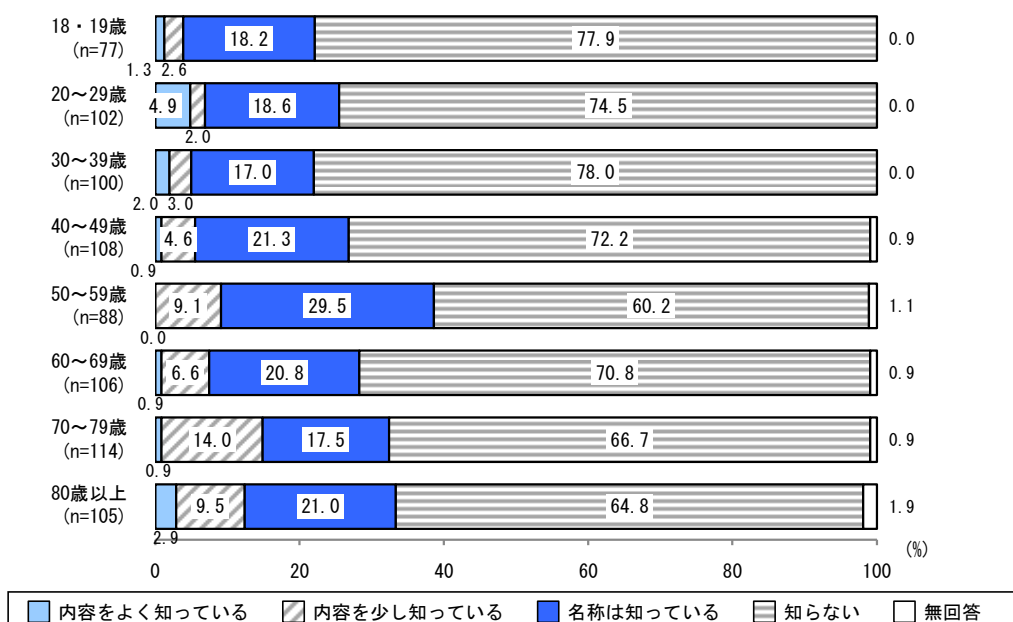
性別で見ると、男性は「知らない」が71.5%と最も多く、『内容を知っている』が7.4%、「名称は知っている」が19.9%となっている。女性も「知らない」が70.0%と最も多く『内容を知っている』が8.9%、「名称は知っている」が20.6%となっている。

性別での比較では大きな差はみられない。



■年代比較

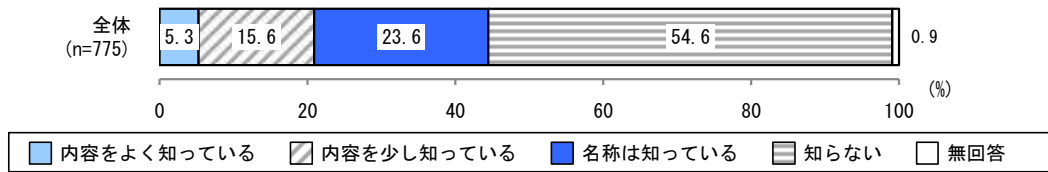
年代別で見ると、『内容を知っている』は、70～79歳が14.9%と最も多く、次いで80歳以上が12.4%、50～59歳が9.1%となっている。



【⑩障害のある人に対する合理的配慮の提供】

■全体傾向

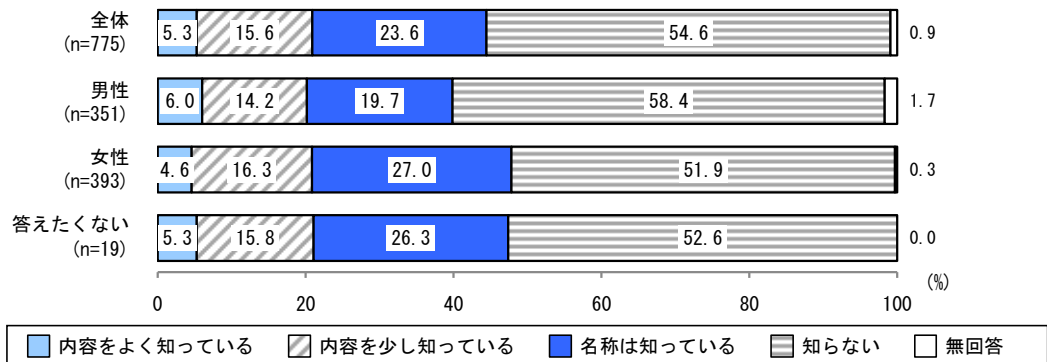
障害のある人に対する合理的配慮の提供の認知度は、「知らない」が54.6%と最も多く、『内容を知っている』は20.9%、「名称は知っている」が23.6%となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「知らない」が58.4%と最も多く、『内容を知っている』が20.2%、「名称は知っている」が19.7%となっている。女性も「知らない」が51.9%と最も多く、『内容は知っている』が20.9%、「名称は知っている」が27.0%となっている。

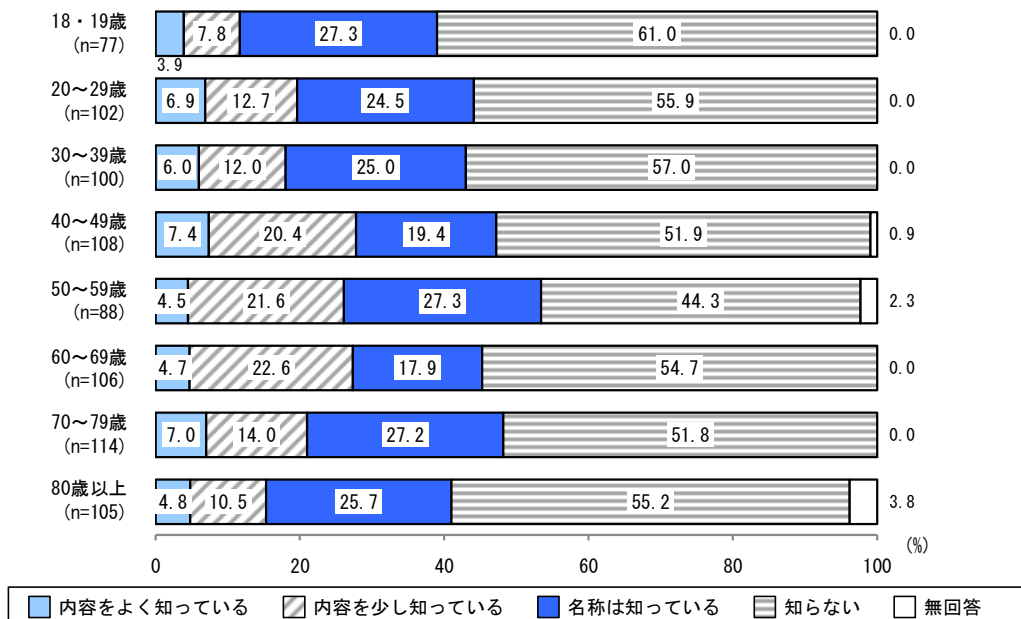
男性と比べて女性は「名称は知っている」が7.3ポイント多くなっている。



■年代比較

年代別で見ると、『内容を知っている』は、40～49歳が27.8%と最も多く、次いで60～69歳が27.3%、50～59歳が26.1%となっている。

40～49歳から60～69歳は「内容を少し知っている」が2割以上と、他の年代に比べて多くなっている。



(2) それぞれの人権課題について

4. 障害者差別解消法

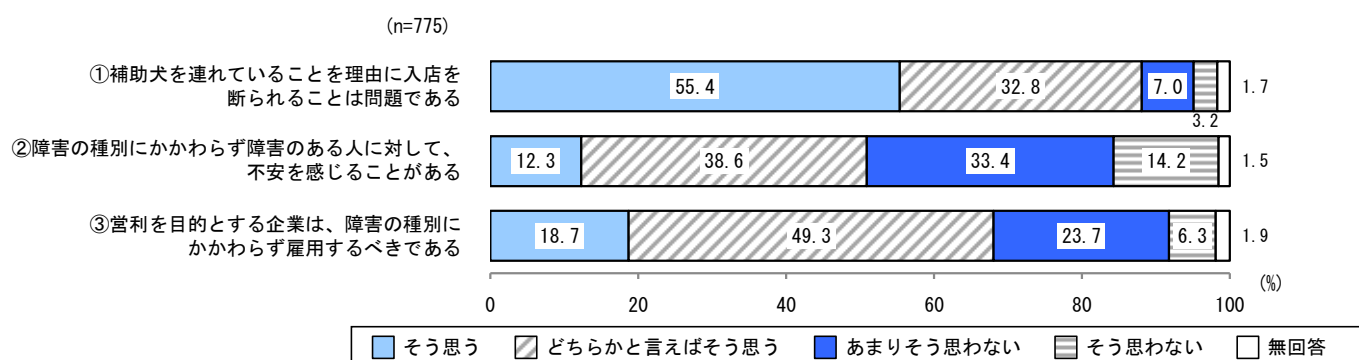
問4	障害のある人の人権に関して次のような意見があります。1～3の各項目について、あなたはどのように思いますか。 (○はそれぞれ1つずつ)
----	---

■全体傾向

①補助犬を連れていることを理由に入店を断られることは問題であるという意見について、『そう思う』割合は 88.2%、『そう思わない』割合は 10.2%となっている。

②障害の種別にかかわらず障害のある人に対して、不安を感じることがあるという意見は、『そう思う』割合は 50.9%、『そう思わない』割合は 47.6%となっている。

③営利を目的とする企業は、障害の種別にかかわらず雇用するべきであるという意見について、『そう思う』割合は 68.0%、『そう思わない』割合は 30.0%となっている。

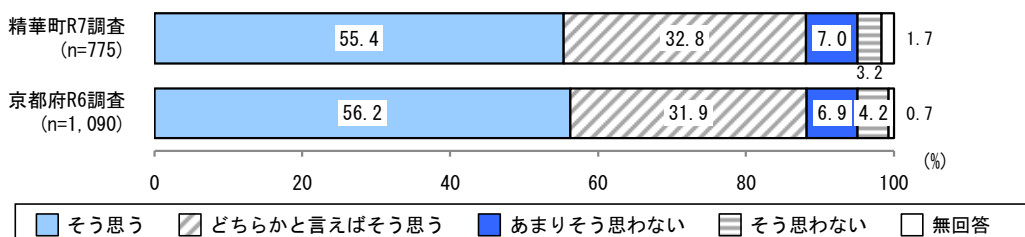


【①補助犬を連れてくることを理由に、入店を断られることは問題である】

■京都府(全体)との比較

補助犬を連れてくることを理由に、入店を断られることは問題であるという意見について、「そう思う」が55.4%と最も多く、『そう思う』が88.2%、『そう思わない』が10.2%となっている。

京都府R6調査と比較すると、大きな差はみられない。

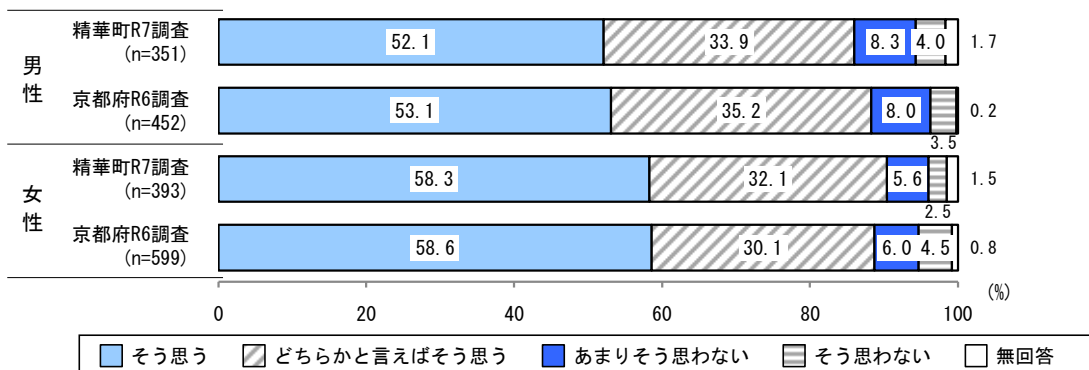


■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「そう思う」が52.1%と最も多く、『そう思う』が86.0%、『そう思わない』が12.3%となっている。女性は、「そう思う」が58.3%と最も多く、『そう思う』が90.4%、『そう思わない』が8.1%となっている。

男性と比べて女性は「そう思う」が6.2ポイント多くなっている。

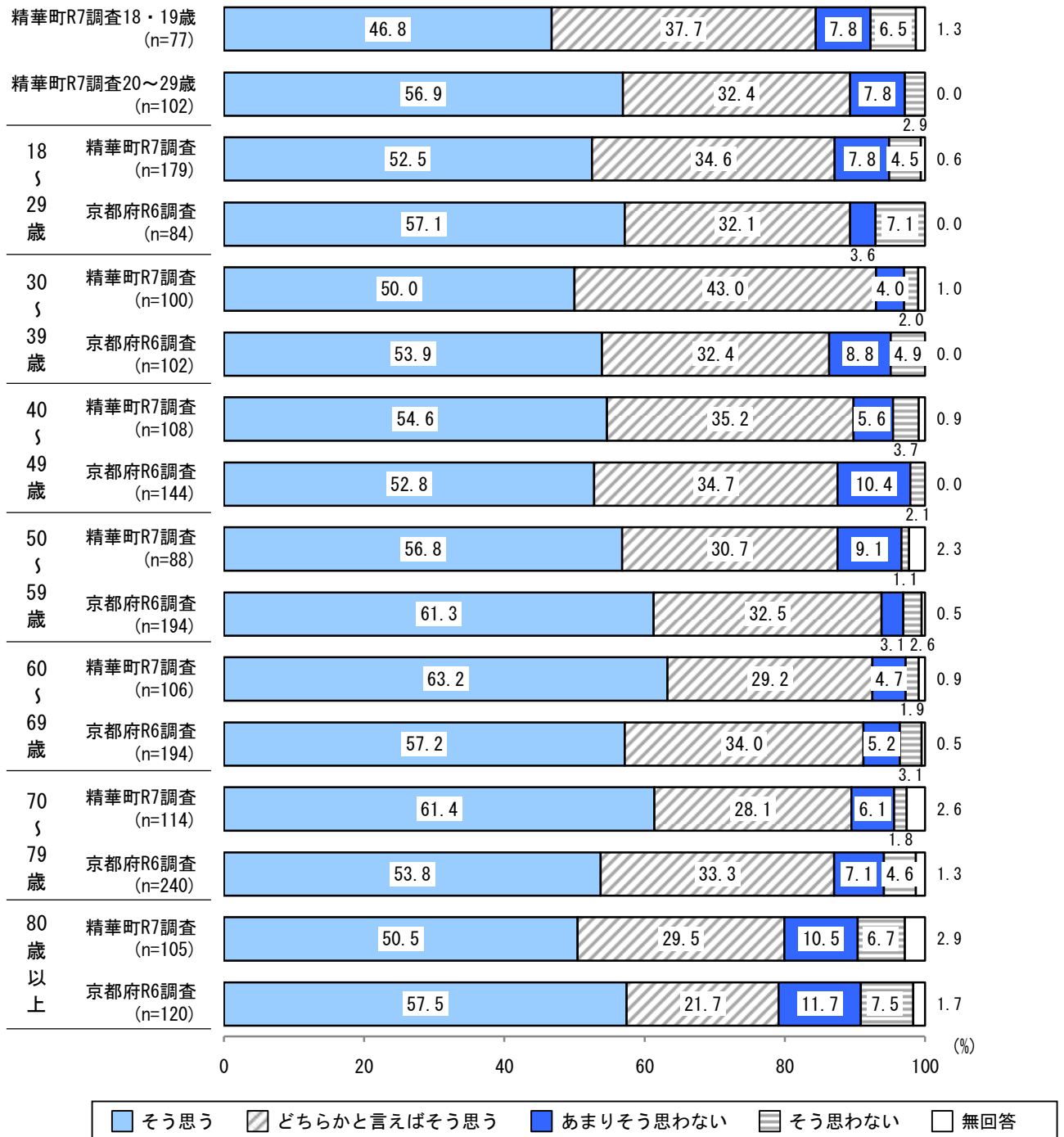
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、30～39歳が93.0%と最も多く、次いで60～69歳が92.4%、40～49歳が89.8%となっている。

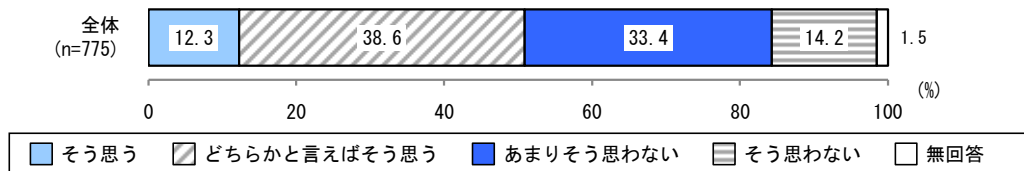
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳の「どちらかといえばそう思う」が10.6ポイント多くなっている。



【②障害の種別にかかわらず障害のある人に対して、不安を感じることがある】

■全体傾向

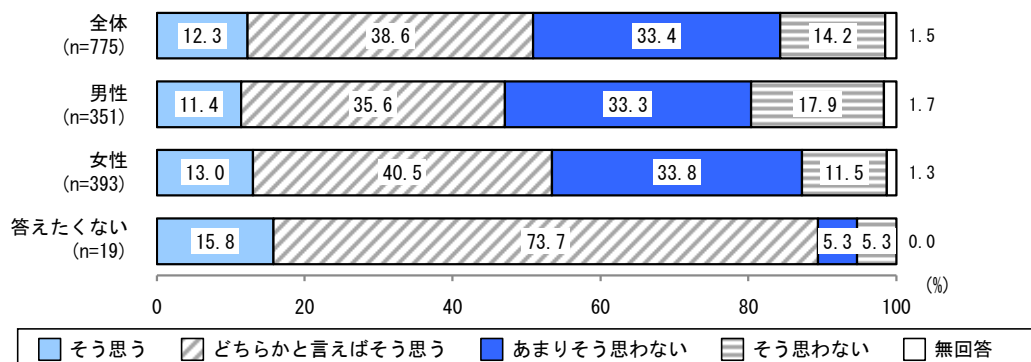
障害の種別にかかわらず障害のある人に対して、不安を感じることがあるという意見について、「どちらかといえばそう思う」が38.6%と最も多く、『そう思う』が50.9%、『そう思わない』が47.6%となっている。



■性別比較

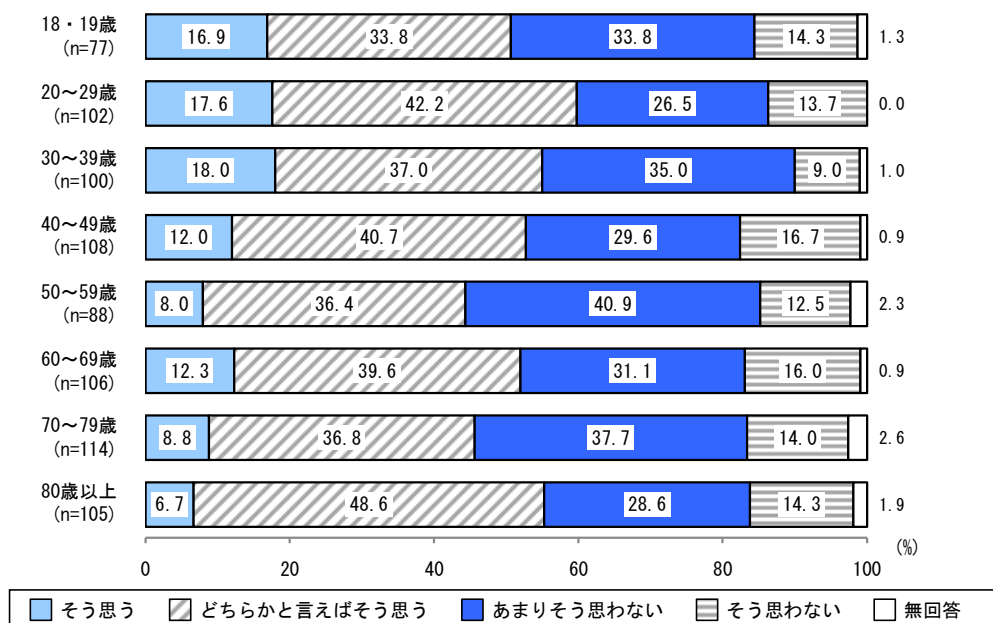
性別で見ると、男性は、「どちらかといえばそう思う」が35.6%と最も多く、『そう思う』が47.0%、『そう思わない』が51.2%となっている。女性も「どちらかといえばそう思う」が40.5%と最も多く、『そう思う』が53.5%、『そう思わない』が45.3%となっている。

男性と比べて女性は「そう思わない」が6.4ポイント少なくなっている。



■年代比較

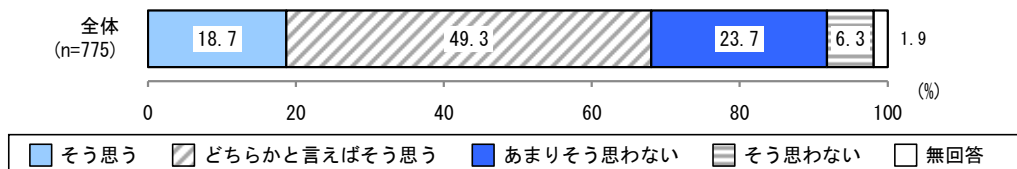
年代別でみると、『そう思う』は、20～29歳が59.8%と最も多く、次いで80歳以上が55.3%、30～39歳が55.0%となっている。



【③営利を目的とする企業は、障害の種別にかかわらず雇用するべきである】

■全体傾向

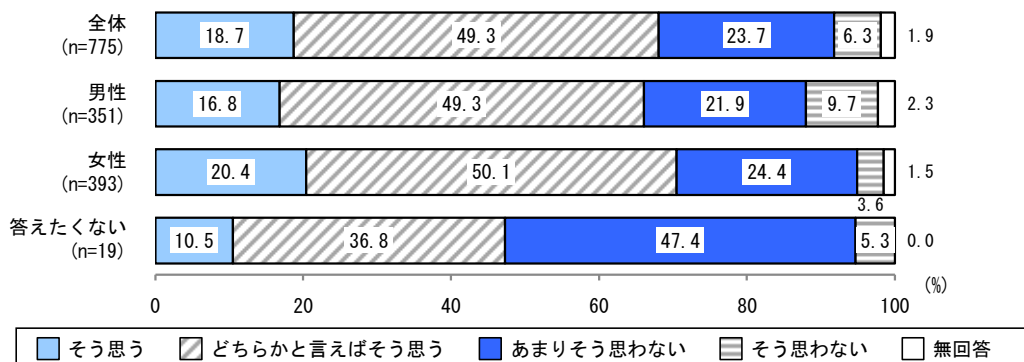
営利を目的とする企業は、障害の種別にかかわらず雇用するべきであるという意見について、「どちらかといえばそう思う」が49.3%と最も多く、『そう思う』が68.0%、『そう思わない』が30.0%となっている。



■性別比較

性別でみると、男性は、「どちらかといえばそう思う」が49.3%と最も多く、『そう思う』が66.1%、『そう思わない』が31.6%となっている。女性は、「どちらかといえばそう思う」が50.1%と最も多く、『そう思う』が70.5%、『そう思わない』が28.0%となっている。

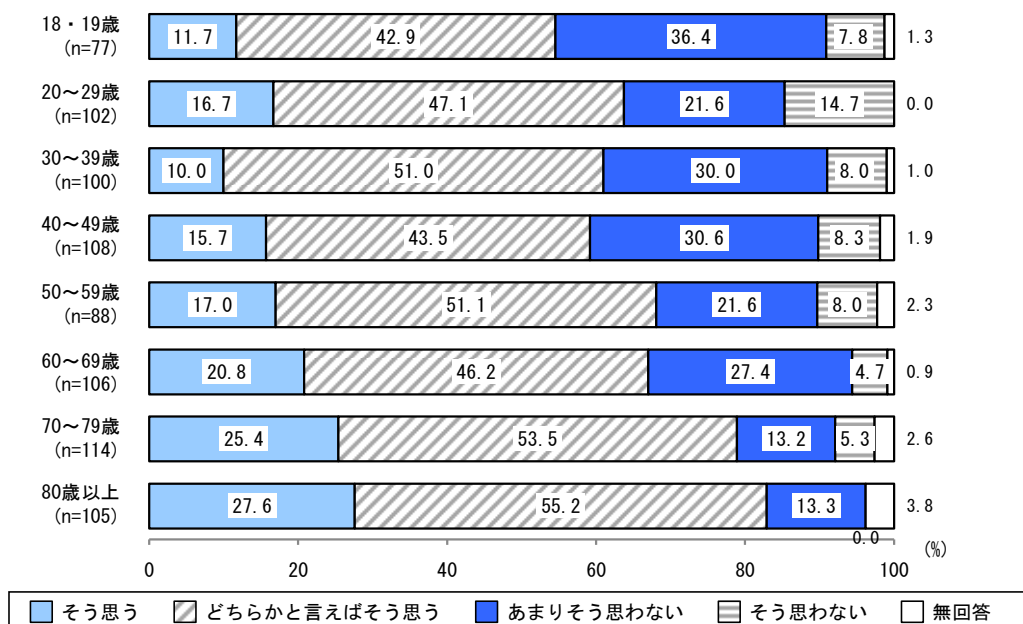
男性と比べて女性は「そう思わない」が6.1ポイント少なくなっている。



■年代比較

年代別でみると、『そう思う』は、80歳以上が82.8%と最も多く、次いで70~79歳が78.9%、50~59歳が68.1%となっている。

30~39歳以上では、年代が上がるにつれて『そう思う』が多くなる傾向がみられる。

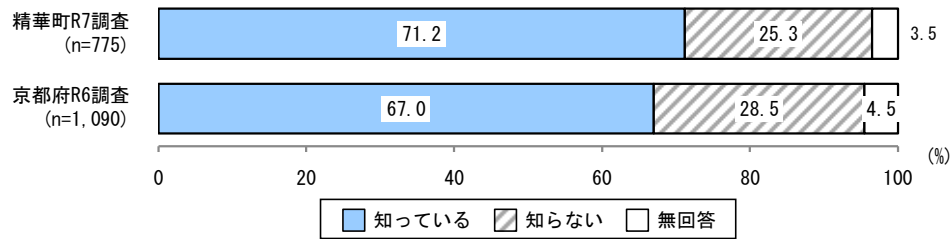


5. ハイトスピーチ解消法

問 5	あなたは、デモ、集会、街宣活動等やインターネット上で行われている、特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動(ハイトスピーチ)の存在を知っていますか。 (〇は1つ)
-----	---

■京都府(全体)との比較

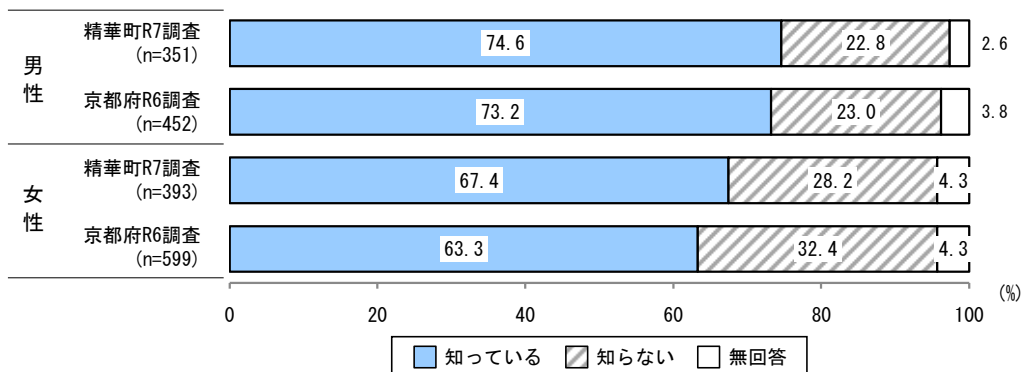
ハイトスピーチの認知度は、「知っている」が71.2%、「知らない」が25.3%となっている。
京都府R6調査との比較では、大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知っている」が74.6%、女性は67.4%となっており、男性の方が7.2ポイント多くなっている。

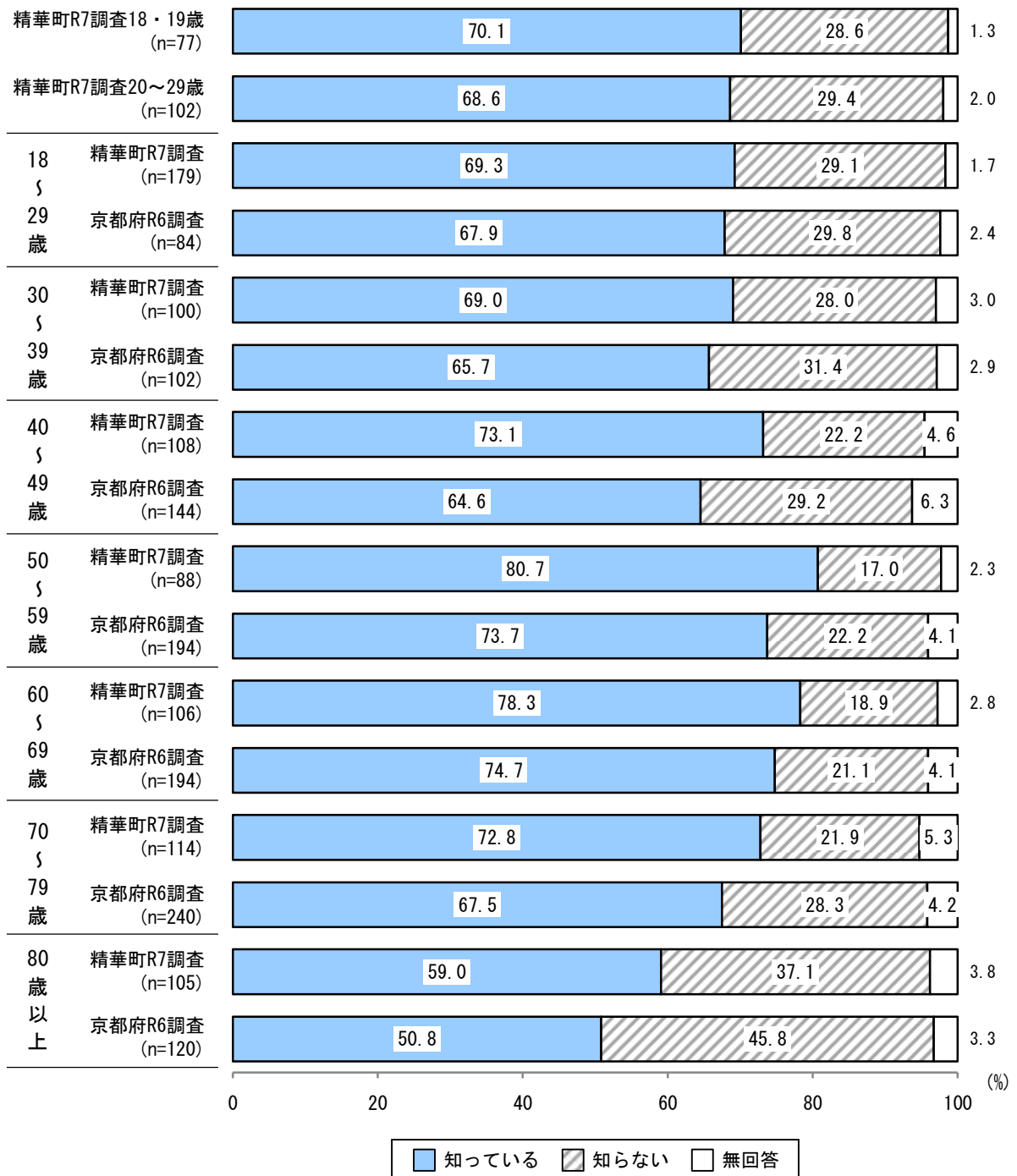
京都府R6調査との比較でも同様に、男性と比べ女性は「知っている」が少ない傾向がみられる。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、「知っている」が、50～59歳が80.7%と最も多く、次いで60～69歳が78.3%、40～49歳が73.1%となっている。80歳以上は「知っている」が6割未満と、他の年代と比べ少なくなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査ではいずれの年代でも「知っている」が京都府R6調査より多くなっている。



6. ハイトスピーチの存在をどこで知り得たか

問 6	【問5で「1. 知っている」と回答した方に、問6、問7についてお聞きします。】 あなたは、そのようなハイトスピーチの存在をどこで知りましたか。 (〇はいくつでも)
-----	--

■京都府(全体)との比較

ハイトスピーチを知っていると回答した人がどこで知り得たかについて、「テレビ・ラジオや新聞などの報道で知った」が74.8%と最も多く、次いで「インターネットで知った」が50.4%、「直接見たり聞いて知った」が14.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「インターネットで知った」が8.6ポイント多くなっている。

	(※)	(※)									(※)	(MA%)
	な の レ ビ 報 道 で 知 っ た 新 聞	た イ ン タ ー ネ ッ ト で 知 っ た	た 直 接 見 た り 聞 い て 知 っ た	が 子 啓 等 発 ポ ス タ ー や 啓 発 冊 子 の よ う な 行 為	学 校 の 授 業 で 教 わ っ た	て 家 族 、 友 人 等 か ら 聞 い た	た る ハ イ ト ス ピ ー チ に 関 す る 集 会 や 研 修 会 で 知 っ た	そ の 他	お ぼ え て い な い	見 聞 き し た こ と は な い	無 回 答	
精華町R7調査 (n=552)	74.8	50.4	14.9	12.7	10.7	6.3	1.8	1.1	0.9	0.0	1.6	
京都府R6調査 (n=730)	79.7	41.8	14.5	17	6.4	8.2	1.6	0.4	0.8	1.5	0.4	

※ 京都府 R6 調査では「テレビ・ラジオや新聞などの報道で見たり聞いたりしたことがある」

※京都府 R6 調査では「インターネットで見たことがある」

※京都府 R6 調査には「見聞きしたことはない」の選択肢なし

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は、「テレビ・ラジオや新聞などの報道で知った」が75.2%と最も多く、次いで「インターネットで知った」が57.3%、「直接見たり聞いて知った」が14.5%となっている。女性も「テレビ・ラジオや新聞などの報道で知った」が74.3%と最も多く、次いで「インターネットで知った」が43.8%、「直接見たり聞いて知った」が15.8%となっている。

男性と比べて女性は「インターネットで知った」が13.5ポイント少なくなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性の「テレビ・ラジオや新聞などの報道で知った」が5.2ポイント少なくなっている。

	(※)	(※)								(※)	(MA%)	
	な の レ ビ の 報 道 で 知 っ た 新 聞	た イ ン タ ー ネ ッ ト で 知 っ た	た 直 接 見 た り 聞 い て 知 っ た	が 子 啓 あ 等 で そ の よ う な 行 為	啓 発 ポ ス タ ー や 啓 発 冊	学 校 の 授 業 で 教 わ っ た	て 家 族 、 友 人 等 か ら 聞 い た	た る ヘ イ ト ス ピ ー チ に 関 す る 集 会 や 研 修 会 で 知 っ た	そ の 他	お ぼ え て い な い	見 聞 き し た こ と は な い	無 回 答
精華町R7調査男性 (n=262)	75.2	57.3	14.5	13	8.4	4.6	2.7	1.5	1.5	0.0	2.3	
京都府R6調査男性 (n=331)	80.4	49.8	18.1	18.1	5.7	5.1	1.8	0	0.6	1.2	0.3	
精華町R7調査女性 (n=265)	74.3	43.8	15.8	13.2	12.8	7.9	1.1	0.8	0.4	0.0	1.1	
京都府R6調査女性 (n=379)	79.2	34.8	11.6	15.6	6.9	10.8	1.6	0.8	1.1	1.8	0.5	

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、18・19歳から30～39歳は「インターネットで知った」、40～49歳以上は「テレビ・ラジオや新聞などの報道で知った」が最も多くなっている。年代が下がるにつれて「学校の授業で教わった」が多く、年代が上がるにつれて「啓発ポスターや啓発冊子等でそのような行為があることを知った」が多くなる傾向がみられる。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳から50～59歳までの「直接見たり聞いて知った」が5ポイント以上多くなっている。

	(※)	(※)								(※)	(MA%)	
	たインターネットで知った	テレビ・ラジオや新聞などの報道で知った	学校の授業で教わった	た直接見たり聞いて知った	て家族、友人等から聞いた	が子啓発ポスターや啓発冊子等であることを知った	たる集会や研修会等に関する	ヘイトスピーチに関する	その他	おぼえていない	見聞きしたことはない	無回答
精華町R7調査18・19歳 (n=54)	59.3	53.7	46.3	5.6	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
精華町R7調査20～29歳 (n=70)	65.7	38.6	44.3	17.1	7.1	5.7	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0	
精華町R7調査18～29歳 (n=124)	62.9	45.2	45.2	12.1	5.6	3.2	0.8	0.8	0.8	0.0	0.0	
京都府R6調査18～29歳 (n=57)	61.4	43.9	31.6	24.6	7.0	7.0	1.8	0.0	3.5	1.8		
精華町R7調査30～39歳 (n=69)	72.5	66.7	11.6	17.4	2.9	5.8	2.9	1.4	0.0	0.0	1.4	
京都府R6調査30～39歳 (n=67)	65.7	62.7	10.4	10.4	9.0	11.9	1.5	0.0	1.5	6.0		
精華町R7調査40～49歳 (n=79)	67.1	68.4	3.8	20.3	1.3	12.7	2.5	1.3	0.0	0.0	0.0	
京都府R6調査40～49歳 (n=93)	60.2	65.6	8.6	10.8	6.5	15.1	3.2	1.1	0.0	0.0		
精華町R7調査50～59歳 (n=71)	43.7	90.1	1.4	15.5	5.6	12.7	1.4	0.0	1.4	0.0	2.8	
京都府R6調査50～59歳 (n=143)	47.6	82.5	5.6	10.5	7.7	15.4	2.1	0.0	0.7	1.4		
精華町R7調査60～69歳 (n=83)	42.2	89.2	1.2	12.0	12.0	13.3	1.2	1.2	0.0	0.0	1.2	
京都府R6調査60～69歳 (n=145)	41.4	88.3	1.4	17.2	8.3	17.2	0.0	0.0	0.7	1.4		
精華町R7調査70～79歳 (n=83)	36.1	88.0	1.2	14.5	7.2	20.5	0.0	2.4	1.2	0.0	4.8	
京都府R6調査70～79歳 (n=162)	22.2	93.8	1.2	13.0	8.0	23.5	1.2	1.2	0.0	1.2		
精華町R7調査80歳以上 (n=62)	21.0	82.3	0.0	16.1	8.1	22.6	4.8	1.6	3.2	0.0	1.6	
京都府R6調査80歳以上 (n=61)	9.8	88.5	3.3	23.0	13.1	21.3	3.3	0.0	1.6	0.0		

7. ヘイトスピーチの存在を知りどう思ったか

問 7	【問5で「1. 知っている」と回答した方に、問6、問7についてお聞きします。】 あなたは、そのようなヘイトスピーチの存在を知ってどのように思いましたか。(〇はいくつでも)
-----	--

■京都府(全体)との比較

ヘイトスピーチを知っていると回答した人が、ヘイトスピーチに対しどう思ったかについて、「特定の人々を追い出すことは許せないと思った」が50.4%と最も多く、次いで「日本に対する印象が悪くなった」が26.1%、「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」が23.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「表現の自由」の範囲内のものだと思った」が9.7ポイント多く、「特定の人々を追い出すことは、許せないと思った」が6.3ポイント少なくなっている。

	(※)								(MA%)
	は特定の人々を追い出すこと	る日本に対する印象が悪くな	主張も一理あると思った側の	もヘイトスピーチがあるとされた側に	も「表現の自由」の範囲内の	自分には関係ないと思った	その他	特にな	無回答
精華町R7調査 (n=552)	50.4	26.1	23.7	20.7	17.9	9.2	6.5	5.6	1.4
京都府R6調査 (n=730)	56.7	27.0	22.2	18.1	8.2	6.7	5.9	6.4	0.8

※ 「特定の人々を追い出すことは、許せないと思った」が

京都府 R6 調査では「特定の人びとを排除するのは、許せないと思った」。

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は、「特定の人々を追い出すことは、許せないと思った」が47.7%と最も多く、次いで、「日本に対する印象が悪くなると思った」が29.4%、「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」が23.7%となっている。女性は、「特定の人々を追い出すことは、許せないと思った」が54.7%と最も多く、次いで「ヘイトスピーチをする側の主張も一理あると思った」が24.9%、「日本に対する印象が悪くなると思った」が22.6%、「ヘイトスピーチされる側にも問題があると思った」が21.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「特定の人々を追い出すことは、許せないと思った」が男性と女性ともに5ポイント以上少なくなっている。

	(※)								(MA%)
	は特 定 許 せ な い を 追 い 出 す こ と	る日 本 に 対 す る 印 象 が 悪 く な	主 張 も 一 理 あ る と 思 っ た	も ヘ イ ト ス ピ ー チ さ れ る 側 に	も 「 表 現 の 自 由 」 の 範 圍 内 の	自 分 に は 関 係 な い と 思 っ た	そ の 他	特 に な い	無 回 答
精華町R7調査男性 (n=262)	47.7	29.4	23.7	21.0	20.6	8.8	6.1	6.5	1.1
京都府R6調査男性 (n=331)	54.1	31.7	26.0	23.0	7.9	6.9	5.4	3.9	0.6
精華町R7調査女性 (n=265)	54.7	22.6	24.9	21.5	16.6	8.7	5.7	4.9	1.1
京都府R6調査女性 (n=379)	59.9	22.7	18.7	14.2	8.4	6.6	6.3	8.2	1.1

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、いずれの年代も「特定の人々を追い出すことは、許せないと思った」が最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、「表現の自由」の範囲内のものだと思った」が精華町R7調査は年代が下がるにつれて多くなっているが、京都府R6調査では大きな差はみられない。

	(※)								(MA%)	
	は特 定 の 人 々 を 追 い 出 す こ と を 許 せ な い と 思 っ た	も 「 表 現 の 自 由 」 の 範 圍 内 の も の だ と 思 っ た	主 張 も 一 理 あ る と 思 っ た	ヘ イ ト ス ピ ー チ を す る 側 の 印 象 が 悪 く な る と 思 っ た	日 本 に 対 す る 印 象 が 悪 く な る と 思 っ た	も ヘ イ ト ス ピ ー チ さ れ る 側 に あ る と 思 っ た	自 分 に は 関 係 な い と 思 っ た	そ の 他	特 に な い	無 回 答
精華町R7調査18・19歳 (n=54)	46.3	35.2	22.2	14.8	13.0	3.7	5.6	13.0	1.9	
精華町R7調査20～29歳 (n=70)	44.3	32.9	34.3	14.3	24.3	2.9	11.4	2.9	1.4	
精華町R7調査18～29歳 (n=124)	45.2	33.9	29.0	19.4	14.5	3.2	8.9	7.3	1.6	
京都府R6調査18～29歳 (n=57)	47.4	7.0	19.3	31.6	7.0	14.0	5.3	12.3	-	
精華町R7調査30～39歳 (n=69)	39.1	29.0	36.2	24.6	23.2	15.9	5.8	2.9	1.4	
京都府R6調査30～39歳 (n=67)	46.3	7.5	29.9	26.9	16.4	7.5	11.9	9.0	-	
精華町R7調査40～49歳 (n=79)	50.6	16.5	22.8	30.4	15.2	2.5	15.2	7.6	0.0	
京都府R6調査40～49歳 (n=93)	37.6	11.8	24.7	25.8	18.3	8.6	5.4	11.8	-	
精華町R7調査50～59歳 (n=71)	46.5	15.5	16.9	31.0	21.1	15.5	7.0	7.0	0.0	
京都府R6調査50～59歳 (n=143)	55.9	10.5	25.2	27.3	21.0	4.9	8.4	4.2	-	
精華町R7調査60～69歳 (n=83)	55.4	9.6	22.9	28.9	21.7	12.0	3.6	3.6	2.4	
京都府R6調査60～69歳 (n=145)	66.2	5.5	20.0	24.8	21.4	3.4	3.4	4.1	-	
精華町R7調査70～79歳 (n=83)	62.7	3.6	14.5	22.9	19.3	7.2	3.6	2.4	1.2	
京都府R6調査70～79歳 (n=162)	64.8	5.6	17.9	27.2	16.7	8.6	3.7	4.3	-	
精華町R7調査80歳以上 (n=62)	46.8	8.1	32.3	29.0	33.9	12.9	0.0	11.3	1.6	
京都府R6調査80歳以上 (n=61)	63.9	13.1	23.0	29.5	19.7	3.3	6.6	4.9	-	

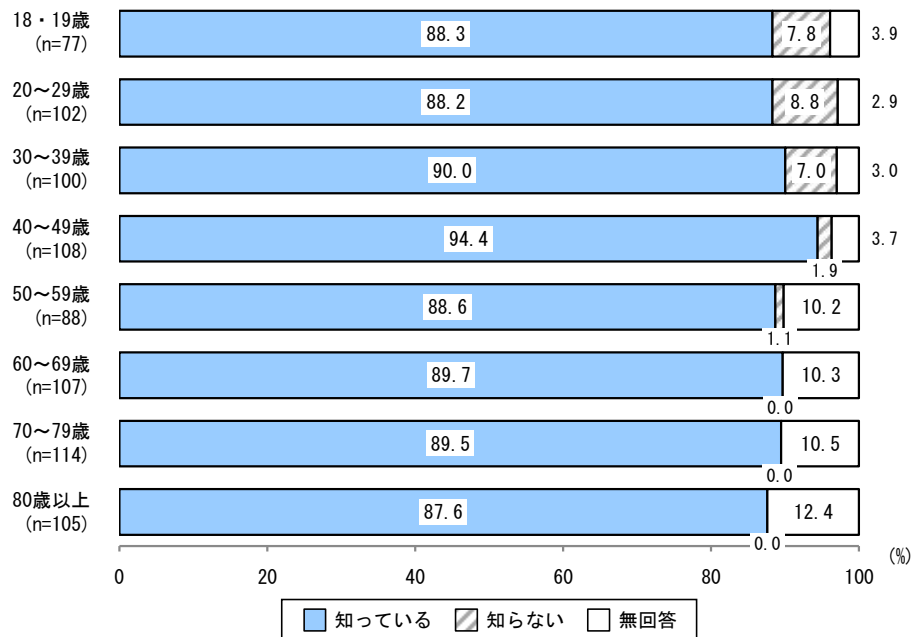
※京都府R6調査と比較では無回答の数値なし

8. 部落差別をどこで知り得たか

問 8	【すべての方にお聞きします。】 あなたが、部落差別(同和問題)について、初めて知ったきっかけは、何からですか。(〇は1つ)
-----	---

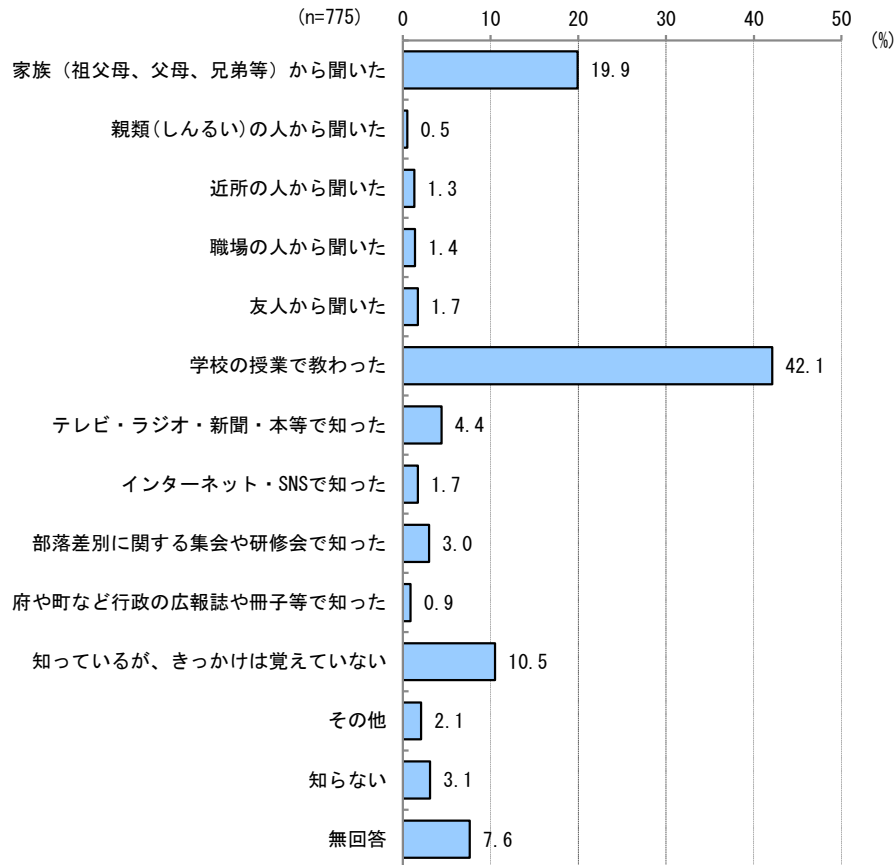
■ 部落差別の認知度×年代別比較

「部落差別について知らない」以外の回答を『知っている』とし、年代別で部落差別の認知度を年代別で見ると、いずれの年代でも『知っている』が8割以上を占めている。



■全体傾向

部落差別(同和問題)を知ったきっかけは、「学校の授業で教わった」が42.1%と最も多く、次いで、「家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた」が19.9%、「知っているが、きっかけは覚えていない」が10.5%となっている。



※「親類の人から聞いた」が京都府R6調査では「親戚の人から聞いた」

※「インターネット・SNS(ソーシャルネットワークサービス)で知った」が京都府R6調査では「インターネットで知った」

※「府や町など行政の広報誌や冊子等で知った」が京都府R6調査では「京都府や市町村の広報誌や冊子等で知った」

※「部落差別(同和問題)について、知っているが、きっかけは覚えていない」が京都府R6調査では「被差別部落(同和地区)や部落差別(同和問題)について、知っているが、きっかけは覚えていない」

※「部落差別(同和問題)について、知らない」が京都府R6調査では「被差別部落(同和地区)や部落差別(同和問題)について、知らない」

■京都府(全体)との比較

京都府R6調査と比較すると、「学校の授業で教わった」が13.0ポイント多くなっている。

	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(%)	
	家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた	親類の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	友人から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	インターネット・SNS(ソーシャルネットワーク)で知った	部落差別(同和問題)に関する集会や研修会で知った	冊子等で知った	府や町など行政の広報誌や	かけは、知っていないが、きいて、知っている	部落差別(同和問題)について、知らない	その他	無回答
精華町R7調査 (n=808)	19.3	0.5	1.2	1.5	1.6	42.5	4.3	1.9	3.0	0.9	10.9	2.0	3.1	7.4	
京都府R6調査 (n=1,090)	23.2	0.7	1.8	2.9	4.1	29.5	6.1	1.3	2.0	0.8	10.3	1.7	3.2	12.2	

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「学校の授業で教わった」が41.6%と最も多く、次いで、「家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた」が16.5%、「部落差別(同和問題)について、知っているが、きっかけは覚えていない」が12.3%となっている。女性も「学校の授業で教わった」が41.2%と最も多く、次いで、「家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた」が22.9%、「部落差別(同和問題)について、知っているが、きっかけは覚えていない」が8.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「学校の授業で教わった」が10ポイント以上多くなっている。

	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(%)	
	家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた	親類の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	友人から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	インターネット・SNS(ソーシャルネットワーク)で知った	部落差別(同和問題)に関する集会や研修会で知った	冊子等で知った	府や町など行政の広報誌や	かけは、知っていないが、きいて、知っている	部落差別(同和問題)について、知らない	その他	無回答
精華町R7調査男性 (n=351)	16.5	0.9	0.9	2.6	0.9	41.6	4.6	2.3	4.3	0.9	12.3	1.7	3.1	7.7	
京都府R6調査男性 (n=452)	17.9	1.3	2.7	3.5	4.9	28.8	7.1	1.3	2.0	0.9	12.6	1.8	2.4	12.8	
精華町R7調査女性 (n=393)	22.9	0.3	1.8	0.5	2.5	41.2	4.6	1.3	2.0	1.0	8.9	2.5	3.1	7.4	
京都府R6調査女性 (n=599)	27.4	0.3	1.2	2.7	3.7	30.2	5.3	1.2	2.0	0.7	8.7	1.5	3.7	11.5	

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、18・19歳から60～69歳までは「学校の授業で教わった」が最も多く、70～79歳は「家族(祖父母、父母、兄弟等)から聞いた」、80歳以上は「部落差別(同和問題)について、知っているが、きっかけは覚えていない」が最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から60～69歳までの「学校の授業で教わった」が10ポイント以上多くなっている。

		(※)	(※)	(※)	(※)		(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(%)	
	等)家族(祖父母、父母、兄弟)から聞いた	親類の人から聞いた	近所の人から聞いた	職場の人から聞いた	友人から聞いた	学校の授業で教わった	テレビ・ラジオ・新聞・本等で知った	インターネット・SNS(ソーシャルネットワーク)で知った	部落差別(同和問題)に関する集会や研修会で知った	冊子等で知った	府や町など行政の広報誌や	いは、知っていないが、きっかけは覚えていない	部落差別(同和問題)について、知らない	無回答
精華町R7調査18・19歳(n=77)	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	66.2	2.6	3.9	0.0	0.0	6.5	0.0	7.8	3.9
精華町R7調査20～29歳(n=102)	13.7	1.0	0.0	1.0	0.0	57.8	2.0	5.9	1.0	1.0	2.9	2.0	8.8	2.9
精華町R7調査18～29歳(n=179)	11.7	0.6	0.0	0.6	0.0	61.5	2.2	5.0	0.6	0.6	4.5	1.1	8.4	3.4
京都府R6調査18～29歳(n=84)	16.7	1.2	0.0	1.2	3.6	42.9	6.0	7.1	3.6	0.0	6.0	0.0	8.3	3.6
精華町R7調査30～39歳(n=100)	18.0	0.0	0.0	3.0	2.0	53.0	2.0	3.0	1.0	0.0	8.0	0.0	7.0	3.0
京都府R6調査30～39歳(n=102)	23.5	0.0	0.0	3.9	3.9	37.3	2.0	4.9	1.0	0.0	5.9	1.0	7.8	8.8
精華町R7調査40～49歳(n=108)	12.0	0.9	0.0	0.0	0.9	70.4	1.9	1.9	1.9	0.0	1.9	2.8	1.9	3.7
京都府R6調査40～49歳(n=144)	17.4	0.7	0.0	1.4	2.1	50.7	4.2	0.7	2.1	0.0	6.9	2.1	3.5	8.3
精華町R7調査50～59歳(n=88)	25.0	0.0	0.0	1.1	1.1	46.6	5.7	0.0	2.3	1.1	5.7	0.0	1.1	10.2
京都府R6調査50～59歳(n=194)	21.6	0.0	0.0	0.5	4.1	45.9	4.6	0.0	1.5	0.5	6.2	0.5	1.5	12.9
精華町R7調査60～69歳(n=107)	21.5	0.0	0.9	0.9	2.8	43.9	3.7	0.0	4.7	0.9	9.3	0.9	0.0	10.3
京都府R6調査60～69歳(n=194)	28.4	0.5	2.1	3.6	1.5	31.4	4.6	0.0	1.0	1.0	8.2	2.1	1.0	14.4
精華町R7調査70～79歳(n=114)	30.7	0.9	3.5	3.5	2.6	7.0	7.9	0.9	6.1	1.8	20.2	4.4	0.0	10.5
京都府R6調査70～79歳(n=240)	25.0	0.4	4.2	5.0	7.1	8.8	9.6	0.8	2.9	2.1	15.8	1.7	2.1	14.6
精華町R7調査80歳以上(n=105)	21.9	1.0	4.8	1.9	2.9	4.8	8.6	0.0	5.7	1.9	29.5	4.8	0.0	12.4
京都府R6調査80歳以上(n=120)	25.8	3.3	5.0	4.2	5.8	3.3	10.0	0.0	1.7	0.0	20.0	4.2	3.3	13.3

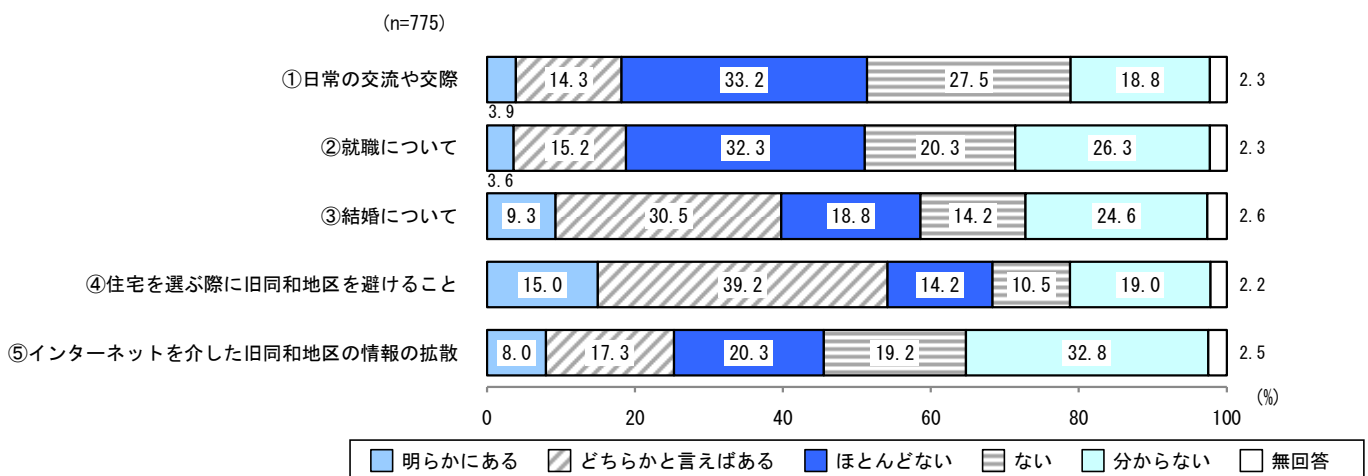
9. 現在、部落差別があると思うか

問 9	あなたは、次のことについて、現在、部落差別(同和問題)があると思いますか。 (○はそれぞれ1つずつ)
-----	---

■全体傾向

現在の部落差別(同和問題)に対し、『ある』(「明らかにある」「どちらかと言えばある」の合算)の割合は「④住宅を選ぶ際に旧同和地区を避けること」が最も多く、次いで「③結婚について」「⑤インターネットを介した旧同和地区の情報の拡散」となっている。

『ない』(「ない」「ほとんどない」の合算)の割合は「①日常の交流や交際」が最も多く、次いで「②就職について」「⑤インターネットを介した旧同和地区の情報の拡散」となっている。

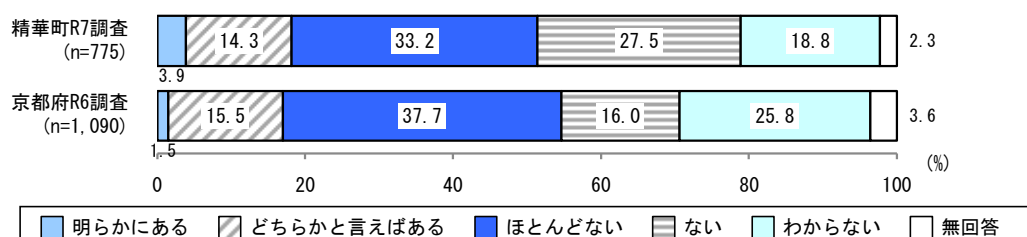


【①日常の交流や交際】

■京都府(全体)との比較

日常の交流や交際における差別について、「ほとんどない」が33.2%と最も多く、『ある』が18.2%、『ない』が60.7%となっている。

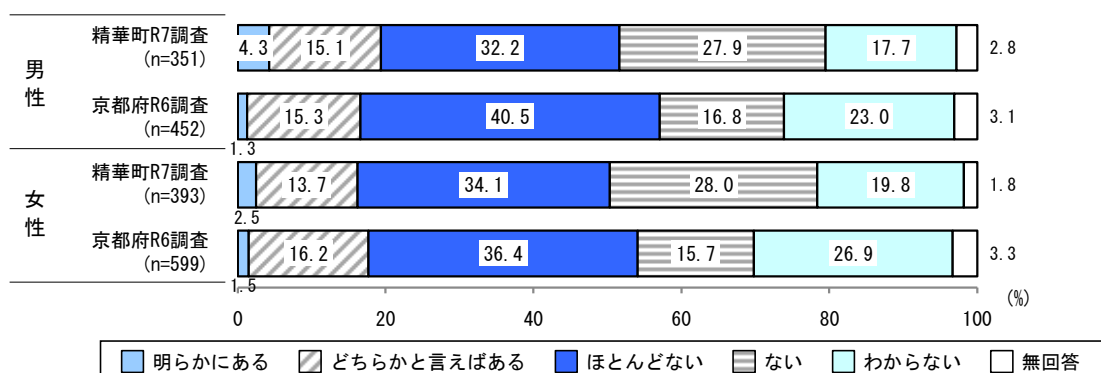
京都府R6調査と比較すると、「ない」が11.5ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

精華町の男性は「ほとんどない」が32.2%と最も多く、『ある』が19.4%、『ない』が60.1%となっている。女性は「ほとんどない」が34.1%と最も多く、『ある』が16.2%、『ない』が62.1%となっており、性別で見ると、大きな差はみられない。

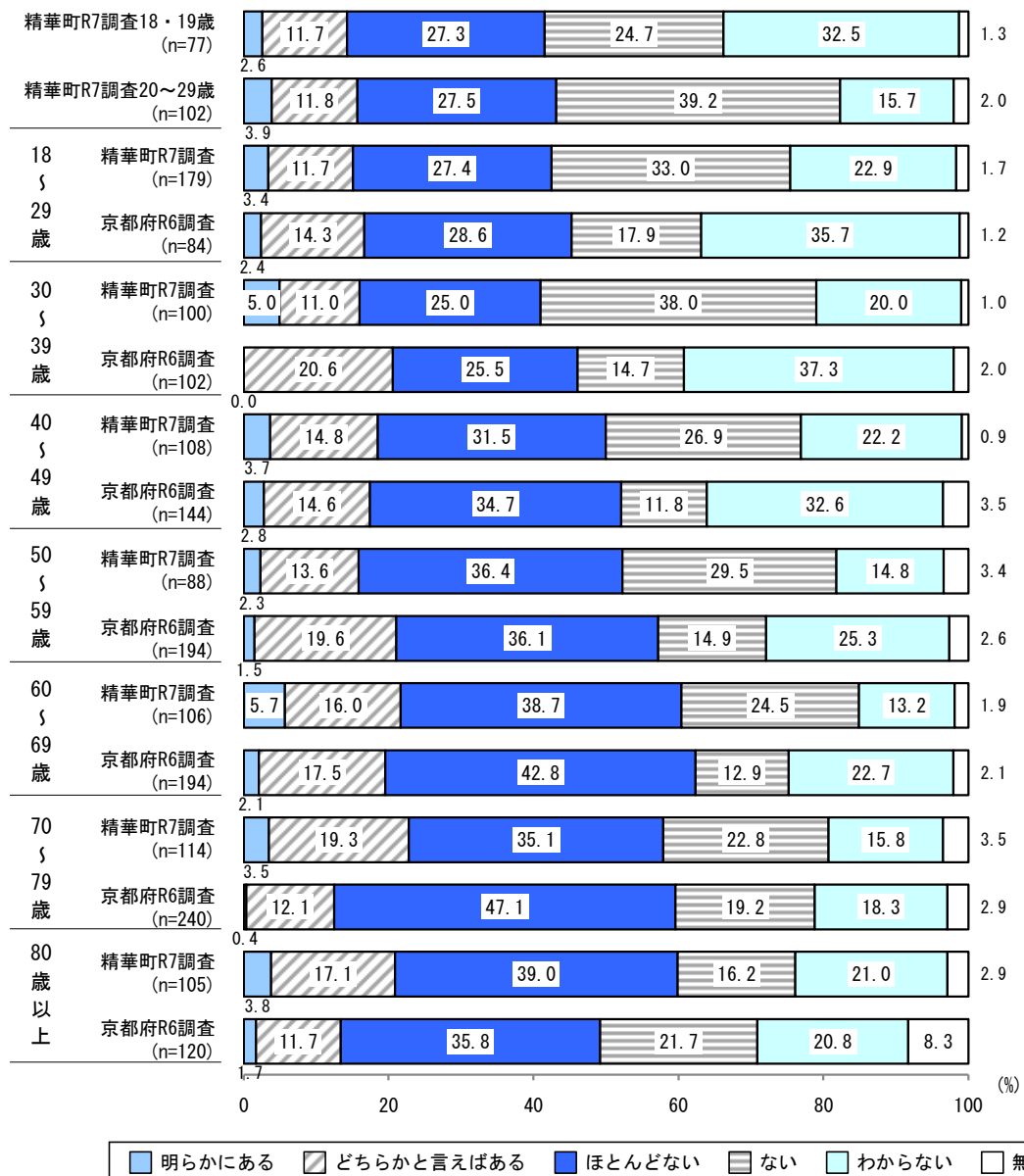
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性の「ない」が京都府R6調査の男性と比べて11.1ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『ある』は、70～79歳が22.8%と最も多く、次いで60～69歳が21.7%、80歳以上が20.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では70～79歳の『ある』が10.3ポイント、80歳以上では『ある』が7.5ポイント多くなっている。

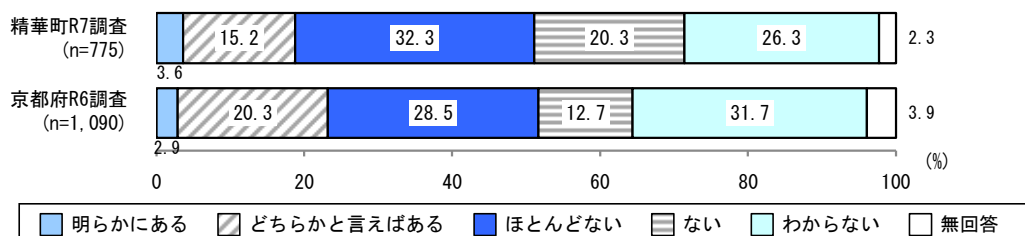


【②就職について】

■京都府(全体)との比較

就職における差別について、「ほとんどない」が32.3%と最も多く、『ある』が18.8%、『ない』が52.6%となっている。

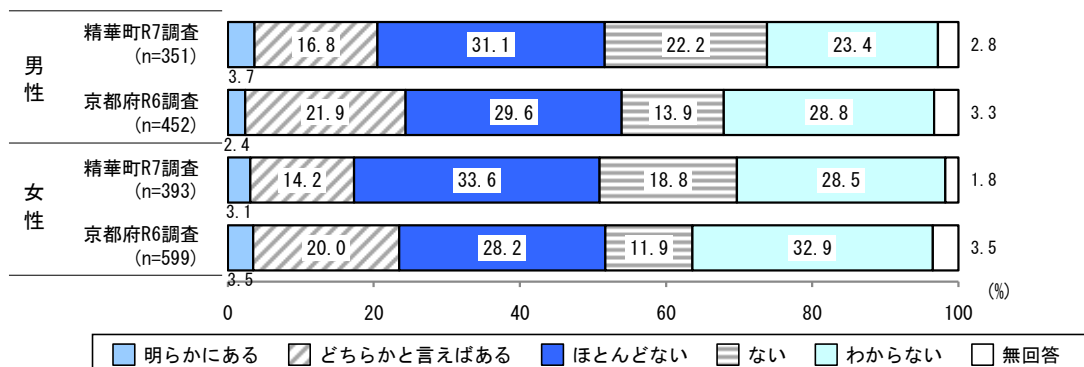
京都府R6調査と比較すると、「ない」が7.6ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「ほとんどない」が31.1%と最も多く、『ある』が20.5%、『ない』が53.3%となっている。女性は「ほとんどない」が33.6%と最も多く、『ある』が17.3%、『ない』が52.4%となっており、性別では大きな差はみられない。

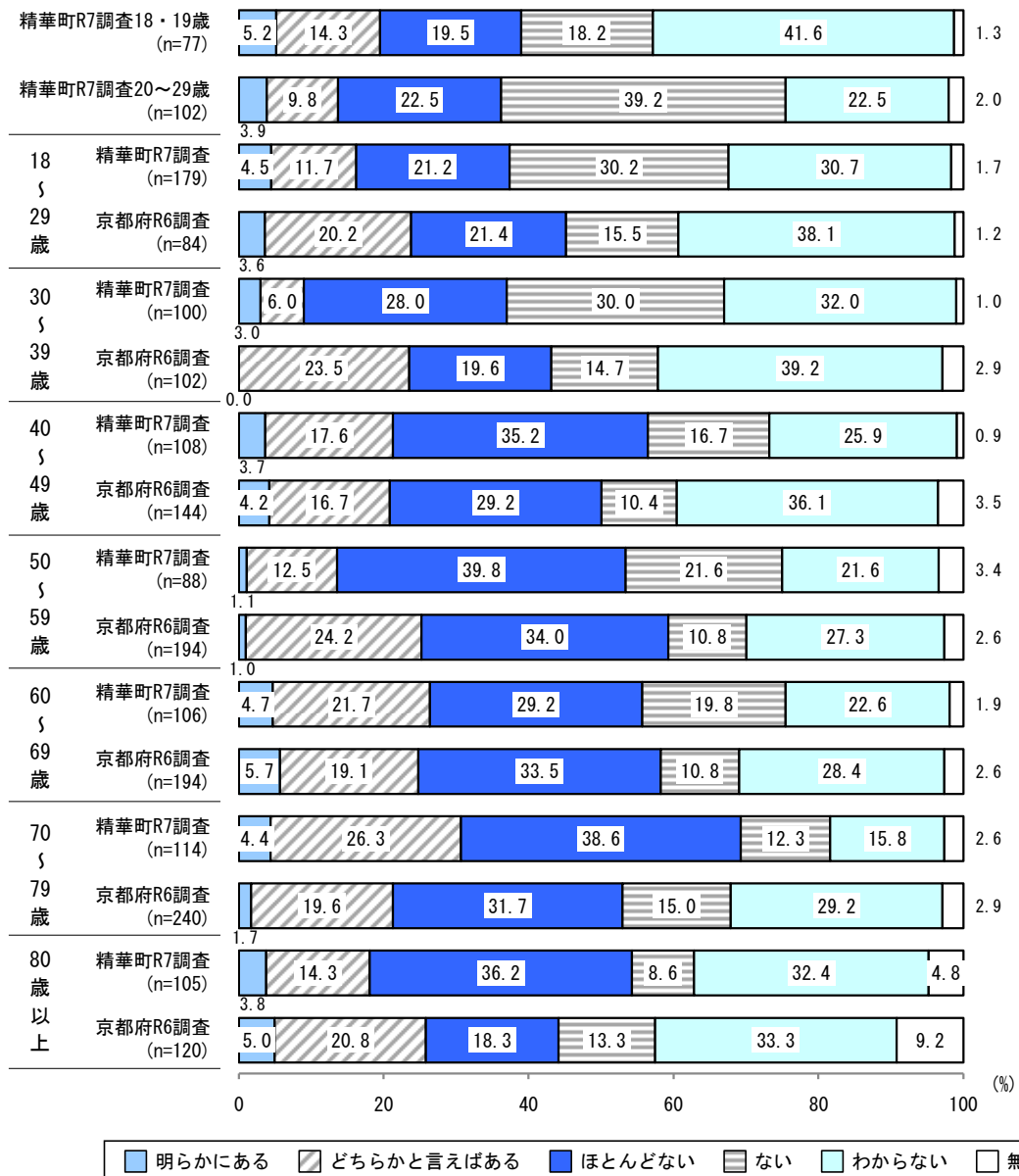
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は京都府R6調査の男性と比べて「ない」が8.3ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『ある』は、70～79歳が30.7%と最も多く、次いで60～69歳が26.4%、40～49歳が21.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、18～29歳から30～39歳、50～59歳と80歳以上では『ある』が京都府R6調査と比べて5ポイント以上少なくなっている。

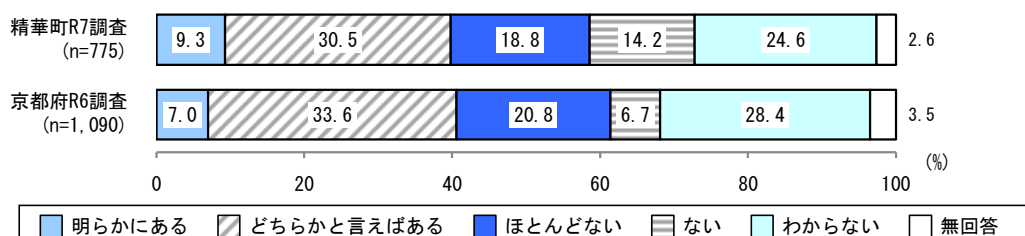


【③結婚について】

■京都府(全体)との比較

結婚における差別について、「どちらかと言えばある」が30.5%と最も多く、『ある』が39.8%、『ない』が33.0%となっている。

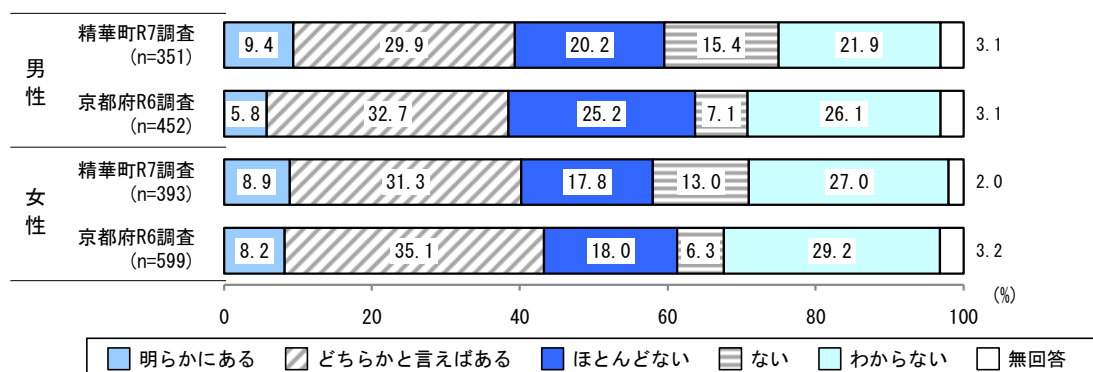
京都府R6調査と比較すると、「ない」が7.5ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「どちらかと言えばある」が29.9%と最も多く、『ある』が39.3%、『ない』が35.6%となっている。女性は「どちらかといえはある」が31.3%と最も多く、『ある』が40.2%、『ない』が30.8%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。

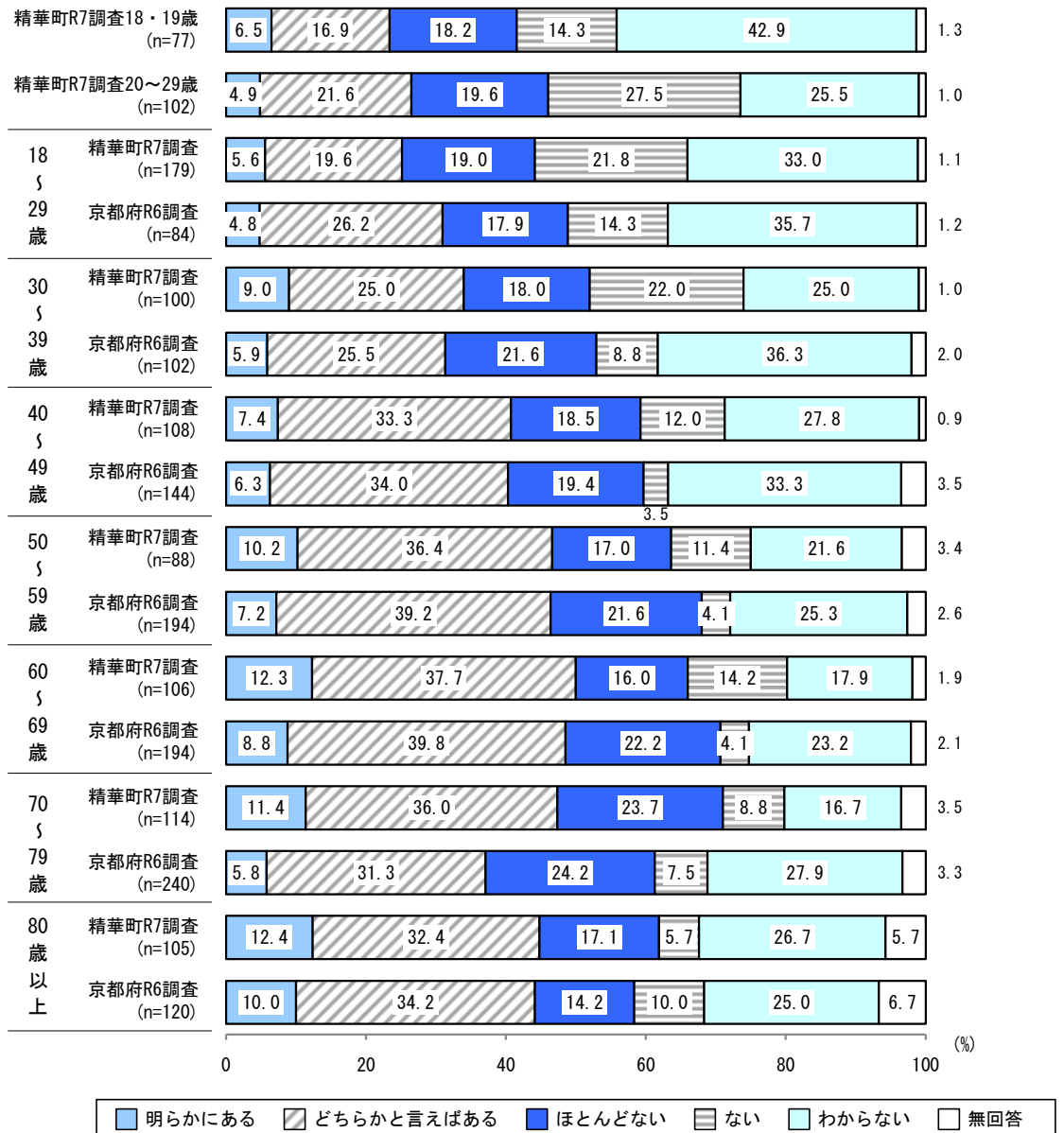
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は京都府R6調査の男性と比べて「ない」が8.3ポイント多く、「ほとんどない」が5.0ポイント少なくなっており、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「ない」が6.7ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『ある』は、60～69歳が50.0%と最も多く、次いで70～79歳が47.4%、50～59歳が46.6%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では80歳以上を除く各年代での『ない』が京都府R6調査より多くなっている。

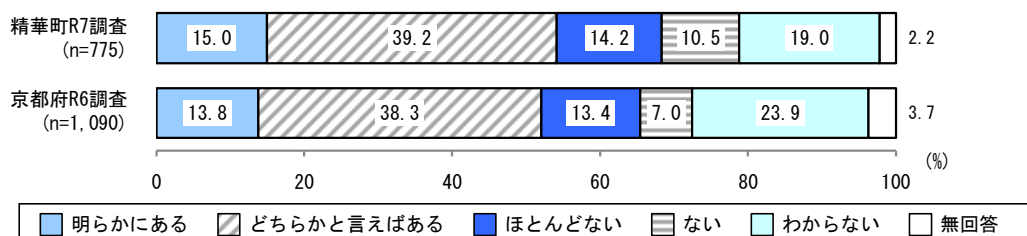


【④住宅を選ぶ際に旧同和地区を避けること】

■京都府(全体)との比較

住宅を選ぶ際に旧同和地区を避けることにおける差別について、「どちらかと言えばある」が39.2%と最も多く、『ある』が54.2%、『ない』が24.7%となっている。

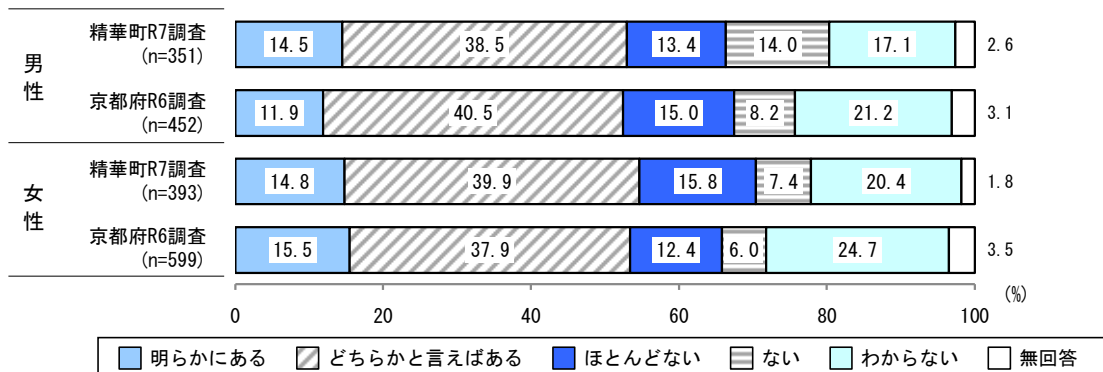
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「どちらかと言えばある」が38.5%と最も多く、『ある』が53.0%、『ない』が27.4%となっている。女性も「どちらかと言えばある」が39.9%と最も多く、『ある』が54.7%、『ない』が23.2%となっている。男性と比べて女性は「ない」が6.6ポイント少なくなっている。

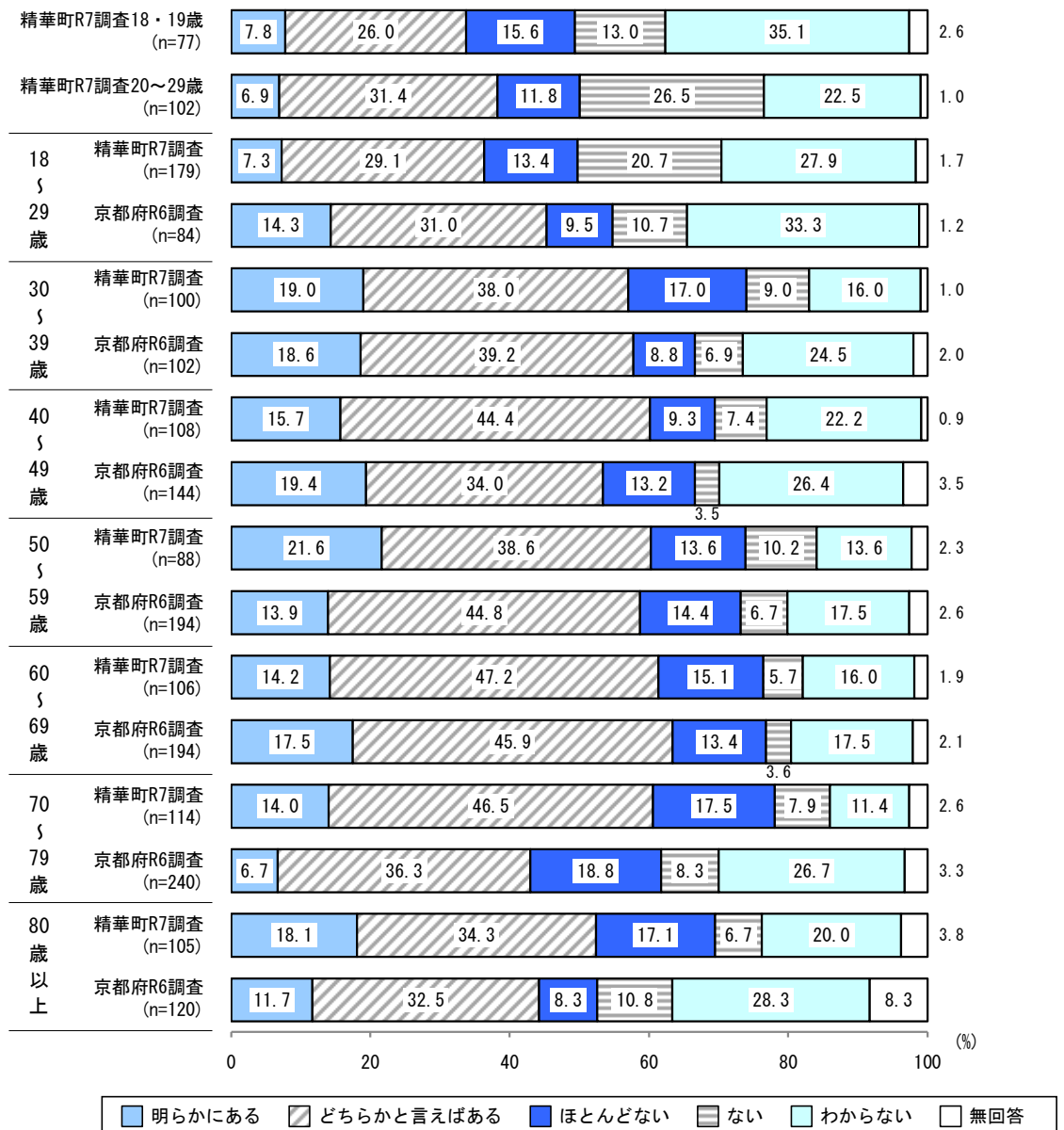
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は京都府R6調査の男性と比べて「ない」が5.8ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『ある』は、60～69歳が61.4%と最も多く、次いで70～79歳が60.5%、50～59歳が60.2%となっている。

京都府R6調査と比較すると、18～29歳と30～39歳での『ない』は精華町R7調査が10ポイント以上多くなっているが、40～49歳以上になると横ばいになっている。

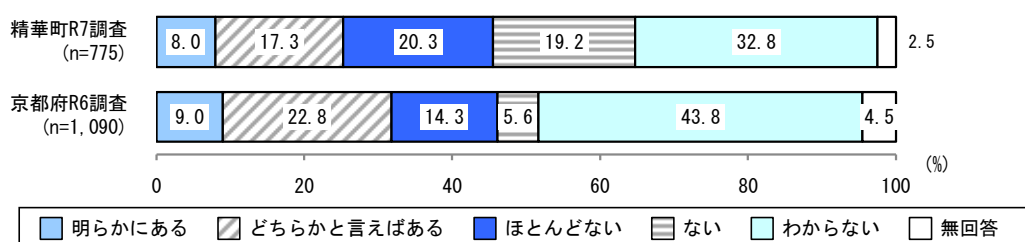


【⑤インターネットを介した旧同和地区の情報の拡散】

■京都府(全体)との比較

インターネットを介した旧同和地区の情報の拡散における差別について、「わからない」が32.8%と最も多く、『ある』が25.3%、『ない』が39.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「ない」が13.6ポイント、「ほとんどない」が6.0ポイント多く、「どちらかと言えばある」が5.5ポイント少なくなっている。

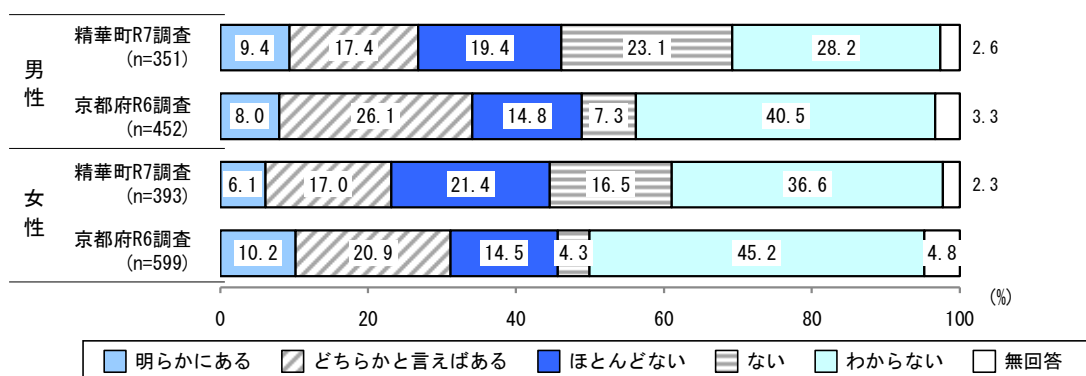


■京都府(性別)との比較

男性は「わからない」が28.2%と最も多く、『ある』が26.8%、『ない』が42.5%となっている。

女性も「わからない」が36.6%と最も多く、『ある』が23.1%、『ない』が37.9%となっている。

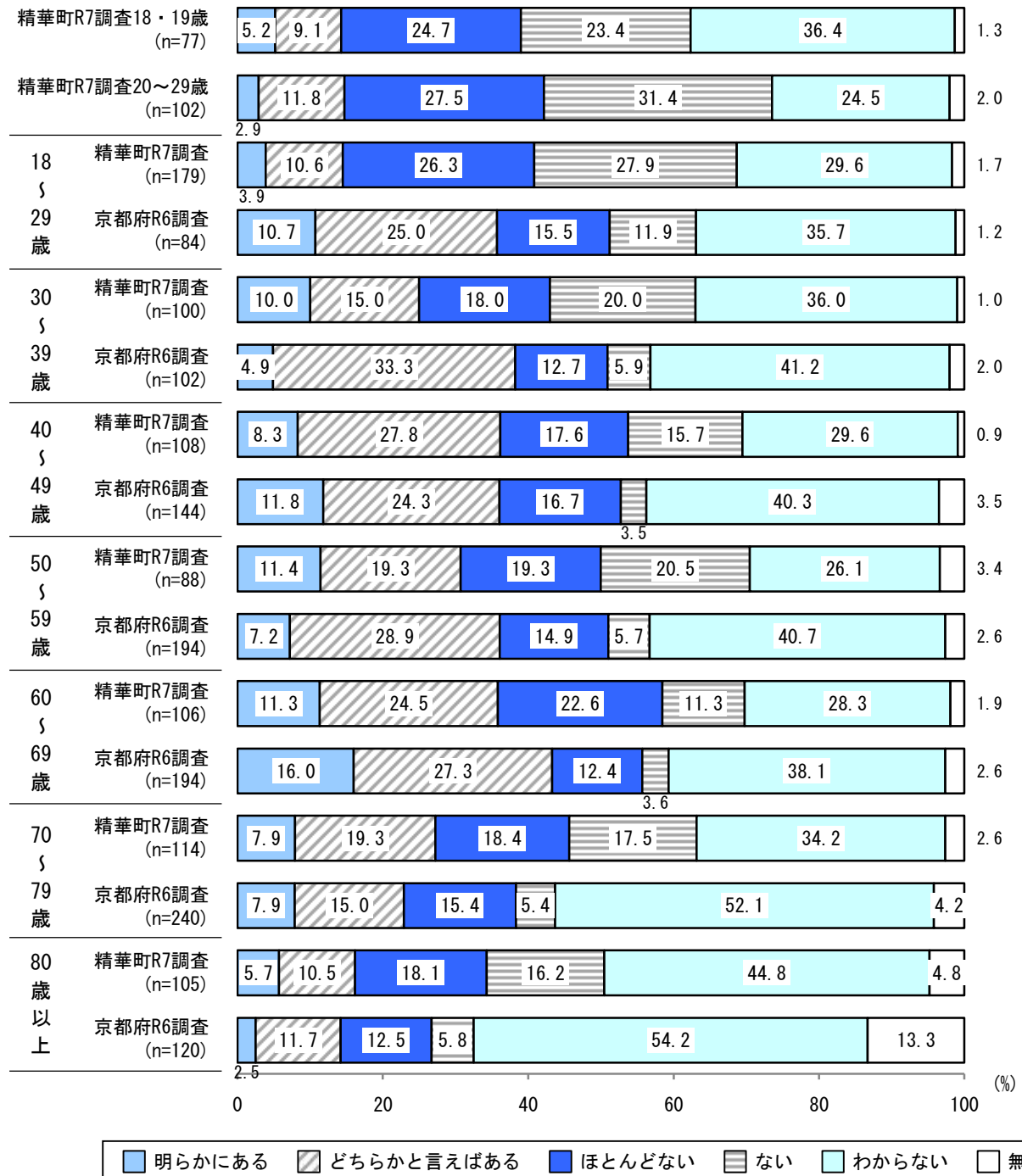
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに『ない』が大幅に多く、「わからない」がおよそ10ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『ある』は、40～49歳が36.1%と最も多く、次いで60～69歳が35.8%、50～59歳が30.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、いずれの年代でも精華町R7調査は『ない』が多くなっている。

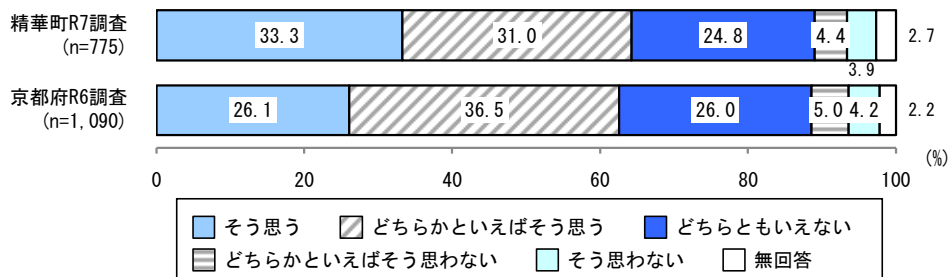


10. LGBT理解増進法

問 10	「LGBT等、性的少数者であることを身近な人にも言えない社会は問題である。」このことについて、あなたのお考えにもっとも近いものを選んでください。(〇は1つ)
------	--

■京都府(全体)との比較

「LGBT等、性的少数者であることを身近な人にも言えない社会は問題である。」という考えについて、「そう思う」が33.3%と最も多く、『そう思う』が64.3%、『そう思わない』が8.3%となっている。京都府R6調査と比較すると、「そう思う」が7.2ポイント多く、「どちらかといえばそう思う」が5.5ポイント少なくなっている。

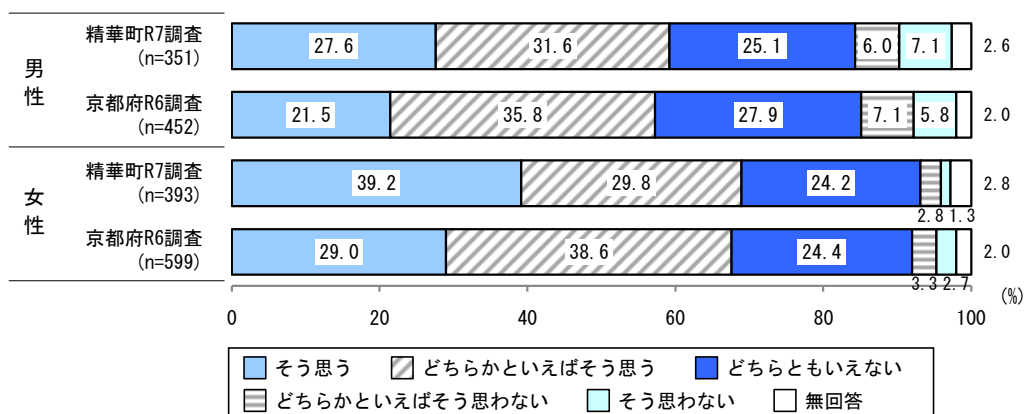


■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」が31.6%と最も多く、『そう思う』が59.2%、『そう思わない』が13.1%となっている。

女性は「そう思う」が39.2%と最も多く、『そう思う』が69.0%、『そう思わない』が4.1%となっている。男性と比べて女性は「そう思う」が11.6ポイント多く、「そう思わない」が5.8ポイント少なくなっている。

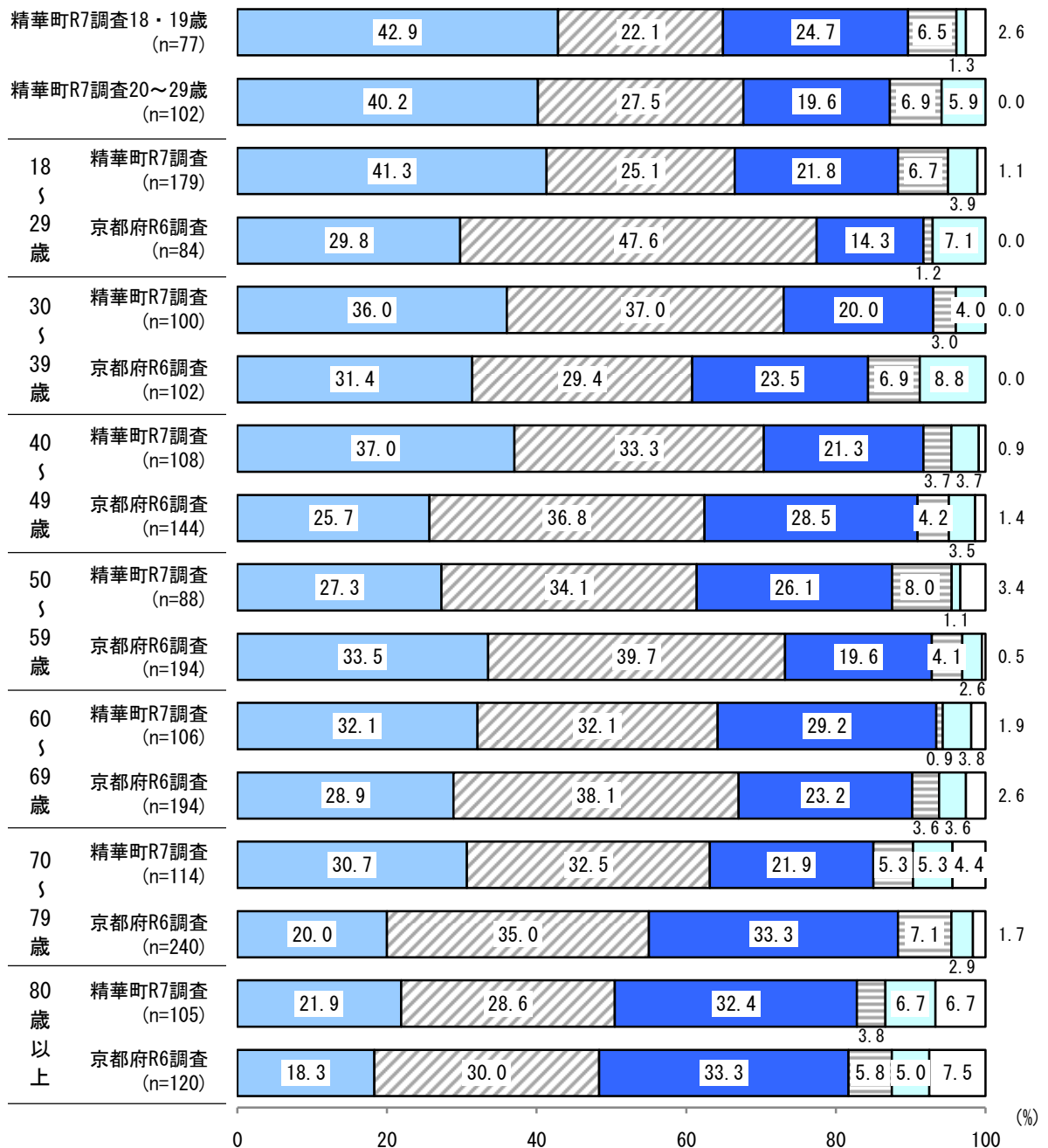
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は京都府R6調査の男性と比べて「そう思う」が6.1ポイント多く、精華町R7年女性は京都府R6調査の女性と比べて「そう思う」が10.2ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)の比較

年代別でみると、『そう思う』は、30～39歳が73.0%と最も多く、次いで40～49歳が70.3%、20～29歳が67.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、18～29歳の「どちらかといえばそう思う」が精華町R7調査では22.5ポイントと大幅に少なくなっている。



そう思う

 どちらかといえばそう思う

 どちらともいえない

 どちらかといえばそう思わない

 そう思わない

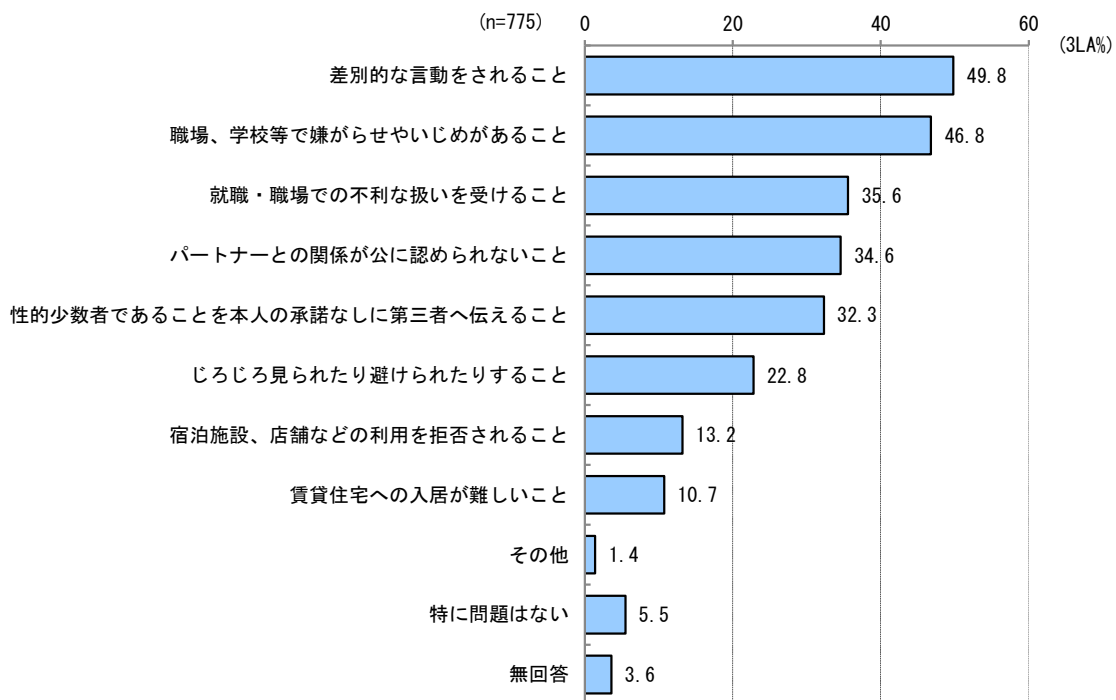
 無回答

11. LGBT等の人権について

問 11	あなたは、LGBT等の人権について、どのようなことが問題だと思いますか。 (○は特に問題と思われる番号を3つまで)
------	--

■全体傾向

LGBT等の人権の問題と思うことについて、「差別的な言動をされること」が49.8%と最も多く、次いで、「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」が46.8%、「就職・職場での不利な扱いを受けること」が35.6%となっている。



■性別比較

性別でみると、男性は「差別的な言動をされること」が47.6%と最も多く、次いで「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」が42.7%、「就職・職場での不利な扱いを受けること」36.2%となっている。女性は「差別的な言動をされること」「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」が51.1%と同値で最も多く、次いで「パートナーとの関係が公に認められないこと」が41.2%となっている。

男性と比べて女性は「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」が8.4ポイント、「パートナーとの関係が公に認められないこと」が13.3ポイント多くなっている。

(3LA%)

	こ と 差 別 的 な 言 動 を さ れ る	せ や い じ め が あ る こ と ら	扱 い を 受 け る こ と の 不 利 な	公 に 認 め ら れ な い 関 係 と が	パ ー ト ナ ー と の 関 係 と が	避 け ら れ た り す る こ と	第 三 者 へ の 承 諾 な し に な る こ と	性 的 少 数 者 と な る こ と	就 職 を 受 け る こ と の 不 利 な	難 し い 住 宅 へ の 入 居 が	利 用 を 拒 否 さ れ る こ と の	宿 泊 施 設 、 店 舗 な ど の	そ の 他	特 に 問 題 は な い	無 回 答
男性 (n=351)	47.6	42.7	36.2	27.9	30.5	22.5	15.4	12.0	1.7	8.3	4.0				
女性 (n=393)	51.1	51.1	35.6	41.2	34.4	23.9	11.7	9.9	1.3	2.8	3.3				
答えたくない (n=19)	52.6	42.1	42.1	26.3	36.8	0.0	0.0	5.3	0.0	15.8	0.0				
無回答 (n=12)	66.7	33.3	8.3	25.0	8.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	8.3				

■年代別比較

年代別でみると、18・19歳、30～39歳、60～69歳は「職場、学校等で嫌がらせやいじめがあること」、20～29歳、40～49歳以上は「差別的な言動をされること」が最も多くなっている。(60歳～69歳は同率)

(3LA%)

	せ や い じ め が あ る こ と ら	こ と 差 別 的 な 言 動 を さ れ る	公 に 認 め ら れ な い 関 係 と が	パ ー ト ナ ー と の 関 係 と が	避 け ら れ た り す る こ と	第 三 者 へ の 承 諾 な し に な る こ と	性 的 少 数 者 と な る こ と	就 職 を 受 け る こ と の 不 利 な	難 し い 住 宅 へ の 入 居 が	利 用 を 拒 否 さ れ る こ と の	宿 泊 施 設 、 店 舗 な ど の	そ の 他	特 に 問 題 は な い	無 回 答
18・19歳 (n=77)	54.5	46.8	37.7	22.1	22.1	16.9	10.4	6.5	2.6	3.9	10.4			
20～29歳 (n=102)	44.1	49.0	35.3	32.4	24.5	29.4	4.9	6.9	1.0	8.8	2.9			
30～39歳 (n=100)	56.0	55.0	32.0	22.0	30.0	36.0	10.0	9.0	0.0	6.0	5.0			
40～49歳 (n=108)	39.8	47.2	38.0	21.3	34.3	36.1	16.7	11.1	2.8	3.7	2.8			
50～59歳 (n=88)	40.9	47.7	36.4	17.0	35.2	44.3	5.7	10.2	0.0	3.4	5.7			
60～69歳 (n=106)	47.2	47.2	31.1	17.0	34.0	33.0	8.5	11.3	2.8	5.7	4.7			
70～79歳 (n=114)	39.5	50.0	36.0	19.3	35.1	41.2	6.1	12.3	1.8	2.6	8.8			
80歳以上 (n=105)	35.2	36.2	15.2	19.0	28.6	25.7	8.6	21.9	0.0	11.4	11.4			
無回答 (n=7)	42.9	57.1	14.3	42.9	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3			

(3) 人権侵害について

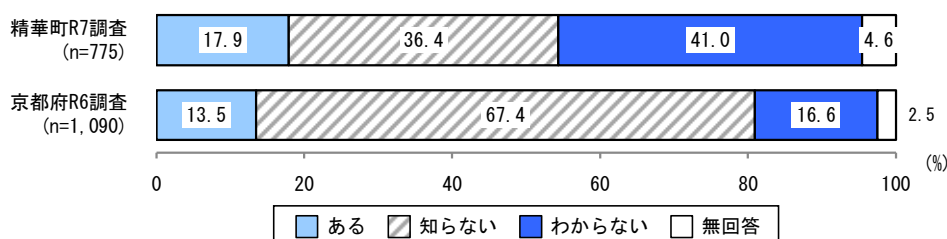
12. 人権侵害された経験

問 12	あなたは、過去5年間に自分の人権を侵害されたと感じたことがありますか。(○は1つ)
------	---

■京都府(全体)との比較

過去5年間に人権を侵害された経験について、「わからない」が41.0%と最も多く、次いで、「知らない」が36.4%、「ある」が17.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「わからない」が24.4ポイント多くなっている。



※「知らない」が京都府R6調査では「ない」。

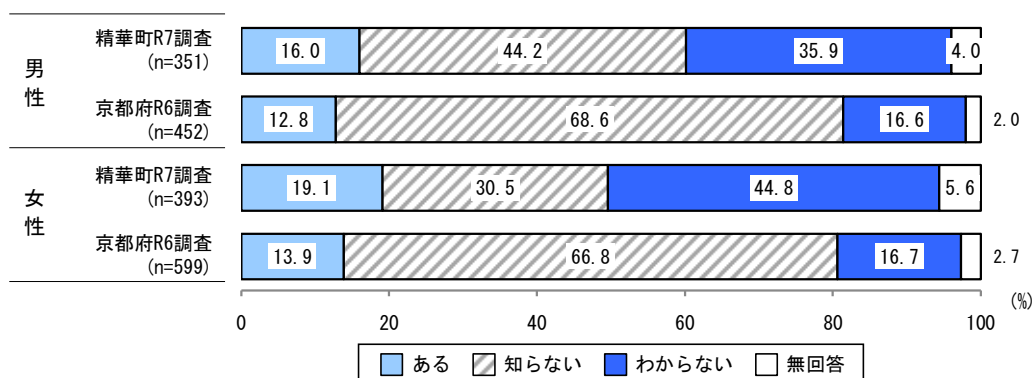
■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知らない」が44.2%と最も多く、次いで「わからない」が35.9%、「ある」が16.0%となっている。

女性は「わからない」が44.8%と最も多く、次いで「知らない」が30.5%、「ある」が19.1%となっている。

男性と比べて女性は「わからない」が8.9ポイント多くなっている。

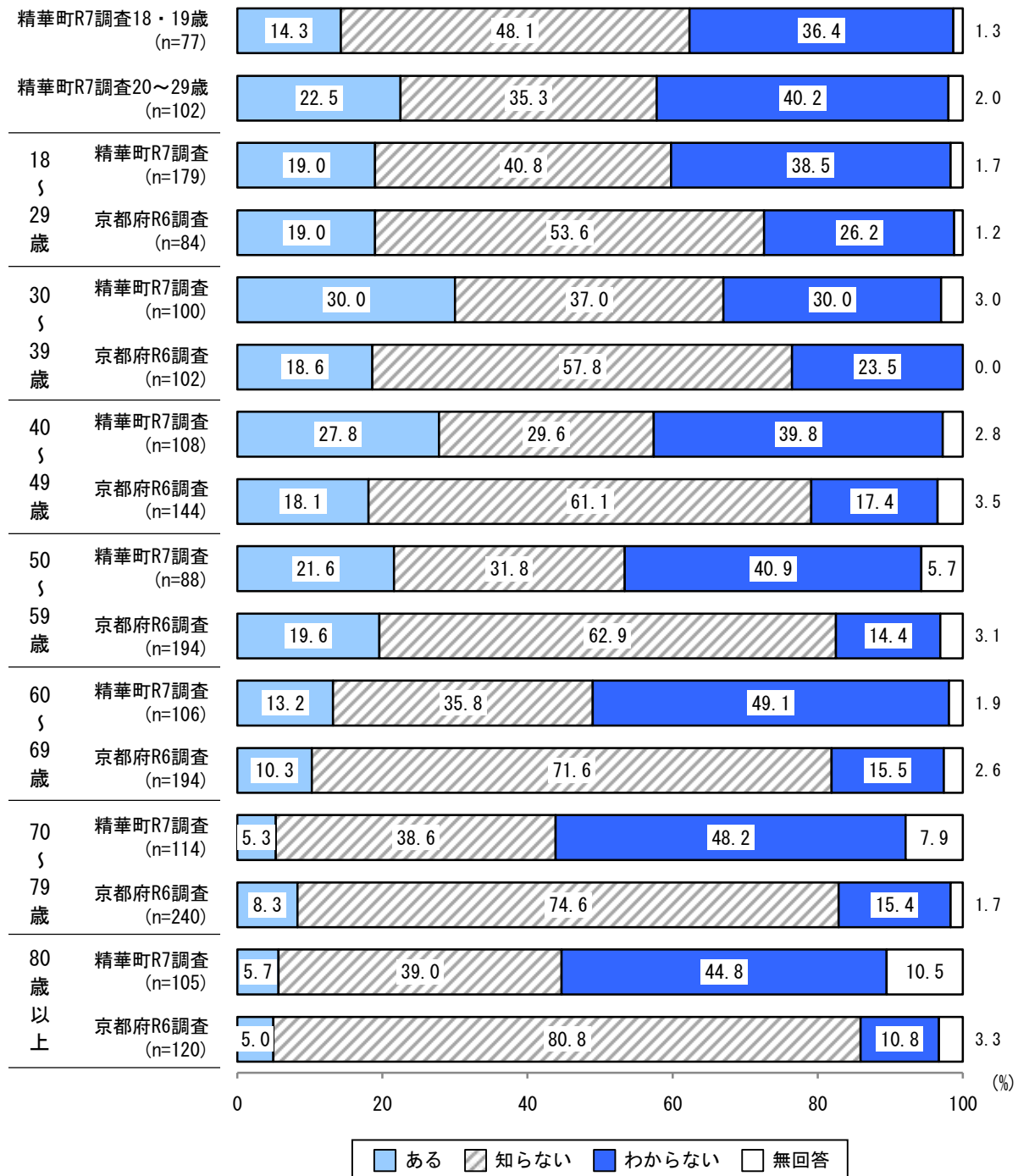
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「ある」が5.2ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、「ある」は、30～39歳が30.0%と最も多く、次いで40～49歳が27.8%、50～59歳が21.6%となっている。

京都府R6調査と比較すると、30～39歳と40～49歳での「ある」は精華町R7調査がおよそ10ポイント多くなっている。



13. 人権侵害の経験の内容

問 13	【問12で「1. ある」と回答した方は、問13、問14をお答えください。】 それは、どのような人権侵害でしたか。	(〇はいくつでも)
------	---	-----------

■京都府(全体)との比較

過去5年間に人権を侵害された経験がある人が、どのような人権侵害を受けたかについて、「うその噂や悪口による名誉・信用などの侵害」が61.9%と最も多く、次いで「パワーハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」が48.9%、「プライバシーの侵害」が20.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が17.7ポイント、「セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）」、「インターネット・SNS上の人権侵害」が10.5ポイント多くなっている。一方、「差別待遇（信条・性別・出身地・社会的地位・心身の障害によるものなど）」が9.6ポイント、「企業・団体による不当な扱い」が7.4ポイント、「家庭での暴力や虐待」が5.1ポイント少なくなっている。

	(※)			(※)		(※)		(※)			(※)		(MA%)	
	うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害	いじめや嫌がらせ	パワーハラスメント（職場で職務権限を通じて行う）	プライバシーの侵害	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）	インターネット・SNS上の人権侵害	企業・団体による不当な扱い	差別待遇（信条・性別・出身地・社会的地位・心身の障害によるものなど）	地域での暴力、脅迫、押し付け、仲間外れ	家庭での暴力や虐待	公的機関による不当な扱い	その他	わからない	無回答
精華町R7調査 (n=139)	61.9	48.9	20.9	18.7	17.3	13.7	9.4	5.8	5.8	5.0	7.2	0.0	0.7	
京都府R6調査 (n=147)	44.2	50.3	19.0	8.2	6.8	21.1	19.0	8.8	10.9	7.5	8.2	0.7	0.7	

※「うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」は京都府 R6 調査では「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」

※「インターネット・SNS 上の人権侵害」は京都府 R6 調査では「インターネットによる人権侵害」

※「地域での暴力、脅迫、押し付け、仲間外れ」は京都府 R6 調査では「地域での暴力、脅迫、無理強い、仲間外れ」

※精華町 R7 調査では、「わからない」の選択肢なし

■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性と女性ともに「うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が6割以上を占め最も多く、次いで「パワー・ハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」が約5割、男性は「インターネット・SNS上の人権侵害」が21.4%、女性は「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が26.7%となっている。

男性と比べて女性は「インターネット・SNS上の人権侵害」が5.4ポイント少なく、「セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）」が17.8ポイント、「パワー・ハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」が6.4ポイント多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」「インターネット・SNS上の人権侵害」が10ポイント以上多くなっている。

	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(MA%)		
	うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害	いじめや嫌がらせ	パワー・ハラスメント（職場等で職務権限を通じて行う）	インターネット・SNS上の人権侵害	プライバシーの侵害	企業・団体による不当な扱い	身障・障害によるものなど	差別・待遇（信条・性別・出身地・社会的地位・心身）	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	公的機関による不当な扱い	地域での暴力、脅迫、押し付け、仲間外れ	家庭での暴力や虐待	その他	わからない	無回答
精華町R7調査男性 (n=56)	66.1	42.9	21.4	19.6	10.7	8.9	8.9	7.1	7.1	7.1	5.4	0.0	0.0		
京都府R6調査男性 (n=58)	43.1	48.3	8.6	17.2	24.1	13.8	1.7	12.1	12.1	6.9	8.6	0.0	0.0		
精華町R7調査女性 (n=75)	62.7	49.3	16.0	24.0	14.7	9.3	26.7	2.7	5.3	5.3	9.3	0.0	1.3		
京都府R6調査女性 (n=83)	42.2	51.8	4.8	18.1	18.1	24.1	13.3	3.6	7.2	13.3	8.4	1.2	1.2		

■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、18・19歳から40～49歳、70～79歳以上は「うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」、50～59歳と60～69歳は「パワーハラスメント（職場等で職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）」が最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が50～59歳と30～39歳を除く各年代で10ポイント以上多くなっている。

また両調査ともに年代が下がるにつれて「インターネット・SNS上の人権侵害」が多くなる傾向がみられる。

	(※)	(※)			(※)							(※)	(MA%)	
	うその噂や悪口による、名誉・信用などの侵害	インターネット・SNS上の人権侵害	プライバシーの侵害	パワハラ（職務権限を通じて行ういじめや嫌がらせ）	セクシュアルハラスメント（性的嫌がらせ）	地域での暴力、脅迫、押し付け、仲間外れ	家庭での暴力や虐待	障身差別によるものなど	差別待遇（信条・性別・出身地・社会的地位・心身の出	い企業・団体による不当な扱い	公的機関による不当な扱い	その他	わからない	無回答
精華町R7調査18・19歳 (n=11)	81.8	63.6	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
精華町R7調査20～29歳 (n=23)	82.6	52.2	0.0	30.4	4.3	34.8	0.0	4.3	8.7	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0
精華町R7調査18～29歳 (n=34)	82.4	55.9	26.5	26.5	17.6	5.9	5.9	5.9	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0
京都府R6調査18～29歳 (n=16)	56.3	6.3	18.8	31.3	12.5	12.5	6.3	25.0	6.3	6.3	6.3	0.0	-	-
精華町R7調査30～39歳 (n=30)	66.7	10.0	26.7	60.0	30.0	3.3	16.7	6.7	16.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0
京都府R6調査30～39歳 (n=19)	63.2	15.8	5.3	52.6	10.5	15.8	0.0	15.8	31.6	5.3	10.5	0.0	-	-
精華町R7調査40～49歳 (n=30)	56.7	3.3	20.0	50.0	20.0	6.7	6.7	16.7	23.3	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0
京都府R6調査40～49歳 (n=26)	30.8	3.8	15.4	50.0	7.7	15.4	15.4	11.5	26.9	7.7	11.5	0.0	-	-
精華町R7調査50～59歳 (n=19)	31.6	0.0	5.3	63.2	10.5	5.3	5.3	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
京都府R6調査50～59歳 (n=38)	47.4	7.9	26.3	65.8	13.2	5.3	18.4	21.1	23.7	5.3	5.3	0.0	-	-
精華町R7調査60～69歳 (n=14)	42.9	7.1	21.4	64.3	7.1	7.1	0.0	7.1	14.3	7.1	7.1	0.0	0.0	7.1
京都府R6調査60～69歳 (n=20)	30.0	5.0	15.0	60.0	5.0	5.0	10.0	30.0	15.0	5.0	5.0	0.0	-	-
精華町R7調査70～79歳 (n=6)	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
京都府R6調査70～79歳 (n=20)	40.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	5.0	15.0	15.0	15.0	5.0	5.0	-	-
精華町R7調査80歳以上 (n=6)	66.7	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0
京都府R6調査80歳以上 (n=6)	50.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	-	-

14. 人権侵害への対応

問 14	【問12で「1. ある」と回答した方は、問13、問14をお答えください。】 人権侵害を受けたと感じた際、あなたはどのように対応されましたか。	(○はいくつでも)
------	---	-----------

■京都府(全体)との比較

過去5年間に人権を侵害された経験がある人が人権侵害を受けた際の対応について、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が39.6%と最も多く、次いで、「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が24.5%、「職場の相談窓口相談した」が20.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査は「職場の相談窓口相談した」が8.0ポイント多く、「何もしないでそのままにした」が12.0ポイント少なくなっている。

				(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(MA%)	
	家族や友人など信頼できる人に相談した	相手に対して注意したり、抗議した	職場の相談窓口相談した	警察等(人権相談窓口、警察等)に相談した	公的機関(法務局・府・精華町等)に相談した	弁護士等に相談した	NPO法人等の民間団体に相談した	その他	何もしないでそのままにした	わからない	無回答
精華町R7調査 (n=139)	39.6	24.5	20.9	12.2	5.0	0.7	9.4	30.9	0.0	0.7	
京都府R6調査 (n=147)	41.5	19.7	12.9	8.8	3.4	1.4	1.4	42.9	1.4	0.7	

- ※「公的機関(法務局・府・精華町等の人権相談窓口、警察等)に相談した」が京都府 R6 調査では「公的機関(法務局・府・市町村等の人権相談窓口、警察等)に相談した」
- ※「NPO法人等の民間団体に相談した」が京都府 R6 調査では「NPO法人等民間団体に相談した」
- ※「何もしないでそのままにした」が京都府 R6 調査では「なにもしないでそのままにした」
- ※精華町 R7 調査では、「わからない」の選択肢なし

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が30.4%と最も多く、次いで「家族や友人など信頼できる人に相談した」が26.8%、「職場の相談窓口相談した」が17.9%となっている。

女性は、「家族や友人など信頼できる人に相談した」が50.7%と最も多く、次いで、「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が22.7%、「職場の相談窓口相談した」が21.3%となっている。

男性と比較して女性は「家族や友人など信頼できる人に相談した」が23.9ポイント、「公的機関（法務局・府・精華町等の人権相談窓口、警察等）に相談した」が7.1ポイント多く、「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が7.7ポイント少なくなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は京都府R6調査の男性と比べて「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が9.7ポイント多くなっている。また精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「職場の相談窓口相談した」「公的機関（法務局・府・精華町等の人権相談窓口、警察等）に相談した」が5ポイント以上多くなっている。

				(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(MA%)
	相手に対して注意したり、侵害、抗議した	家族や友人など信頼できる人に相談した	職場の相談窓口相談した	公的機関（法務局・府・警察等）に相談した	弁護士等に相談した	NPO法人等の民間団体に相談した	その他	た何もしないでそのままにした	わからない	無回答
精華町R7調査男性 (n=56)	30.4	26.8	17.9	8.9	5.4	1.8	1.8	33.9	0.0	1.8
京都府R6調査男性 (n=58)	20.7	27.6	13.8	6.9	3.4	3.4	0.0	46.6	1.7	0.0
精華町R7調査女性 (n=75)	22.7	50.7	21.3	16.0	5.3	0.0	16.0	26.7	0.0	0.0
京都府R6調査女性 (n=83)	20.5	49.4	13.3	10.8	3.6	0.0	2.4	39.8	1.2	1.2

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、18・19歳から60～69歳は「家族や友人など信頼できる人に相談した」、70～79歳以上は「相手に対して人権侵害であるとして注意したり、抗議した」が最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、18～29歳から40～49歳までの「職場の相談窓口相談した」は精華町R7調査が京都府R6調査を大幅に上回っている。

				(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(MA%)
	人に家族や友人など信頼できる	相手として注意したり、抗議	職場の相談窓口相談した	公的機関(法務局・府・警	弁護士等に相談した	NPO法人等の民間団体に	その他	た	わからない	無回答
精華町R7調査18・19歳(n=11)	81.8	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	18.2	0.0	0.0
精華町R7調査20～29歳(n=23)	52.2	34.8	8.7	0.0	21.7	4.3	8.7	30.4	0.0	0.0
精華町R7調査18～29歳(n=34)	61.8	32.4	14.7	5.9	2.9	0.0	14.7	26.5	0.0	0.0
京都府R6調査18～29歳(n=16)	56.3	12.5	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0	37.5	0.0	-
精華町R7調査30～39歳(n=30)	43.3	26.7	40.0	10.0	0.0	0.0	6.7	26.7	0.0	0.0
京都府R6調査30～39歳(n=19)	21.1	21.1	15.8	0.0	5.3	0.0	0.0	57.9	0.0	-
精華町R7調査40～49歳(n=30)	33.3	20.0	16.7	26.7	13.3	3.3	10.0	23.3	0.0	0.0
京都府R6調査40～49歳(n=26)	46.2	15.4	3.8	7.7	0.0	3.8	0.0	50.0	0.0	-
精華町R7調査50～59歳(n=19)	26.3	10.5	21.1	10.5	5.3	0.0	5.3	47.4	0.0	0.0
京都府R6調査50～59歳(n=38)	50.0	21.1	18.4	13.2	2.6	0.0	2.6	42.1	0.0	-
精華町R7調査60～69歳(n=14)	28.6	14.3	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	42.9	0.0	0.0
京都府R6調査60～69歳(n=20)	35.0	30.0	25.0	5.0	5.0	5.0	5.0	40.0	0.0	-
精華町R7調査70～79歳(n=6)	33.3	50.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
京都府R6調査70～79歳(n=20)	35.0	20.0	10.0	15.0	0.0	0.0	0.0	35.0	5.0	-
精華町R7調査80歳以上(n=6)	33.3	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7
京都府R6調査80歳以上(n=6)	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	-

※京都府R6調査と比較では無回答の数値なし

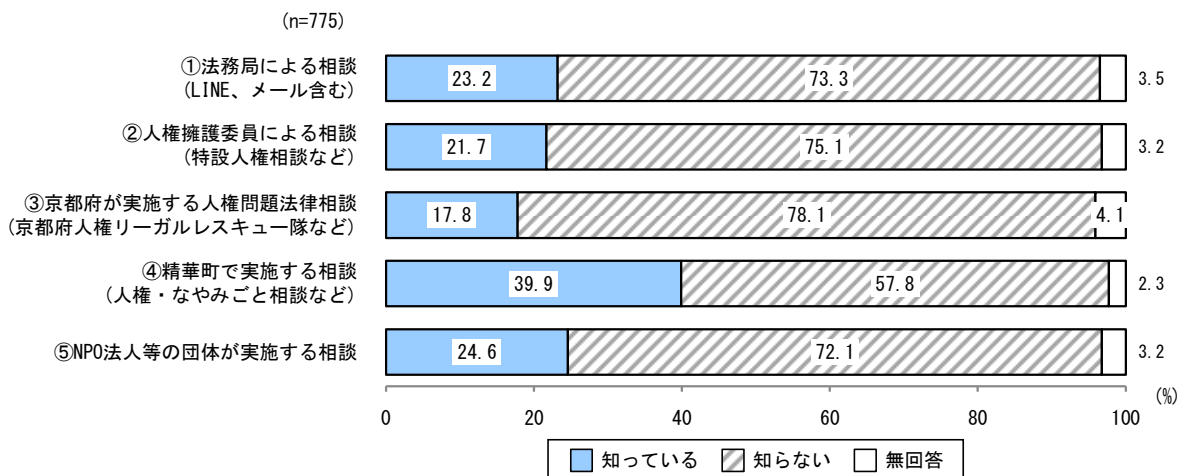
【すべての方にお聞きします。】

15. 人権相談窓口について

問 15	あなたは、人権に関する事柄で悩んだときなどの対応のため、国(法務局や人権擁護委員)及び 地方自治体(京都府や精華町)が設置している人権相談窓口を知っていますか。 (〇はそれぞれ1つずつ)
------	---

■全体傾向

人権相談窓口の認知度について「知っている」が最も多いのは、「④精華町で実施する相談(人権・なやみごとと相談)など」が39.9%と最も多く、次いで「⑤NPO法人等の団体が実施する相談」が24.6%、「①法務局による相談(LINE、メール含む)」が23.2%となっている。

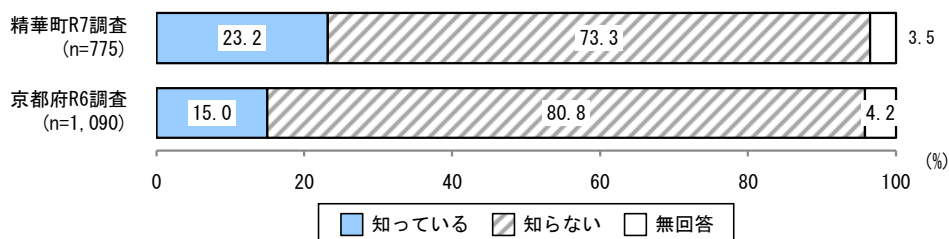


※④「精華町で実施する相談」が京都府R6調査では「市町村が実施する相談」

【①法務局による相談】

■京都府(全体)との比較

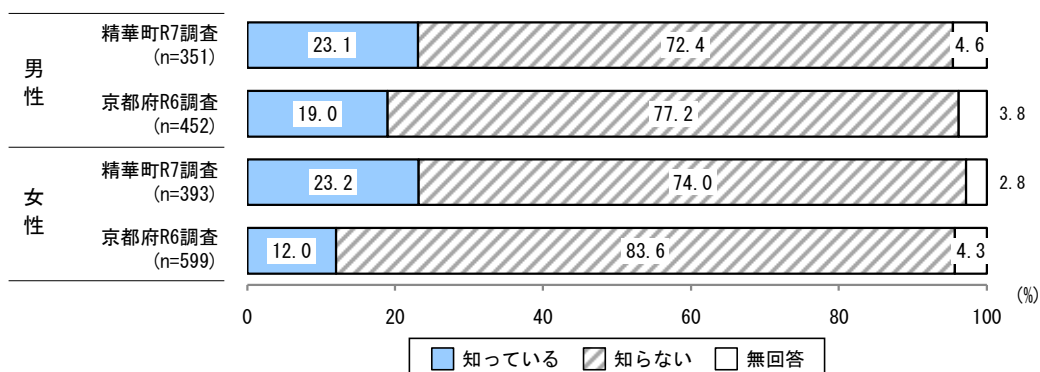
法務局による相談の認知度は、「知っている」が23.2%、「知らない」が73.3%となっている。
京都府R6調査と比較すると、「知っている」が8.2ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知っている」が23.1%、女性は23.2%となっている。

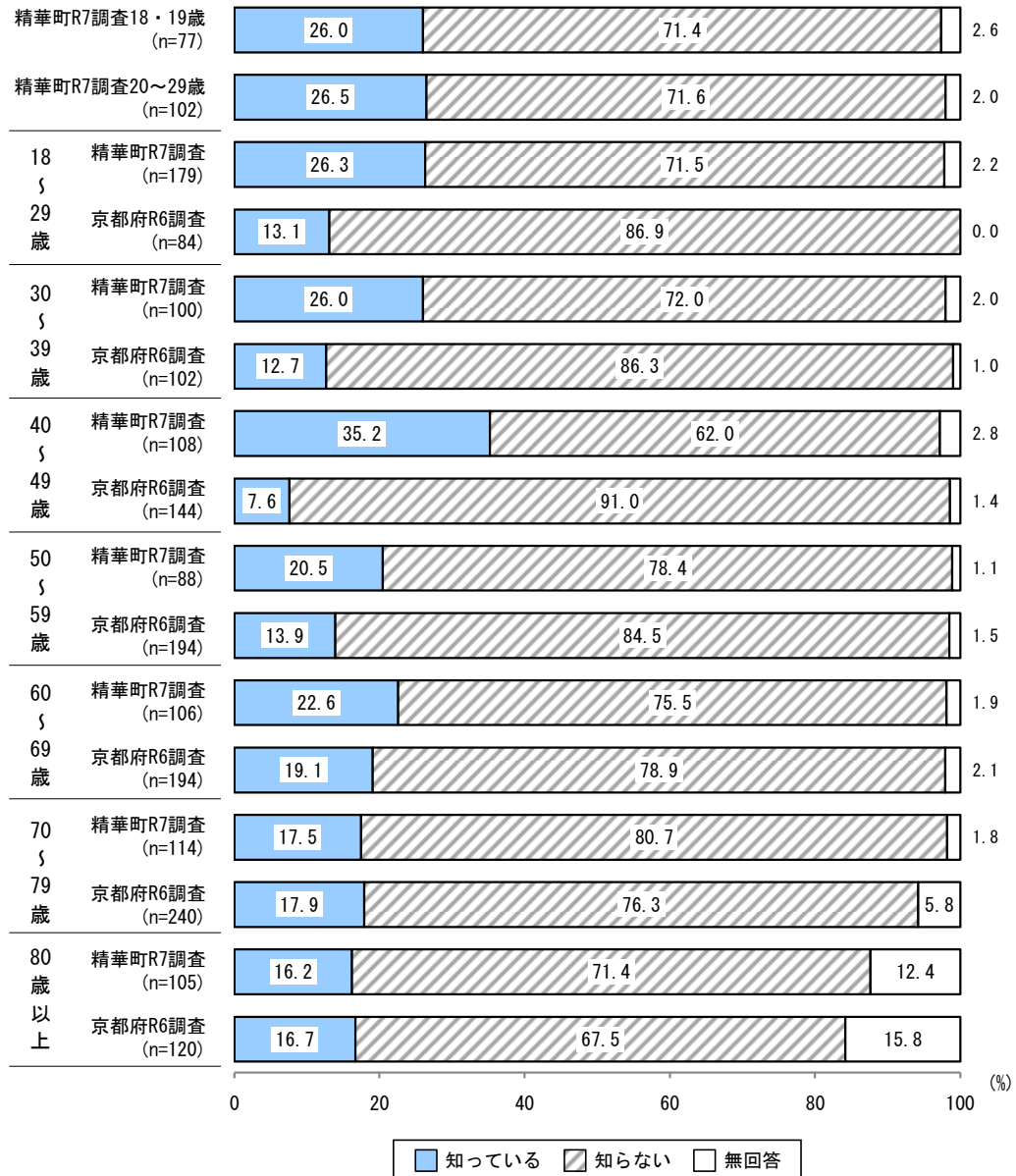
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「知っている」が11.2ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、「知っている」は、40～49歳が35.2%と最も多く、次いで20～29歳が26.5%、18・19歳と30～39歳が同率で26.0%となっている。

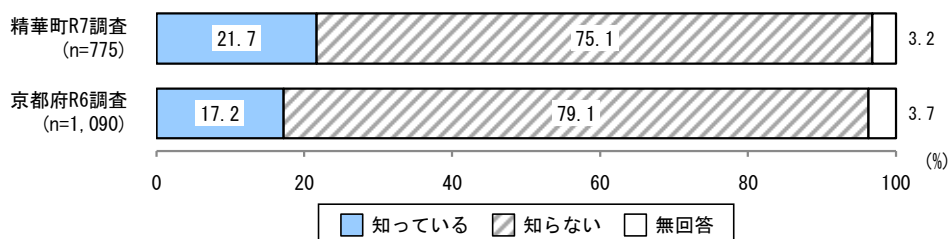
京都府R6調査と比較すると、京都府R6調査は年代が下がるにつれて「知っている」が少なくなり、精華町R7調査は年代が下がるにつれて「知っている」が多くなる傾向がみられる。



【②人権擁護委員による相談】

■京都府(全体)との比較

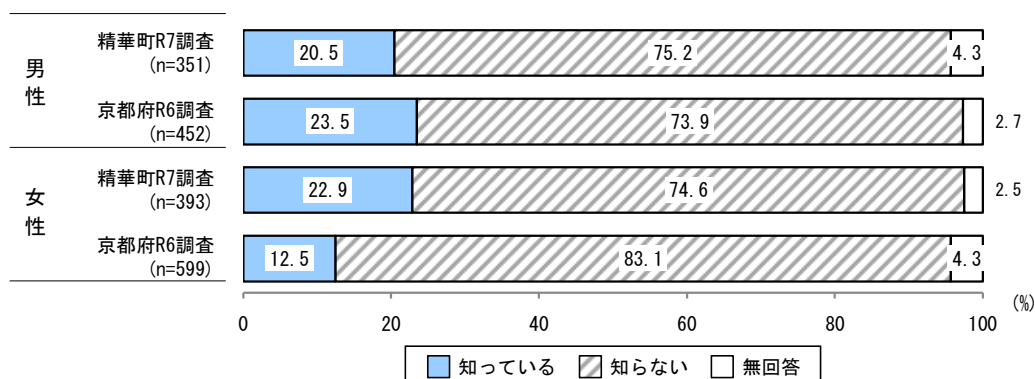
人権擁護委員による相談の認知度は、「知っている」が21.7%、「知らない」が75.1%となっている。京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知っている」が20.5%、女性は22.9%となっている。

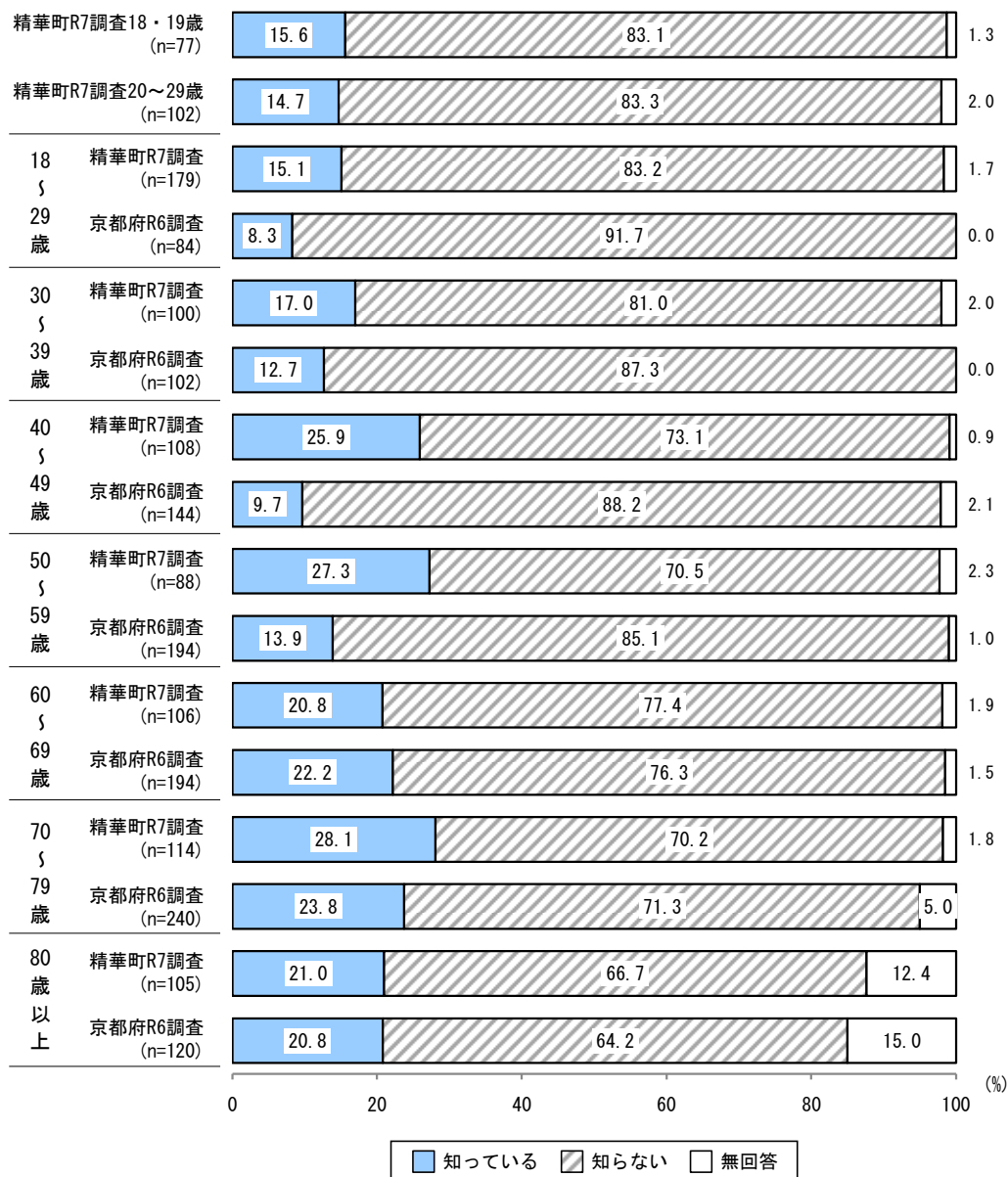
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「知っている」が10.4ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、「知っている」は、70～79歳が28.1%と最も多く、次いで50～59歳が27.3%、40～49歳が25.9%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では「知っている」が18～29歳では6.8ポイント、40～49歳と50～59歳では10ポイント以上多くなっている。

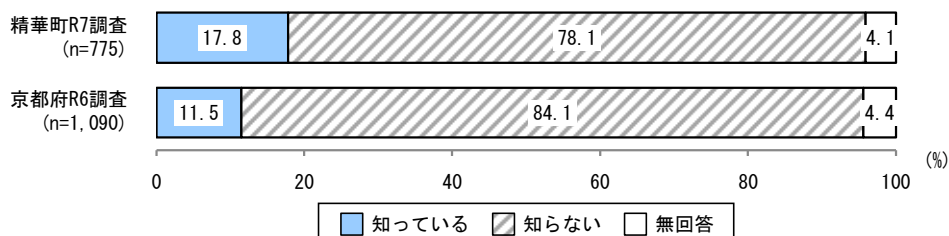


【③京都府が実施する人権問題法律相談（京都府人権リーガルレスキュー隊）】

■京都府(全体)との比較

京都府が実施する人権問題法律相談の認知度は「知っている」が17.8%、「知らない」が78.1%となっている。

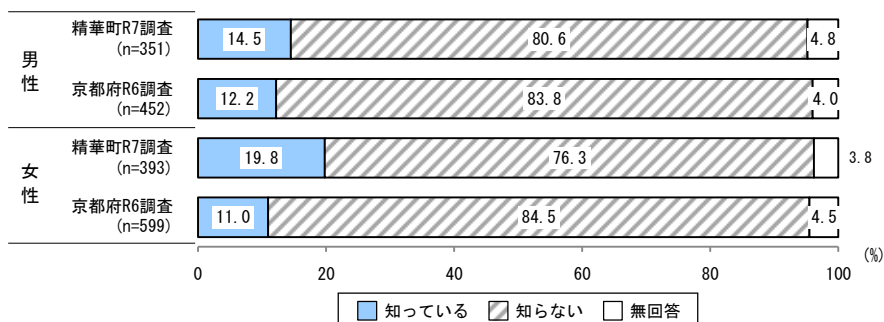
京都府R6調査と比較すると、「知っている」が6.3ポイント多くなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知っている」が14.5%、女性は19.8%となっており、女性が5.3ポイント多くなっている。

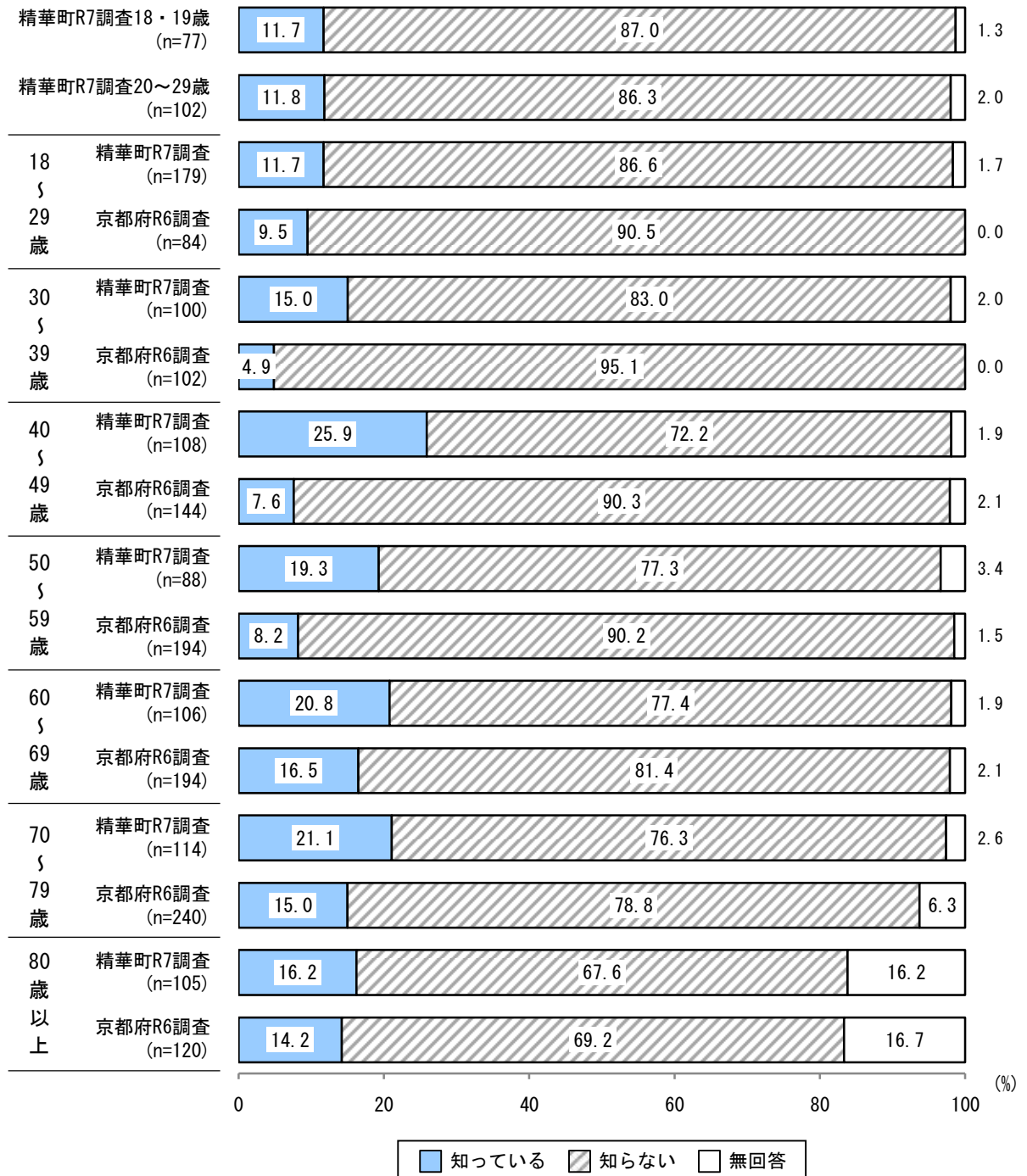
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「知っている」が8.8ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、「知っている」は、40～49歳が25.9%と最も多く、次いで70～79歳が21.1%、60～69歳が20.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「知っている」はいずれの年代でも精華町R7調査が多くなっている。

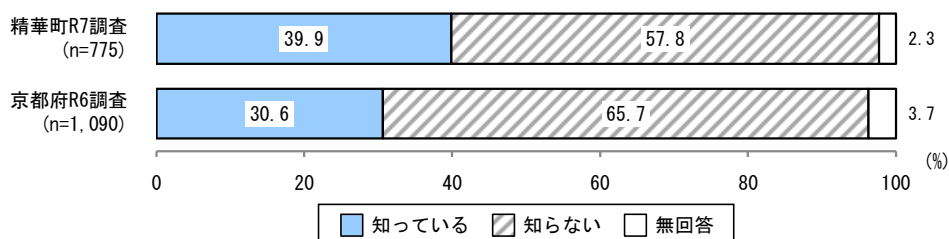


【④精華町で実施する相談】

■京都府(全体)との比較

「知っている」が39.9%、「知らない」が57.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「知っている」が9.3ポイント多くなっている。

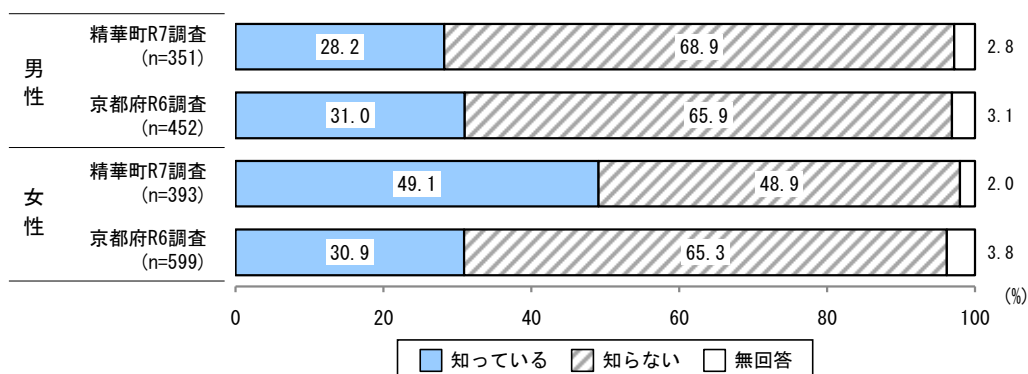


※④「精華町で実施する相談」が京都府R6調査では「市町村が実施する相談」

■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「知っている」が28.2%、女性は49.1%となっている。

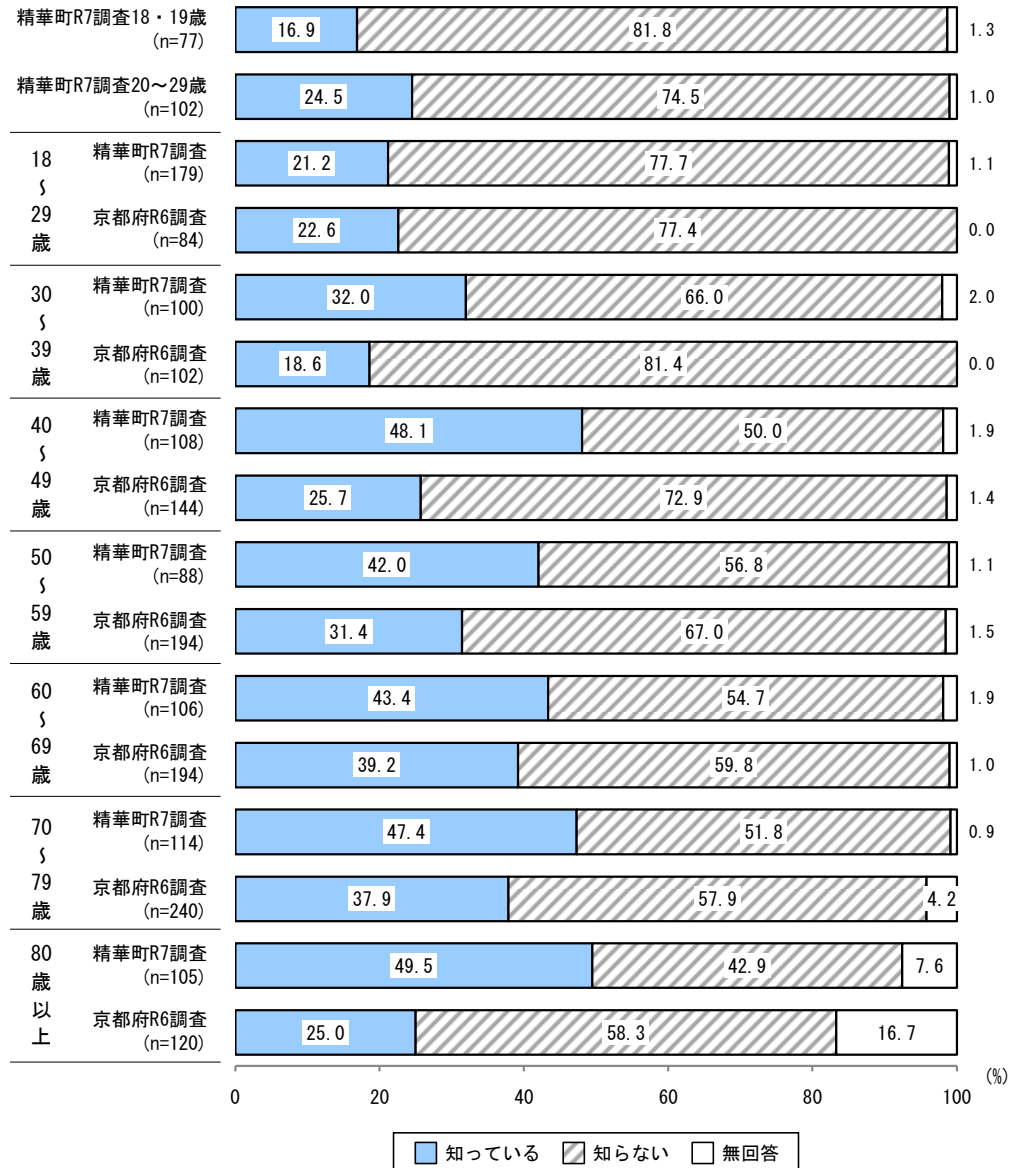
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「知っている」が18.2ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、「知っている」は、80歳以上が49.5%と最も多く、次いで40～49歳が48.1%、70～79歳が47.4%となっている。

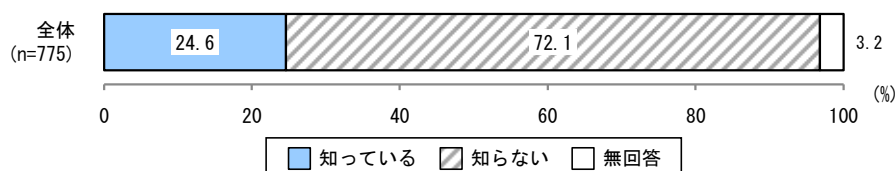
京都府R6調査と比較すると、18～29歳を除く各年代で「知っている」は精華町R7調査が多くなっている。



【⑤NPO 法人等の団体が実施する相談】

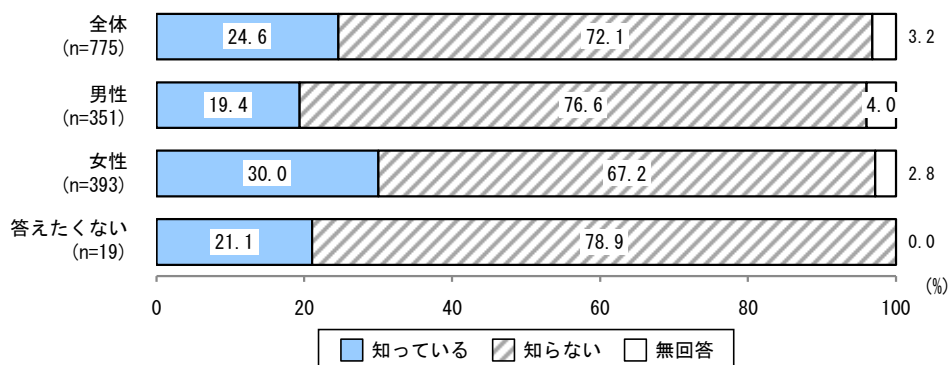
■全体傾向

NPO 法人等の団体が実施する相談の認知度は、「知っている」が 24.6%、「知らない」が 72.1%となっている。



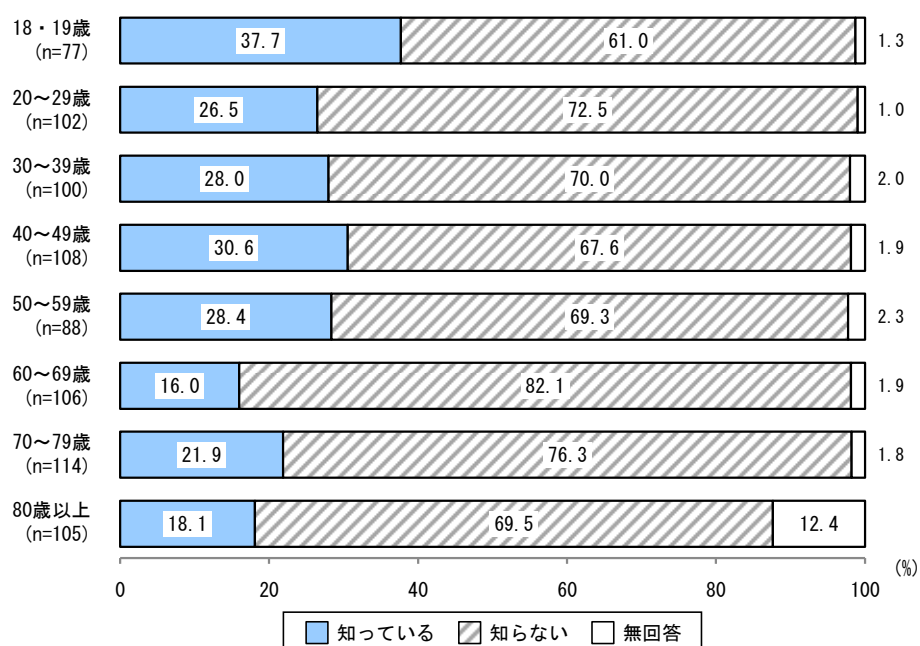
■性別比較

性別で見ると、男性は「知っている」が 19.4%、女性は 30.0%となっており、女性が 10.6 ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別で見ると、「知っている」が、18・19 歳が 37.7%と最も多く、次いで 40～49 歳が 30.6%、50～59 歳が 28.4%となっている。



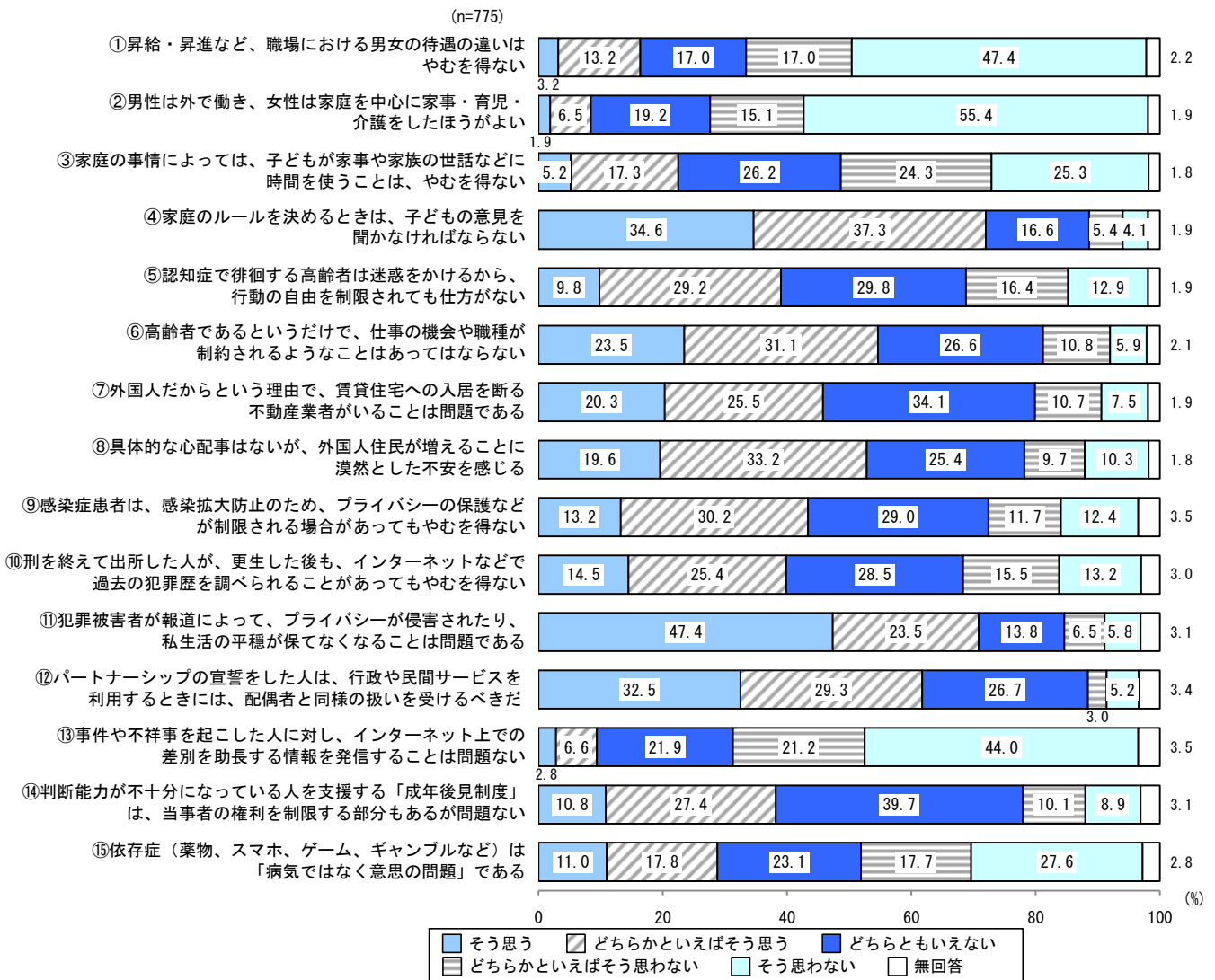
(4) 差別や人権侵害などに関する考え方や認識について

16. 身近な人権問題に関する考え方

問 16	人権の尊重や侵害については、人によっていろいろと考え方の違いがあります。あなたのお考えにもっとも近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)
------	---

■全体傾向

身近な人権問題に関する考え方について、『そう思う』割合は、「④家庭のルールを決めるときは、子どもの意見を聞かなければならない」が最も多く、次いで「⑪犯罪被害者が報道によって、プライバシーが侵害されたり、私生活の平穏が保てなくなることは問題である」「⑫パートナーシップの宣誓をした人は、行政や民間サービスを利用するときには、配偶者と同様の扱いを受けるべきだ」となっている。一方、『そう思わない』割合は「②男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児・介護をしたほうがよい」が最も多く、次いで「⑬事件や不祥事を起こした人に対し、インターネット上での差別を助長する情報を発信することは問題ない」「①昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ない」となっている。

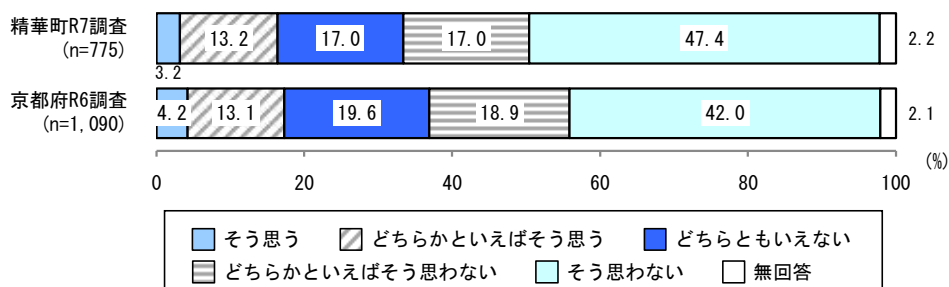


【①昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ない】

■京都府(全体)との比較

昇給・昇進など、職場における男女の待遇の違いはやむを得ないという考え方について、「そう思わない」が47.4%と最も多く、『そう思う』が16.4%、『そう思わない』が64.4%となっている。

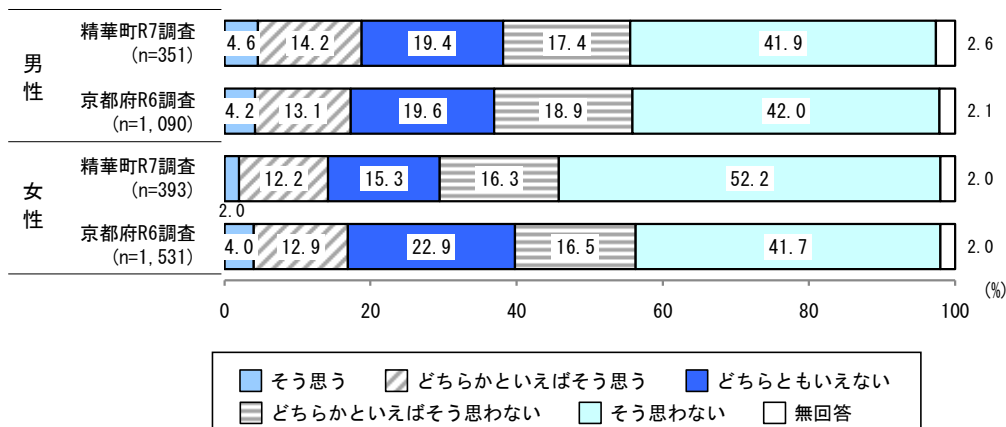
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「そう思わない」が41.9%と最も多く、『そう思う』が18.8%、『そう思わない』が59.3%となっている。女性も「そう思わない」が52.2%と最も多く、『そう思う』が14.2%、『そう思わない』が68.5%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「そう思わない」が10.5ポイント多くなっている。

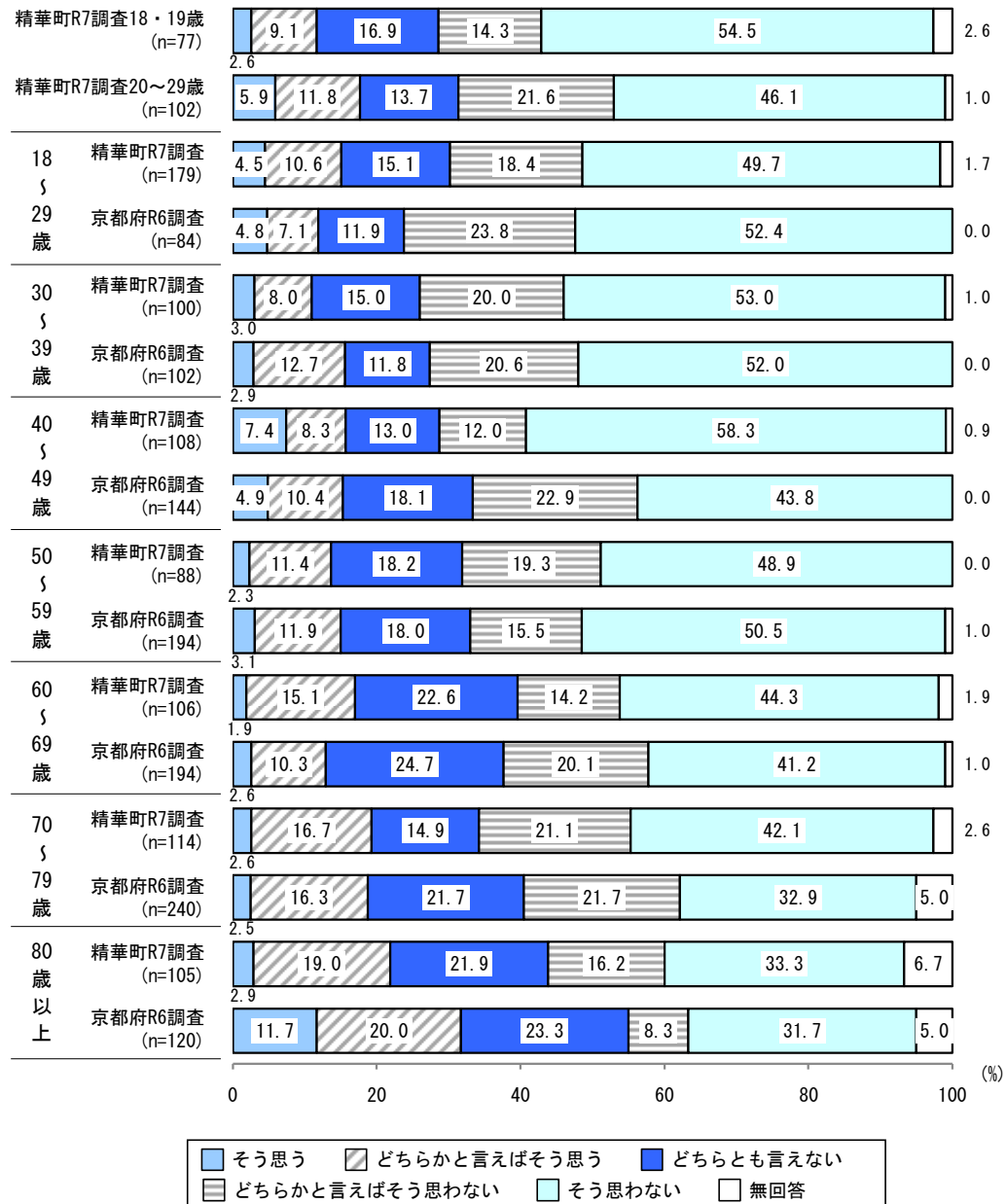


■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、80歳以上が21.9%と最も多く、次いで70～79歳が19.3%、20～29歳は17.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の80歳以上は京都府R6調査と比べ「そう思う」が8.8ポイント少なくなっている。また40～49歳は京都府R6調査と比べ「そう思わない」が14.5ポイント少なくなっている。

両調査ともに年代が上がるにつれて『そう思う』が概ね多くなる傾向がみられる。

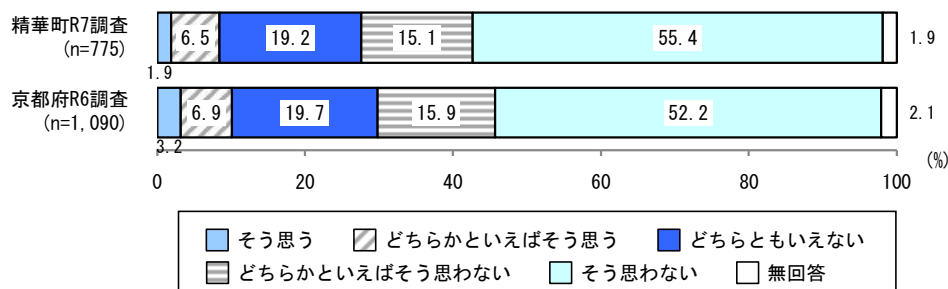


【②男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児・介護をしたほうがよい】

■京都府(全体)との比較

男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児・介護をしたほうがよいという考え方について、「そう思わない」が55.4%と最も多く、『そう思う』が8.4%、『そう思わない』が70.5%となっている。

京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。

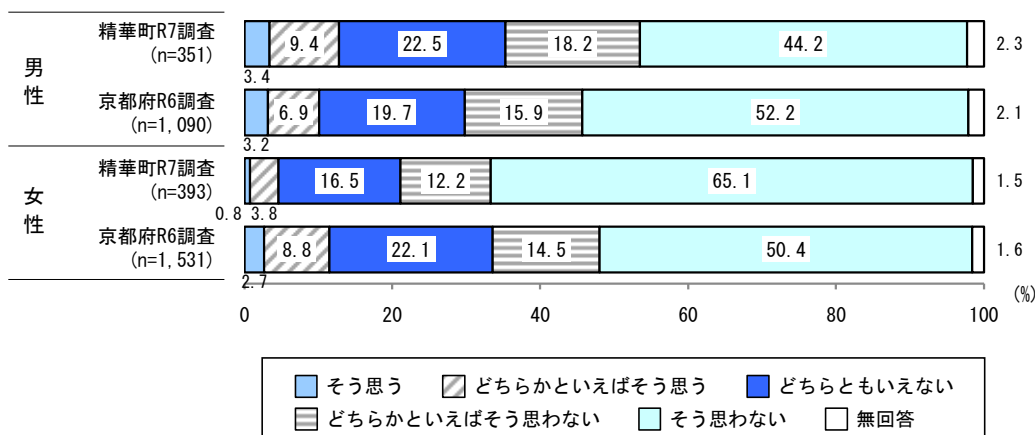


■京都府(性別)との比較

男性は「そう思わない」が44.2%と最も多く、『そう思う』が12.8%、『そう思わない』が62.4%となっている。女性も「そう思わない」が65.1%と最も多く、『そう思う』が4.6%、『そう思わない』が77.3%となっている。

性別で見ると、男性と比べて女性は「そう思わない」が20.9ポイント多くなっている

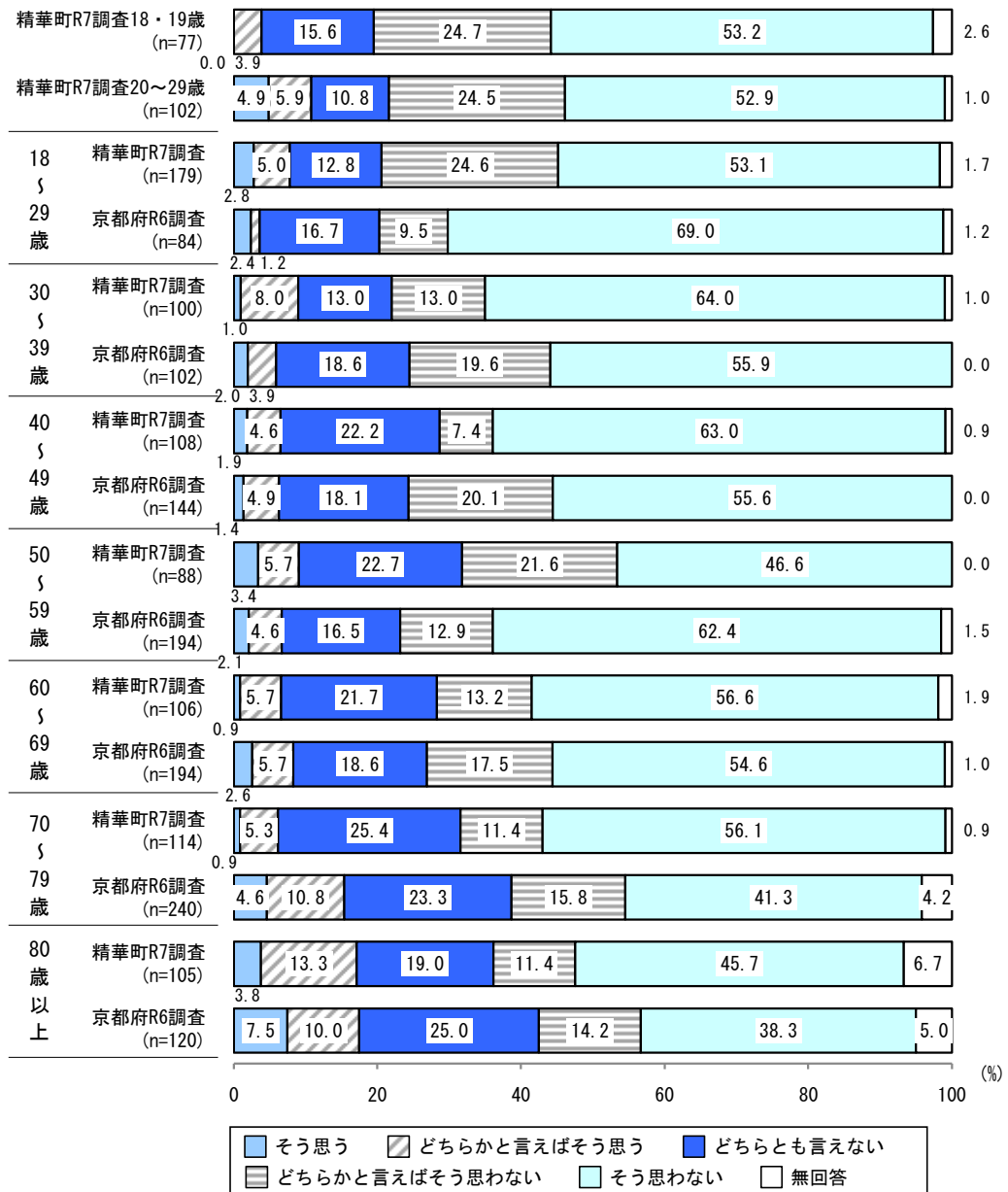
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の男性は京都府R6調査の男性と比べて「そう思わない」が8.0ポイント少なく、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「そう思わない」が14.7ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、80歳以上が17.1%と最も多く、次いで20~29歳が10.8%、50~59歳が9.1%となっている。

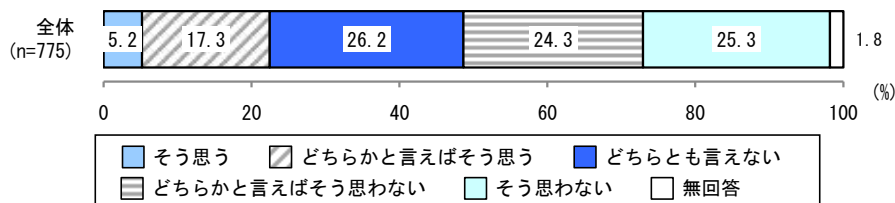
京都府R6調査と比較すると、両調査ともに年代が下がるにつれて「そう思わない」が多くなっている。



【③家族の事情によっては、子どもが家事や家族の世話などに時間を使うことは、やむを得ない】

■全体傾向

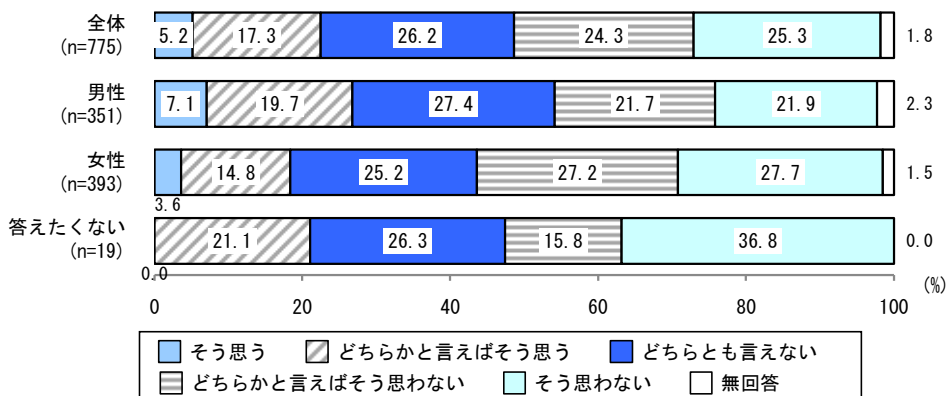
家族の事情によっては、子どもが家事や家族の世話などに時間を使うことは、やむを得ないという考え方について、「どちらともいえない」が26.2%と最も多く、『そう思う』は22.5%、『そう思わない』は49.6%となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「どちらともいえない」が27.4%で最も多く、『そう思う』が26.8%、『そう思わない』が49.1%となっている。女性は「そう思わない」が27.7%と最も多く、『そう思う』が18.4%、『そう思わない』が54.9%となっている。

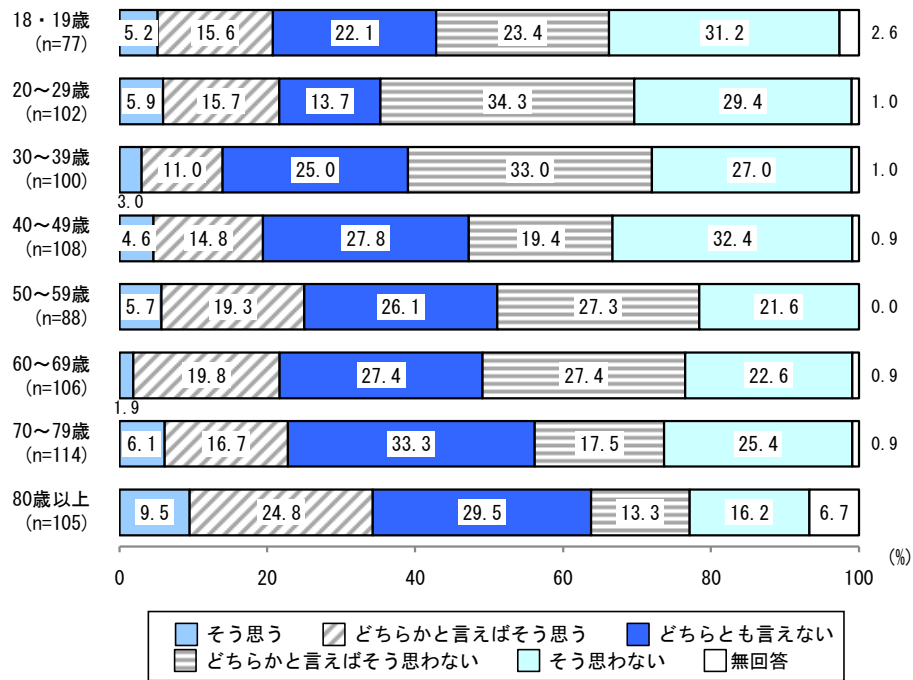
男性と比べて女性は「どちらかといえばそう思わない」が5.5ポイント、「そう思わない」が5.8ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別で見ると、『そう思う』は、80歳以上が34.3%と最も多く、次いで50～59歳が25.0%、70～79歳が22.8%となっている。

年代が上がるにつれて『そう思わない』が少なくなっている。

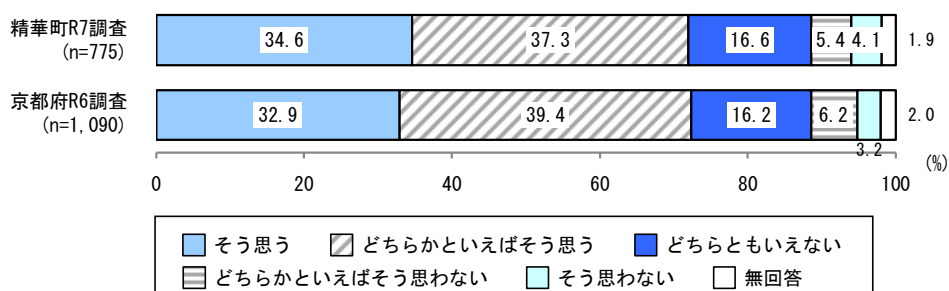


【④家庭のルールを決めるときは、子どもの意見を聞かなければならない】

■京都府(全体)との比較

家庭のルールを決めるときは、子どもの意見を聞かなければならないという考え方について、「どちらかといえばそう思う」が37.3%と最も多く、『そう思う』が71.9%、『そう思わない』が9.5%となっている。

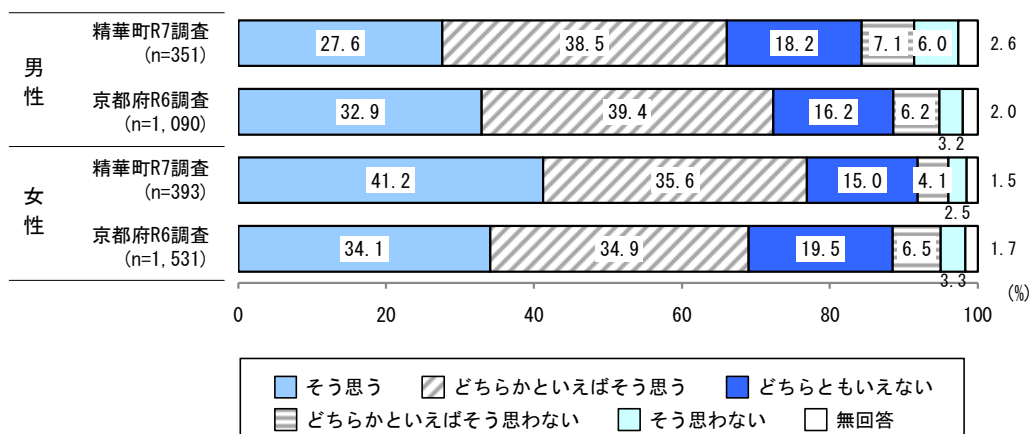
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」が38.5%と最も多く、『そう思う』が66.1%、『そう思わない』が13.1%となっている。女性は「そう思う」が41.2%と最も多く、『そう思う』が76.8%、『そう思わない』が6.6%となっている。男性と比べて女性は「そう思う」が13.6ポイント多くなっている。

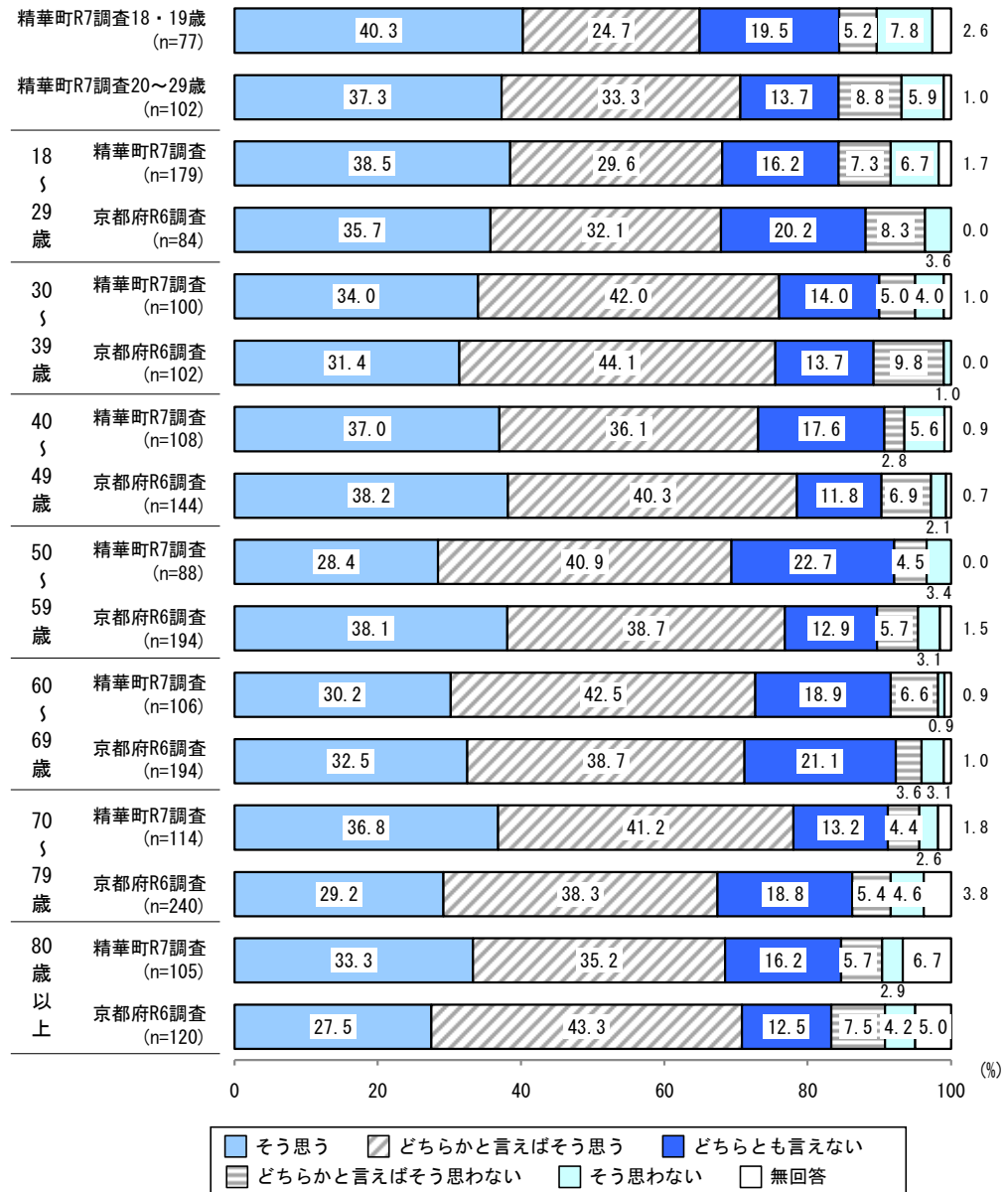
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「そう思う」が7.1ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『そう思う』は、70～79歳が78.0%と最も多く、次いで30～39歳が76.0%、40～49歳が73.1%となっている。

京都府R6調査と比較すると、70～79歳での「そう思う」は精華町R7調査が7.6ポイント多くなっている。

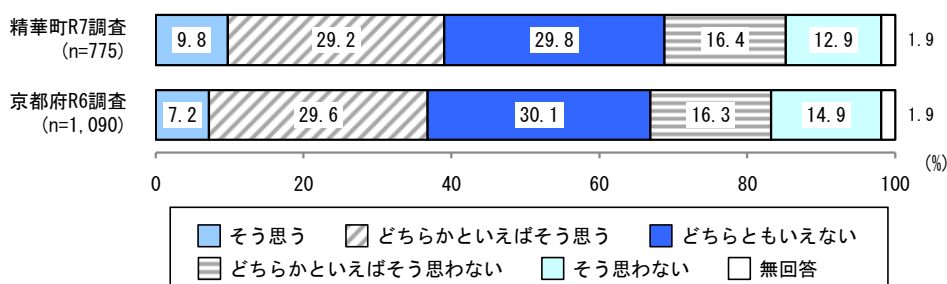


【⑤認知症で徘徊する高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由を制限されても仕方がない】

■京都府(全体)との比較

認知症で徘徊する高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由を制限されても仕方がないという考え方について、「どちらかともいえない」が29.8%と最も多く、『そう思う』が39.0%、『そう思わない』が29.3%となっている。

京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。

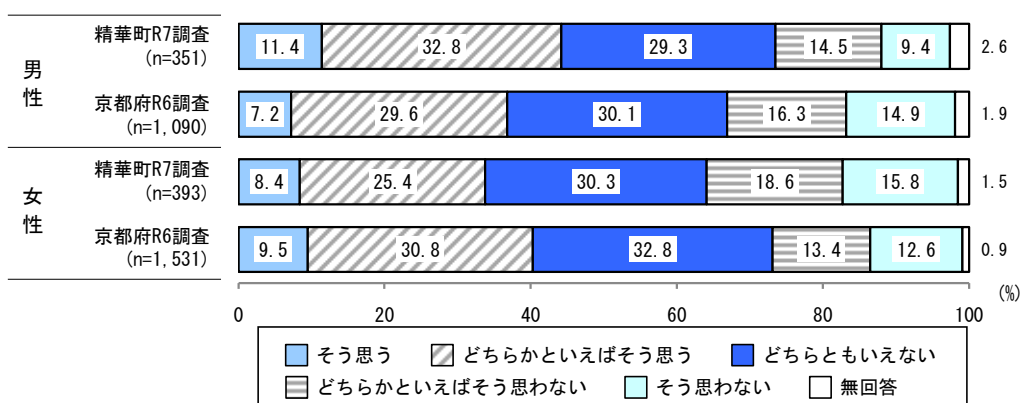


■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」が32.8%と最も多く、『そう思う』が44.2%、『そう思わない』が23.9%となっている。女性は「どちらともいえない」が30.3%と最も多く、『そう思う』が33.8%、『そう思わない』が34.4%となっている。

男性と比べて女性は「どちらかといえばそう思う」が7.4ポイント少なく、「そう思わない」が6.4ポイント多くなっている。

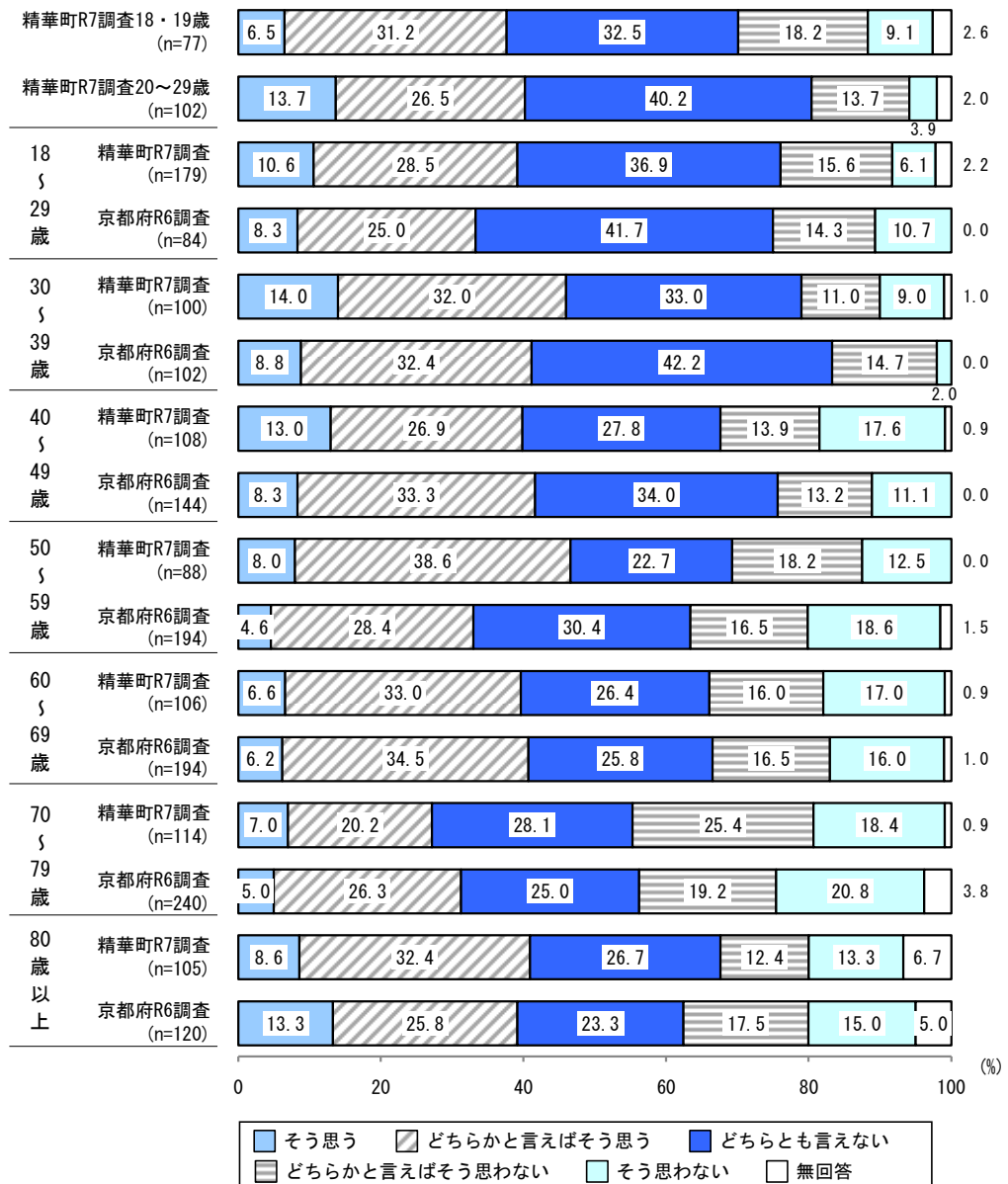
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「どちらかといえばそう思う」が5.4ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、50～59歳が46.6%と最も多く、次いで30～39歳が46.0%、80歳以上が41.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の50～59歳は京都府R6調査と比べて「どちらかといえばそう思う」が10.2ポイント多くなっている。

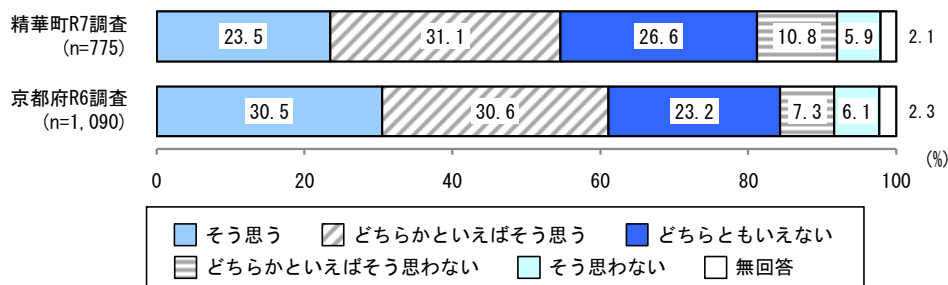


【⑥高齢者であるというだけで、仕事の機会や職種が制約されるようなことはあってはならない】

■京都府(全体)との比較

高齢者であるというだけで、仕事の機会や職種が制約されるようなことはあってはならないという考え方について、「どちらかといえばそう思う」が31.1%と最も多く、『そう思う』が54.6%、『そう思わない』が16.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「そう思う」が7.0ポイント少なくなっている。

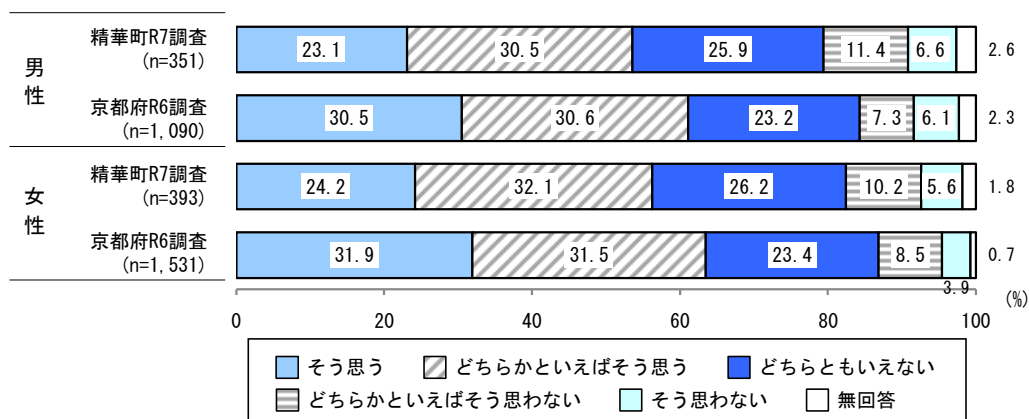


■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」が30.5%と最も多く、『そう思う』が53.6%、『そう思わない』が18.0%となっている。

女性も「どちらかといえばそう思う」が32.1%と最も多く、『そう思う』が56.3%、『そう思わない』が15.8%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。

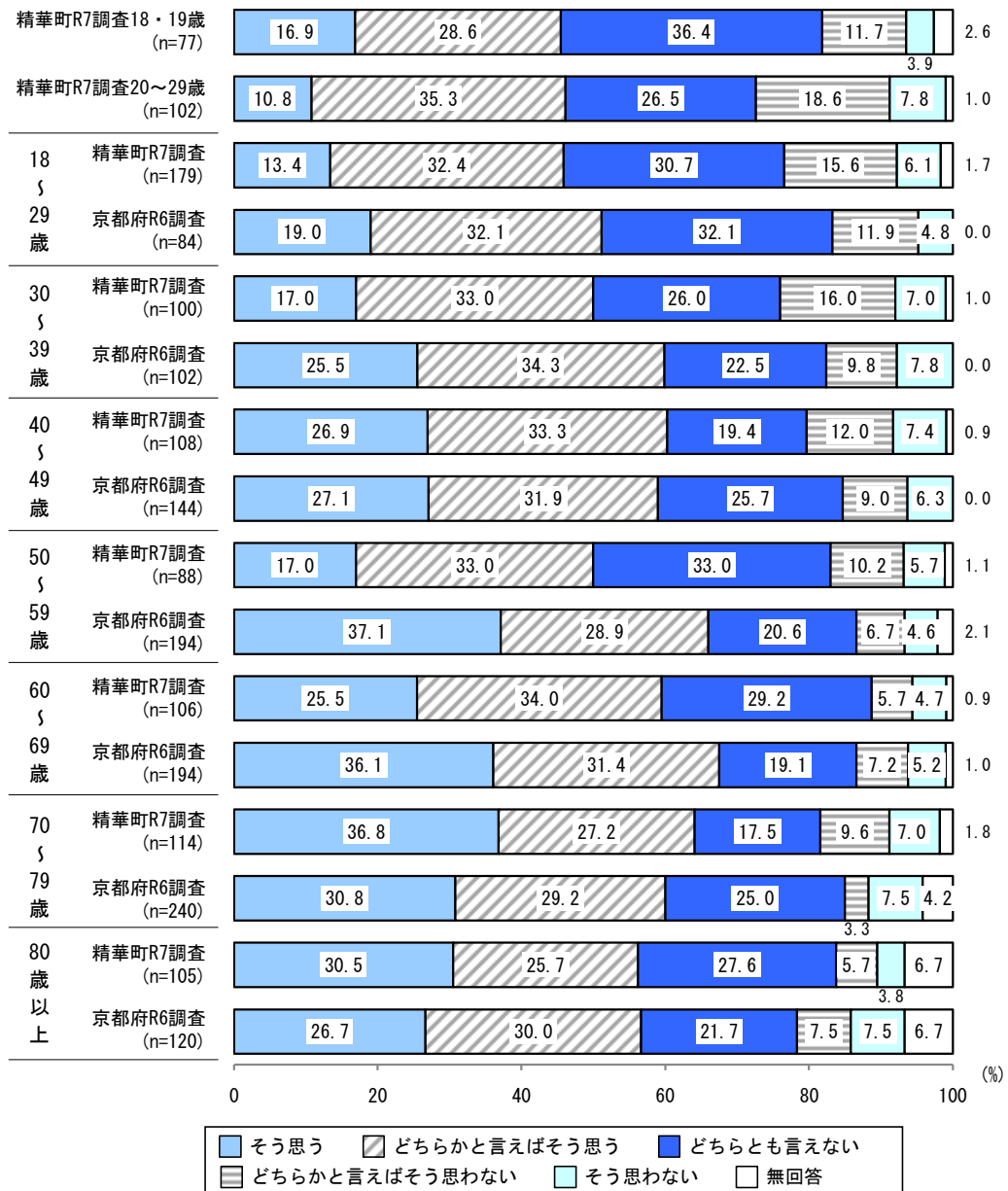
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「そう思う」が5ポイント以上少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、70～79歳が64.0%と最も多く、次いで40～49歳が60.2%、60～69歳が59.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、18～29歳、50～59歳、60～69歳での「そう思う」は精華町R7調査が5ポイント以上少なくなっている。

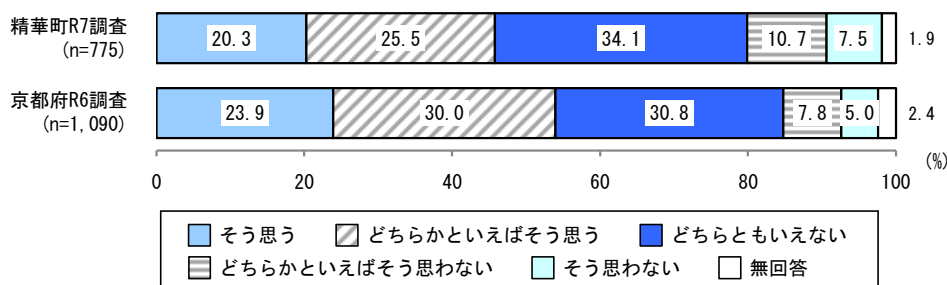


【⑦外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断る不動産業者がいることは問題である】

■京都府(全体)との比較

外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断る不動産業者がいることは問題であるという考え方について、「どちらともいえない」が34.1%と最も多く、『そう思う』が45.8%、『そう思わない』が18.2%となっている。

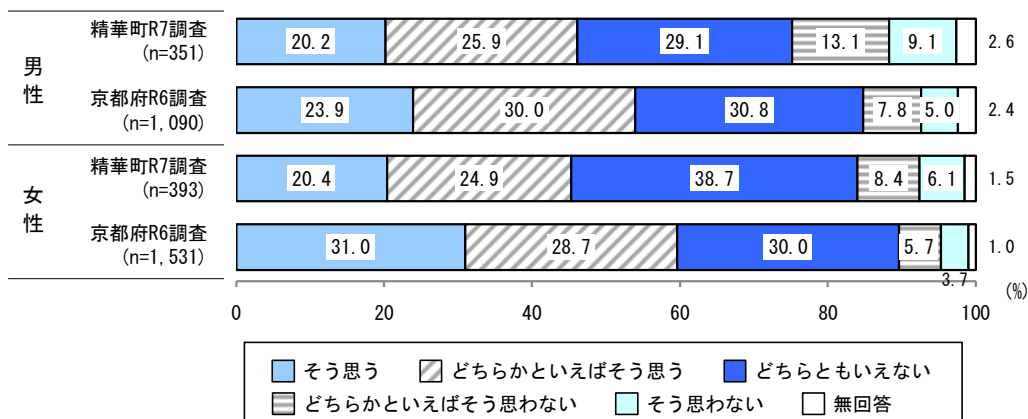
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらともいえない」が29.1%と最も多く、『そう思う』が46.1%、『そう思わない』が22.2%となっている。女性も「どちらともいえない」が38.7%と最も多く、『そう思う』が45.3%、『そう思わない』が14.5%となっており、男性と比べて女性は「どちらともいえない」が9.6ポイント多くなっている。

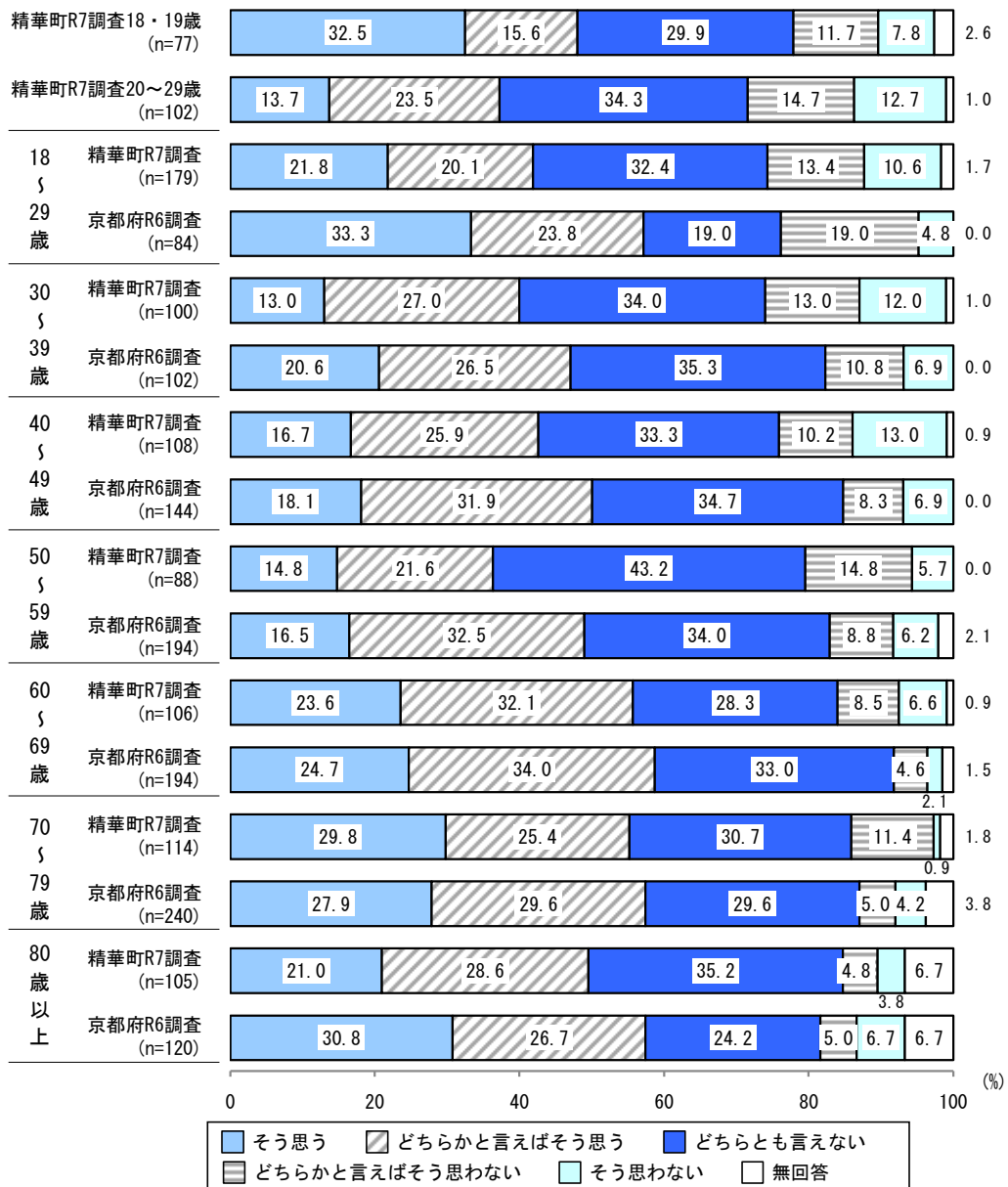
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「そう思う」が10.6ポイント少なく、「どちらともいえない」が8.7ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、60～69歳が55.7%と最も多く、次いで70～79歳が55.2%、80歳以上が49.6%となっている。

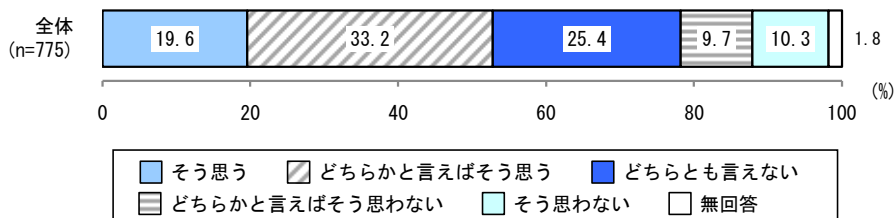
京都府R6調査と比較すると、70～79歳を除くいずれの年代でも『そう思う』は精華町R7調査が少なくなっている。



【⑧具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じる】

■全体傾向

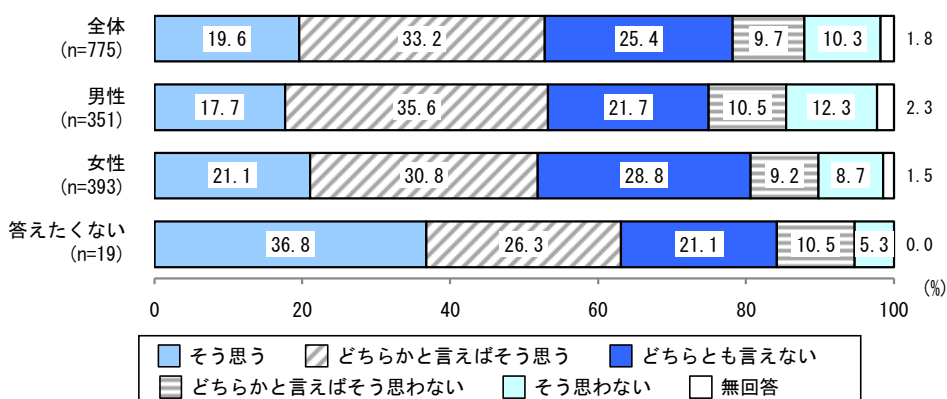
具体的な心配事はないが、外国人住民が増えることに漠然とした不安を感じるという考え方について、「どちらかといえばそう思う」が33.2%と最も多く、『そう思う』が52.8%、『そう思わない』が20.0%となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は「どちらかといえばそう思う」が35.6%と最も多く、男性は、『そう思う』が53.3%、『そう思わない』が22.8%となっている。女性も「どちらかといえばそう思う」が30.8%と最も多く、『そう思う』が51.9%、『そう思わない』が17.9%となっている。

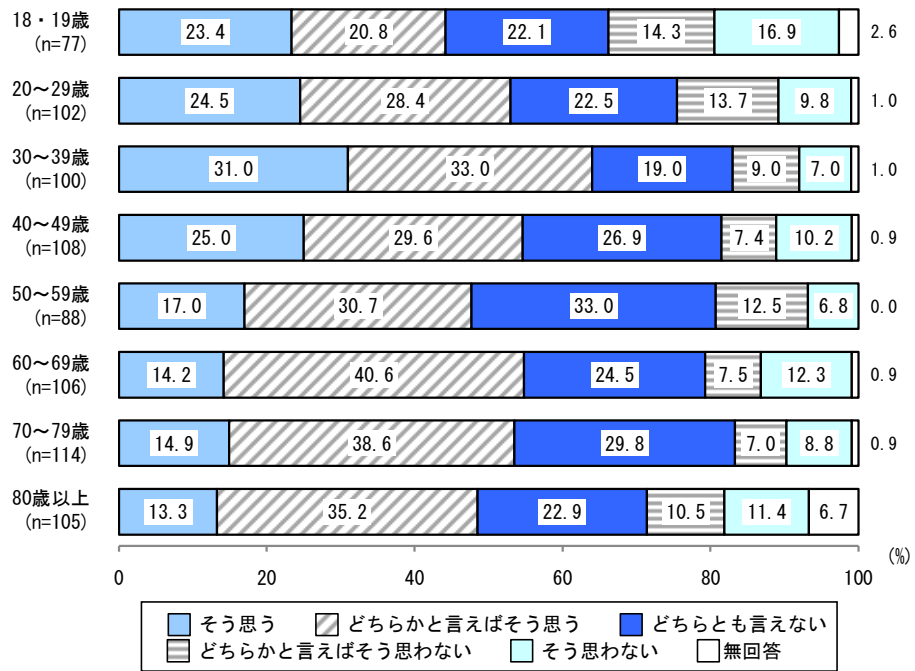
男性と比べて女性は「どちらともいえない」が7.1ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別でみると、『そう思う』は、30～39歳が64.0%と最も多く、次いで60～69歳が54.8%、40～49歳が54.6%となっている。

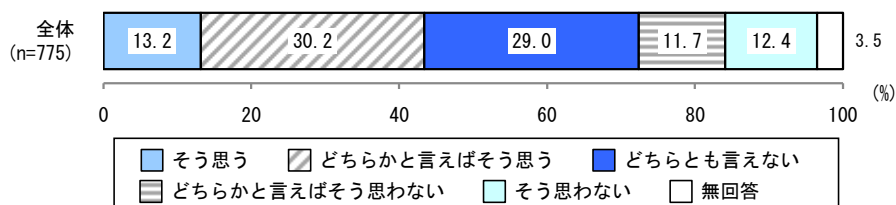
30～39歳以上、年代が上がるにつれて「そう思う」が少なくなる傾向がみられる。



【⑨感染症患者は、感染拡大防止のため、プライバシーの保護などが制限される場合があってもやむを得ない】

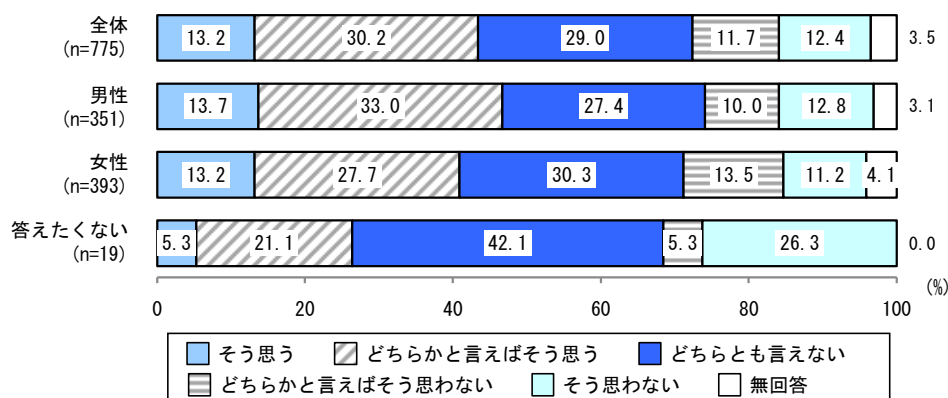
■全体傾向

感染症患者は、感染拡大防止のため、プライバシーの保護などが制限される場合があってもやむを得ないという考え方について、「どちらかといえばそう思う」が30.2%と最も多く、『そう思う』が43.4%、『そう思わない』が24.1%となっている。



■性別比較

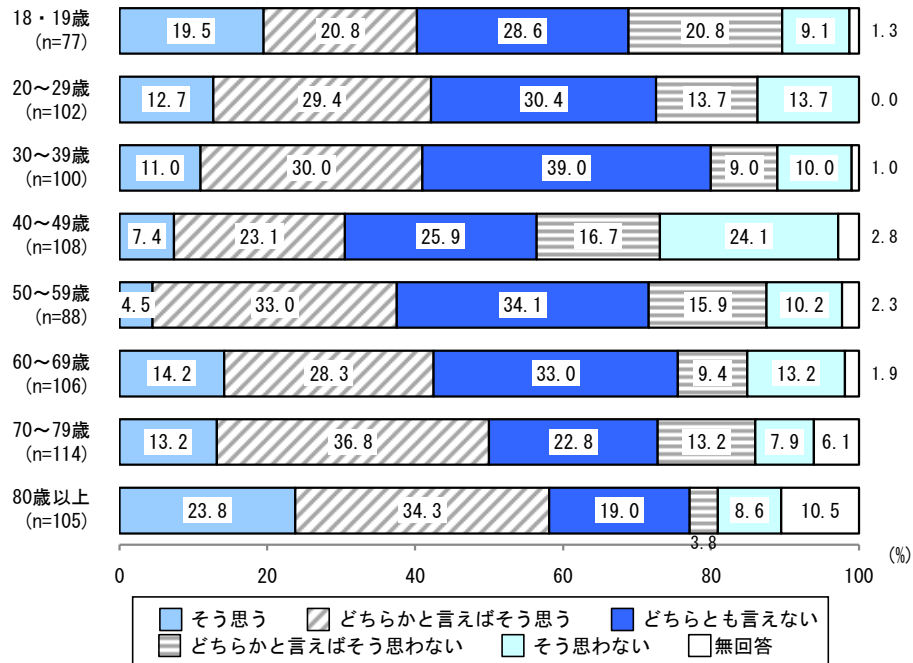
性別でみると、男性は「どちらかといえばそう思う」が33.0%と最も多く、『そう思う』が46.7%、『そう思わない』が22.8%となっている。女性は「どちらともいえない」が30.3%と最も多く、『そう思う』が40.9%、『そう思わない』が24.7%となっており、男性と比べて女性は「どちらかといえばそう思う」が5.3ポイント少なくなっている。



■年代別比較

年代別でみると、『そう思う』は、80歳以上が58.1%と最も多く、次いで70～79歳が50.0%、60～69歳が42.5%となっている。

40～49歳は『そう思う』が他の年代と比べ低く、60～69歳以後は年代が上がるにつれて『そう思う』が多くなっている。

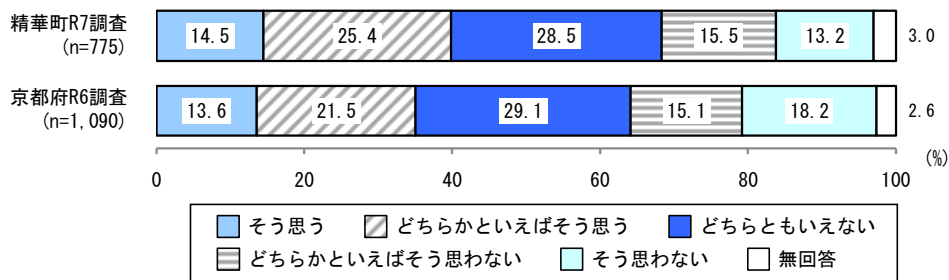


【⑩刑を終えて出所した人が、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあってもやむを得ない】

■京都府(全体)との比較

刑を終えて出所した人が、更生した後も、インターネットなどで過去の犯罪歴を調べられることがあってもやむを得ないという考え方について、「どちらともいえない」が28.5%と最も多く、『そう思う』が39.9%、『そう思わない』が28.7%となっている。

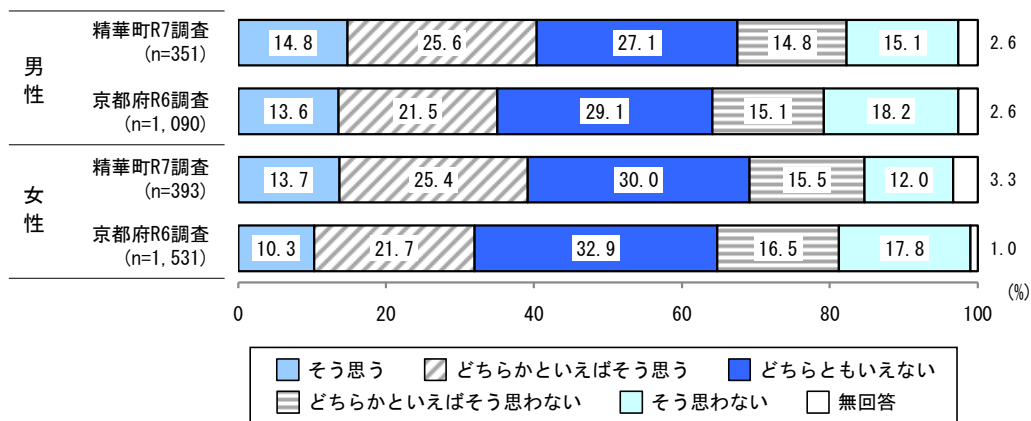
京都府R6調査と比較すると、「そう思わない」が5.0ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「どちらとも言えない」が27.1%と最も多く、『そう思う』が40.4%、『そう思わない』が29.9%となっている。女性も「どちらともいえない」が30.0%と最も多く、『そう思う』が39.1%、『そう思わない』が27.5%となっている。

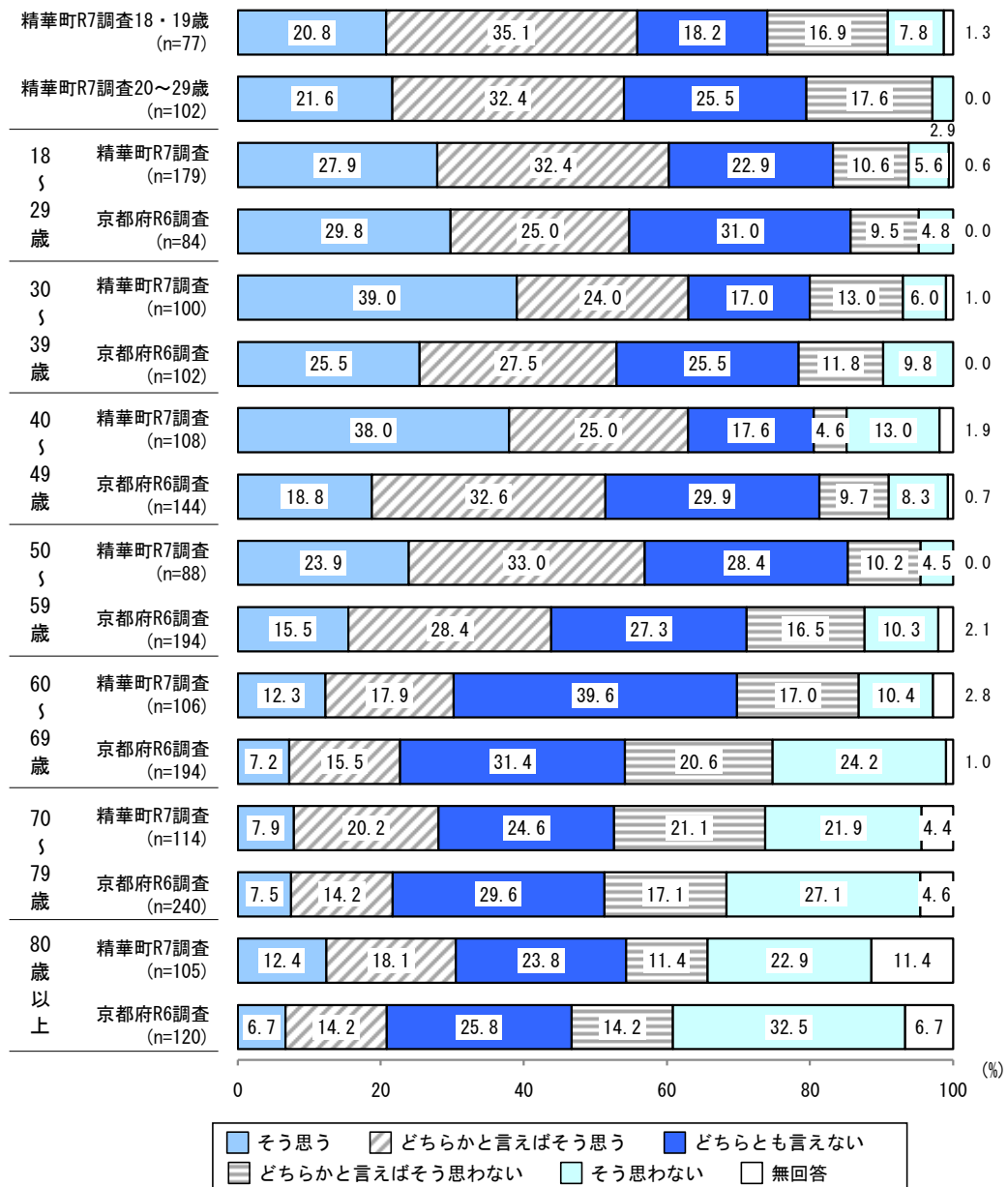
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「そう思わない」が5.8ポイント少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、30～39歳が56.0%と最も多く、次いで18・19歳が55.9%、20～29歳が54.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では60～69歳と80歳以上の『そう思う』が5ポイント以上多くなっている。

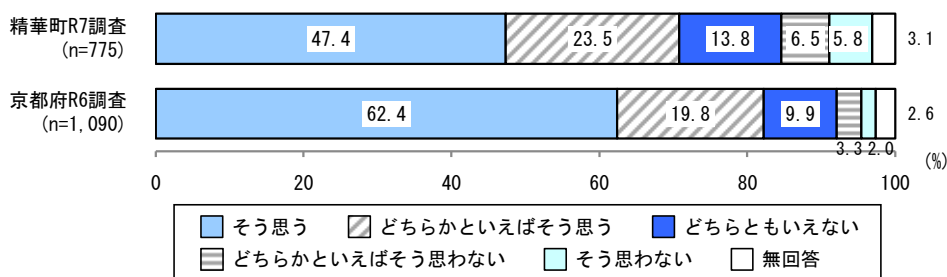


【①犯罪被害者が報道によって、プライバシーが侵害されたり、私生活の平穩が保てなくなることは問題である】

■京都府(全体)との比較

犯罪被害者が報道によって、プライバシーが侵害されたり、私生活の平穩が保てなくなることは問題であるという考え方について、「そう思う」が47.4%と最も多く、『そう思う』が70.9%、『そう思わない』が12.3%となっている。

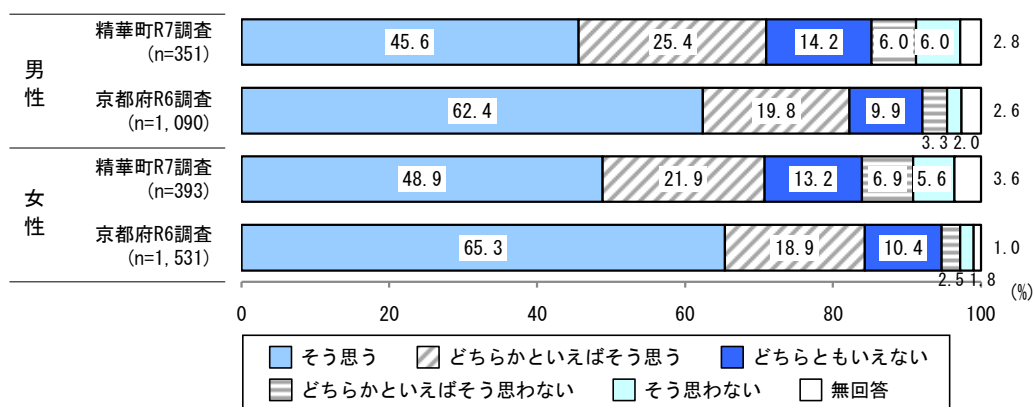
京都府R6調査と比較すると、「そう思う」が15.0ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「そう思う」が45.6%と最も多く、『そう思う』が71.0%、『そう思わない』が12.0%となっている。女性も「そう思う」が48.9%と最も多く、『そう思う』が70.8%、『そう思わない』が12.5%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。

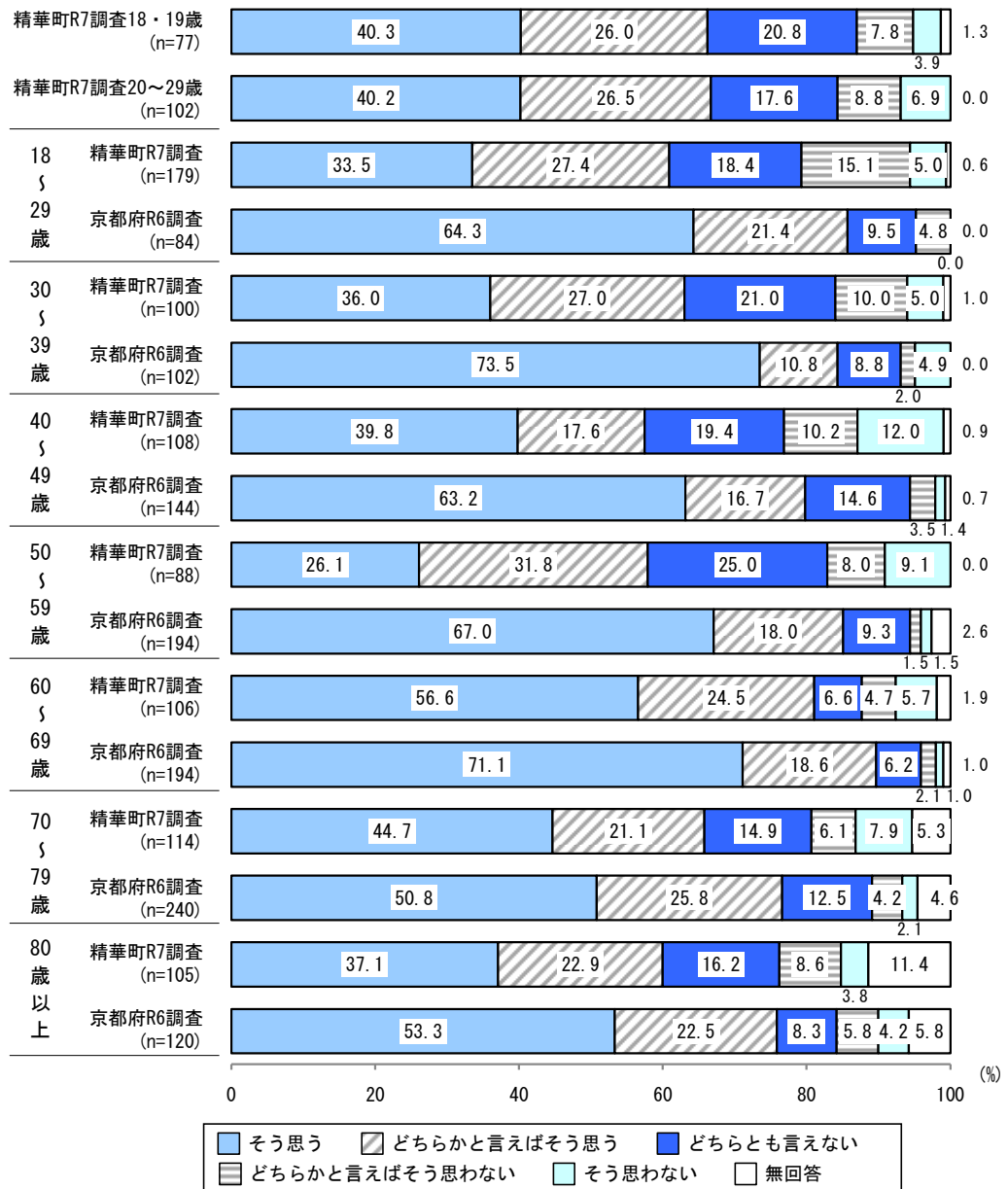
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「そう思う」が大幅に少なくなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『そう思う』は、60～69歳が81.1%と最も多く、次いで40～49歳が74.0%、70～79歳が73.7%となっている。

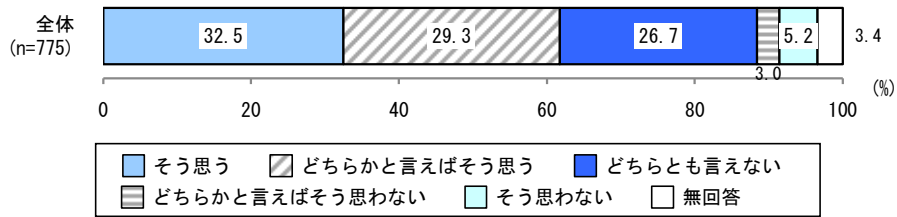
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では70～79歳をのぞく各年代で「そう思う」が大幅に少なくなっている。



【⑫パートナーシップの宣誓をした人は、行政や民間サービスを利用するときには、配偶者と同様の扱いを受けるべきだ】

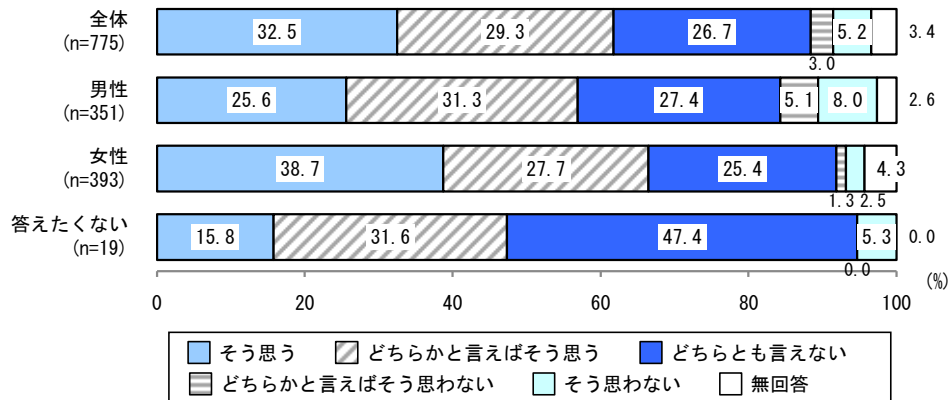
■全体傾向

パートナーシップの宣誓をした人は、行政や民間サービスを利用するときには、配偶者と同様の扱いを受けるべきだという考え方について、「そう思う」が32.5%と最も多く、『そう思う』が61.8%、『そう思わない』が8.2%となっている。



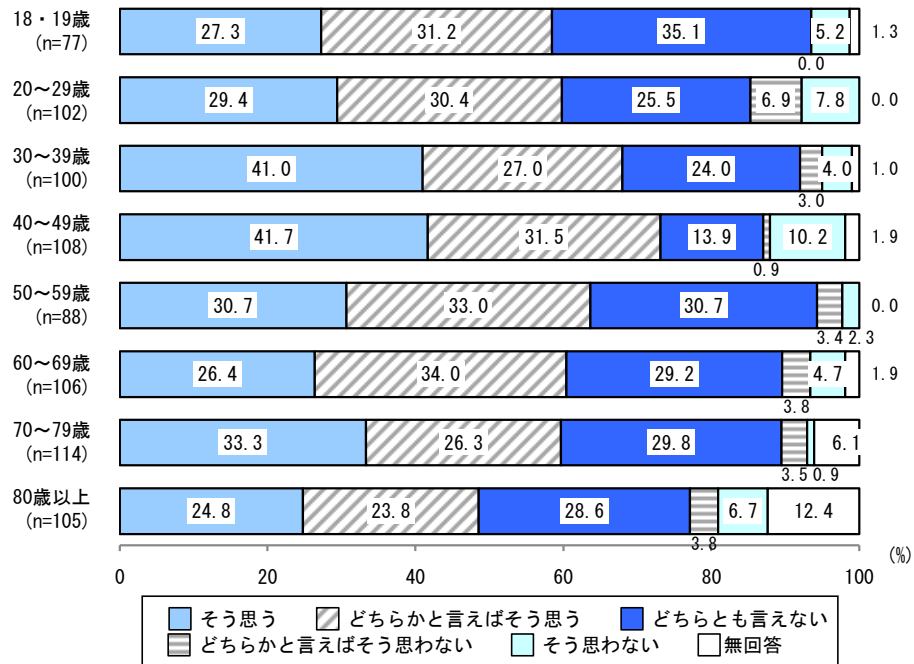
■性別比較

性別で見ると、男性は「どちらかといえばそう思う」が31.3%と最も多く、『そう思う』が56.9%、『そう思わない』が13.1%となっている。女性は「そう思う」が38.7%と最も多く、『そう思う』が66.4%、『そう思わない』が3.8%となっており、男性と比べて女性は「そう思う」が13.1ポイント多くなっている。



■年代別比較

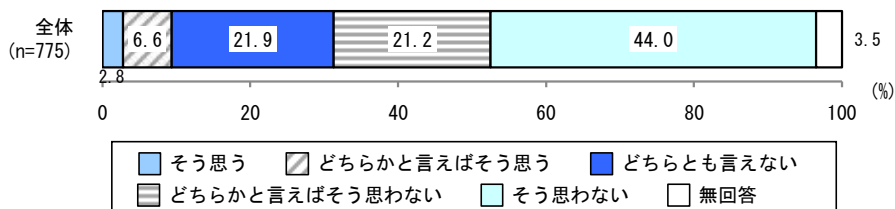
年代別でみると、『そう思う』は、40～49歳が73.2%と最も多く、次いで30～39歳が68.0%、50～59歳が63.7%となっている。



【⑬事件や不祥事を起こした人に対し、インターネット上での差別を助長する情報を発信することは問題ない】

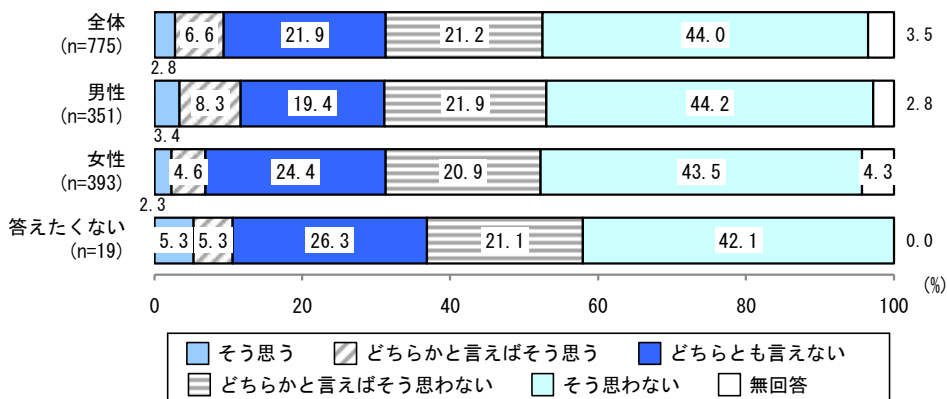
■全体傾向

事件や不祥事を起こした人に対し、インターネット上での差別を助長する情報を発信することは問題ないという考え方について、「そう思わない」が44.0%と最も多く、『そう思う』が9.4%、『そう思わない』が65.2%となっている。



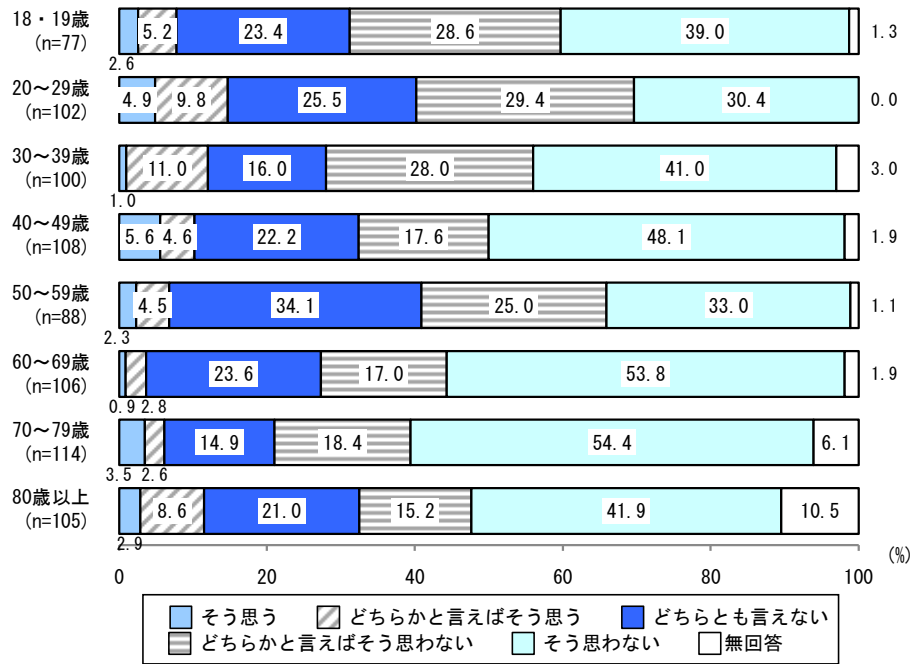
■性別比較

性別でみると、男性は「そう思わない」が44.2%と最も多く、『そう思う』が11.7%、『そう思わない』が66.1%となっている。女性も「そう思わない」が43.5%と最も多く、『そう思う』が6.9%、『そう思わない』が64.4%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。



■年代別比較

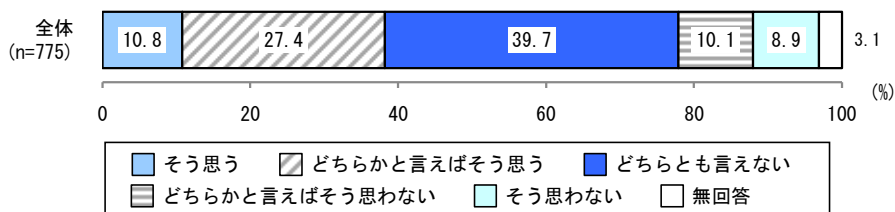
年代別でみると、『そう思う』は、20～29歳が14.7%と最も多く、次いで30～39歳が12.0%、80歳以上が11.5%となっている。



【⑭判断能力が不十分になっている人を支援する「成年後見制度」が、当事者の権利を制限する部分もあるが問題ない】

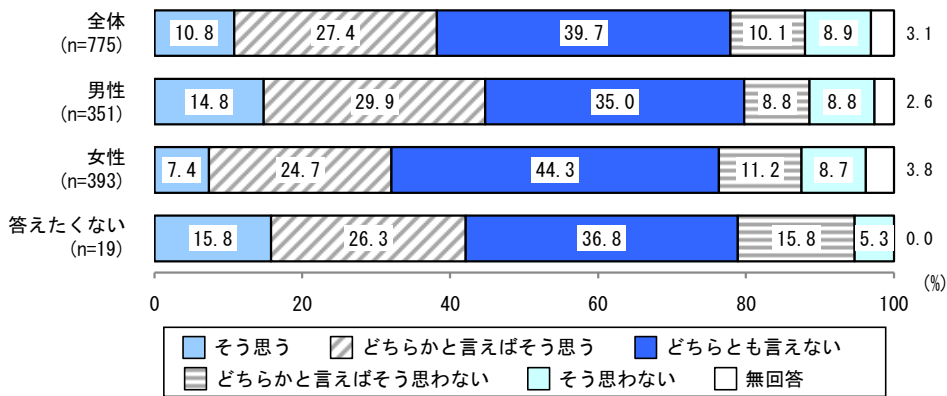
■全体傾向

判断能力が不十分になっている人を支援する「成年後見制度」が、当事者の権利を制限する部分もあるが問題ないという考え方について、「どちらともいえない」が39.7%と最も多く、『そう思う』が38.2%、『そう思わない』が19.0%となっている。



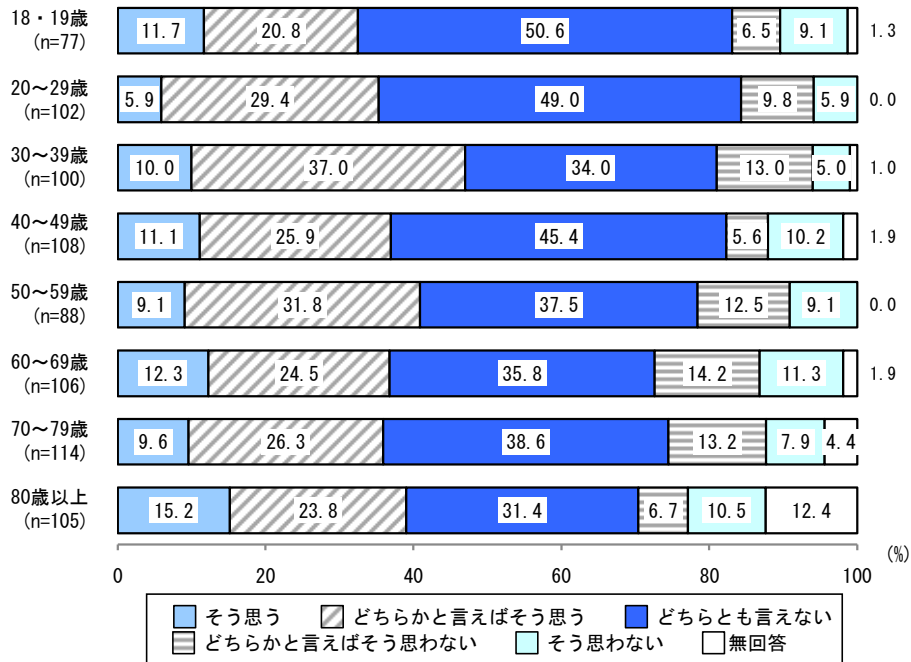
■性別比較

性別で見ると、男性は「どちらともいえない」が35.0%と最も多く、『そう思う』が44.7%、『そう思わない』が17.6%となっている。女性も「どちらともいえない」が44.3%と最も多く、『そう思う』が32.1%、『そう思わない』が19.9%となっており、男性と比べて女性は「どちらともいえない」が9.3ポイント多くなっている。



■年代別比較

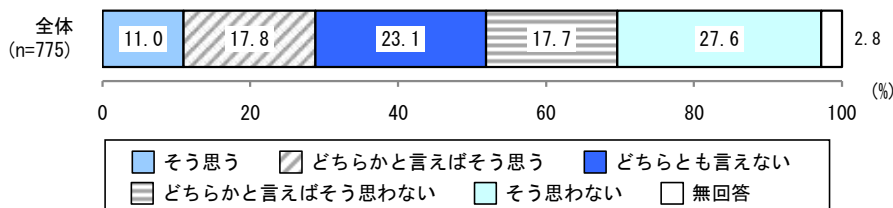
年代別でみると、『そう思う』は、30～39歳が47.0%と最も多く、次いで50～59歳が40.9%、80歳以上が39.0%となっている。



【⑮依存症（薬物、スマホ、ゲーム、ギャンブルなど）は「病気ではなく意思の問題」である】

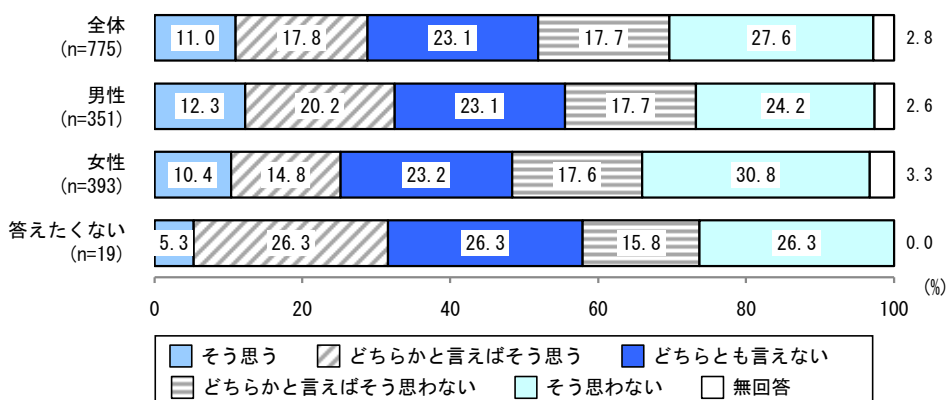
■全体傾向

依存症（薬物、スマホ、ゲーム、ギャンブルなど）は「病気ではなく意思の問題」であるという考え方について、「そう思わない」が27.6%と最も多く、『そう思う』が28.8%、『そう思わない』が45.3%となっている。



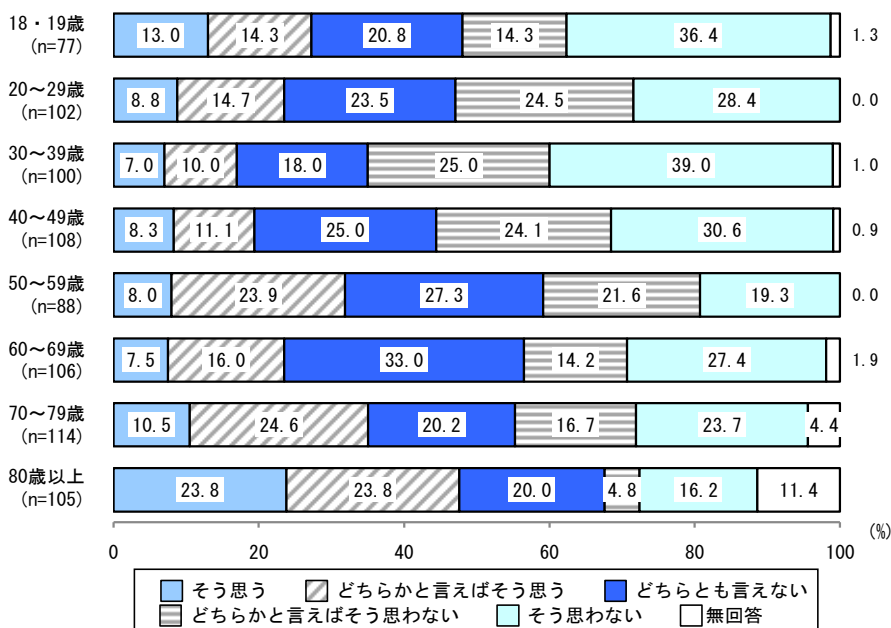
■性別比較

男性は「そう思わない」が24.2%と最も多く、『そう思う』が32.5%、『そう思わない』が41.9%となっている。女性も「そう思わない」が30.8%と最も多く、『そう思う』が25.2%、『そう思わない』が48.4%となっており、男性と比べて女性は「そう思わない」が6.6ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別でみると、『そう思う』は、80歳以上が47.6%と最も多く、次いで70～79歳が35.1%、50～59歳が31.9%となっている。

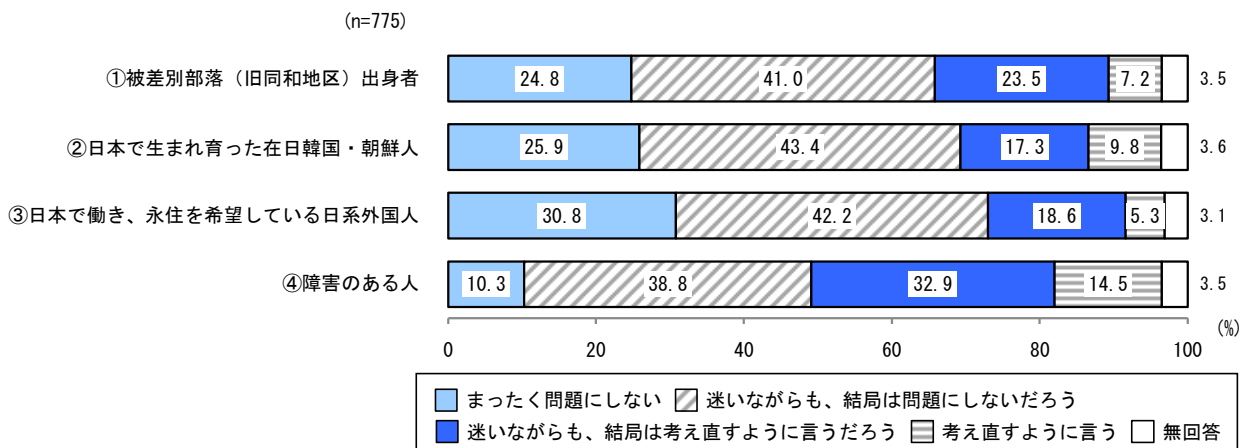


17. 結婚相手の判断条件

問 17	仮にあなたにお子さんがいた場合、お子さんの結婚しようとする相手が次の1～4の各事項に該当する人であった場合、あなたはどのように思いますか。 (○はそれぞれ1つずつ)
------	--

■全体傾向

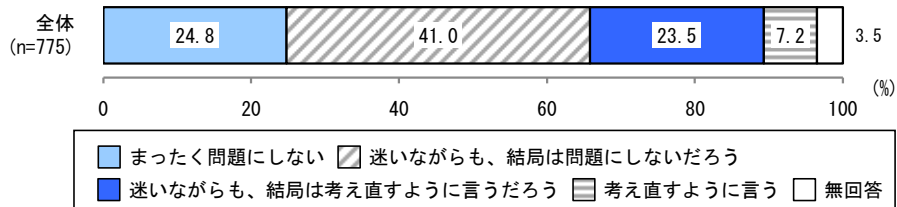
結婚相手の判断条件について、「③日本で働き、永住を希望している日系外国人」は『問題にしない』（「まったく問題にしない」「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」の合算）の割合が他と比べてやや多くなっている。一方、「④障害のある人」は『考え直すように言う』（「考え直すように言う」「迷いながらも、結局は考え直すように言うだろう」の合算）の割合が多くなっている。



【①被差別部落(旧同和地区)出身者】

■全体傾向

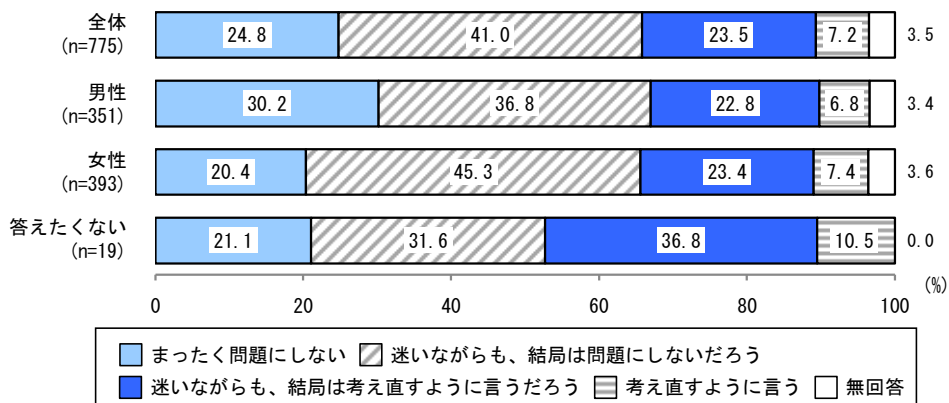
子どもが被差別部落(旧同和地区)出身者を結婚相手として選んだ場合、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が41.0%と最も多く、『問題にしない』は65.8%、『考え直すように言う』が30.7%となっている。



■性別比較

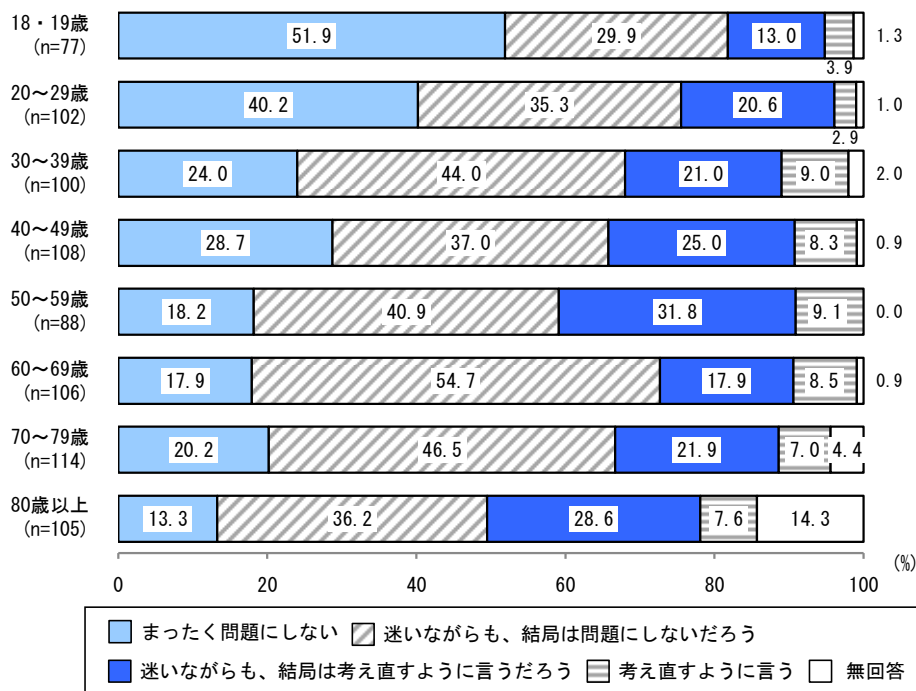
性別で見ると、男性は「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が36.8%と最も多く、『問題にしない』が67.0%、『考え直すように言う』が29.6%となっている。女性も「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が45.3%と最も多く、『問題にしない』が65.7%、『考え直すように言う』が30.8%となっている。

男性と比べて女性は「まったく問題にしない」が9.8ポイント少なく、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が8.5ポイント多くなっている。



■年代別比較

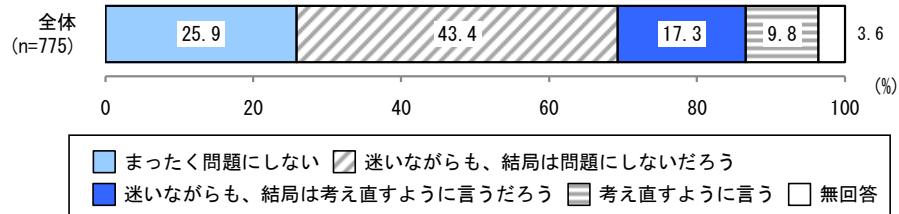
年代別でみると、『問題にしない』は、18・19歳が81.8%と最も多く、次いで20～29歳が75.5%、60～69歳が72.6%となっている。



【②日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人】

■全体傾向

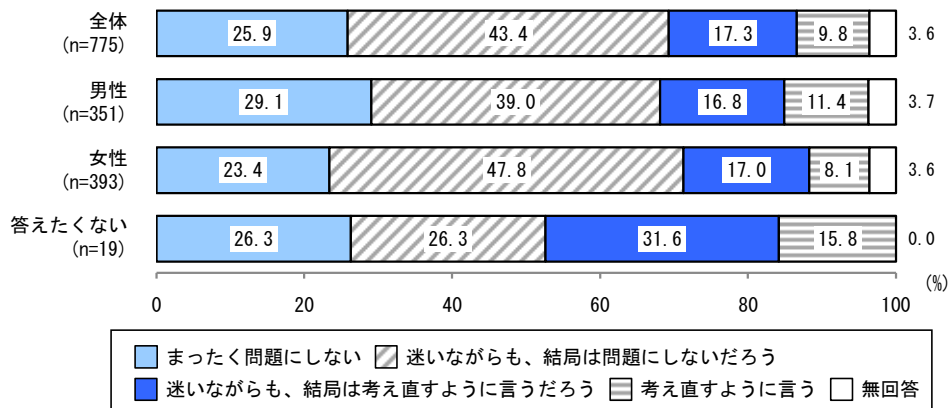
子どもが日本で生まれ育った在日韓国・朝鮮人を結婚相手として選んだ場合、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が43.4%と最も多く、『問題にしない』が69.3%、『考え直すように言う』が27.1%となっている。



■性別比較

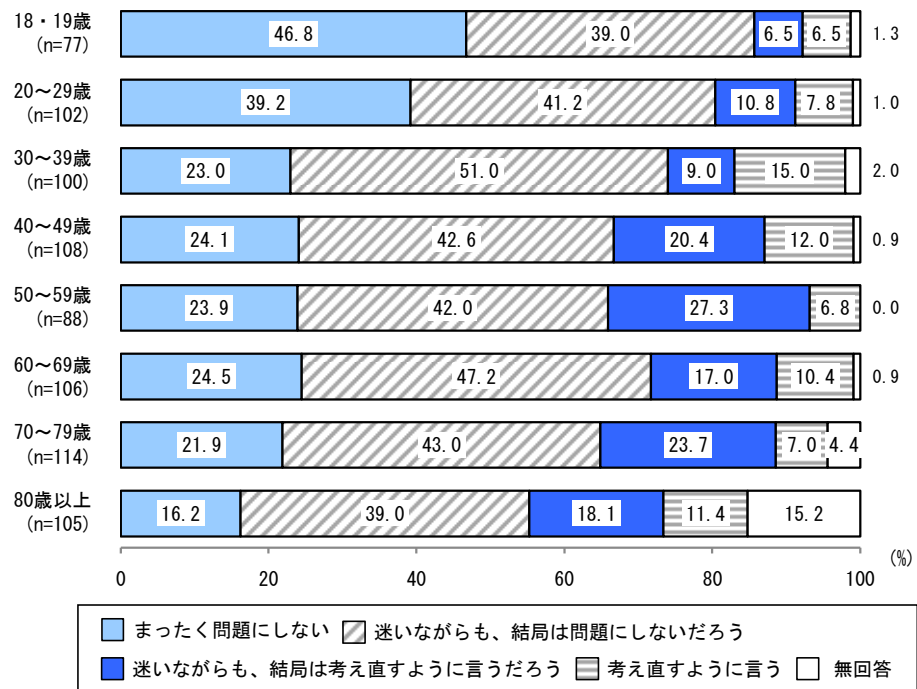
性別でみると、男性は「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が39.0%と最も多く、『問題にしない』が68.1%、『考え直すように言う』が28.2%となっている。女性も「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が47.8%と最も多く、『問題にしない』が71.2%、『考え直すように言う』が25.1%となっている。

男性と比べて女性は「まったく問題にしない」が5.7ポイント少なくなっている。



■年代別比較

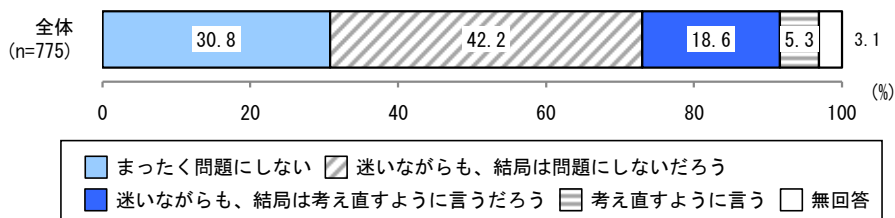
年代別でみると、『問題にしない』は、18・19歳が85.8%と最も多く、次いで20～29歳が80.4%、30～39歳が74.0%となっている。



【③日本で働き、永住を希望している日系外国人】

■全体傾向

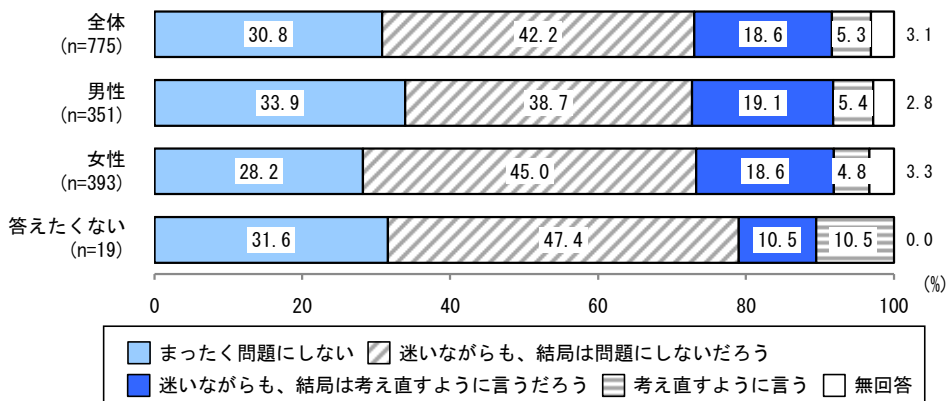
子どもが日本で働き、永住を希望している日系外国人を結婚相手として選んだ場合、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が42.2%と最も多く、『問題にしない』が73.0%、『考え直すように言う』が23.9%となっている。



■性別比較

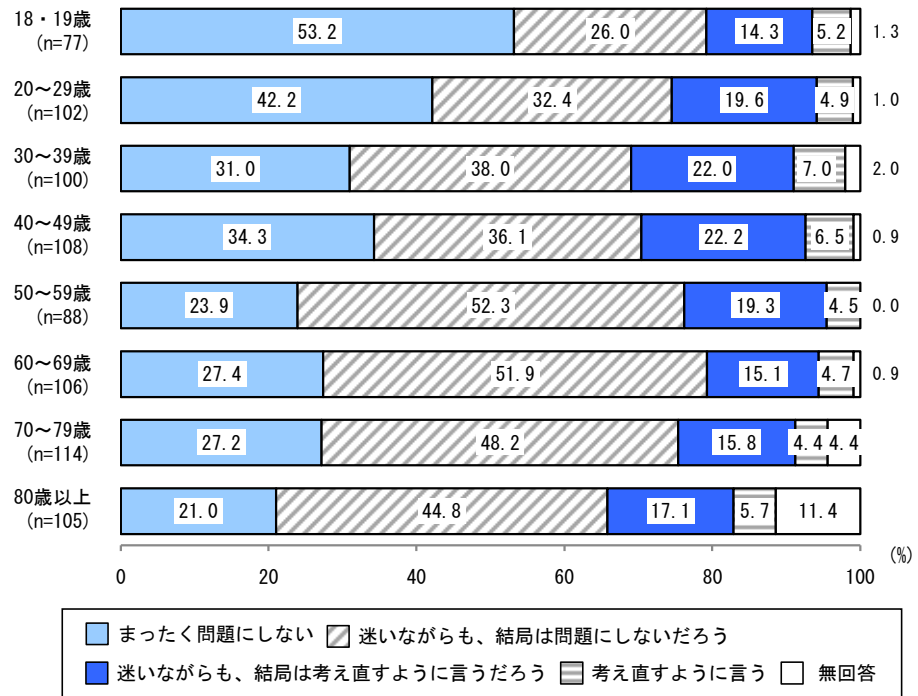
性別でみると、男性は「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が38.7%と最も多く、『問題にしない』が72.6%、『考え直すように言う』が24.5%となっている。女性も「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が45.0%と最も多く、『問題にしない』が73.2%、『考え直すように言う』が23.4%となっている。

男性と比べて女性は「まったく問題にしない」が5.7ポイント少なくなっている。



■年代別比較

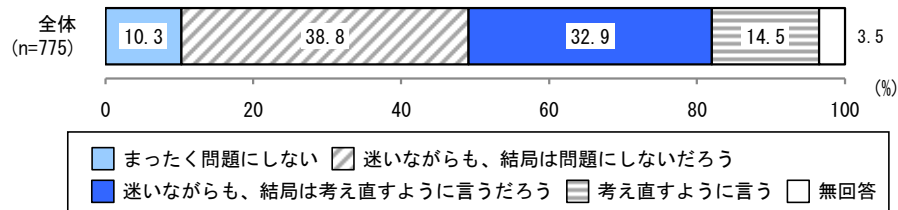
年代別で見ると、『問題にしない』は、60～69歳が78.5%と最も多く、18～29歳が76.5%、50～59歳が76.2%となっている。年代が下がるにつれて「まったく問題にしない」が多くなる傾向がみられる。



【④障害のある人】

■全体傾向

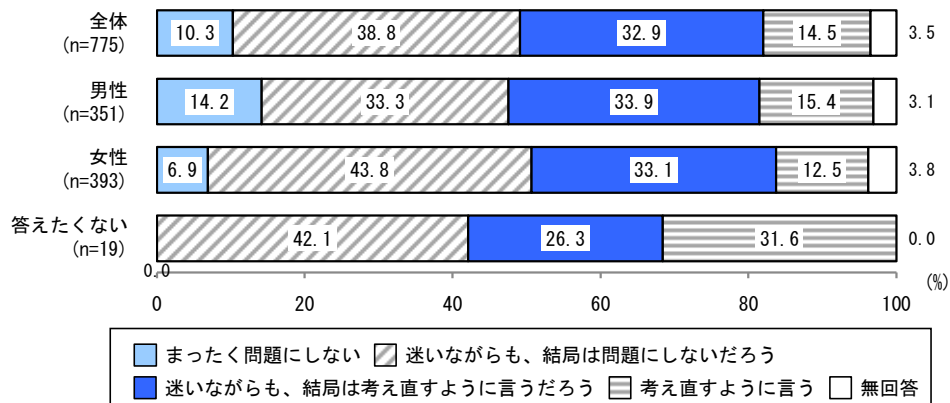
子どもが障害のある人を結婚相手として選んだ場合、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が38.8%と最も多く、『問題にしない』が49.1%、『考え直すように言う』が47.4%となっている。



■性別比較

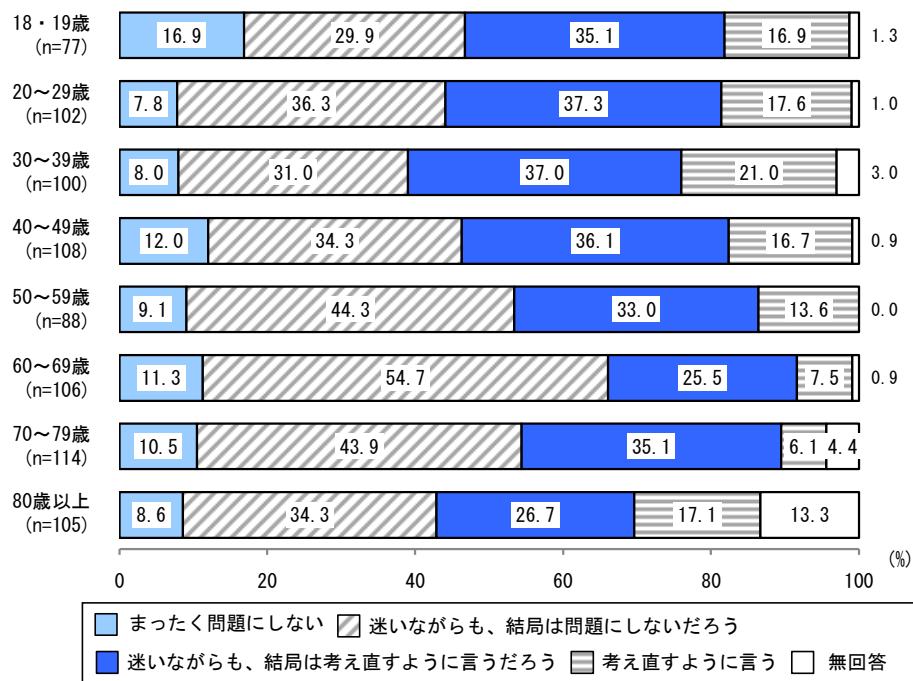
性別でみると、男性は「迷いながらも、結局は考え直すように言うだろう」が33.9%と最も多く、『問題にしない』が47.5%、『考え直すように言う』が49.3%となっている。女性は「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が43.8%と最も多く、『問題にしない』が50.7%、『考え直すように言う』が45.6%となっている。

男性と比べて女性は「まったく問題にしない」が7.3ポイント少なく、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」が10.5ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別でみると、『問題にしない』は、60～69歳が66.0%と最も多く、次いで70～79歳が54.4%、50～59歳が53.4%となっている。

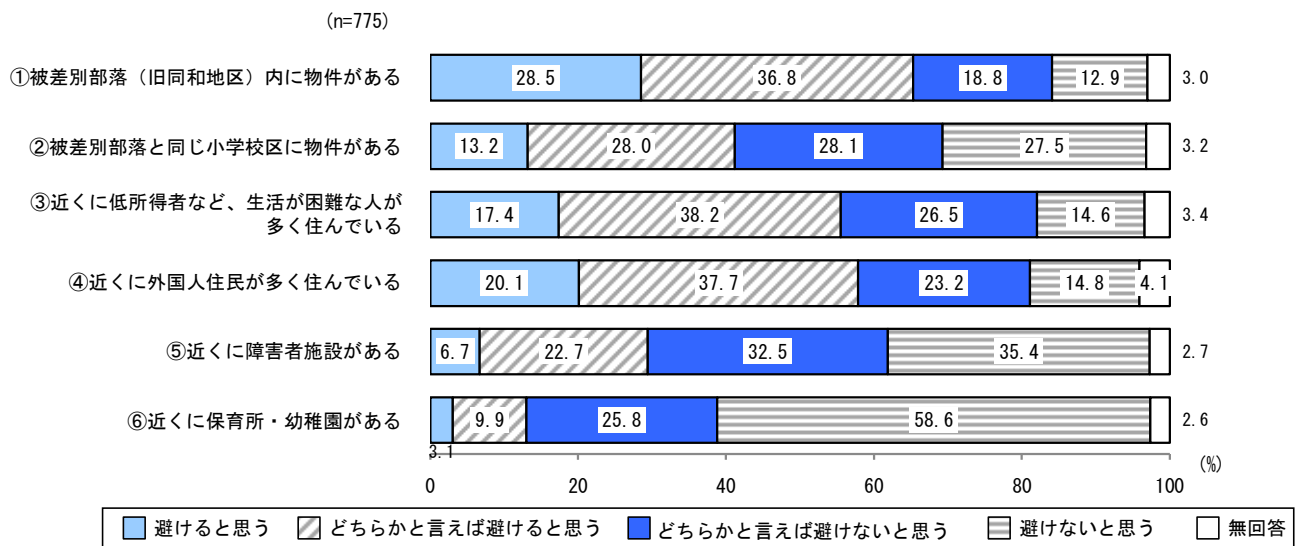


18. 住宅購入時等の判断条件

問 18	<p>家を購入したりマンションを借りたりするなど、あなたが住宅を選ぶ際に、価格等が希望にあっても、次の①～⑥のような条件の物件の場合、あなたはどのように思いますか。</p> <p style="text-align: right;">(○はそれぞれ1つずつ)</p>
------	---

■全体傾向

住宅購入時等の判断条件について、『避けると思う』(「避けると思う」「どちらかと言えば避けると思う」の合算)の割合は、「①被差別部落(旧同和地区)内に物件がある」が最も多く、次いで「④近くに外国人住民が多く住んでいる」「③近くに低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」となっている。一方、『避けないと思う』(「避けないと思う」「どちらかと言えば避けないと思う」の合算)割合は、「⑥近くに保育所・幼稚園がある」が最も多く、次いで「⑤近くに障害者施設がある」「②被差別部落と同じ小学校区に物件がある」となっている。

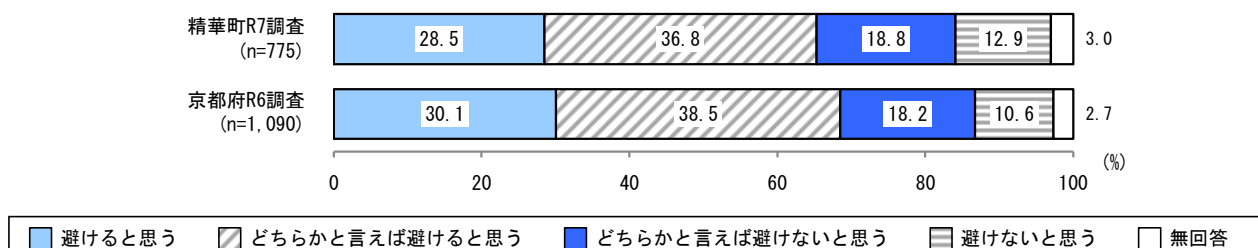


【①被差別部落（旧同和地区）内に物件がある】

■京都府(全体)との比較

被差別部落（旧同和地区）内に物件がある場合は、「どちらかと言えば避けると思う」が36.8%と最も多く、『避けると思う』が65.3%、『避けないと思う』が31.7%となっている。

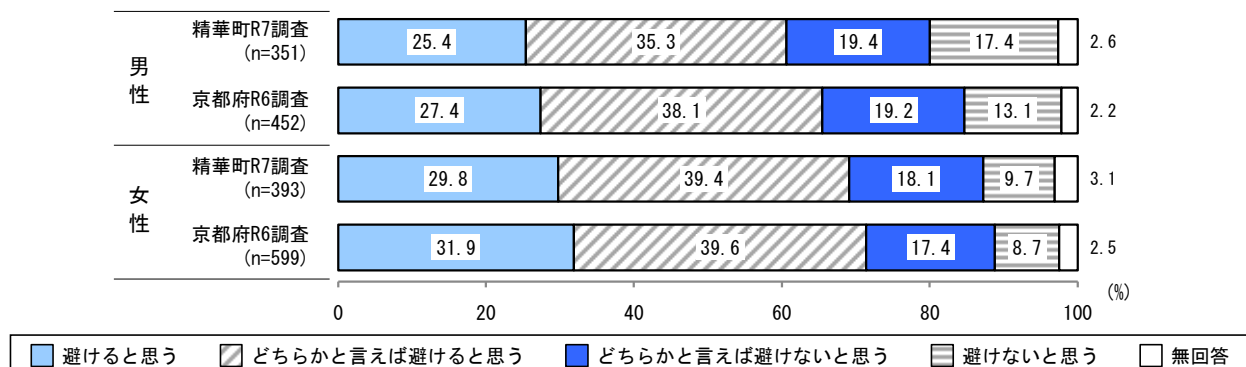
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかと言えば避けると思う」が35.3%と最も多く、『避けると思う』が60.7%、『避けないと思う』が36.8%となっている。女性も「どちらかと言えば避けると思う」が39.4%と最も多く、『避けると思う』が69.2%、『避けないと思う』が27.8%となっている。

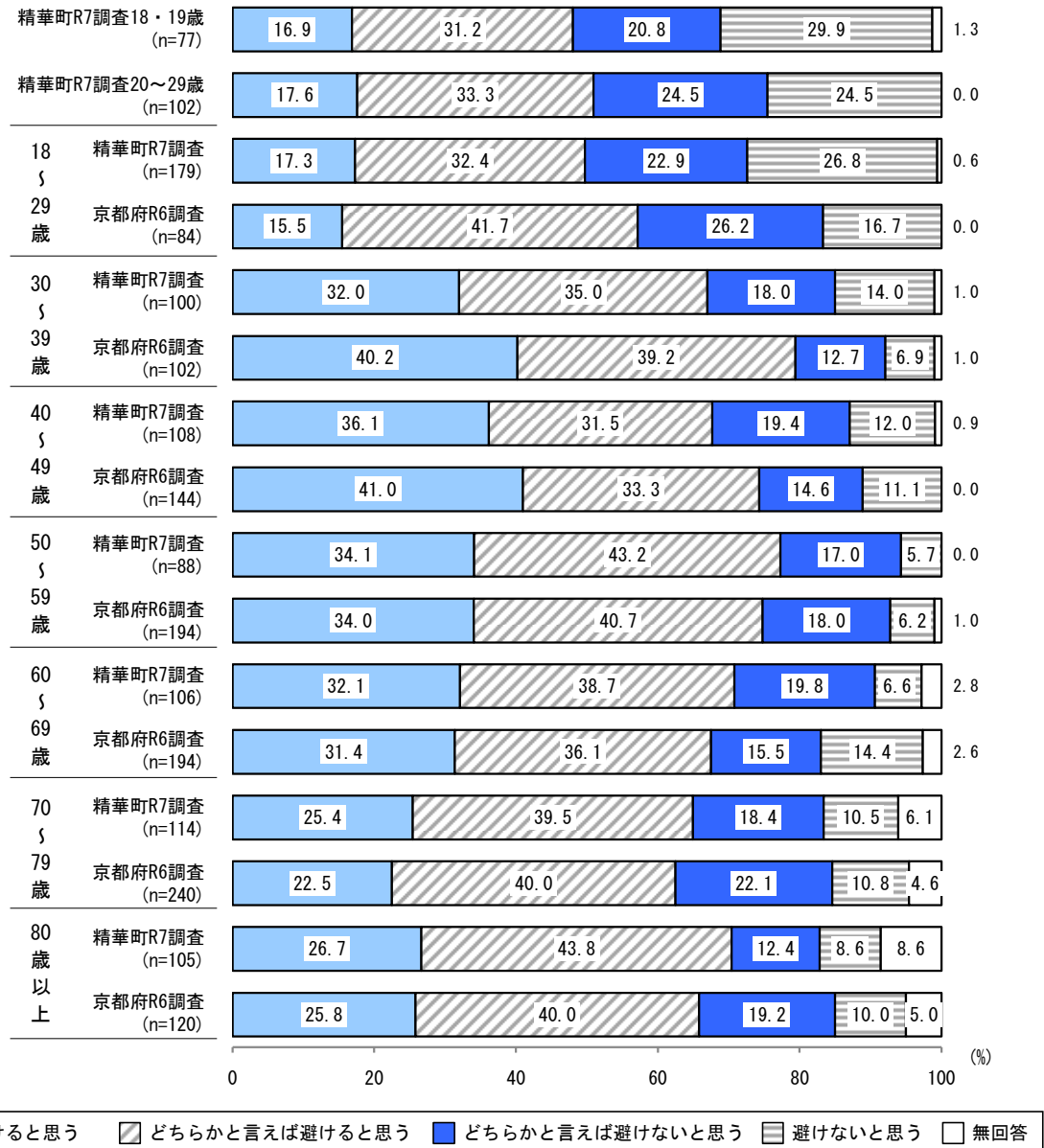
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『避けると思う』は、50～59歳が77.3%と最も多く、次いで60～69歳が70.8%、80歳以上が70.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、両調査ともに18～29歳では『避けないと思う』が他の年代と比べて少なくなっている。

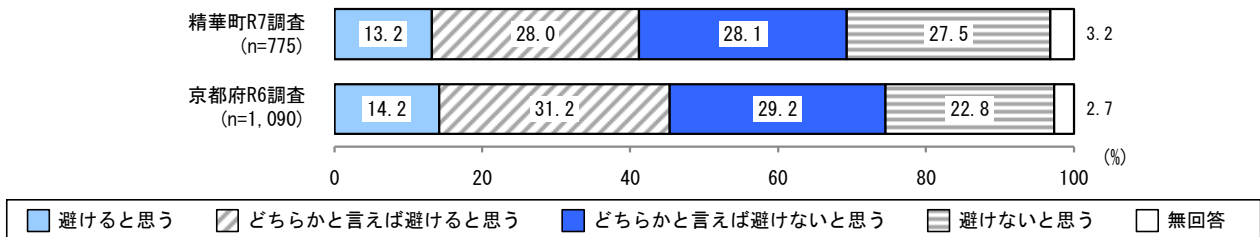


【②被差別部落（旧同和地区）の地区外であるが、被差別部落（旧同和地区）と同じ小学校区に物件がある】

■京都府(全体)との比較

被差別部落（旧同和地区）の地区外であるが、被差別部落（旧同和地区）と同じ小学校区に物件がある場合は、「どちらかと言えば避けないと思う」が28.1%と最も多く、『避けると思う』が41.2%、『避けないと思う』が55.6%となっている。

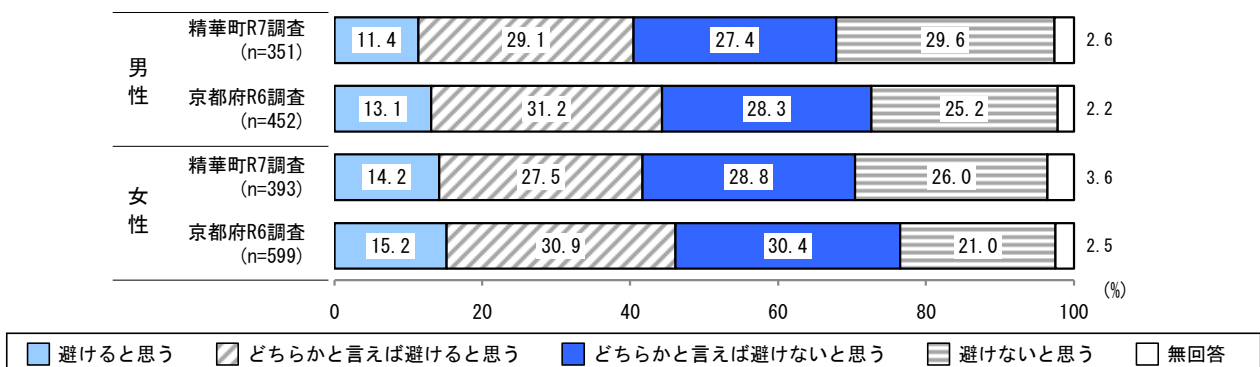
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

男性は「避けないと思う」が29.6%と最も多く、『避けると思う』が40.5%、『避けないと思う』が57.0%となっている。女性は「どちらかといえは避けないと思う」が28.8%と最も多く、『避けると思う』が41.7%、『避けないと思う』が54.8%となっている。

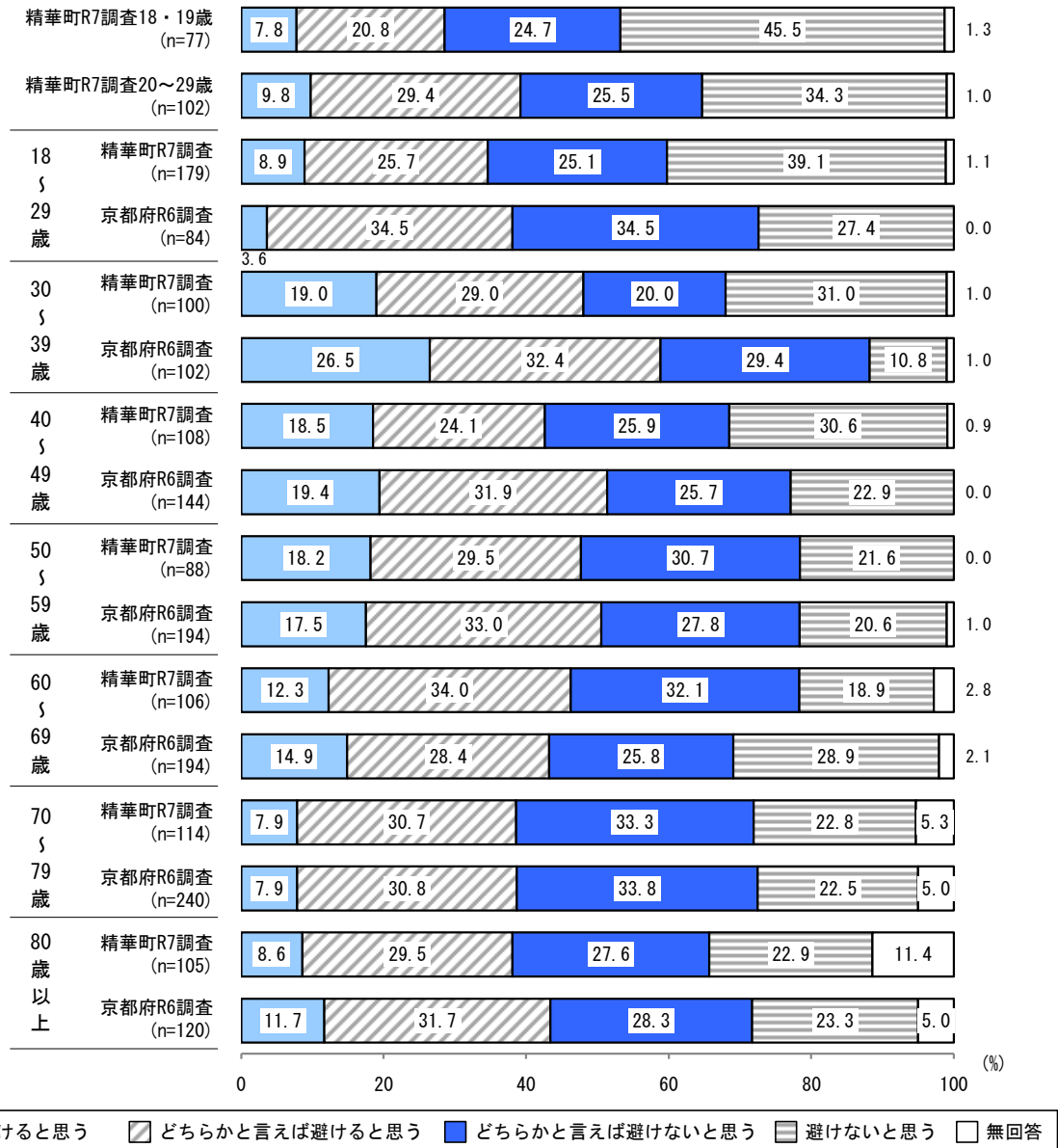
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「避けないと思う」が5.0ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『避けると思う』は、30～39歳が48.0%と最も多く、次いで50～59歳が47.7%、60～69歳が46.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、30～39歳での『避けると思う』は同様に他の年代と比べて多くなっているが、精華町R7調査が10.9ポイント少なくなっている。

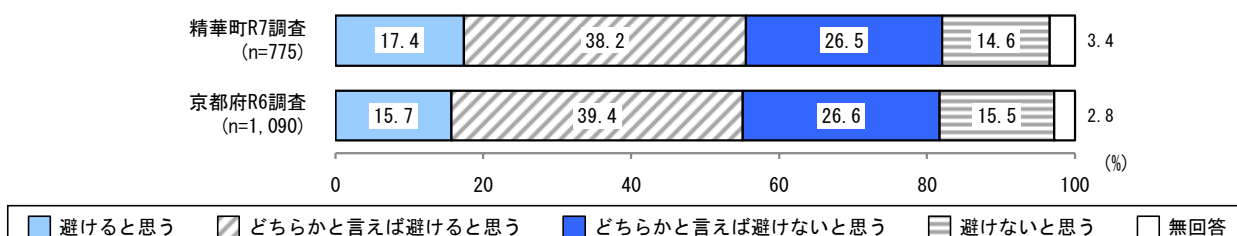


【③近くに低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる】

■京都府(全体)との比較

近くに低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる場合は、「どちらかといえば避けると思う」が38.2%と最も多く、『避けると思う』が55.6%、『避けないと思う』が41.1%となっている。

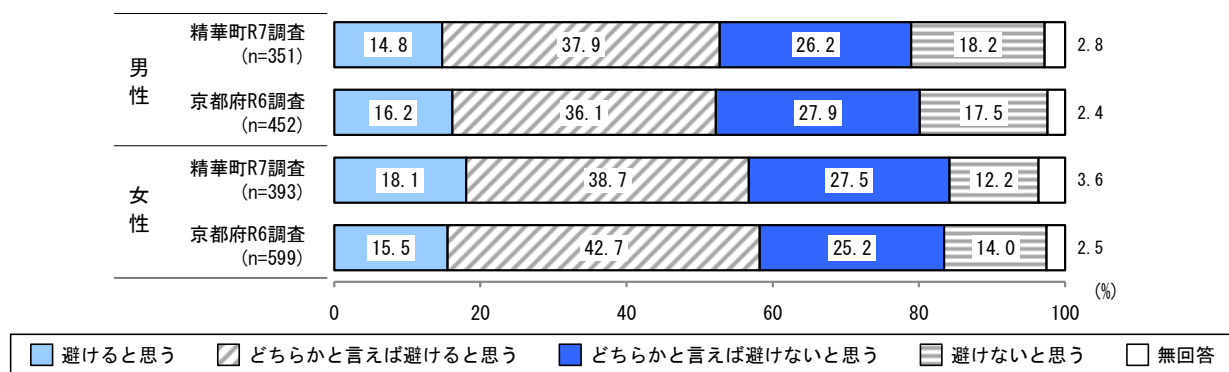
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「どちらかといえば避けると思う」が37.9%と最も多く、『避けると思う』が52.7%、『避けないと思う』が44.4%となっている。女性も「どちらかといえば避けると思う」が38.7%と最も多く、『避けると思う』が56.8%、『避けないと思う』が39.7%となっている。

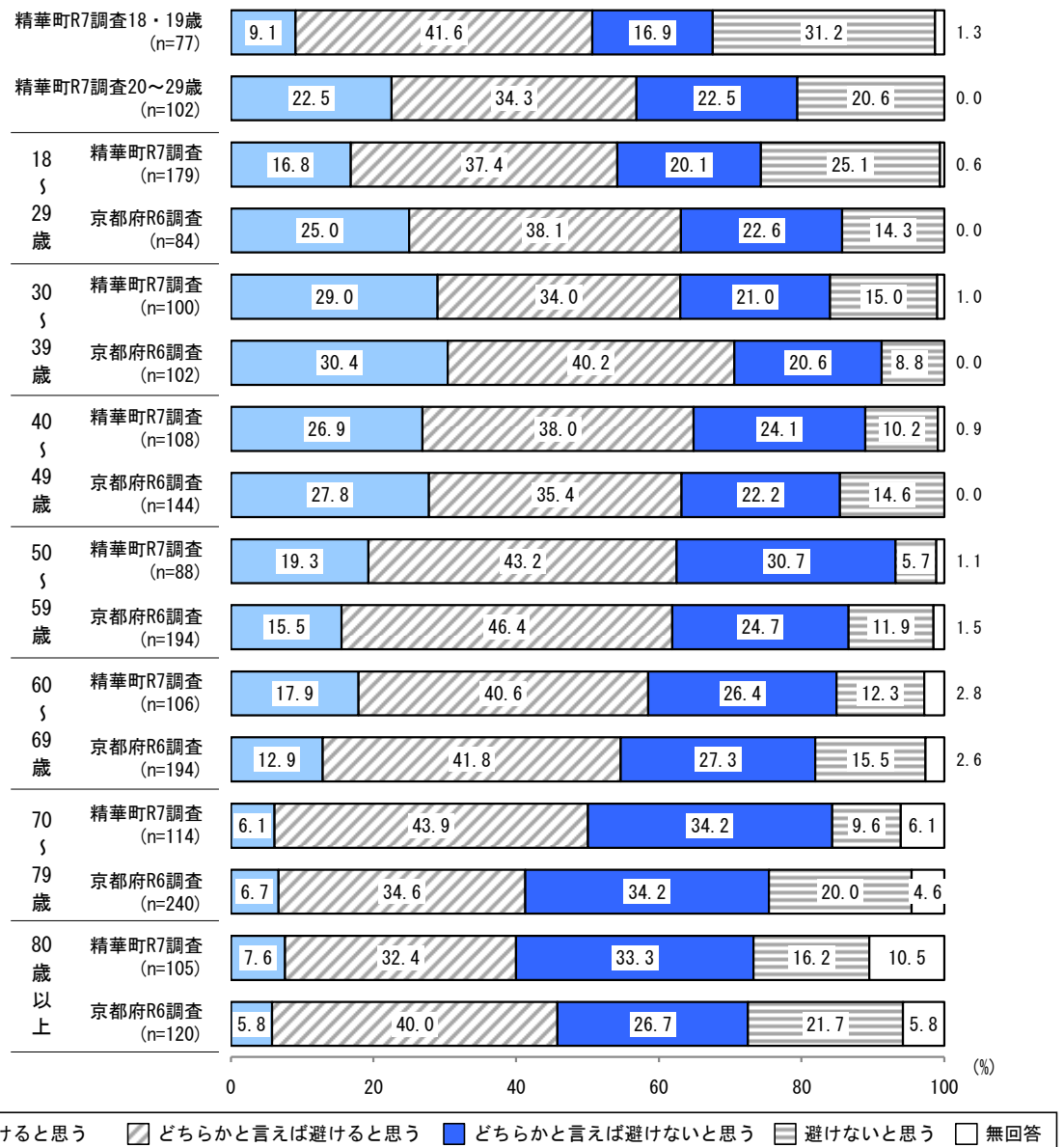
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『避けると思う』は、40～49歳が64.9%と最も多く、次いで30～39歳が63.0%、50～59歳が62.5%となっている。

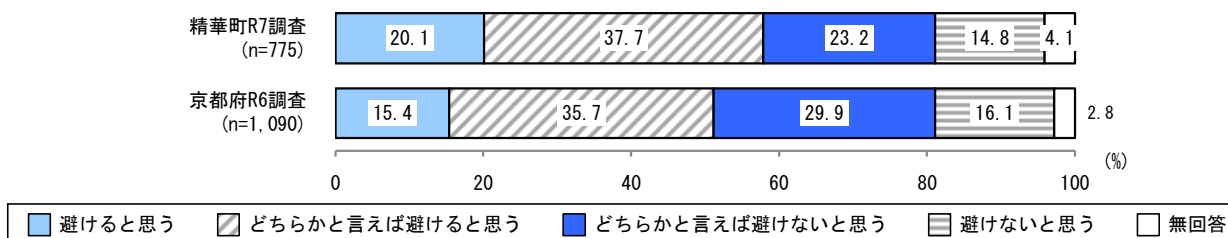
京都府R6調査と比較すると、18～29歳、30～39歳、80歳以上での『避けると思う』は精華町R7調査が5ポイント以上少なくなっている。



【④近くに外国人住民が多く住んでいる】

■京都府(全体)との比較

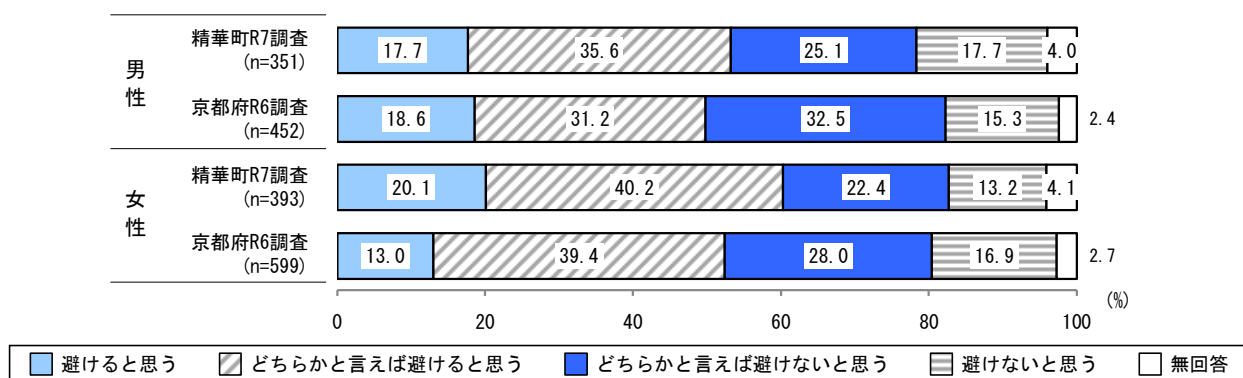
近くに外国人住民が多く住んでいる場合は、「どちらかといえば避けると思う」が37.7%と最も多く、『避けると思う』が57.8%、『避けないと思う』が38.0%となっている。



■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「どちらかといえば避けると思う」が35.6%と最も多く、『避けると思う』が53.3%、『避けないと思う』が42.8%となっている。女性も「どちらかといえば避けると思う」が40.2%と最も多く、『避けると思う』が60.3%、『避けないと思う』が35.6%となっている。

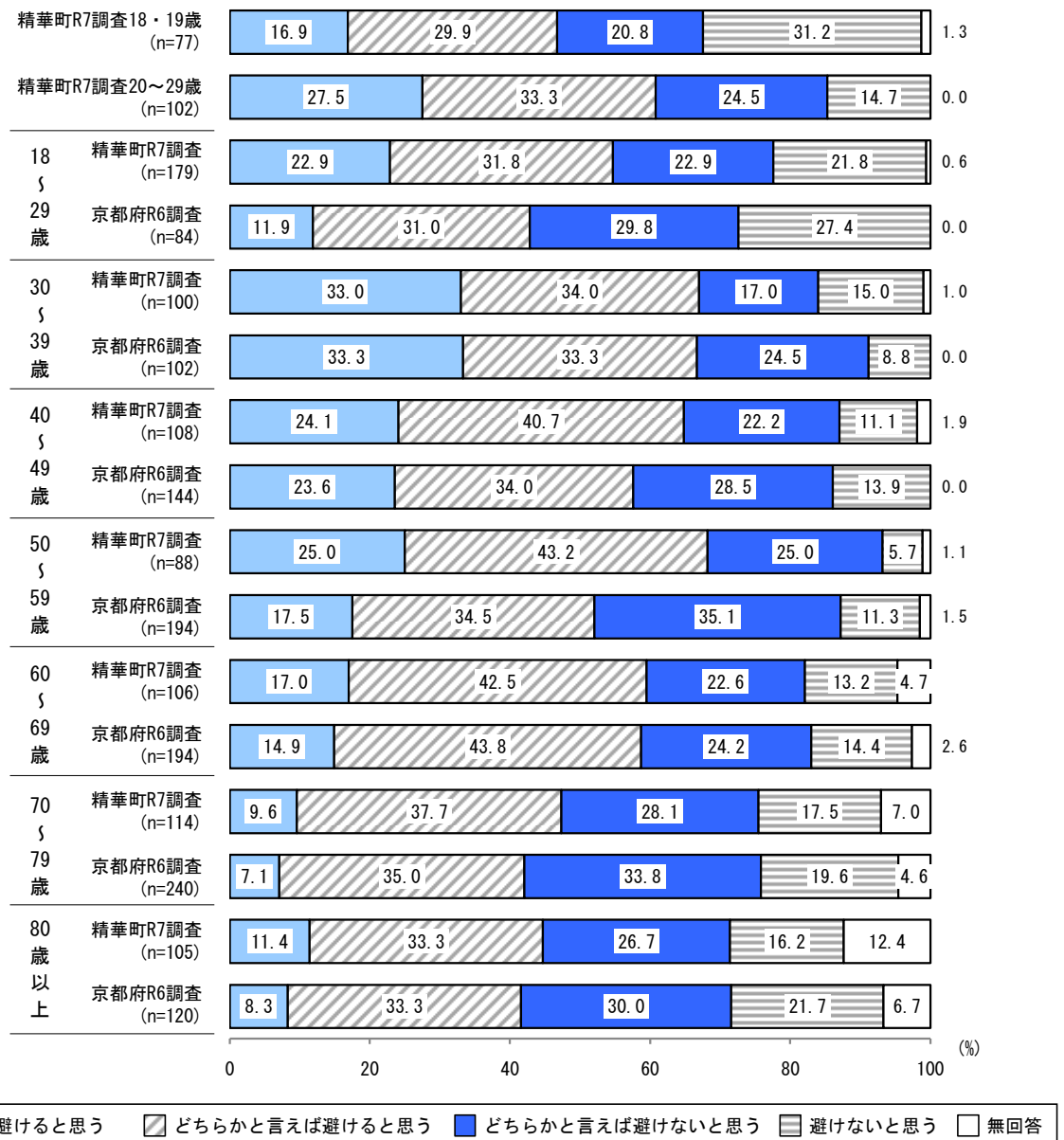
京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「避けると思う」が7.1ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『避けると思う』は、50～59歳が68.2%と最も多く、次いで30～39歳が67.0%、40～49歳が64.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、18～29歳の「避けると思う」は精華町R7調査が10.9ポイント多くなっている。

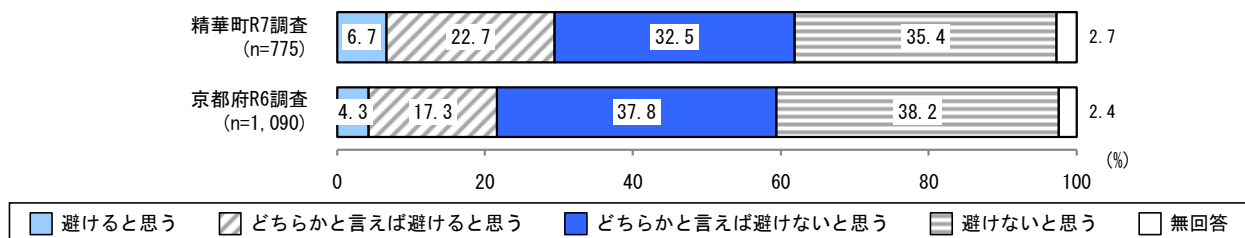


【⑤近くに障害者施設がある】

■京都府(全体)との比較

近くに障害者施設がある場合は、「避けないと思う」が35.4%と最も多く、『避けると思う』が29.4%、『避けたいと思う』が67.9%となっている。

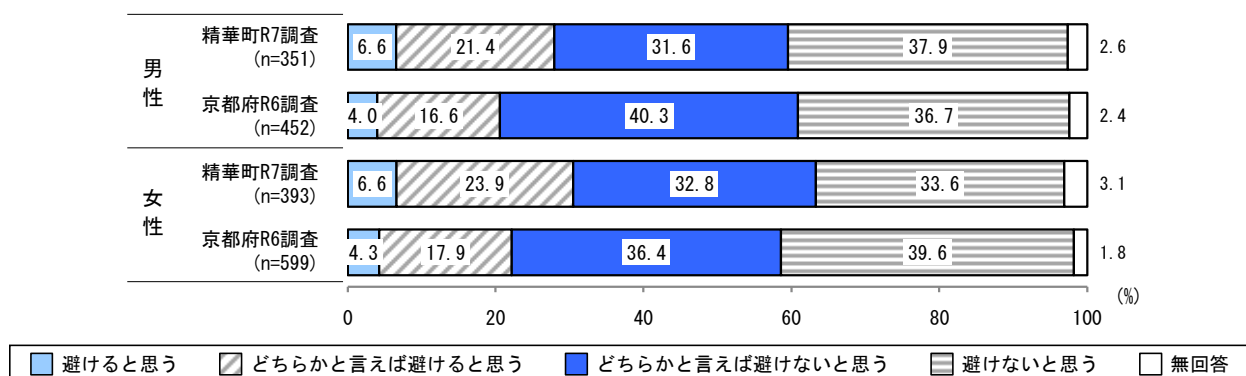
京都府R6調査と比較すると、「どちらかといえば避けないと思う」が5.3ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「避けないと思う」が37.9%と最も多く、『避けると思う』が28.0%、『避けたいと思う』が69.5%となっている。女性も「避けないと思う」が33.6%と最も多く、『避けると思う』が30.5%、『避けたいと思う』が66.4%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「どちらかといえば避けると思う」が6.0ポイント多くなっている。

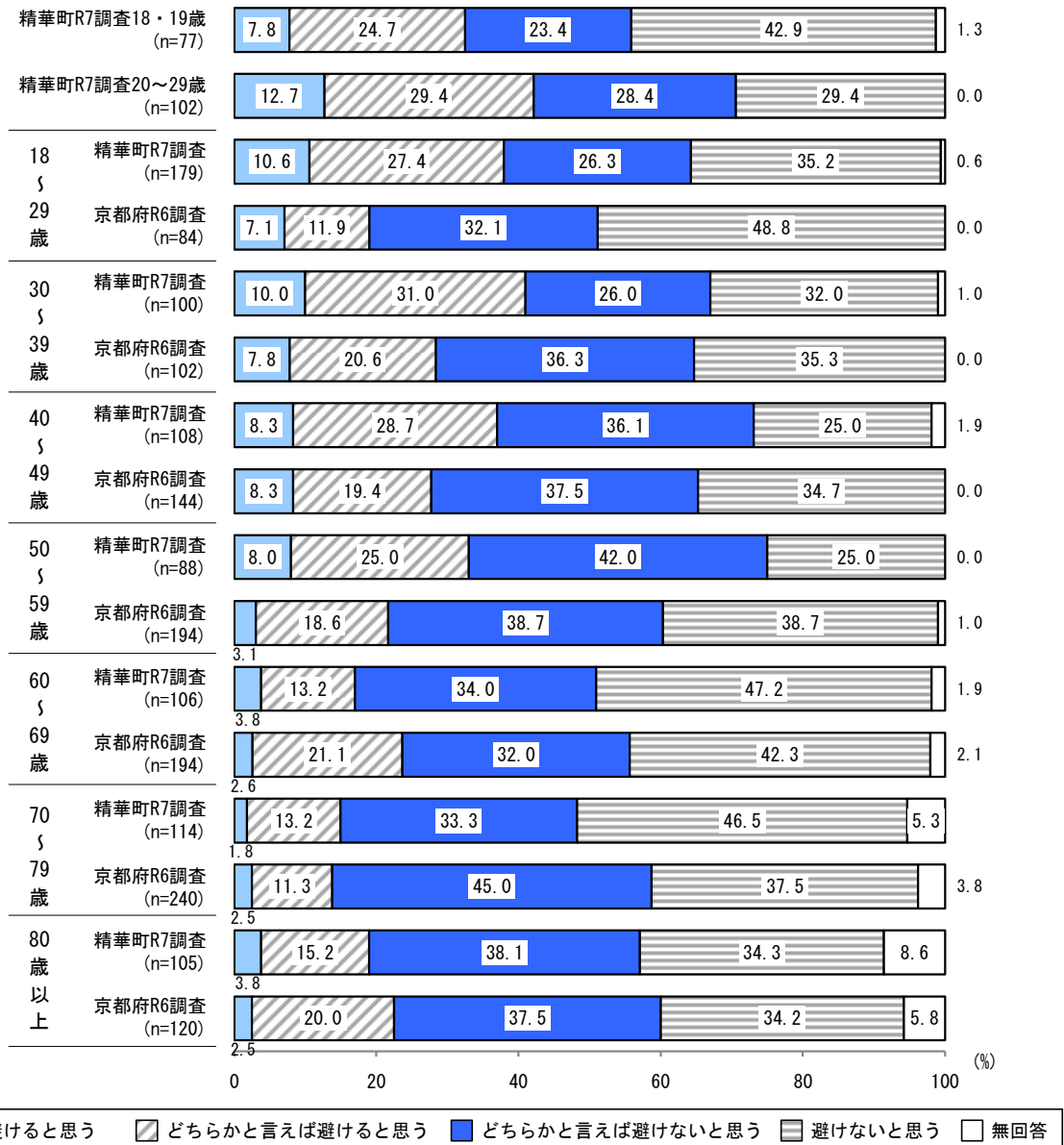


■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『避けると思う』は、20～29歳が42.1%と最も多く、次いで30～39歳が41.0%、40～49歳が37.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から50～59歳までの『避けると思う』が多くなっている。

また両調査とも各年代で『避けないと思う』が過半数を占め多くなっている。

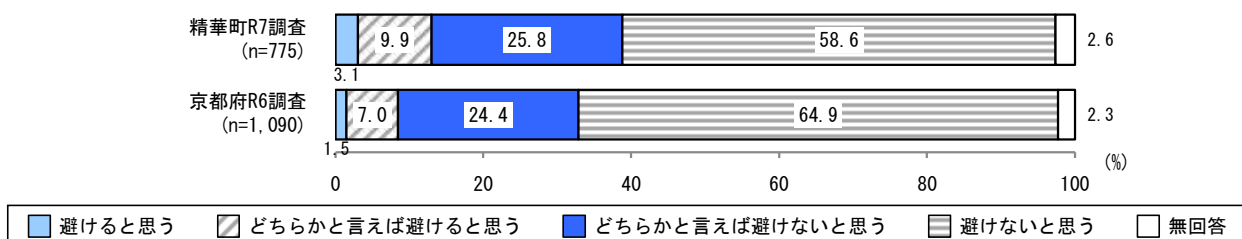


【⑥近くに保育所・幼稚園がある】

■京都府(全体)との比較

近くに保育所・幼稚園がある場合は、「避けないと思う」が58.6%と最も多く、『避けると思う』が13.0%、『避けないと思う』が84.4%となっている。

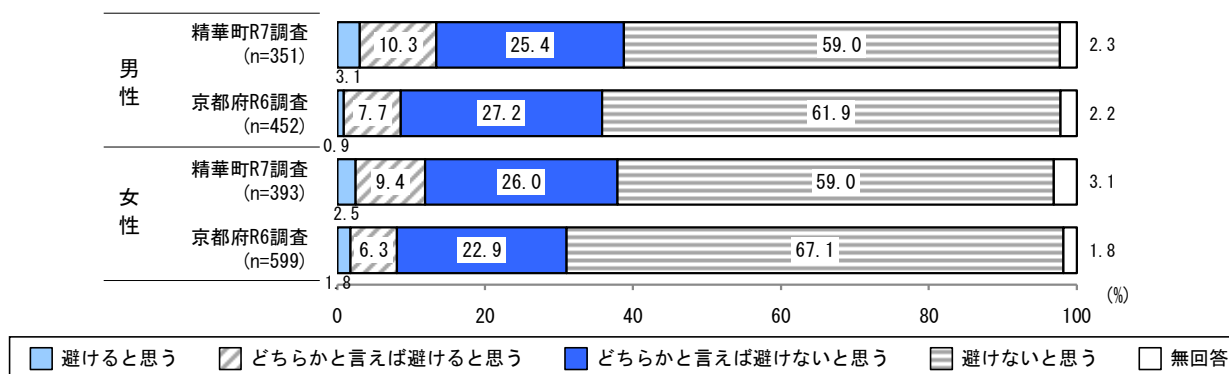
京都府R6調査と比較すると、「避けないと思う」が6.3ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「避けないと思う」が59.0%と最も多く、『避けると思う』が13.4%、『避けないと思う』が84.4%となっている。女性も「避けないと思う」が59.0%と最も多く、『避けると思う』が11.9%、『避けないと思う』が85.0%となっており、性別での比較では大きな差はみられない。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「避けないと思う」が8.1ポイント少なくなっている。

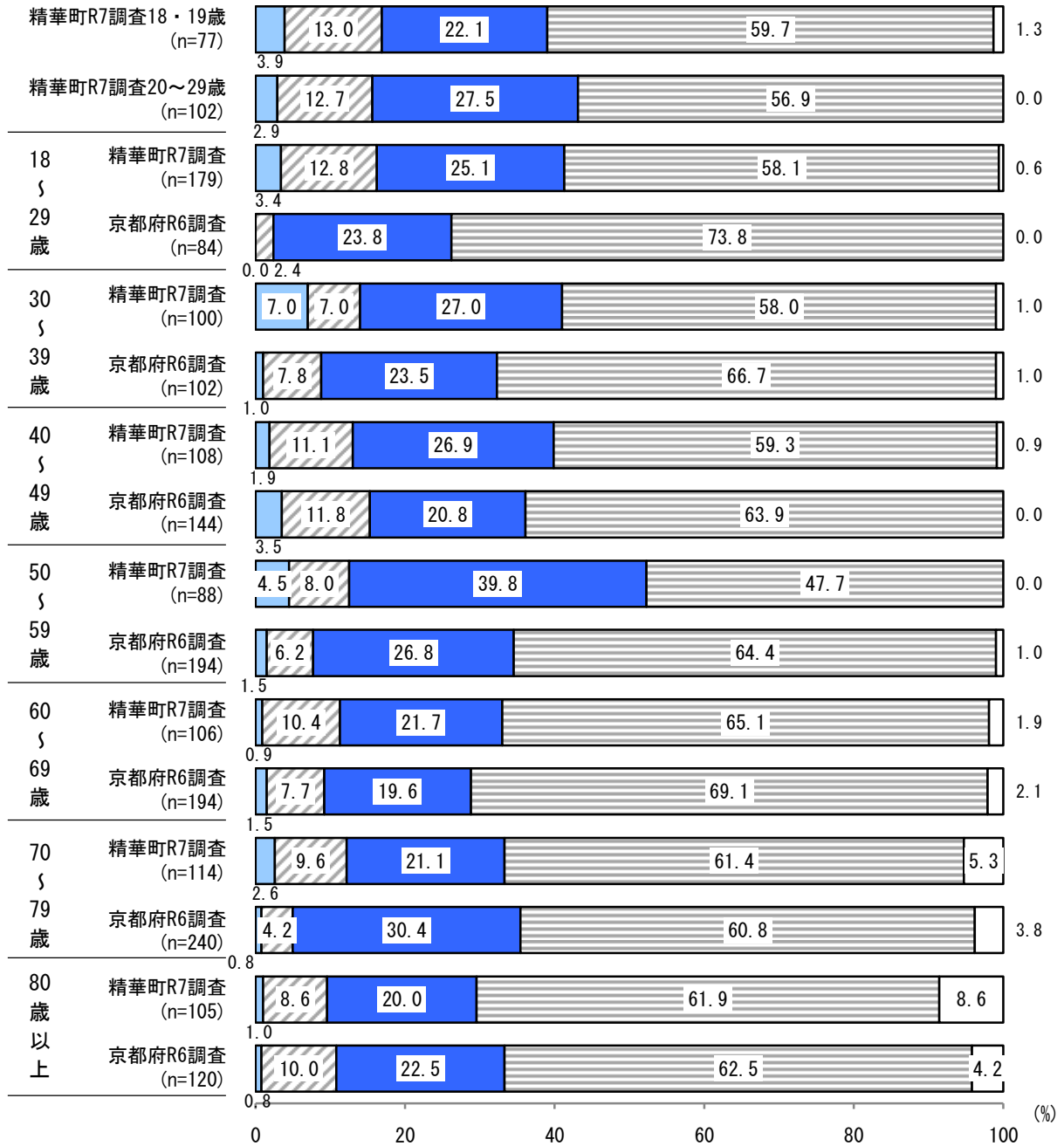


■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『避けると思う』は、18・19歳が16.9%と最も多く、次いで20～29歳が15.6%、30～39歳が14.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から60～69歳まで『避けると思う』が多くなっている。

また両調査とも各年代で『避けないと思う』が過半数を占め多くなっている。



避けると思う

 どちらかと言えば避けると思う

 どちらかと言えば避けないと思う

 避けないと思う

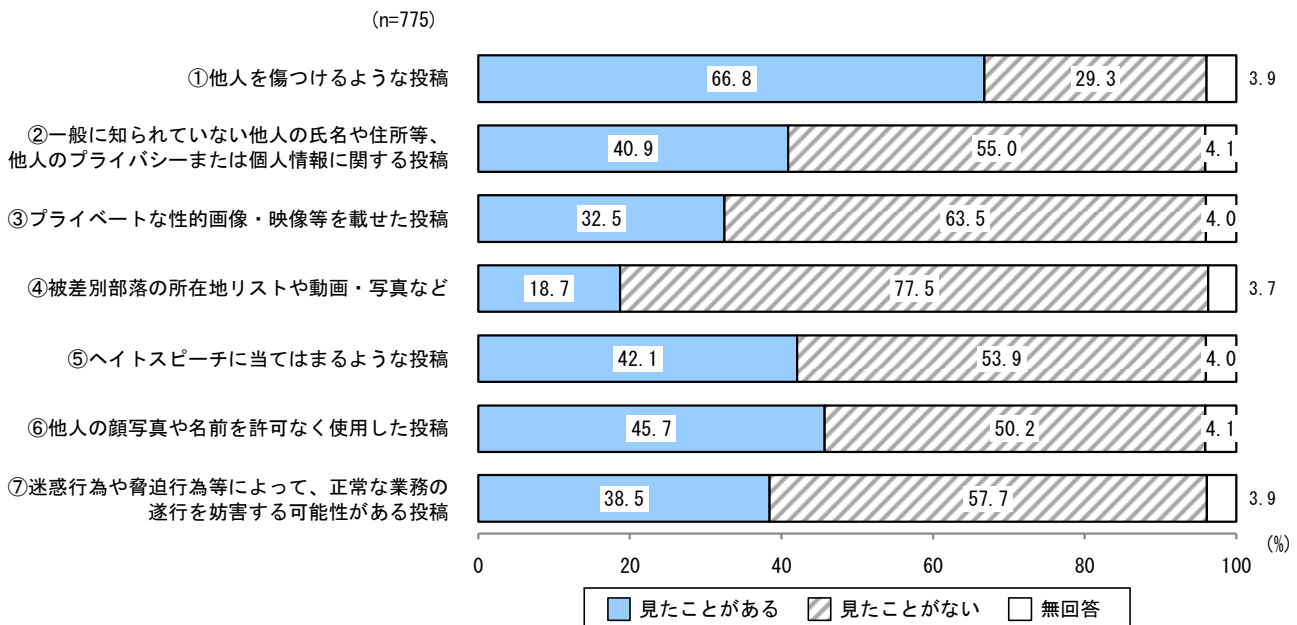
 無回答

19. インターネットによる人権侵害

問 19	あなたは、インターネット上で次の①～⑦のような投稿を見たことがありますかそれぞれ、「見たことがある」または「見たことがない」のいずれかでお答えください。(自分が対象になった場合を除きます。) (○はそれぞれ1つずつ)
------	---

■全体傾向

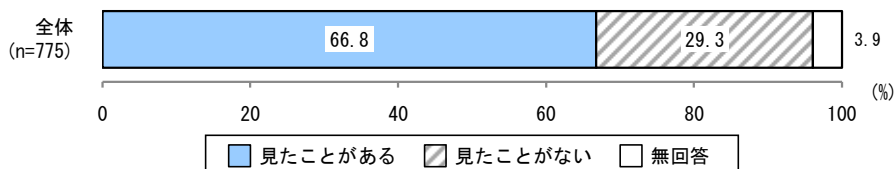
インターネットによる人権侵害について、「見たことがある」割合は「①他人を傷つけるような投稿」が最も多く、次いで「⑥他人の顔写真や名前を許可なく使用した投稿」「⑤ヘイトスピーチに当てはまるような投稿」となっている。一方、「見たことがない」割合は「④被差別部落の所在地リストや動画・写真」が最も多く、次いで「③プライベートな性的画像・映像等を載せた投稿」「⑦迷惑行為や脅迫行為等によって、正常な業務の遂行を妨害する可能性がある投稿」となっている。



【①他人を傷つけるような投稿（誹謗中傷）】

■全体傾向

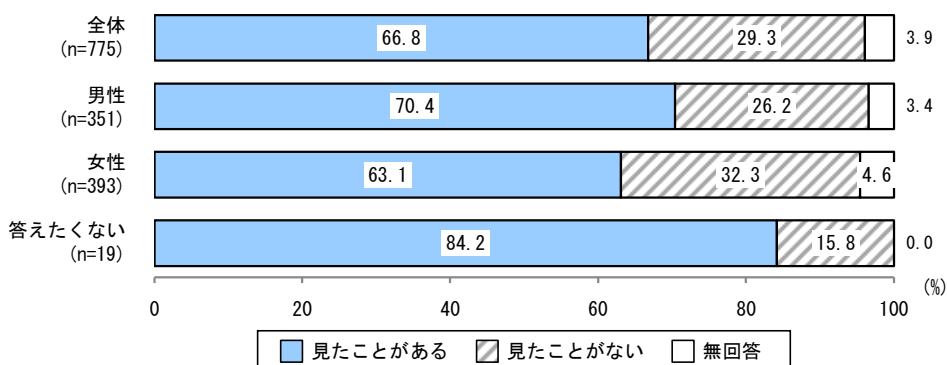
他人を傷つけるような投稿について、「見たことがある」が66.8%、「見たことがない」が29.3%となっている。



■性別比較

性別でみると、男性は「見たことがある」が70.4%、「見たことがない」が26.2%、女性は「見たことがある」が63.1%、「見たことがない」が32.3%となっている。

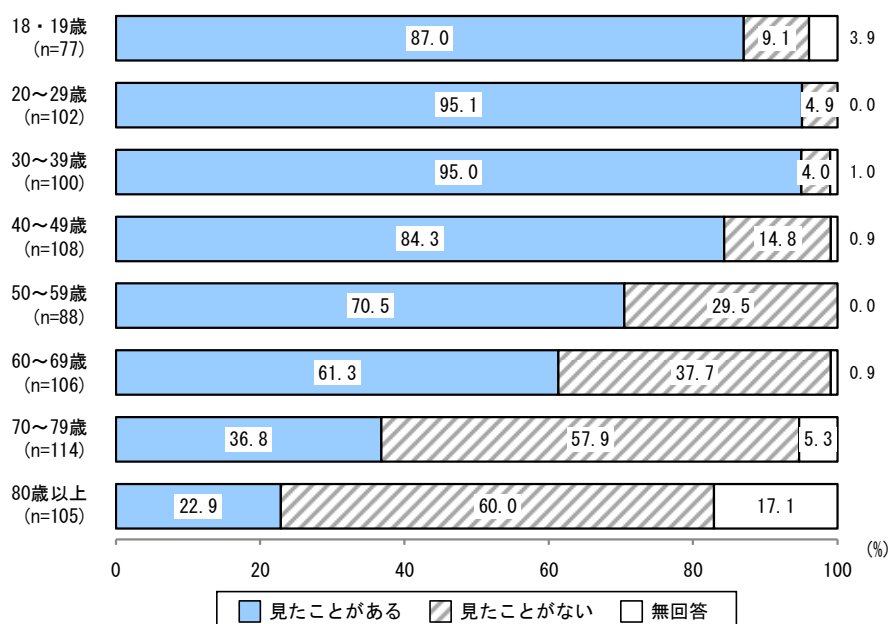
男性と比べて女性は「見たことがある」が7.3ポイント少なく、「見たことがない」が6.1ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別でみると、「見たことがある」が、20～29歳が95.1%と最も多く、次いで30～39歳が95.0%、18・19歳が87.0%となっている。

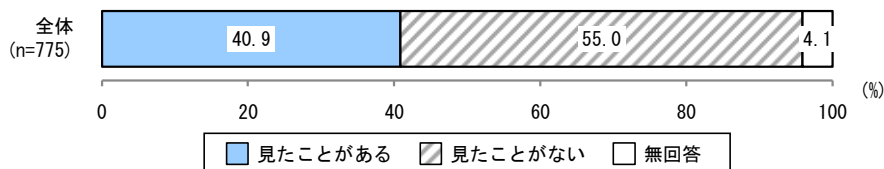
年代が上がるにつれて「見たことがある」が少なくなる傾向がみられる。



【②一般に知られていない他人の氏名や住所等、他人のプライバシーまたは個人情報に関する投稿】

■全体傾向

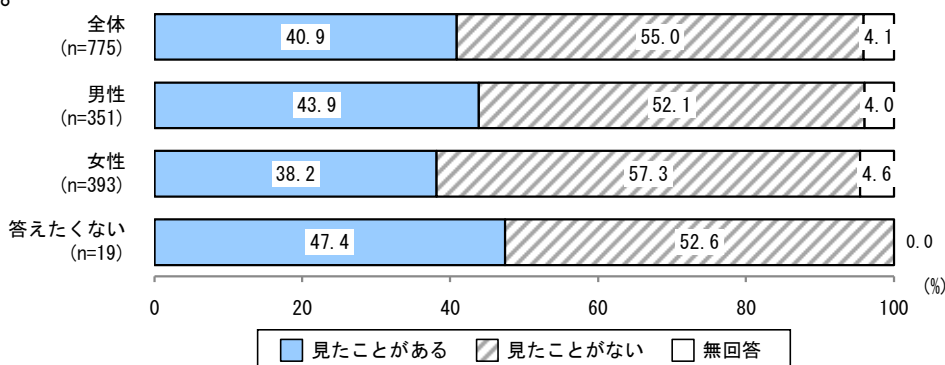
一般に知られていない他人の氏名や住所等、他人のプライバシーまたは個人情報に関する投稿について、「見たことがある」が40.9%、「見たことがない」が55.0%となっている。



■性別比較

性別でみると、男性は「見たことがある」が43.9%、「見たことがない」が52.1%となっており、女性は「見たことがある」が38.2%「見たことがない」が57.3%となっている。

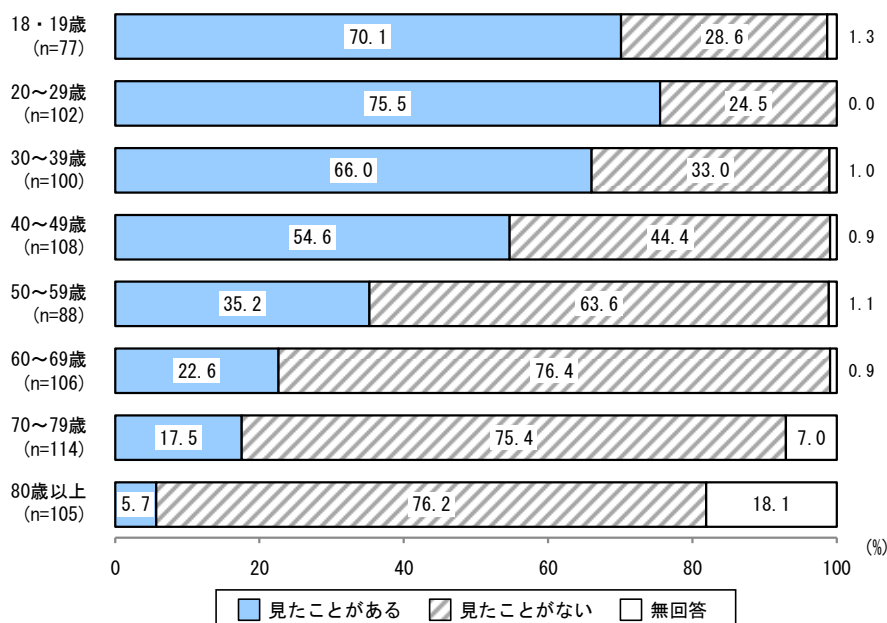
男性と比べて女性は「見たことがある」が5.7ポイント少なく、「見たことがない」が5.2ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別でみると、「見たことがある」が、20～29歳が75.5%と最も多く、次いで18・19歳が70.1%、30～39歳が66.0%となっている。

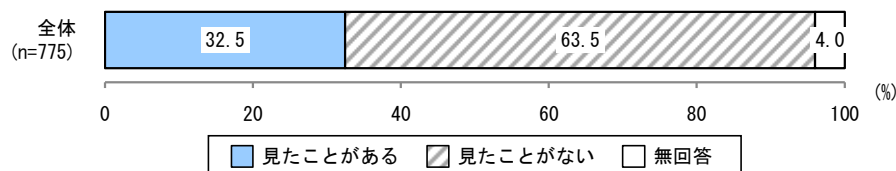
年代が上がるにつれて「見たことがある」が少なくなる傾向がみられる。



【③プライベートな性的画像・映像等を載せた投稿】

■全体傾向

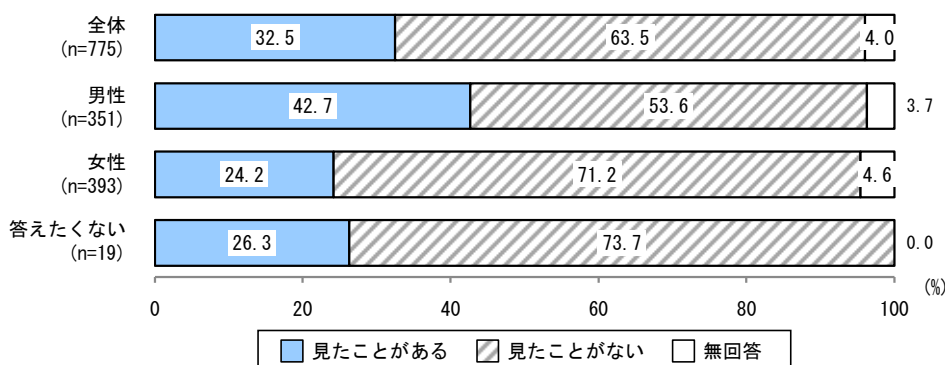
プライベートな性的画像・映像等を載せた投稿について、「見たことがある」が32.5%、「見たことがない」が63.5%となっている。



■性別比較

性別でみると、男性は「見たことがある」が42.7%、「見たことがない」が53.6%となっており、女性は、「見たことがある」が24.2%、「見たことがない」が71.2%となっている。

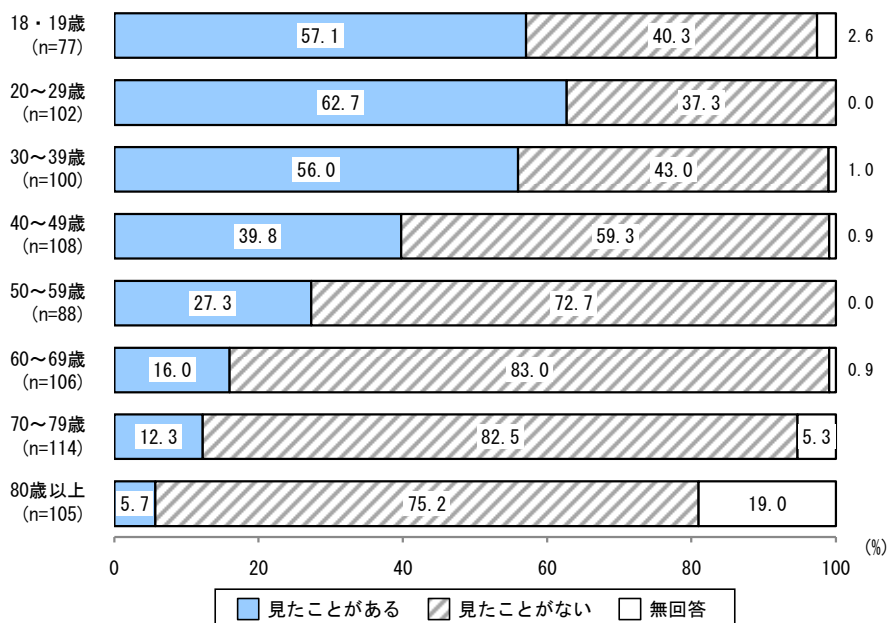
男性と比べて女性は「見たことがある」が18.5ポイント少なくなっている。



■年代別比較

年代別でみると、「見たことがある」は、20～29歳が62.7%と最も多く、次いで18・19歳が57.1%、30～39歳が56.0%となっている。

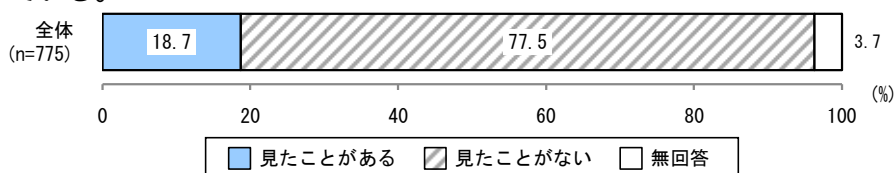
年代が上がるにつれて「見たことがある」が少なくなる傾向がみられる。



【④被差別部落の所在地リストや動画・写真など】

■全体傾向

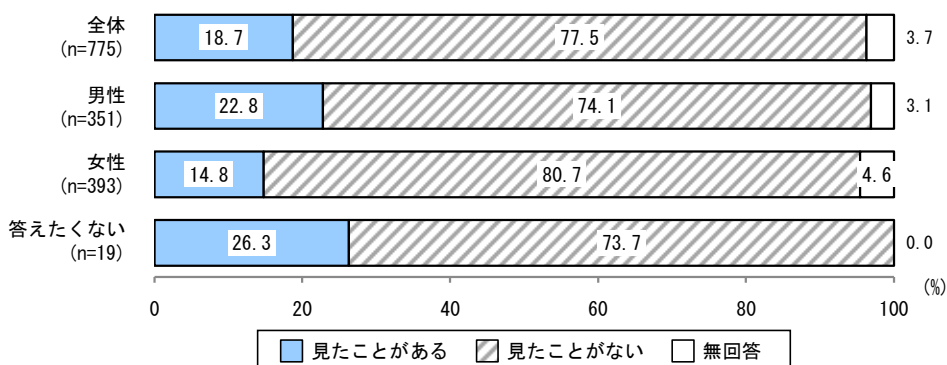
被差別部落の所在地リストや動画・写真などについて、「見たことがある」が18.7%、「見たことがない」が77.5%となっている。



■性別比較

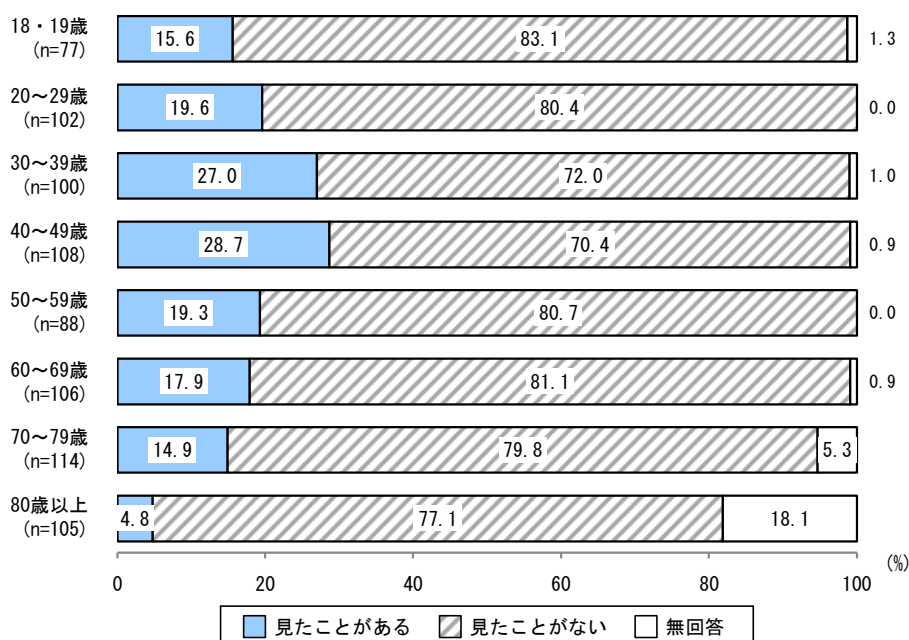
性別でみると、男性は「見たことがある」が22.8%、「見たことがない」が74.1%、女性は「見たことがある」が14.8%、「見たことがない」が80.7%となっている。

男性と比べて女性は「見たことがある」が8.0ポイント少なくなっている。



■年代別比較

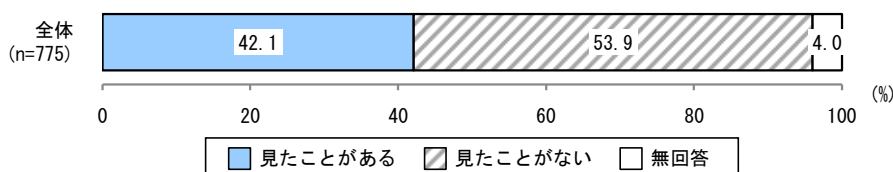
年代別でみると、「見たことがある」は、40～49歳が28.7%と最も多く、次いで30～39歳が27.0%、50～59歳が19.3%となっている。



【⑤ヘイトスピーチに当てはまるような投稿】

■全体傾向

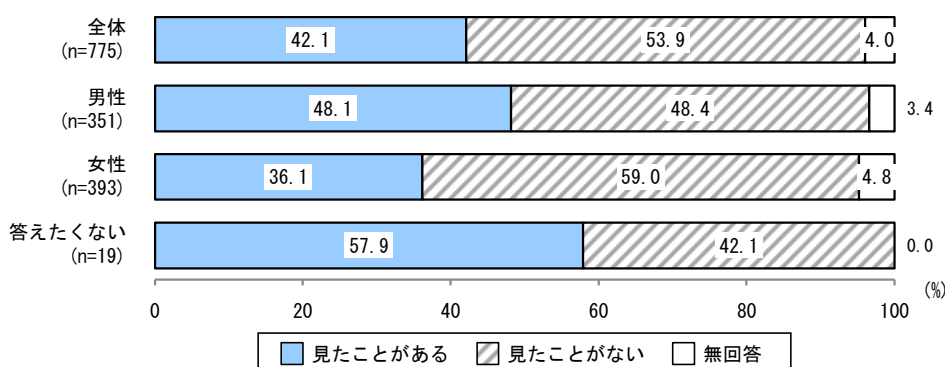
ヘイトスピーチに当てはまるような投稿について、「見たことがある」が42.1%、「見たことがない」が53.9%となっている。



■性別比較

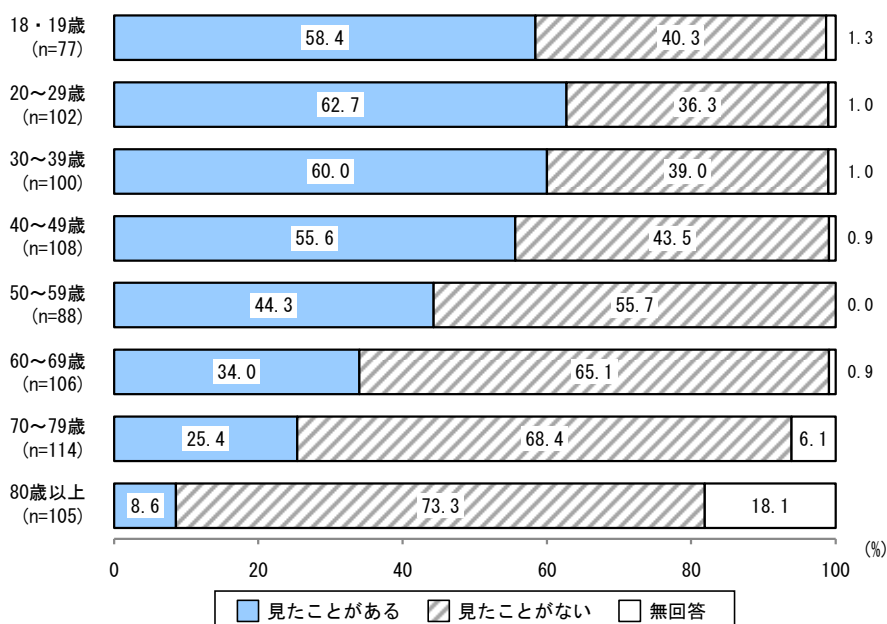
性別でみると、男性は「見たことがある」が48.1%、「見たことがない」が48.4%、女性は「見たことがある」が36.1%、「見たことがない」が59.0%となっている。

男性と比べて女性は「見たことがある」が12.0ポイント少なくなっている。



■年代別比較

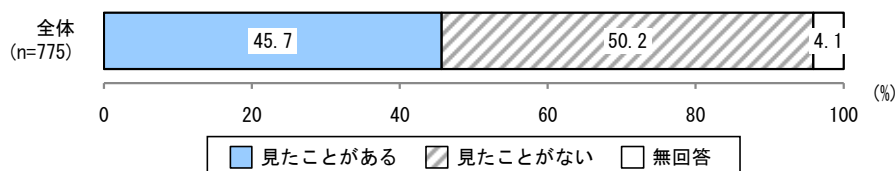
年代別でみると、「見たことがある」は、20～29歳が62.7%と最も多く、次いで30～39歳が60.0%、18・19歳が58.4%となっている。18～29歳から40～49歳まで「見たことがある」が過半数を占めているが、20～29歳以上、年代が上がるにつれて少なくなる傾向がみられる。



【⑥他人の顔写真や名前を許可なく使用した投稿】

■全体傾向

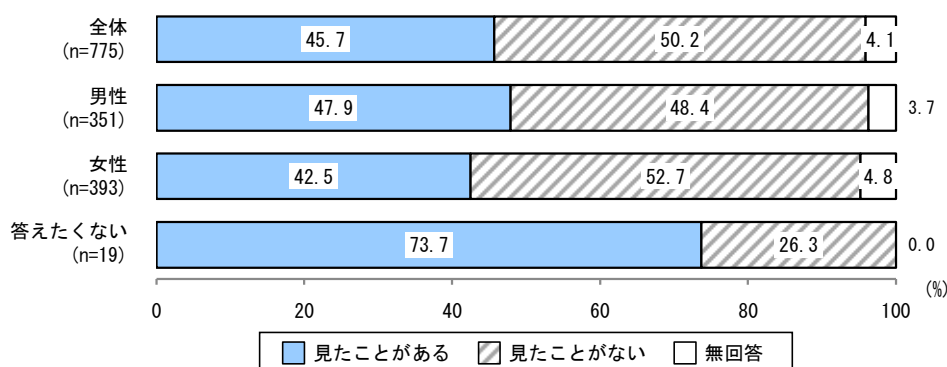
他人の顔写真や名前を許可なく使用した投稿について、「見たことがある」が45.7%、「見たことがない」が50.2%となっている。



■性別比較

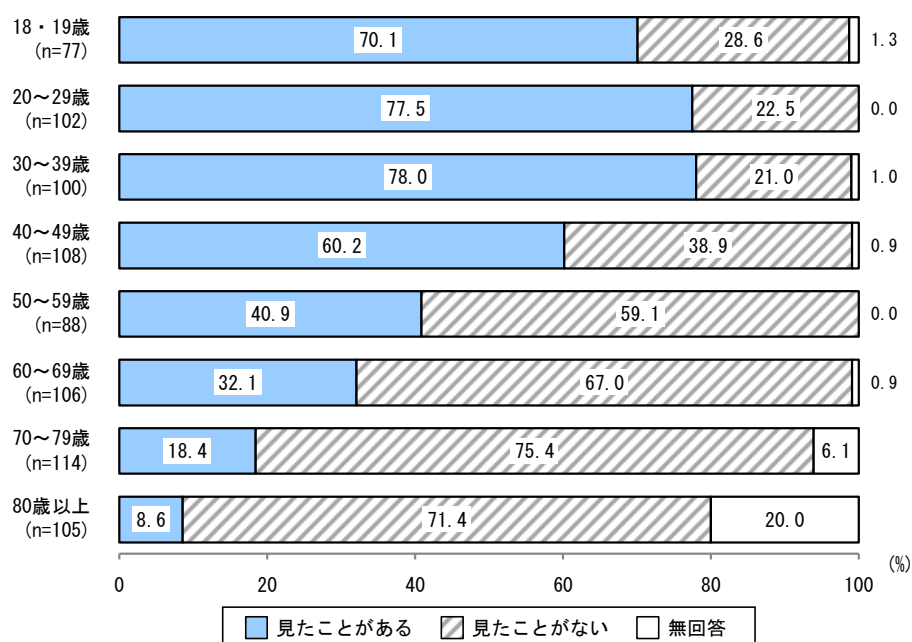
性別でみると、男性は「見たことがある」が47.9%、「見たことがない」が48.4%となっており、女性は「見たことがある」が42.5%、「見たことがない」が52.7%となっている。

男性と比べて女性は「見たことがある」が5.4ポイント少なくなっている。



■年代別比較

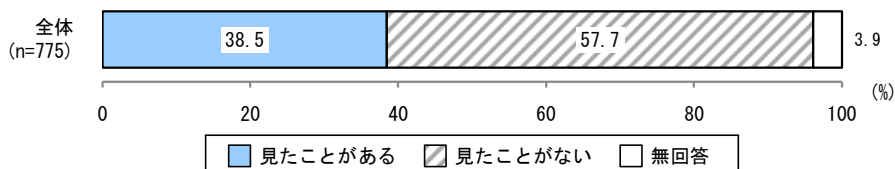
年代別でみると、「見たことがある」が、20～29歳が77.5%と最も多く、次いで18・19歳が63.6%、30～39歳が58.0%となっている。



【⑦迷惑行為や脅迫行為などによって、正常な業務の遂行を妨害する可能性がある投稿】

■全体傾向

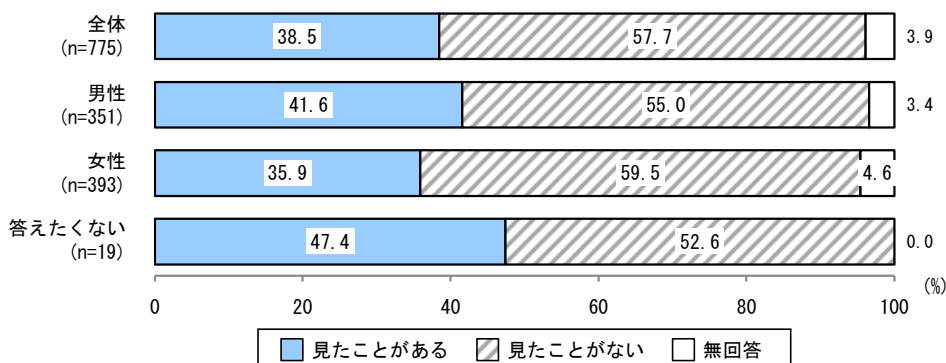
迷惑行為や脅迫行為などによって、正常な業務の遂行を妨害する可能性がある投稿について、「見たことがある」が38.5%、「見たことがない」が57.7%となっている。



■性別比較

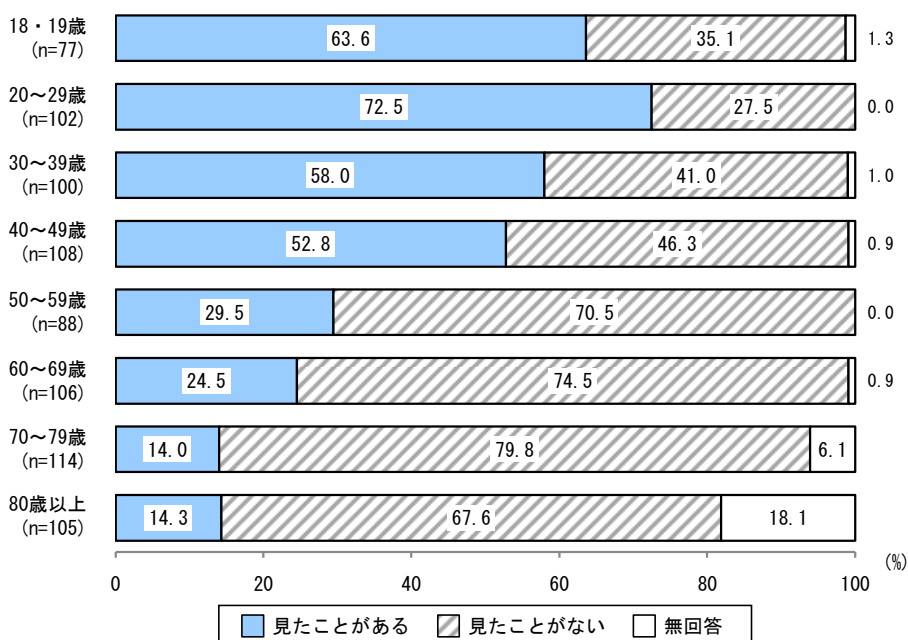
性別で見ると、男性は「見たことがある」が41.6%、「見たことがない」が55.0%、女性は「見たことがある」が35.9%、「見たことがない」が59.5%となっている。

男性と比べて女性は「見たことがある」が5.7ポイント少なくなっている。



■年代別比較

年代別で見ると、「見たことがある」が、20～29歳が72.5%と最も多く、次いで18・19歳が63.6%、30～39歳が58.0%となっている。

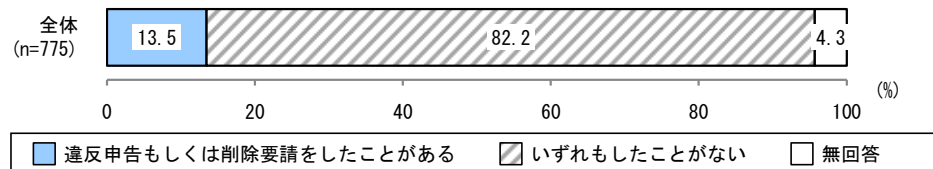


20. 不適切な情報の投稿について

問 20	あなたは、不適切な情報が投稿されているのを見て、プロバイダ(サービス提供事業者)などに違反申告をしたり、削除要請をしたことがありますか。	(〇は1つ)
------	--	--------

■全体傾向

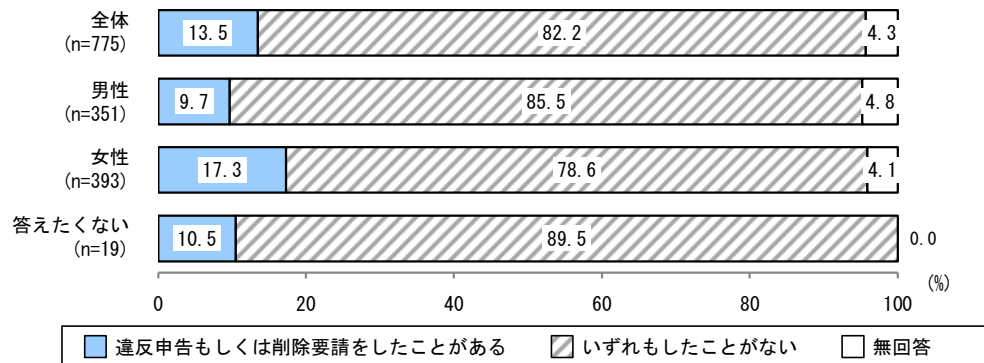
不適切な情報が投稿されているのを見て、違反申告や削除要請をした経験について、「違反申告もしくは削除要請をしたことがある」が13.5%、「いずれもしたことがない」が82.2%となっている。



■性別比較

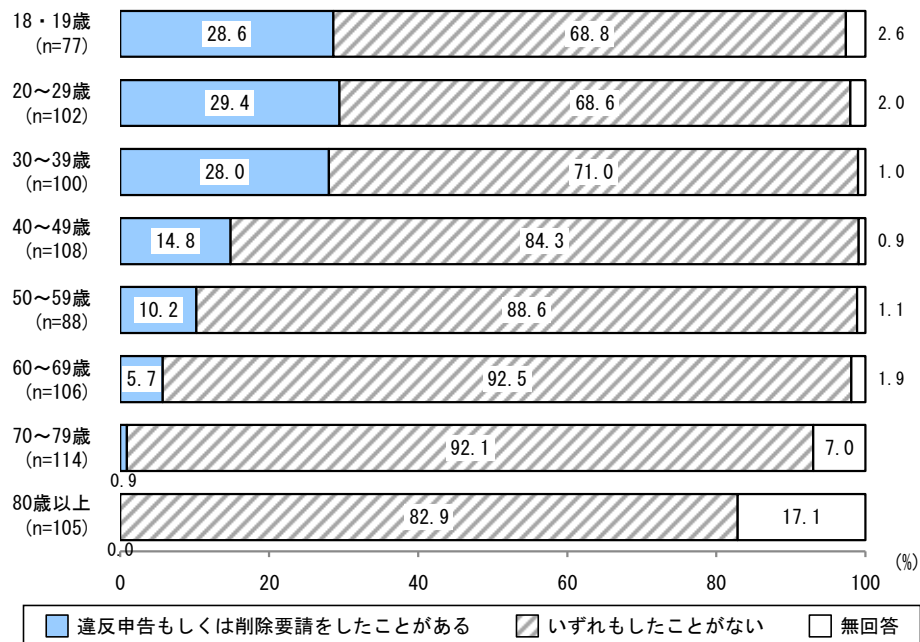
性別でみると、男性は「違反申告もしくは削除要請をしたことがある」が9.7%、「いずれもしたことがない」が85.5%、女性は「違反申告もしくは削除要請をしたことがある」が17.3%、「いずれもしたことがない」が78.6%となっている。

男性と比べて女性は「違反申告もしくは削除要請をしたことがある」が7.6ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別でみると、「違反申告もしくは削除要請をしたことがある」が、20～29歳が29.4%と最も多く、次いで18・19歳が28.6%、30～39歳が28.0%となっている。



(5) 人権問題を理解するための取り組みについて

21. 人権問題に対する学び

問 21	あなたは、人権問題について、学校の授業等で学んだことがありますか。 (〇はいくつでも)
------	---

■京都府(全体)との比較

人権問題に対する学びについて、「中学校で学んだ」が57.5%と最も多く、次いで「小学校で学んだ」が57.0%、「高校・高等専修学校で学んだ」が40.5%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「中学校で学んだ」が11.4ポイント、「小学校で学んだ」が12.4ポイント、「高校・高等専修学校で学んだ」が13.3ポイント多く、「学校で学んだ経験はない」が5.7ポイント少なくなっている。

(MA%)

	中学校で学んだ	小学校で学んだ	高校・高等専修学校で学んだ	はっきりと覚えていない	短大・大学・大学院等も含む)で学んだ	学校で学んだ経験はない	無回答
精華町R7調査 (n=139)	57.5	57.0	40.5	19.6	14.3	7.5	1.4
京都府R6調査 (n=147)	46.1	44.6	27.2	23.9	10.2	13.2	2.8

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「中学校で学んだ」が55.3%と最も多く、次いで「小学校で学んだ」が54.4%、「高校・高等専修学校で学んだ」が40.2%となっている。女性も「中学校で学んだ」が59.3%と最も多く、次いで「小学校で学んだ」が58.3%、「高校・高等専修学校で学んだ」が40.7%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「小学校で学んだ」「中学校で学んだ」「高校・高等専修学校で学んだ」が10ポイント以上多くなっている。

	(MA%)						
	中学校で学んだ	小学校で学んだ	高校・高等専修学校で学んだ	はっきりと覚えていない	短大・大学・専門学校(大学院等も含む)で学んだ	学校で学んだ経験はない	無回答
精華町R7調査男性 (n=351)	55.3	54.4	40.2	21.4	11.1	8.5	1.7
京都府R6調査男性 (n=452)	42.9	43.1	23.2	24.1	8.8	17.0	1.1
精華町R7調査女性 (n=393)	59.3	58.3	40.7	18.1	17.3	7.1	1.3
京都府R6調査女性 (n=599)	49.1	46.1	30.4	23.4	11.7	10.5	3.5

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、18・19歳から50～59歳は「小学校で学んだ」、60～69歳が「中学校で学んだ」、70～79歳以上は「はっきりと覚えていない」が最も多くなっている。50～59歳以上、年代が上がるにつれて「学校で学んだ経験はない」が多くなる傾向がみられる。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から40～49歳までの「小学校で学んだ」「中学校で学んだ」「高校・高等専修学校で学んだ」がおおよそ10ポイント以上多くなっている。

	(MA%)						
	小学校で学んだ	中学校で学んだ	高校・高等専修学校で学んだ	(短大・大学院等も含む)で学んだ	はっきりと覚えていない	学校で学んだ経験はない	無回答
精華町R7調査18・19歳 (n=77)	94.8	90.9	87.0	15.6	2.6	0.0	0.0
精華町R7調査20～29歳 (n=102)	90.2	93.1	72.5	32.4	2.9	0.0	0.0
精華町R7調査18～29歳 (n=179)	92.2	92.2	78.8	25.1	2.8	0.0	0.0
京都府R6調査18～29歳 (n=84)	77.4	83.3	59.5	26.2	6.0	1.2	-
精華町R7調査30～39歳 (n=100)	81.0	72.0	50.0	18.0	10.0	0.0	0.0
京都府R6調査30～39歳 (n=102)	68.6	59.8	37.3	20.6	15.7	4.9	-
精華町R7調査40～49歳 (n=108)	84.3	76.9	45.4	18.5	5.6	0.0	0.9
京都府R6調査40～49歳 (n=144)	68.8	59.7	33.3	9.7	18.1	3.5	-
精華町R7調査50～59歳 (n=88)	73.9	64.8	39.8	6.8	10.2	3.4	0.0
京都府R6調査50～59歳 (n=194)	68.6	60.3	33.5	11.9	15.5	3.1	-
精華町R7調査60～69歳 (n=107)	43.0	44.9	33.6	15.0	24.3	4.7	0.9
京都府R6調査60～69歳 (n=194)	39.7	47.4	26.8	8.8	24.2	7.7	-
精華町R7調査70～79歳 (n=114)	10.5	26.3	12.3	10.5	43.0	18.4	0.9
京都府R6調査70～79歳 (n=240)	14.2	24.6	13.8	3.8	37.9	26.3	-
精華町R7調査80歳以上 (n=105)	8.6	16.2	7.6	1.9	43.8	27.6	7.6
京都府R6調査80歳以上 (n=120)	5.0	12.5	9.2	4.2	35.0	39.2	-

※京都府R6調査と比較では無回答の数値なし

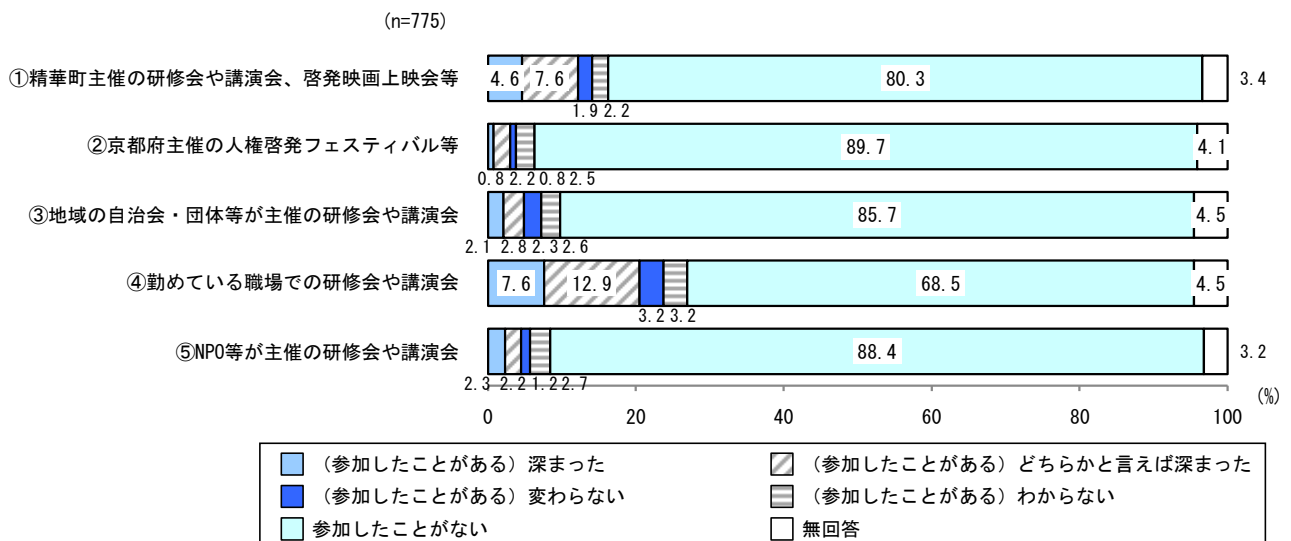
22. 人権研修等への参加状況

問 22	<p>最近(過去5年間)、あなたは、職場や学校、行政機関等が主催する人権問題に関する研修会や講演会、啓発映画上映会(精華町人権シネマサロン)などの人権啓発に関するイベント等に参加されたことがありますか。参加して人権問題に対する理解・認識は深まりましたか。①～⑤の各事項について、あてはまる番号1つに○をつけてください。</p> <p>(参加したことがある方は1～4のうち1つに、参加したことがない方は5に、○をつけてください。)</p>
------	--

■全体傾向

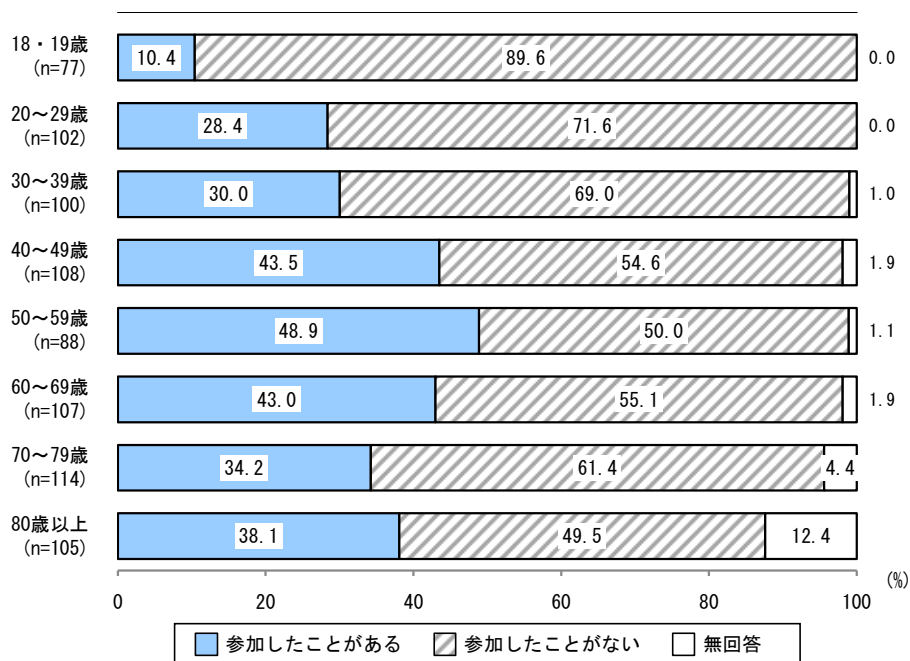
人権研修等への参加状況について、『参加したことがある』(「(参加したことがある) 深まった」「(参加したことがある) どちらかと言えば深まった」「(参加したことがある) 変わらない」「(参加したことがある) わからない」の合算) 割合は「④勤めている職場での研修会や講演会」が26.9%と最も多く、次いで「①精華町主催の研修会や講演会、啓発映画上映会等」が16.3%、「③地域の自治会・団体等が主催の研修会や講演会」が9.8%となっている。

「④勤めている職場での研修会や講演会」に参加したことがある人は、「(参加したことがある) 深まった」が7.6%、「(参加したことがある) どちらかと言えば深まった」が12.9%と他と比べて多くなっている。



■年代別比較

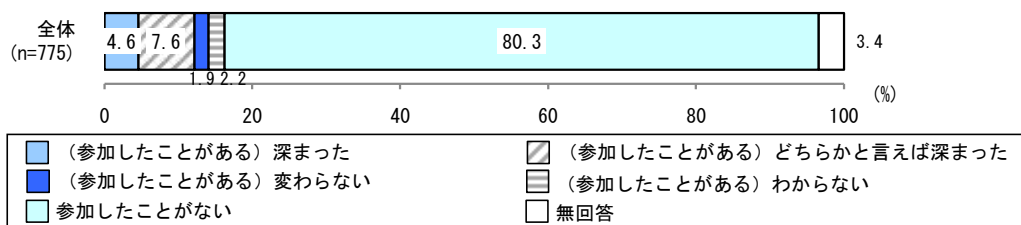
人権研修等への参加経験について年代別にみると、50～59歳が48.9%と最も多く、次いで40～49歳が43.5%、80歳以上が38.1%となっている。



【①精華町主催の研修会や講演会、啓発映画上映会（精華町人権シネマサロン）等】

■全体傾向

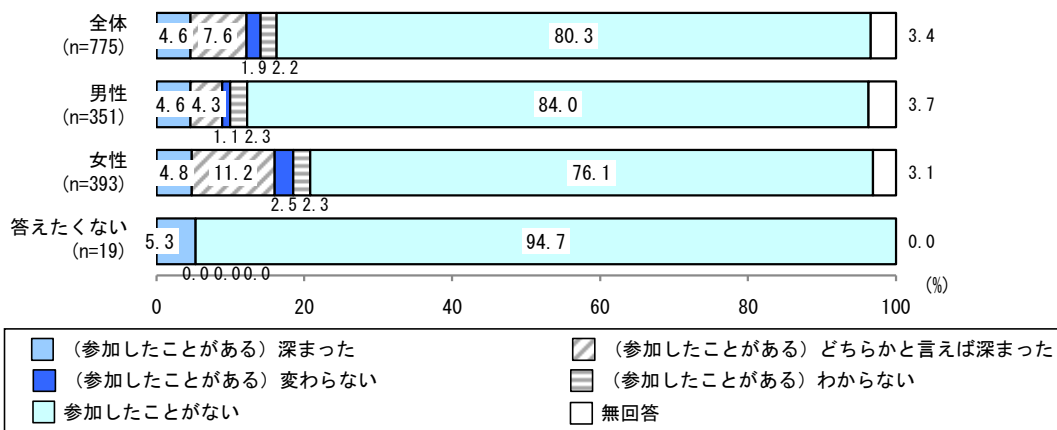
精華町主催の研修会や講演会、啓発映画上映会（精華町人権シネマサロン）等への参加状況は、「参加したことがない」が80.3%、『参加したことがある』は16.3%となっている。



■性別比較

性別で見ると、男性は『参加したことがある』が12.3%、「参加したことがない」が84.0%となっており、女性は『参加したことがある』が20.8%、「参加したことがない」が76.1%となっている。

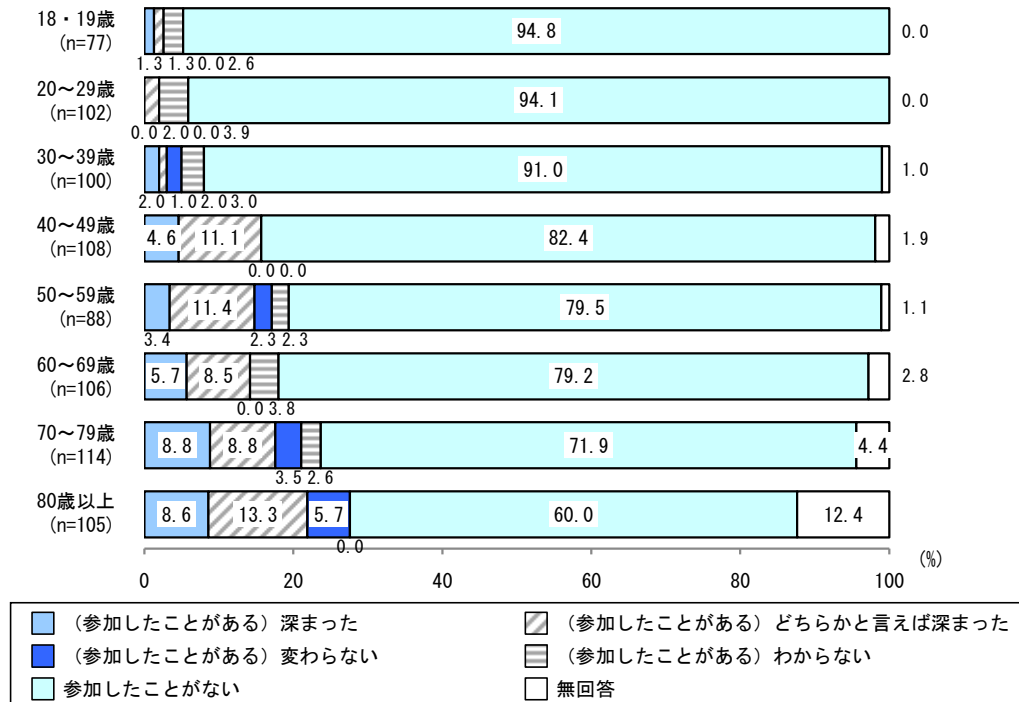
男性と比べて女性は「どちらかと言えば深まった」が6.9ポイント多くなっている。



■年代別比較

年代別にみると、『参加したことがある』は、80歳以上が27.6%と最も多く、次いで70～79歳が23.7%、50～59歳が19.4%となっている。

年代が上がるにつれて「参加したことがない」が少なくなっている。

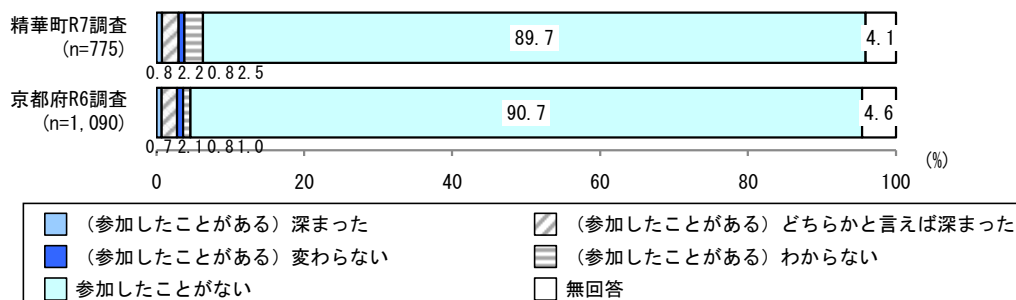


【②京都府主催の人権啓発フェスティバル（京都ヒューマンフェスタ）等】

■京都府(全体)との比較

京都府主催の人権啓発フェスティバル（京都ヒューマンフェスタ）等への参加状況は、「参加したことがない」が89.7%、『参加したことがある』が6.3%となっている。

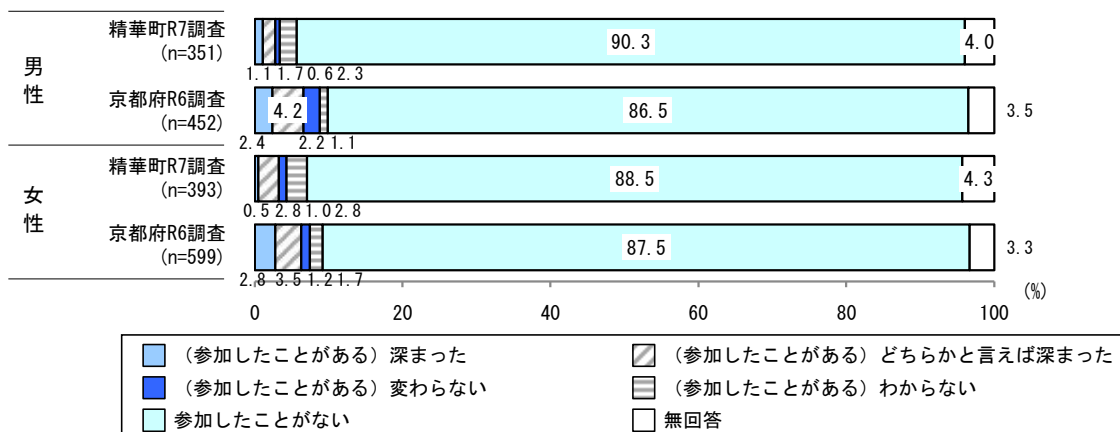
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「参加したことがない」が90.3%、『参加したことがある』が5.7%となっており、女性は「参加したことがない」が88.5%、『参加したことがある』が7.1%となっている。

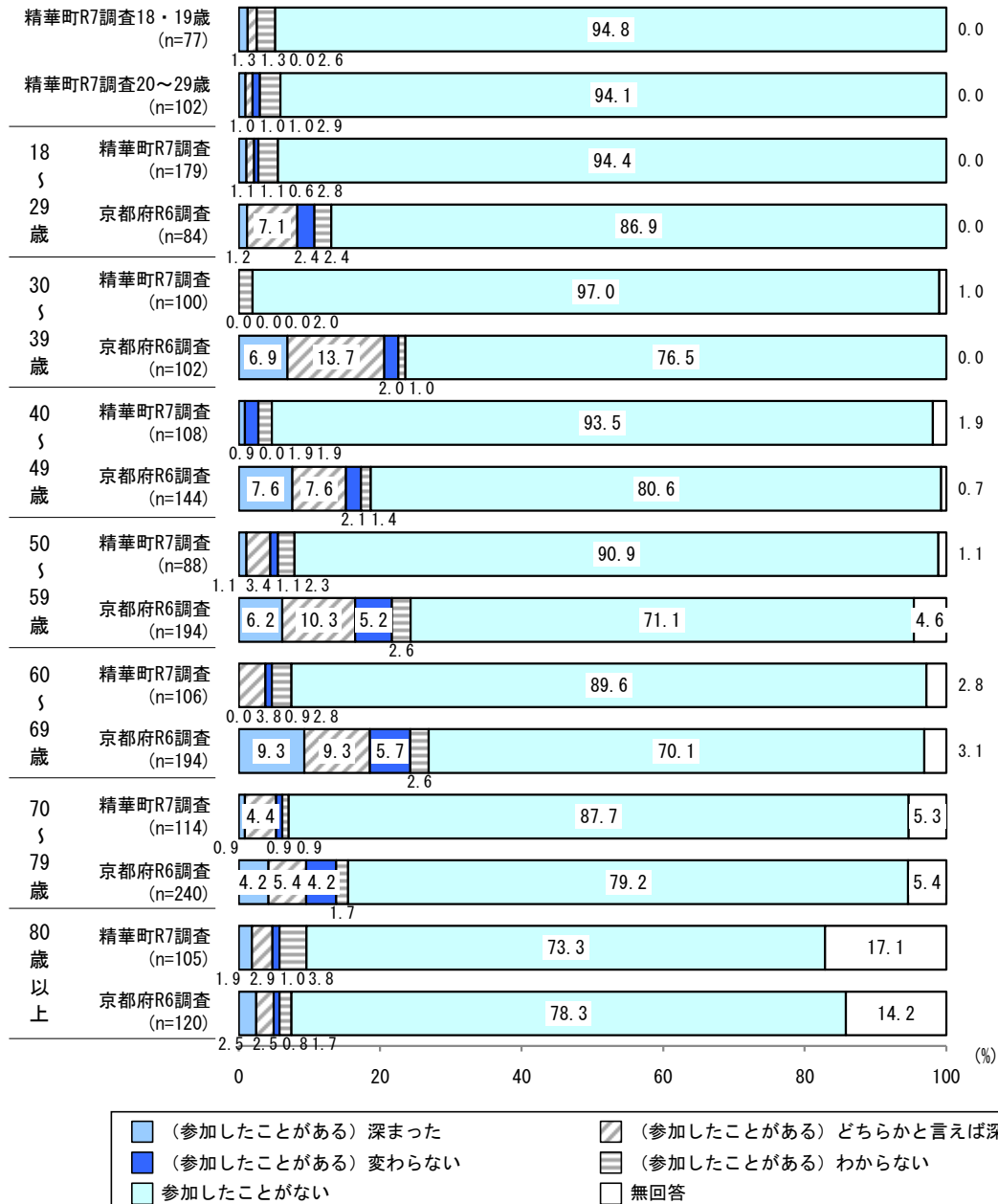
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『参加したことがある』は、80歳以上が9.6%と最も多く、次いで50～59歳が7.9%、60～69歳が7.5%となっている。年代が上がるにつれて「参加したことがない」が少なくなる傾向がみられる。

京都府R6調査と比較すると、70～79歳での「参加したことがない」は精華町R7調査が5.6ポイント多くなっている。

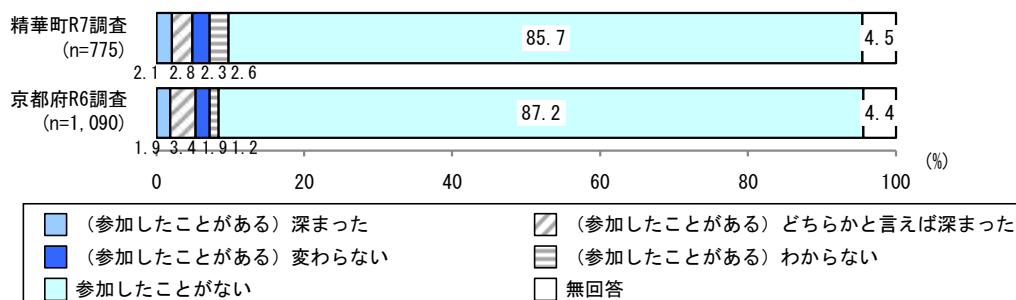


【③地域の自治会・団体等が主催の研修会や講演会】

■京都府(全体)との比較

地域の自治会・団体等が主催の研修会や講演会への参加状況は、「参加したことがない」が85.7%、『参加したことがある』が9.8%となっている。

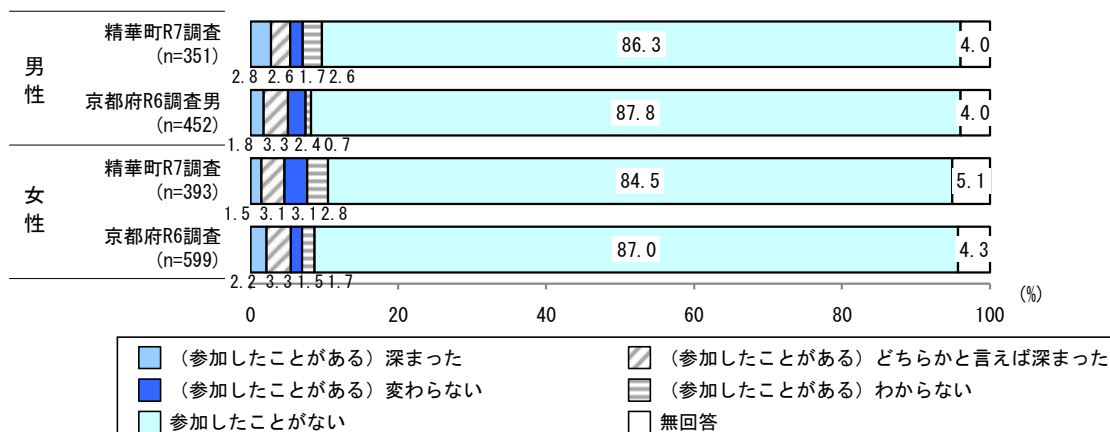
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

性別で見ると、男性は「参加したことがない」が86.3%、『参加したことがある』が9.7%となっており、女性は「参加したことがない」が84.5%、『参加したことがある』が10.5%となっている。

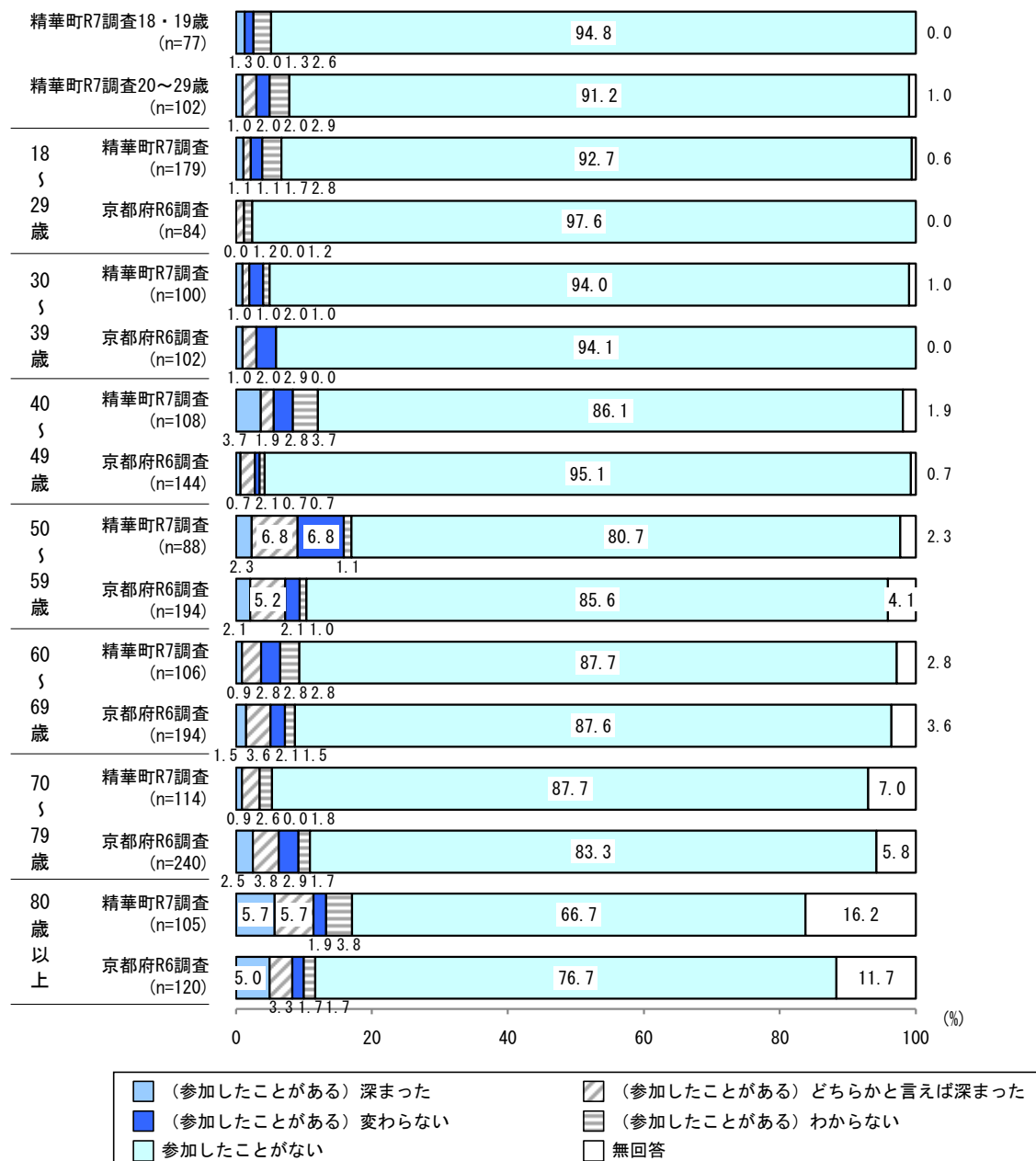
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別で見ると、『参加したことがある』は、80歳以上が17.1%と最も多く、次いで50～59歳が17.0%、40～49歳が12.1%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では80歳以上を除く各年代で10ポイント以上多くなっている。

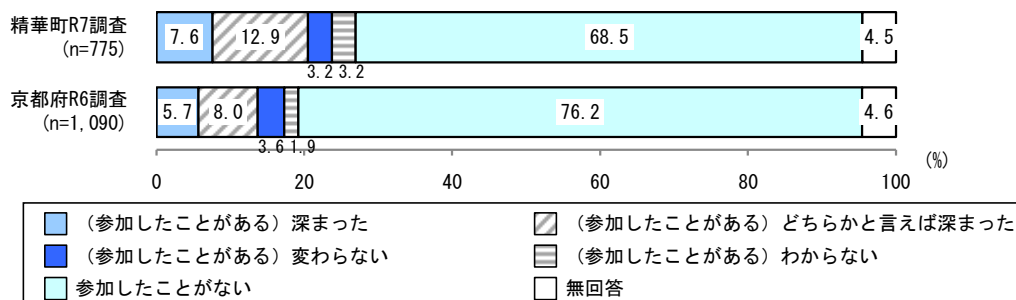


【④勤めている職場での研修会や講演会】

■京都府(全体)との比較

勤めている職場での研修会や講演会への参加状況は、「参加したことがない」が68.5%、『参加したことがある』が26.9%となっている。

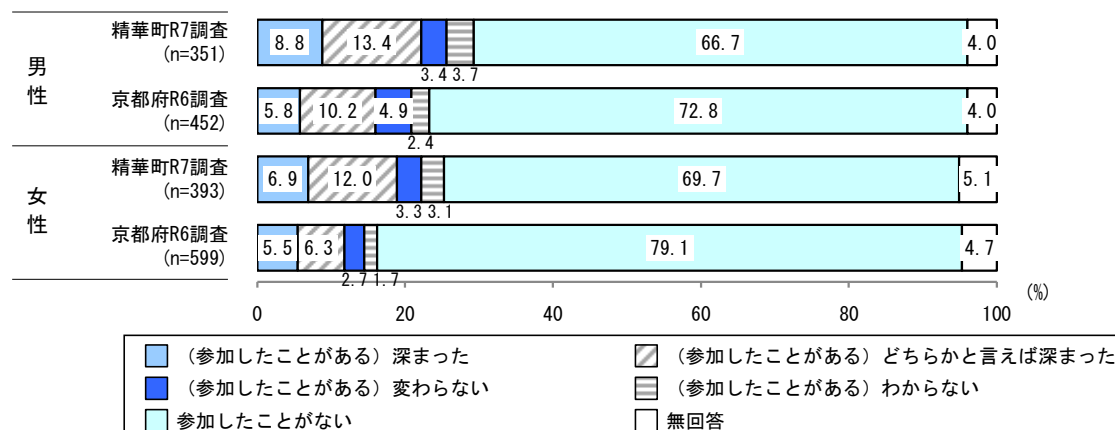
京都府R6調査と比較すると、「参加したことがない」が7.7ポイント少なくなっている。



■京都府(性別)との比較

男性は「参加したことがない」が66.7%、『参加したことがある』が29.3%となっており、女性は「参加したことがない」が69.7%、『参加したことがある』が25.3%となっている。

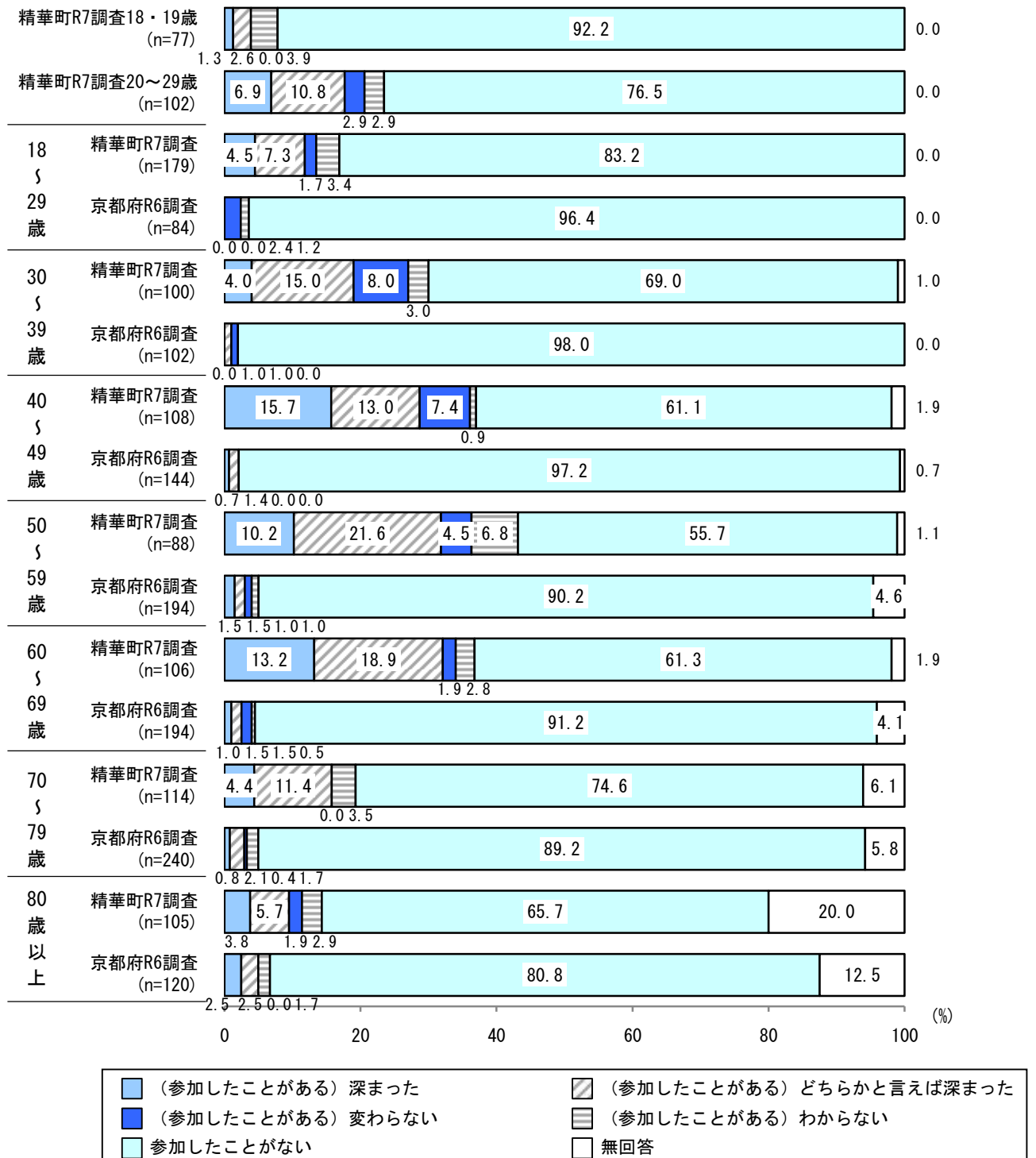
京都府R6調査と比較すると、「参加したことがない」は精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて9.4ポイント少なく、「どちらかと言えば深まった」は精華町R7調査の女性が5.7ポイント多くなっている。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『参加したことがある』は、50～59歳が43.1%と最も多く、次いで40～49歳が37.0%、60～69歳が36.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では各年代での『参加したことがある』が多くなっており、特に40～49歳と50～59歳は10ポイント以上多くなっている。

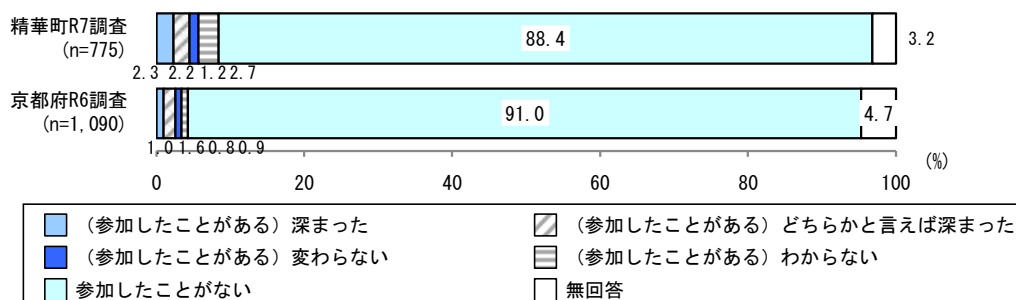


【⑤NPO 等が主催の研修会や講演会】

■京都府(全体)との比較

NPO 等が主催の研修会や講演会への参加状況は、「参加したことがない」が 88.4%、『参加したことがある』が 8.4%となっている。

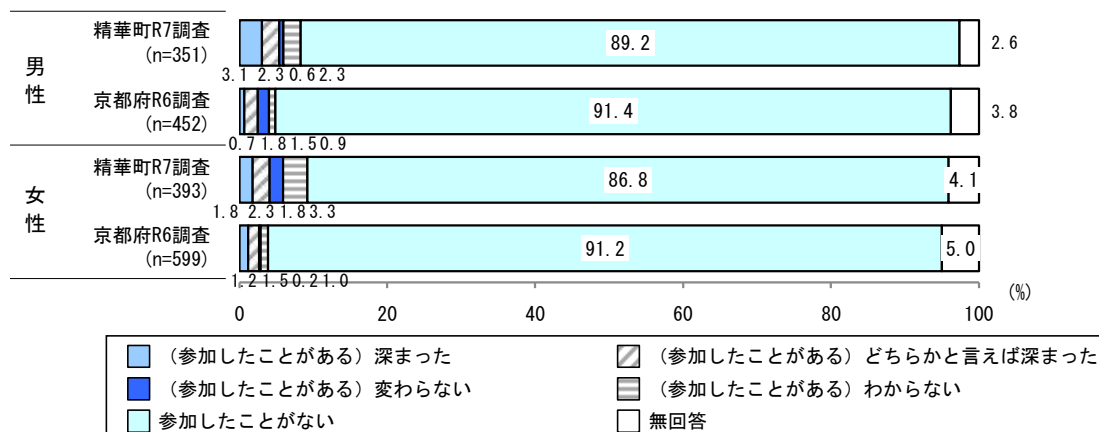
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(性別)との比較

男性は「参加したことがない」が 89.2%、『参加したことがある』が 8.3%となっており、女性は「参加したことがない」が 86.8%、『参加したことがある』が 9.2%となっている。

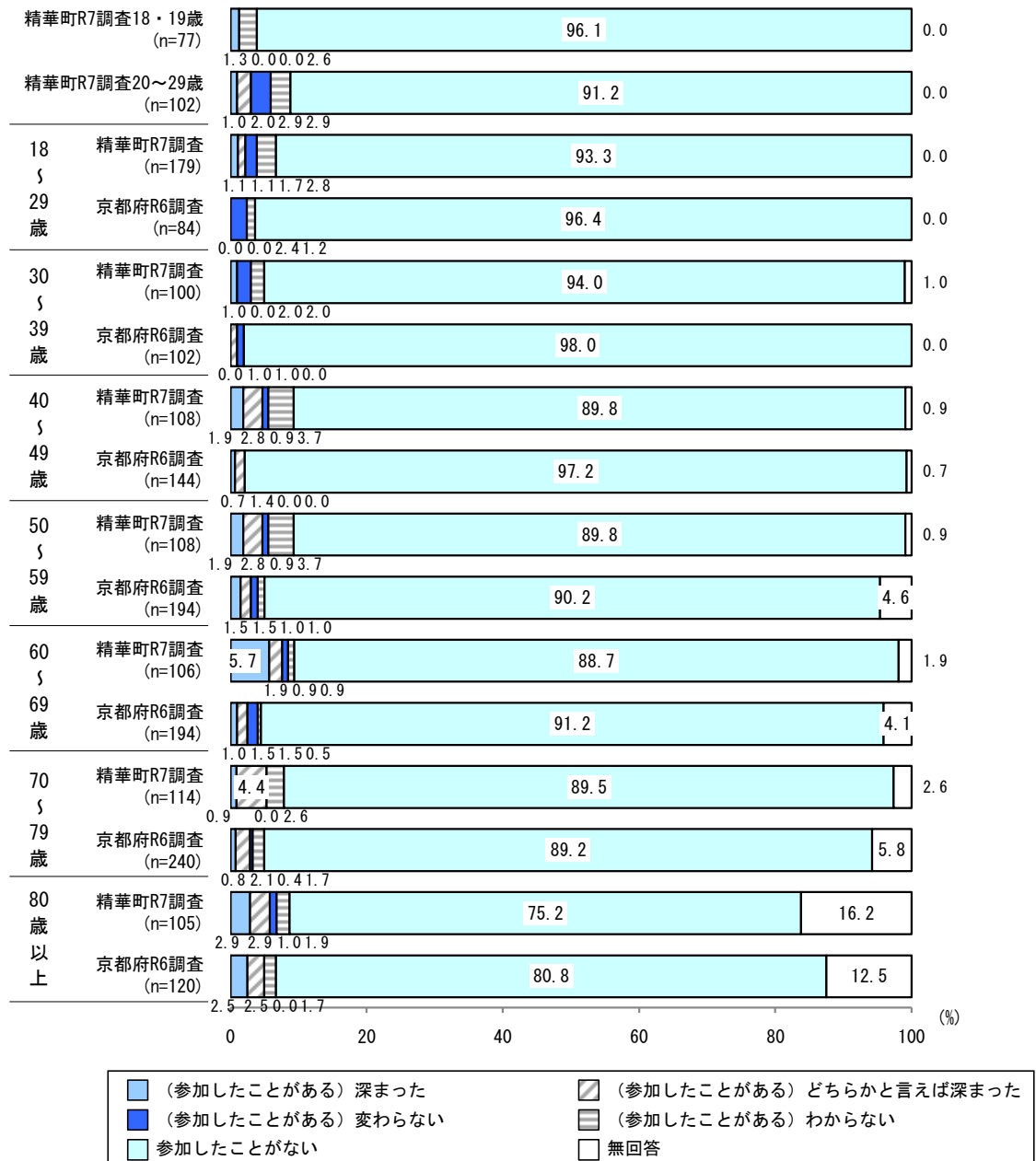
京都府R6調査との比較では大きな差はみられない。



■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、『参加したことがある』は、50～59歳が12.5%と最も多く、次いで60～69歳が9.4%、40～49歳が9.3%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では各年代での『参加したことがある』が多くなっている。



23. 人権研修等の開催内容に対する意見

問 23	あなたは、どのような研修会やイベント等が開催されれば、参加したいと思いますか。 (〇はいくつでも)
------	--

■京都府(全体)との比較

人権研修等の開催内容に対する意見は、「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」が29.4%と最も多く、次いで、「住んでいる地域での研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」が23.2%、「勤めている職場での研修会や講演会等」が19.0%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」が13.9ポイント、「住んでいる地域での研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」が11.8ポイント、「勤めている職場での研修会や講演会等」が9.0ポイント多くなっている。

	(※)							(MA%)
	会 ど で 講 演 会 に イ ン タ ー ネ ッ ト で 自 由 に 開 覧 し 得 る 研 修 会 等	ス テ ィ バ ル 等	住 ん で い る 地 域 で の 研 修 会 等	や 勤 め て い る 職 場 で の 研 修 会 等	修 当 人 権 啓 発 の 話 を 実 態 を 見 た り 、 研	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
精華町R7調査 (n=775)	29.4	23.2	19.0	18.7	2.3	36.3	3.2	
京都府R6調査 (n=782)	15.5	11.4	10.0	15.0	3.6	54.3	2.3	

※「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」が
京都府 R6 調査では「インターネットで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」が29.3%と最も多く、次いで「住んでいる地域での研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」が21.4%、「勤めている職場での研修会や講演会等」が17.1%となっている。女性も「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」が30.5%と最も多く、次いで「住んでいる地域での研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」が25.7%、「勤めている職場での研修会や講演会等」が20.4%となっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」「住んでいる地域での研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」がおよそ10ポイント以上、「勤めている職場での研修会や講演会等」が5ポイント以上多くなっている。

	(※)	会、講演会、イベント等	インターネット・SNS	研修会、講演会、フェ	住んでいる地域での研修会	や勤めている職場での研修会	研修会	当事情者の話を聞くようたり、	人権問題の実態を見たり、	その他	わからない	無回答
精華町R7調査男性 (n=351)	29.3	21.4	17.1	16.2	2.8	37.0	4.8					
京都府R6調査男性 (n=310)	19.4	12.9	9.7	14.8	3.9	51.3	2.6					
精華町R7調査女性 (n=393)	30.5	25.7	20.4	21.1	2.0	34.1	1.8					
京都府R6調査女性 (n=445)	13.5	10.8	10.8	15.5	3.4	55.1	2.0					

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、18・19歳から40～49歳は「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」、50～59歳は「勤めている職場での研修会や講演会等」、60～69歳以上は「住んでいる地域での研修会、講演会、人権啓発フェスティバル等」が最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では30～39歳と40～49歳での「インターネット・SNSなどで自由に閲覧できる研修会、講演会、イベント等」が10ポイント以上多くなっている。

	(※)						(MA%)	
	会、ど 演、で 自、タ 由、ー に、ネ ネ、ッ イ、ト ベ、で ン、S ト、N 等、S 修、な	修、当 事、者 権、者 問、題 の、話 を、実 聞、態 く、を 見、た り、 研、	や、勤 講、め 演、て 会、い 等、る 職、場 で、の 研、修 会、	ス、会 テ、住 イ、ん バ、で ル、い 等、る 地、域 人、権 啓、発 研、修 フ、エ	そ、 他	わ、 か、 ら、 な、 い	無 回 答	
精華町R7調査18・19歳 (n=77)	39.0	14.3	11.7	11.7	2.6	39.0	5.2	
精華町R7調査20～29歳 (n=102)	36.3	17.6	14.7	20.6	2.9	28.4	2.0	
精華町R7調査18～29歳 (n=179)	37.4	16.8	16.2	13.4	2.8	33.0	3.4	
京都府R6調査18～29歳 (n=72)	33.3	26.4	16.7	8.3	1.4	38.9	-	
精華町R7調査30～39歳 (n=100)	38.0	17.0	33.0	18.0	0.0	36.0	4.0	
京都府R6調査30～39歳 (n=75)	22.7	17.3	22.7	14.7	5.3	45.3	-	
精華町R7調査40～49歳 (n=108)	40.7	14.8	30.6	16.7	3.7	33.3	1.9	
京都府R6調査40～49歳 (n=105)	17.1	10.5	16.2	9.5	1.9	57.1	-	
精華町R7調査50～59歳 (n=88)	27.3	22.7	29.5	19.3	1.1	38.6	2.3	
京都府R6調査50～59歳 (n=130)	16.9	15.4	13.8	6.2	1.5	55.4	-	
精華町R7調査60～69歳 (n=107)	27.1	22.4	17.8	30.8	1.9	35.5	0.9	
京都府R6調査60～69歳 (n=130)	18.5	10.0	6.9	7.7	4.6	54.6	-	
精華町R7調査70～79歳 (n=114)	20.2	21.9	5.3	34.2	2.6	36.0	0.0	
京都府R6調査70～79歳 (n=175)	7.4	15.4	2.9	15.4	4.0	60.6	-	
精華町R7調査80歳以上 (n=105)	9.5	16.2	4.8	30.5	3.8	44.8	0.0	
京都府R6調査80歳以上 (n=89)	3.4	15.7	0.0	19.1	6.7	53.9	-	

京都府R6調査と比較では無回答の数値なし

24. 人権問題についての学習方法

問 24	あなたは、人権問題について情報を得たり、学習をするためによく利用するものは何ですか。 (○はいくつでも)
------	---

■京都府(全体)との比較

人権問題についての学習方法について、「インターネット・SNS」が49.2%と最も多く、次いで「町や府等の広報誌、冊子」が41.9%、「ラジオ・テレビ」が40.1%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「映画・DVD・ビデオ」が10.0ポイント、「町や府等の広報誌、冊子」が9.9ポイント、「インターネット・SNS」が8.7ポイント多く、「新聞の記事・意見広告」が6.1ポイント少なくなっている。

	(※)	(※)			(※)						(※)	(※)	(MA%)	
	インターネット・SNS	町や府等の広報誌、冊子	ラジオ・テレビ	新聞の記事・意見広告	映画・DVD・ビデオ	社内報など	人権問題に関する書籍	雑誌や週刊誌の記事	NPO法人等の活動等	様々な人権問題の解決に取り組む	テーマにした住民自らの人権問題を	その他	利用するものはない	無回答
精華町R7調査 (n=775)	49.2	41.9	40.1	29.4	21.8	9.0	7.9	7.6	4.8	2.1	1.3	10.7	2.2	
京都府R6調査 (n=1,090)	40.5	32.0	43.3	35.5	11.8	3.8	6.6	8.9	5.1	3.2	0.0	0.0	7.3	

※「インターネット・SNS」が京都府R6調査では「インターネット」

※「町や府等の広報誌、冊子」が京都府R6調査では「府や市町村等の広報誌、冊子」

※「社内報など」が京都府R6調査では「社内報」

※ 京都府R6調査では、「その他」「利用するものはない」の選択肢なし

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「インターネット・SNS」が47.9%と最も多く、次いで、「ラジオ・テレビ」が37.3%、「町や府等の広報誌、冊子」が36.2%となっている。女性も「インターネット・SNS」が50.4%と最も多く、次いで「町や府等の広報誌、冊子」が47.3%、「ラジオ・テレビ」が43.8%となっている。

男性と比べて女性は「町や府等の広報誌、冊子」が11.1ポイント、「映画・DVD・ビデオ」が8.8ポイント、「ラジオ・テレビ」が6.5ポイント多く、「新聞の記事・意見広告」が5.0ポイント少なくなっている。

京都府R6調査と比較すると精華町R7調査の女性は京都府R6調査の女性と比べて「インターネット・SNS」が11.2ポイント多くなっている。

	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	(MA%)
	インターネット・SNS	ラジオ・テレビ	町や府等の広報誌、冊子	新聞の記事・意見広告	映画・DVD・ビデオ	社内報など	人権問題に関する書籍	雑誌や週刊誌の記事	様々な人権問題の解決に取り組むNPO法人等の活動等	テーマにした住民自らの人権問題を人権劇など、地域の人権問題を	その他	利用するものはない	無回答
精華町R7調査男性 (n=351)	47.9	37.3	36.2	32.5	17.4	10.3	8.3	7.7	4.0	0.9	0.9	14.5	2.3
京都府R6調査男性 (n=452)	42.5	42.0	30.3	34.1	8.4	6.0	7.3	10.2	4.4	3.3	0.0	0.0	8.0
精華町R7調査女性 (n=393)	50.4	43.8	47.3	27.5	26.2	7.9	7.9	7.9	5.6	3.1	1.5	7.6	1.8
京都府R6調査女性 (n=599)	39.2	44.9	34.6	37.6	14.0	2.3	6.5	8.3	5.8	3.3	0.0	0.0	6.0

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、18・19歳から50～59歳は「インターネット・SNS」、60～69歳は「ラジオ・テレビ」、70～79歳以上は「町や府等の広報誌、冊子」が最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では各年代での「町や府等の広報誌、冊子」「映画・DVD・ビデオ」が多くなっている。

	(※)		(※)		(※)		(※)		(※)	(※)	(※)	(※)	(MA%)
	インターネット・SNS	ラジオ・テレビ	映画・DVD・ビデオ	町や府等の広報誌、冊子	新聞の記事・意見広告	人権問題に関する書籍	社内報など	雑誌や週刊誌の記事	様々な人権問題の解決に取り組むNPO法人等の活動等	組をテーマにした住民自らの人権問題	その他	利用するものはない	無回答
精華町R7調査18・19歳 (n=77)	77.9	37.7	35.1	16.9	15.6	5.2	5.2	3.9	2.6	1.3	1.3	9.1	0.0
精華町R7調査20～29歳 (n=102)	76.5	35.3	30.4	29.4	13.7	8.8	2.9	0.0	5.9	8.8	0.0	8.8	1.0
精華町R7調査18～29歳 (n=179)	77.1	36.3	32.4	24.0	14.5	7.3	5.6	4.5	3.9	1.7	0.6	8.9	0.6
京都府R6調査18～29歳 (n=84)	73.8	34.5	22.6	16.7	9.5	13.1	2.4	8.3	3.6	4.8	0.0	0.0	-
精華町R7調査30～39歳 (n=100)	69.0	27.0	25.0	31.0	10.0	7.0	18.0	4.0	2.0	2.0	2.0	15.0	1.0
京都府R6調査30～39歳 (n=102)	81.4	38.2	15.7	16.7	11.8	7.8	3.9	5.9	1.0	2.9	0.0	0.0	-
精華町R7調査40～49歳 (n=108)	68.5	29.6	23.1	42.6	19.4	10.2	15.7	3.7	3.7	0.9	1.9	10.2	1.9
京都府R6調査40～49歳 (n=144)	54.9	32.6	11.8	22.9	25.0	7.6	6.9	4.9	2.8	1.4	0.0	0.0	-
精華町R7調査50～59歳 (n=88)	50.0	40.9	17.0	36.4	27.3	10.2	15.9	14.8	3.4	2.3	1.1	13.6	3.4
京都府R6調査50～59歳 (n=194)	54.1	40.7	14.4	31.4	35.1	6.2	7.2	9.3	5.2	1.0	0.0	0.0	-
精華町R7調査60～69歳 (n=107)	40.2	47.7	25.2	42.1	32.7	9.3	5.6	9.3	6.5	2.8	1.9	10.3	0.0
京都府R6調査60～69歳 (n=194)	33.5	52.1	10.3	32.0	39.2	5.7	4.6	6.7	6.7	4.1	0.0	0.0	-
精華町R7調査70～79歳 (n=114)	20.2	50.9	14.0	56.1	55.3	8.8	1.8	11.4	7.0	3.5	0.9	10.5	0.9
京都府R6調査70～79歳 (n=240)	17.1	48.8	7.5	47.9	52.1	4.2	0.4	10.8	5.8	3.8	0.0	0.0	-
精華町R7調査80歳以上 (n=105)	5.7	45.7	10.5	62.9	49.5	3.8	3.8	8.6	6.7	1.9	1.0	11.4	7.6
京都府R6調査80歳以上 (n=120)	3.3	45.8	7.5	38.3	5.0	7.5	0.8	15.8	8.3	5.8	0.0	0.0	-

※京都府R6調査と比較では無回答の数値なし

(6) 人権が尊重される社会づくりに求められることについて

25. 人権が尊重される社会づくりに向けた施策

問 25	あなたは、人権が尊重される社会を実現するために、どのような施策を実施する必要があると思いますか。 (〇は3つまで)
------	--

■京都府(全体)との比較

人権が尊重される社会づくりに向けた施策について、「学校等における人権教育を充実させる」が77.2%と最も多く、次いで、「差別行為を規制する法を整備する」が29.5%、「人権侵害に対する相談体制を充実させる」が24.8%となっている。

京都府R6調査と比較すると、「差別行為を規制する法を整備する」が7.7ポイント多くなっている。

	(MA%)													
	学校等における人権教育を充実させる	差別行為を規制する法を整備する	人権侵害に対する相談体制を充実させる	家庭での人権教育(保護者向けの人権教育など)を支援する	企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する	人権意識を高めるための啓発活動を推進する	人権侵害について、調査を実施し、実態把握に努める	業務に従事する人の人権意識を高める	公務員等の人権に関わりの深い職務に就く人を養成する	公共施設(人権センター等)で人権教育を充実させる	住民やNPO等の団体による人権尊重に向けた取組を支援する	その他	特になし	無回答
精華町R7調査 (n=775)	77.2	29.5	24.8	22.5	21.3	19.1	16.3	12.6	9.2	5.7	1.5	5.3	1.3	
京都府R6調査 (n=1,090)	72.3	21.8	24.2	22.9	24.0	17.2	16.3	11.7	0.0	8.0	1.7	8.3	3.9	

※京都府R6調査では、「公共施設(人権センター等)で行う人権教育を充実させる」の項目無し

■京都府(性別)との比較

性別でみると、男性は「学校等における人権教育を充実させる」が76.4%と最も多く、次いで「差別行為を規制する法を整備する」が31.9%、「人権侵害に対する相談体制を充実させる」が26.5%となっている。女性も「学校等における人権教育を充実させる」が77.6%と最も多く、次いで「差別行為を規制する法を整備する」が28.8%、「家庭での人権教育（保護者向けの人権教育など）を支援する」が26.0%

男性と比べて女性は「家庭での人権教育（保護者向けの人権教育など）を支援する」が7.8ポイント多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では男性と女性ともに「差別行為を規制する法を整備する」が5ポイント以上多くなっている。

	(※)												(MA%)
	学校等における人権教育を充実させる	差別行為を規制する法を整備する	人権侵害に対する相談体制を充実させる	企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する	人権意識を高めるための啓発活動を推進する	家庭での人権教育（保護者向けの人権教育など）を支援する	人権侵害について、調査を実施し、実態把握に努める	公共施設（人権センター等）で人権教育を充実させる	業に従事する人の人権意識を高め	公務員等の人権の関わりを深める	住民やNPO等の団体による人権尊重に向けた取組を支援する	その他	特になし
精華町R7調査男性 (n=351)	76.4	31.9	26.5	20.5	20.2	18.2	14.2	9.7	9.7	6.0	1.1	6.8	1.4
京都府R6調査男性 (n=452)	69.9	23.5	23.7	25.7	18.6	17.9	15.7	0.0	11.3	8.4	2.2	9.7	3.5
精華町R7調査女性 (n=393)	77.6	28.8	24.4	21.4	19.1	26.0	18.6	8.7	15.3	5.6	1.8	3.8	1.3
京都府R6調査女性 (n=599)	75.0	21.4	25.4	23.0	16.7	26.9	17.0	0.0	11.9	8.0	1.2	6.2	3.7

■京都府(年代別)との比較

年代別でみると、各年代で「学校等における人権教育を充実させる」が7割以上を占め最も多くなっている。

京都府R6調査と比較すると、精華町R7調査では18～29歳から50～59歳までの「差別行為を規制する法を整備する」が大幅に多くなっている。

	(※)												(MA%)
	学校等における人権教育を充実させる	差別行為を規制する法を整備する	人権侵害に対する相談体制を充実させる	人権侵害の実態把握に努める	家庭での人権教育(保護者向けの人権教育など)を支援する	活動意識を高めるための啓発	重企業、事業所における人権尊重に向けた取組を支援する	公共施設(人権センター等)で行う人権教育を充実させる	市民やNPO等の団体による人権尊重に向けた取組を支援する	識を高める	公務員等の人権意識の関わり	その他	
精華町R7調査18・19歳(n=77)	74.0	35.1	35.1	29.9	16.9	16.9	14.3	7.8	7.8	3.9	0.0	3.9	2.6
精華町R7調査20～29歳(n=102)	82.4	28.4	41.2	22.5	24.5	12.7	18.6	5.9	2.9	4.9	5.9	1.0	1.0
精華町R7調査18～29歳(n=179)	80.4	39.7	33.0	25.7	21.8	17.3	16.2	6.7	5.6	5.0	3.4	2.2	0.0
京都府R6調査18～29歳(n=84)	79.8	22.6	22.6	36.9	25.0	16.7	25.0	0.0	9.5	10.7	0.0	4.8	-
精華町R7調査30～39歳(n=100)	76.0	42.0	19.0	20.0	26.0	14.0	24.0	8.0	5.0	8.0	0.0	8.0	0.0
京都府R6調査30～39歳(n=102)	79.4	25.5	18.6	28.4	34.3	8.8	24.5	0.0	2.9	9.8	2.9	6.9	-
精華町R7調査40～49歳(n=108)	78.7	30.6	25.9	18.5	23.1	15.7	25.0	3.7	3.7	14.8	2.8	3.7	0.9
京都府R6調査40～49歳(n=144)	74.3	19.4	13.9	13.9	31.3	12.5	32.6	0.0	6.9	8.3	0.7	9.7	-
精華町R7調査50～59歳(n=88)	75.0	29.5	18.2	15.9	22.7	19.3	21.6	11.4	1.1	12.5	0.0	5.7	1.1
京都府R6調査50～59歳(n=194)	75.3	22.2	28.9	18.0	26.3	17.5	32.5	0.0	8.8	11.9	2.1	3.1	-
精華町R7調査60～69歳(n=107)	78.5	17.8	27.1	9.3	27.1	13.1	32.7	9.3	5.6	17.8	1.9	4.7	0.9
京都府R6調査60～69歳(n=194)	73.7	24.7	30.4	15.5	19.6	18.0	21.1	0.0	7.2	10.3	2.6	8.8	-
精華町R7調査70～79歳(n=114)	77.2	21.9	28.9	13.2	20.2	22.8	18.4	12.3	10.5	21.9	0.0	5.3	0.0
京都府R6調査70～79歳(n=240)	69.2	19.6	25.8	10.8	15.4	20.0	20.4	0.0	9.6	13.8	2.1	11.7	-
精華町R7調査80歳以上(n=105)	72.4	19.0	18.1	11.4	19.0	30.5	12.4	12.4	9.5	11.4	1.0	7.6	6.7
京都府R6調査80歳以上(n=120)	61.7	22.5	24.2	5.0	18.3	23.3	11.7	0.0	9.2	15.8	0.0	10.0	-

※京都府R6調査と比較では無回答の数値なし

(7) あなたご自身のことについて

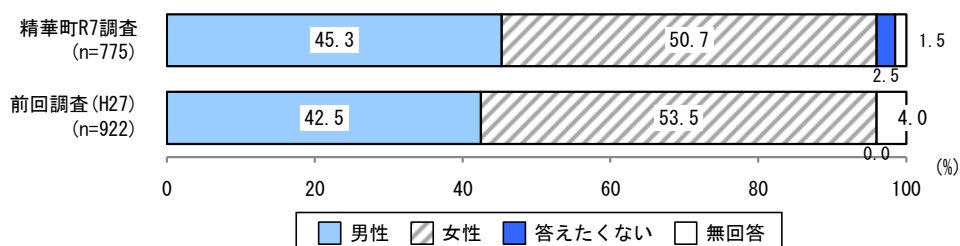
26. あなたの性別について

問 26 あなたの性別をお教えてください。(○は1つ)

■前回調査(H27)との比較

性別について、男性が45.3%、女性が50.7%、答えたくないが2.5%となっている。

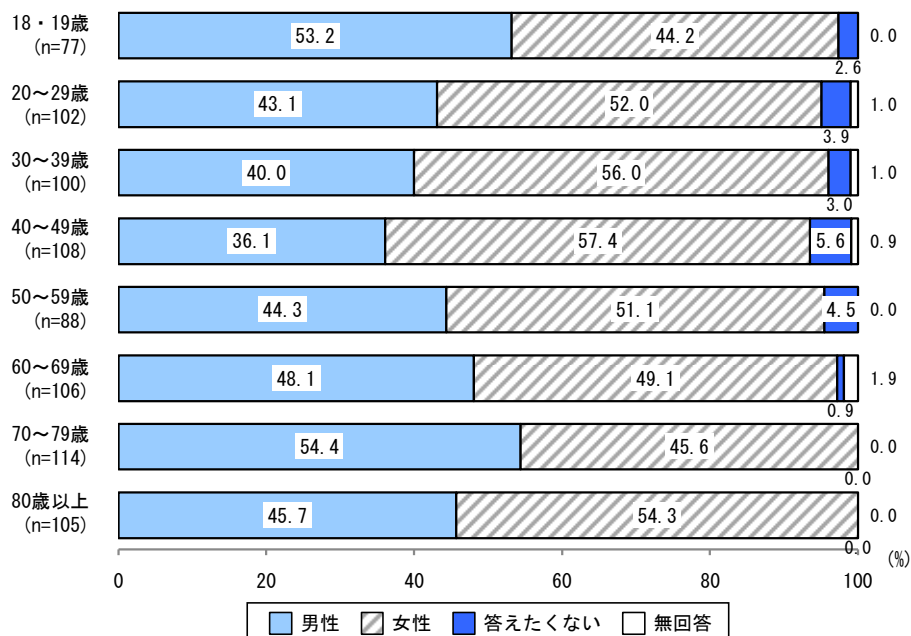
前回調査との比較では大きな差はみられない。



※前回調査では「答えたくない」項目無し

■年代別比較

年代別で見ると、70～79歳を除く各年代で女性が多くなっている。



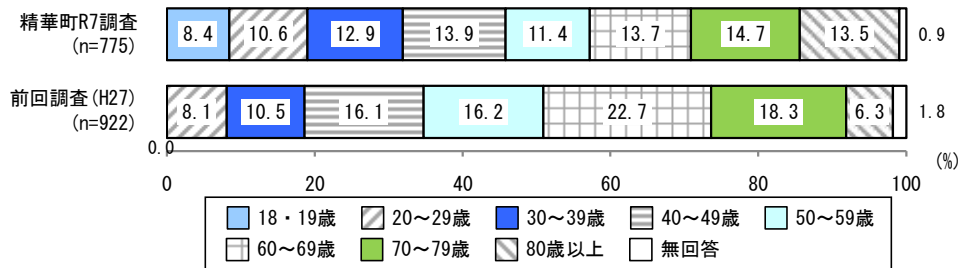
27. あなたの年齢について

問 27 あなたの年齢をお教えてください。(○は1つ)

■前回調査(H27)との比較

回答者の年齢は、70～79歳が14.7%と最も多く、次いで40～49歳が13.9%、60～69歳が13.7%となっている。

前回調査と比較すると、60～69歳が9.0ポイント少なくなっている。



※前回調査では「18・19歳」の項目無し

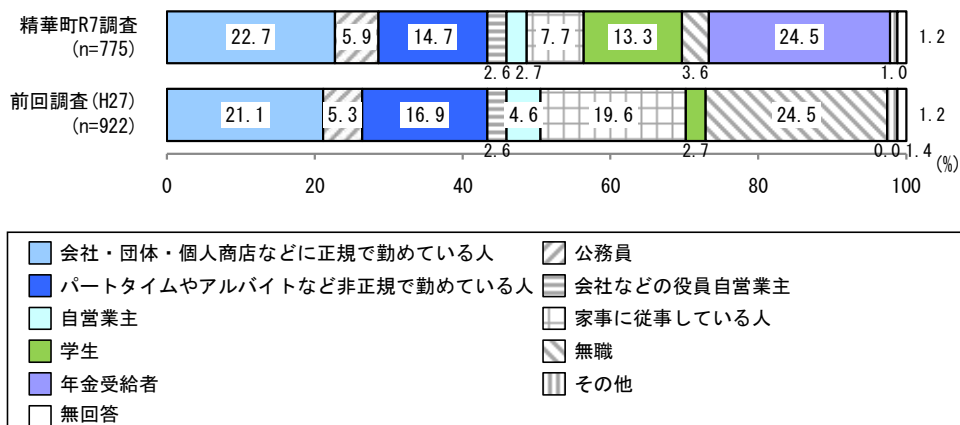
28. あなたの職業について

問 28 あなたの職業をお教えてください。(○は1つ)

■前回調査(H27)との比較

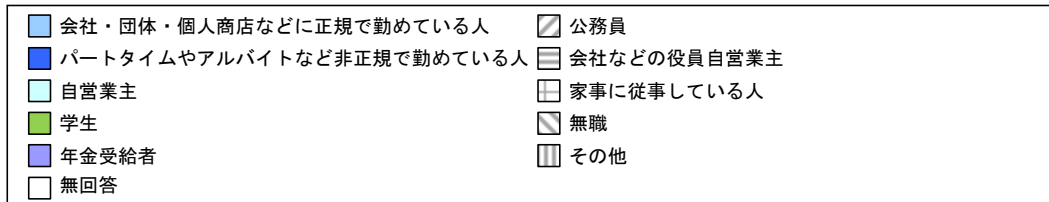
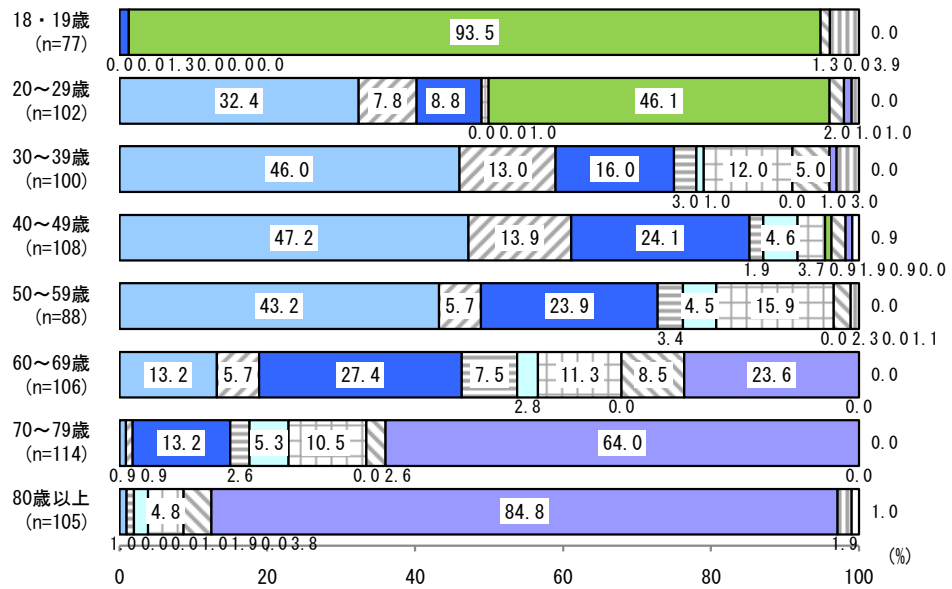
回答者の職業は、「年金受給者」が24.5%と最も多く、次いで「会社・団体・個人商店などに正規で勤めている人」が22.7%、「学生」が14.7%となっている。

前回調査と比較すると、「学生」が10.6ポイント多く、「無職」が20.9ポイント、「家事に従事している人」が11.9ポイント少なくなっている。



■年代別比較

年代別で見ると、18～29歳は「学生」、30～39歳から50～59歳は「会社・団体・個人商店などに正規で勤めている人」、60～69歳は「パートタイムやアルバイトなど非正規で勤めている人」、70～79歳と80歳以上は「年金受給者」が最も多くなっている。

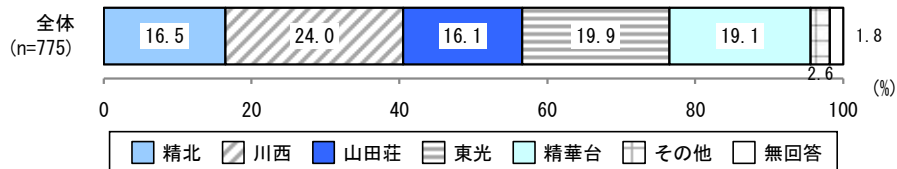


29. あなたのお住まいの小学校区について

問 29 あなたのお住まいの小学校区をお教えてください。(〇は1つ)

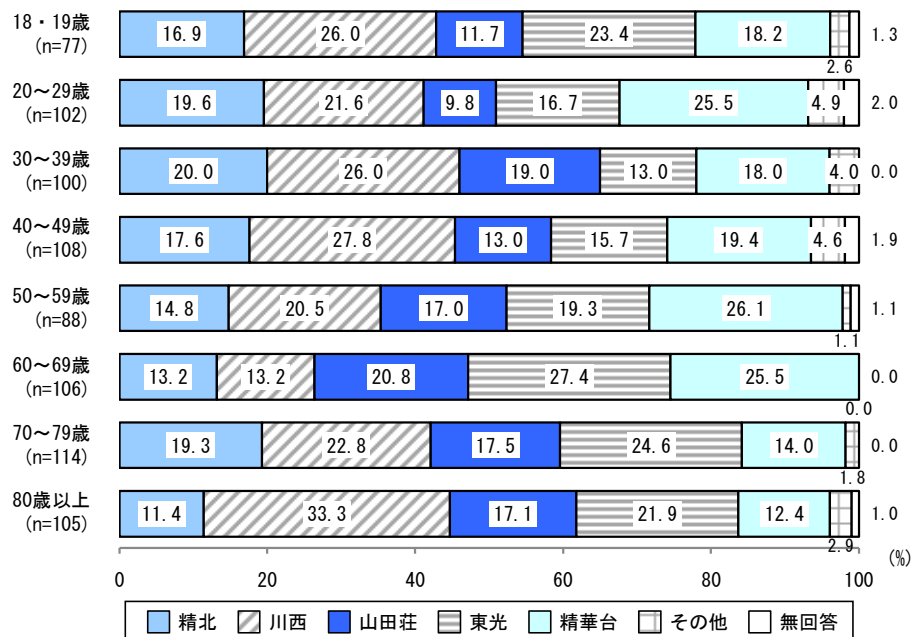
■全体傾向

回答者の住まいの小学校区は、「川西」が24.0%と最も多く、次いで「東光」が16.1%、「精華台」が19.8%となっている。



■年代別比較

年代別で見たところ、18～29歳から40～49歳までと80歳以上は「川西」、50～59歳は「精華台」、60～69歳と70～79歳は「東光」が最も多くなっている。



30. 精華町の人権教育・啓発に対する意見等

問 30	その他、ご意見やご要望などがありましたら、お書きください。
------	-------------------------------

■人権教育・啓発について（抜粋）

<p>学研都市として企業、研究所へ勤労する人達が増加すると思いますので適切な人材教育、啓発活動をよろしくをお願いします。</p>
<p>小学校の授業内で人権教育を取り組んでいくべきだと思う。理由としては、その町の雰囲気を作っていくのは、未来のある子供達なので、その子供達全員に教育を施すことで、人権等を気にすることができる社会が作れるからだと思います。</p>
<p>精華町主催の人権シネマを時間が許す限り参加し、いろいろな問題を自分の事として考える様に努力していけたら・・・と考えております。</p>
<p>さまざまな人権はありますが女性が強くなったとは言え、職場や地域の活動の中でも女性の地位は低い様に感じます。女性自身も強い意志をもっていく事が大切だと思います。女性、子供、弱者に対しても人として尊重していく事が大切で家庭、学校、職場、地域の一人一人が意識していくことが大切で（妥協は必要ないですが）それがやさしさや和合につながるのではないかと思います。</p>
<p>今後も、精華町の啓発活動に期待してます。けいはんな映画は良い取り組みだと思います。</p>
<p>昔程、部落とか部落差別とかの言葉はまったく聞かなくなりました。代わりにLGBTQとかの言葉を聞くようになりました。とにかく差別は良くないです！</p>
<p>パートナーシップが整備されるといいなと思う。外国人（外国の文化）と日本の文化を相互に受け入れ合うための（双方に平等な）イベントなどがあると良いなと思う。</p>
<p>けいはんなで映画があれば参加したい。</p>
<p>益々充実した人権教育・啓発推進を望みます。</p>
<p>町発行の人権に関する記事を見て勉強しています。</p>
<p>小さい頃（幼稚園・保育所の子たちや小学生）から、もっとたくさん深くLGBTについて、障害について、同和地区があることあったこと（詳しい場所は伏せて）について学ぶ機会を与えるべき。大人になってから意識を変える事は難しいです。将来の子どもたちのために触れる機会を与えて下さい。</p>
<p>同一敷地内に住んでいる義理の母に、義理の父が介護認定を受ける時に、嫁が家にいると認定がおりないと言われました。施設の方の助言なのかわかりませんが、高齢化社会の中、今70才～以上の方にも、本当に正しい知識をつけてほしいと思います。年をいっているから、高齢者だからで、許される事ではないです。精華町の人権教育の中に、昔の教育を受けてパワハラやセクハラを知らない70代の老人、80代の老人への教育、指導もしていただきたく思います。家庭内でのトラブルは表には出にくいものです。高齢者にも勉強してほしいと願います。</p>
<p>今後も精華町の人権施策に係る積極的な取組に期待しています。</p>

こういったアンケートで、時系列的に意識推移を調査する事は非常に有益だと思います。また子供の頃に受けた教育は重要だと思います。引き続き、よろしくお願い致します。

多様性を尊重するという考え方が少しずつでもあるが醸成されていると感じている。小さい頃からの日々の教育・生活の中で教育が積み重なっているのではないか。

小学生時代に受けた型にはめたようにする道徳の授業に当時から疑問を持っていました。

精華町が住みやすい町になってほしいです。

■人権問題への対策・理解について（抜粋）

町民の方が平等に不自由なく、健康で幸せに暮らせますように。

昨今の人権に関する問題は、日本人の権利を守っていきこうという動きに対してヘイトスピーチだとレッテル貼りをすることだと考えます。これでは本当に困っている人は救えない。精華町のこれからの期待します。

近年は過度な人権の尊重の方が気がかりです（精華町内のことではありません）。例）LGBT 関係で女子トイレや更衣室等に自称女性の男性が入れるような状況でしたり、外国人への生活保護や出産一時金の支給、外国人による土地や不動産の爆買いなど・・・いわゆる少数派や外国人の人権を尊重するあまり、多数派日本国民の人権を損ねている逆差別は大変問題だと感じております。精華町で人権教育を推進するにあたり、「差別はいけない」一辺倒ではなく、町民1人1人が課題への理解を深め、折衷案を考えられるような広め方をしていただくとありがたく思います。

日本に来る外国人の犯罪や迷惑行為などの取り締まりを日本人と同等、もしくはそれ以上にすることで色々日本人の外国人に対する見方も変わってくるのではないかと若いながらに思います。日本は日本人の国なので日本人が優先（当たり前ですが）される世の中であれば日本人も広い心を持って外国人等と関われると思います。

オーストラリアで、16才以下のSNS利用禁止法律が施行されましたが、（抜け道もあり不便もあっても）日本でもこの方向に進めば良いと思います。あまりにも非道な事態が起きているので、子供を守る事が最優先されてほしい。

町全体を包括できる（交流できる）集いの少なさと生活分離が3～4つに分割されていて交流が少なく一体感を殆ど感じられない。

同和問題は、逆差別が多いと思います。税金免除や住宅費など。

身体障がい者だけでなく、精神・知的障がい者も暮らしやすい町にしてほしい。

人権はなにかとリベラルよりも偏ったものとなりがちです。特に外国人に対し、無責任な性善説は危険です。将来を担う子どもたちのためにもダメなものはダメという確固たる姿勢を求めます。

町内でも外国の方（子連れも）を多く見かけるようになってきている。政党の中では外国人排斥を声高に言っているが、共生社会の実現に方向を変えていくべきだ。

■本調査について（抜粋）

この調査票で自分が人権問題に対してあまり積極的に関心を持っていなくて生活していたように感じました。自分も要介護を受けている身であり皆様にお世話になっている身でもう少ししっかり考えないといけないと思いました。おくれはしながら今から考えます。字が書けなくてすみません。

今回のアンケートを機会に思い立って、精華町のホームページを見ました。SNSも見ようと思います。